

故實叢書緒言

回顧すれば今より四五年前の春の頃なりき二三の學友相
會して何くれと談話しつるついで世國史國文の學ぶべきを
知りながら法制故實の學問の貴ぶべきを知らざるに似たり
此の二者明かならずれば國史國文の學つねに隔靴搔痒の
感を免れずいそや斯學の普及を圖らんがために法制全書故
實全書などいふ題號を設けて此の種の古書の珍らしきもの
を集め世に出たさばやなど語り合ひたることありき余その
後研究の必要ありて故實に關する古書をつぎ々、謄寫せし
めたりしにいつの程にか數函に滿てるに至れり然れどもこ
れ固より九牛の一毛たるに過ぎず
昨年の五月にや此等の古書をひそり秘め置かんも學界に益
なきを感じ彼の二三の學友にもばかりていよく出版せん

ここを吉川書肆に告ぐ然るに書肆亦深く余が素志を賛し爾來材料の蒐輯に心を注ぎ或は人を京都にはせて大内裏圖および考證等を購ひ或は自ら一の關に赴きて本間温和君の藏本を借覽するなどいはゆる東搜西索つとめたりといふべしかくて本年十月に至りて終に出版の事を世に公にすることとはなれり

此の舉に關して今井彦三郎畠山健萩野由之西田敬止本多阿伎良逸見仲三郎鳥居忱和田英松和田信二郎高橋松亭中村秋香中根肅治村田丹陵井上頼國大槻如電落合直文黒川眞道山田安榮山澤俊夫山本信哉松井簡治丸山正彦小杉楳郵佐藤球三好維堅關根正直白井重任白河基廣（以上は）の諸君より有益なる注意を與へられ又直接に間接に扶助せられたる所尠からず殊に圖書に關しては小杉黒川二君の惠を受けしこと多く

二回以後の豫告に對しては井上大槻中村山田關根本多中根の七君より取捨増減懇切なる注意を與へられ三上參次松本愛重の二君も亦その意見を贈るべきことを約せられぬまた三木五百枝大塚彦太郎塙忠雄植木直一郎高橋萬次郎の五君は往々校訂の勞を補助せらる本書もし回を重ねていよく完璧ともならば皆以上諸君の賜なり茲に其の大要をしるして謹みて厚意を謝す

又東京帝國大學總長より大學の圖書館および史料編纂の藏本につきて校訂謄寫の事を許可せられ益を得ること甚だ多しこれ亦余の永く忘るゝこと能はざる所なり
本書校訂の方法は軍用記安齋隨筆等の如き書きながしのものにつきては読み易からしめんがために送假字の不足を補ひ假字ちがひは直に改めたりされど輿車圖考裝束集成等の

如きはおもに記録文を引證したるものなればおほかたもこのまゝに存したりこれ其の文體を失はんことを恐れてなり又建武年中行事略解の如きも一體の文にて送假字假字づかひなど論ずべきにもあらねばこれも原本のまゝにしたり此の書かく一定の方法を以て校訂することを得ざれば一書の巻首ごとに其の書の解題および校訂の大要をしるす事たり

明治三十二年十二月

今 泉 定 介 識

本朝軍器考

新井白石名は君美字は在中又濟美といひ白石は其の號にしてまた紫陽錦屏山人天爵堂勿齋等の號ありその先は上野の人なりしが父正濟の時に土屋利直久留里侯に筮仕せり正濟人となり裕達にして雅量あり常に藩政を助けて補益おほかりき明暦丁酉の年利直の邸火けぬ正濟も從ひて侯の族内藤政親の柳原邸に寄居せり此の時に白石生れしかば侯は常に火兒と呼びきとぞ白石生れながらにして岐嶽類敏十歳に及びて常に侯側に給事し文翰を書するに殆ど老成の如くなりきといふ長じて木下貞幹の門に遊び該博を以て聞え遂に其の高足と稱せられぬ著書大凡三百種に超え中にも藩翰譜讀史餘論折焚柴の記采覽異言東雅古史通西洋圖說阿闍陀風土記等は世人のよく知る所なり享保十年五月に歿せり年六十九

此の書は旗幟類より鞍轡類に至るまで十二に分類し類中更に百五十一條にわかち上は神代より下は徳川幕府の代に至るまで其の起原沿革を詳述し蓋世の才を以て縦横の筆をふるびしかも文獻の徴とするに足るもの、みを擧げれば普く世に行はれたりしも故なきにはあらし此の書一たび世に出で、より伊勢貞丈の軍器考首書軍器考増註軍器考餘評軍器考補正評土肥經平の軍器考補正宇治田忠卿の軍器考餘等續々世に出で、或は其の不足を補ひ或は其の疑義を辨じたり

原本十二卷を九冊にあはせ外に序目一冊附圖四冊あり寶永六年日下部景行の序享保七年安積澹泊の跋あり又元文元年新川元成の序ありて翌二年の春に梓行したりといふ

送假字の不足なるが爲に讀みがたき處はおほかた之れを補ひ假字づかひの誤も直に正せ

校訂者 謹

新刻本朝軍器考序

文武之用相須而成其不可偏廢昭昭也然而文也者豈惟組章繪句云乎哉武也者豈惟拳勇技擊云乎哉夫契之敬敷五教皐陶惟明克允是則古先聖王文武之道並行而不相悖皆先建其大者所以能成廣運之德也降迨後世徒棄其本而從其末愛於名而遺於實教化一廢詐僞百出無復先王代天成務之意焉伏以

東方開闢以來

神聖相承百世不易文武之道不墜於地盡探其本而得其實者粲然可觀矣但俗有質文治有寬猛故若其儀物制度則不能時無損益蓋欲勤其本者不得不援其末欲務其實者不得不據其名學者至此又豈可不知而闕如耶然後之人其於文事猶未能有所發明而況於武事乎惟我白石先生學通天人材兼文武而其忠誠義氣出于天性入侍

講幄二十餘年未嘗一日以身故而不盡其言也當時之人第見詩賦傑出一時文風亦靡然從之以爲

先生之功而不知實有窮性命之原負經綸之業焉嗟乎使其道不行于天

下澤不被于生民蘊志以歿可勝嘆哉晚歲居閒專事纂述平生所撰次無慮數十百卷自

國史家乘以至

本朝之故事殊方之異言咸有論著率未脫稿惟軍器考一編再所更定以見其不忘奕世之業且欲使學者由是據名而務實援末而勤本之一端也已其餘成書有東雅孫子兵法擇等亦唯遺之子孫不肯傳於人歿後數年會朝命取其書嗣子明卿乃以軍器考具本進呈方今

殿下宵旰之暇注

意武備凡彼儀物制度固加講究忝賜留覽

稱以爲善於是乎明卿深幸此書之遇于

明時遂謀付諸剞劂以廣其傳成侍函丈殆將二紀材識鄙鈍於

先生之德業事功未有窺見萬分之一又何敢望贊其一辭哉聊記刻板之由而繫于卷端云

元文改元六月朔

門人 新川平元成謹書

本朝軍器考叙

章句專門不必爲不朽之業詞賦高世未足稱有用之學是以善學焉者六經以培其根百家以達其枝精國家之典章審古今之沿革然後可謂備也矣伏惟吾邦自神聖開基皇統連綿代有制作文武官職之隆禮樂文物之偉冠冕袞裳輿服儀仗及節鉞金鼓甲冑旌旗弓弩之具舉皆稽殷周之典則漢唐之制而斟酌之以國俗之宜協之以文質之中無有闕漏爰自中古兵燹屢起文獻半爲烏有降及源平代持兵柄干戈相尋禮樂大崩凡事日趨簡便漸失其古制至足利氏季世則列國戰爭遺老凋謝益以索然矣君子憾焉方今昇平百年明良布右文之化而聲教大行學士大夫往往操觚染翰評駁古今商羊萍實迭鬪其奇龍肉鳧毛爭誇其博吁亦盛哉然至千古之墜典先王之遺制則附之度外而視猶芻狗况逐其流而泝其源繹其統以抽其緒者我未之聞也天其或者有待我白石先生也歟今夫先生之於學博聞強識根據六經貫穿百家應選舊學勸講 儲幄獨所憾者執掌賢勞未遑大典之舉也耳近者揭古今軍器著之於編以授其子弟蓋先生奕世武人始以文學著卽今汲汲于

茲者無乃不忘其箕裘之業歟其爲編證書二百載事一百五十一附之以圖具橫其形總計十二卷名曰本朝軍器考源委悉分顛末咸舉該而不雜確而有據可謂審矣世固有禮家之所述軍師之所談雖如詳悉或守一家之株或亡多岐之羊未足以信用至若夫異端妖妄之說冒乎古先聖王之制逞已肆質魚目混玉吾不知其何說也今此編一出則螢燭失光於太陽鬼魅逃形乎冰鏡時俗之誤不責而自破也其賜後昆豈不大乎夫子曰雖有文事必有武備先生其庶乎哉所謂不朽之業而有用之學也者非歟先生以其舊誼徵序於余榮踰分外曷其可辭焉然我之所冀不止此矣待夫他日先生之修大典而儻使吾以置喙於卷端以賤名無沒于身後光輝不朽于永世是吾之素望於先生而敢以爲言如斯

皆

寶永己丑春二月越中南 景衡 艸壽撰于東都旅館

本朝軍器考凡例

- 一凡此書ツトメテ本朝軍器ノ制ヲ考フルコトヲ要トスレバ異朝ノ制ヲ議スルニ及バズサテヤムベカラザルヲバ併セ論ゼシ所モアリ。
- 一凡此書上ハ神代ノ始ヨリ下ハ近キ代ニ至ルマデ代代ニ改リヌル軍器ノ制ヲ考ヘテ其文獻ノ徵トスルニ足レルノミヲ取レリ兵ノ家ニ傳フル所アリトイヘドモ其說ノ疑フベキ事アルヲバ敢テ載セズ
- 一凡此書ノ要軍器ノ制ヲ考フルニアレバ武事ニアヅカリヌベキ器ヲバ附ケ考フル所アリサレド威儀ニ備ヘ禮容ニ設クベキ類ヲバ敢テ其說ヲ盡サズコレヲ軍務ノ要ニアラザルガタメ也
- 一凡軍器ノ制兵ノ家ニ傳フル所ノ故實各ヒトシカラズ悉ク舉ケムトスルニ事煩ハシケレバ多クハ畧シヌ其說ノ詳ナル所ヲ知ラン事ハヨク知レラン人ニ受ケ傳フベキニアルガ故也
- 一凡軍器ノ制悉クカタドリ得ルニ堪ヘズ別ニ其圖ツクリテ書ノ終ニ附シヌ

本朝軍器考凡例終

本朝軍器考總目

卷第一	旗幟類	十三條
卷第二	金鼓類	四條
卷第三	節鉞類	四條
卷第四	弓矢類	四十九條
卷第五	弩砲類	二條
卷第六	火器類	三條
卷第七	矛槍類	三條
卷第八	劔刀類	十九條
卷第九	甲冑類	二十七條
卷第十	鹵楯類	一條
卷第十一	帷幕類	五條
卷第十二	鞍轡類	二十一條

凡拾二卷百五十一條

本朝軍器考撰用書目

舊事本紀	古事記	日本書紀	續日本後紀
三代實錄	類聚國史	古語拾遺	日本紀私記
釋日本紀	日本紀纂疏	管鍵抄	神代卷抄
元元集	神祇靈應集	歐訪御緣記	八幡愚童訓
出雲國風土記	筑後國風土記	常陸國風土記	駿河國風土記
扶桑畧記	日本紀畧	百鍊抄	今鏡
增鏡	愚管抄	神皇正統記	令
令義解	類聚三代格	延喜式	儀式
江家次第	雲圖抄	禁秘抄	弘安禮節
職原抄	公事根源	飾抄	桃花藥葉
裝束圖式	束帶色目	台記	人車記
玉葉	玉英	吉部秘訓	明月記
園大曆	康宮記	大成錄	體源抄
本朝文粹	朝野群載	萬葉倭歌	萬葉集注釋
詞林采葉	源氏物語河海抄	藻鹽草	倭名類聚鈔
拾芥抄	節用集	下學集	庭訓往來

塵添璫囊抄	宇治大納言物語	寢覺記	古事談
著聞集	聖德太子傳抄	田村草子	秀鄉草子
陸奥話記	保元物語	異本保元物語	保元日記
平治物語	異本平治物語	源平盛衰記	高館草子
東鑑北條家藏本	東鑑印本	承久記	太平記
異本太平記	梅松論	難太平記	太平記理盡抄
明德記	應仁記	南朝記傳	編纂尊卑分脈圖
伊勢家系圖	親元日記	三議一統	大草子
大諸禮	鎌倉年中行事	東山殿御飾記	宗五一冊
中原高忠聞書	騎射秘抄	圓物書	南浦文集
安土日記	信長記	甲陽軍鑑	小田原記
北條五代記	大友記	九州軍記	管窺武鑑
伊達成實記	王代一覽	豐臣家譜	御即位御裝束圖
伊勢太神宮御神寶圖		年中行事繪卷物光長畫	
加茂祭繪卷物爲信齋畫		後三年合戰繪卷物惟久畫	
保元平治物語繪卷物齋者不詳		平治物語卷物光信畫	
一谷合戰繪卷物元信齋		蒙古襲來繪卷物齋者不詳	

西行記繪卷物相保齋	志貴山緣起卷物覺鼓齋
法然上人傳繪卷物知恩院藏	一遍上人傳繪卷物七條道場藏
一遍上人傳繪卷物藤澤道場藏	繪師草子齋者不詳
職人歌合繪卷物光信齋	東大寺正倉院御寶物圖
羽形圖齋村齋	羽揃圖
大江真忠傳幕圖多門院藏	諸家紋盡立齋齋藏
鞍作判鑑	蝦夷人物圖
耐雅註疏	周禮註疏
春秋左氏傳	漢書
宋書	北齊書
姓苑	通鑑綱目集覽
六經圖	泮宮禮樂疏
莊子	淮南子高誘註
吳越春秋	登壇必究
全浙兵制	蠡角篇
酉陽雜俎	筆談
續博物志	丹鉛總錄
	瑯琊代醉編
	旗馬印圖
	禮記正義
	三國志
	宋史
	三禮圖
	三才圖會
	楚辭註
	武備志
	少林棍法闡宗
	文獻通考
	瑯琊代醉編

器物叢談	天工開物	皇明世法錄	圖書編
懲誌錄	許氏說文	玉篇	唐韻
古今韻會	字彙	通雅	正字通
品字箋	類書纂要	梁庾信集	梁庾肩吾集
歐陽外集	王百穀集	徐文長集	翻譯名義集

通計二百部

本朝軍器考卷一目錄

旗幟類	旌旗ノ始	旌旗古制	仗旗
軍幡	天子御旗	私家旌旗	
旗文	私旗古制附旗袋式	私旗今制	
馬幟	笠標二條	冑前立物	

本朝軍器考卷二目錄

凡十三條	金鼓類	鏡鐸	角
	螺		

本朝軍器考卷三目錄

凡四條	節鉞類	節刀	磨
	斧鉞		圓扇

本朝軍器考卷一二三目錄

本朝軍器考卷四目錄

弓矢類

弓矢ノ始二條

弓矢ノ制二條

武官弓制

弓弦

四目

野箭

箭羽二條

射鞬

弦袋

羽壺

射的古制

小的再拜

凡四十九條

本朝軍器考卷五目錄

弩砲類

射儀

天子御弓制

八張弓

鳴鏑三條

矢頭

征箭二條

挾拾二條

行騰

穀

矢籠

射的近制
草大的笠
鹿的笠
圓的物

小笠懸
小笠懸的

三流鏑馬的八條

騎射步射

文官弓制

角弓半弓

墓目

的矢

箭鏃二條

柄

弓袋

胡籥

調度懸

弩

凡二條

本朝軍器考卷六目錄

火器類

火箭

凡三條

本朝軍器考卷七目錄

矛槍類

矛稍

凡三條

本朝軍器考卷八目錄

劔刀類

劔二條

贊禮大刀

刀子二條

打刀脇差

刀裝 刀形制

石弓

鳥銃

大砲

槍并鍵

長刀

太刀

武大刀

野大刀

後鞘

刺刀 小刀

鞘卷

大刀飾

佩服

刀禁鑿刀冶工相刀

凡十九條

本朝軍器考卷九目錄

甲冑類

甲冑總論

甲冑名所

金物

腹卷

鎧今制

鐵面具

腦當

直垂二條

凡二十七條

本朝軍器考卷十目錄

鹵楯類

大盾步盾

凡一條

本朝軍器考卷十一目錄

古鎧二條

鎧古制

革

腹當

冑今制

手蓋小手

毛沓

着鎧次第

具足

威毛

冑古制

筒丸

笠

脛楯

烏帽子鉢卷

保呂附母衣袋

帷幕類

幕

床几

凡五條

本朝軍器考卷十二目錄

鞍轡類

鞍具總論

鞍名所

鞍靶

璫頭

差繩

鐙韉逆韉

鞭

凡二十一條

帷

敷皮

幕紋

鞍古式

鞞

鞞

馬銜

腹帶

障泥

馬甲

鞍近制

鞍褥

當胸

轡

鐙

三尺繩

厩具

本朝軍器考卷一

旗 幟 類

筑後守從五位下 源

君 美彙輯

旌旗ノ制本朝ニシテハ何レノ代ニ始マルトイフ事詳ナラズ伊弉册尊神イサノミヤノミコマセシヲ紀伊國熊野ノ有馬村ニ葬ル土
 俗此ノ神ノ魂ヲ祭ルニ花ノ時ニハ花ヲモテ祭リ又鼓吹幡旗ヲ用ヒテ歌ヒ舞ヒテ祭ルトイヒシ事アリ(舊事記日
本紀等)此ノ事神ノ代ノ遺レル俗トコソ見エタレタトヒ人ノ代ニ至リ此等ノ物出來シ後ニ此ノ事始マレリトモ
 其ノ因リテ來レル事ハ猶ゾ久シカルベキ神功皇后新羅ヲ伐セ給ヒシ時ニ此ノ物始メテ見エタリトイフ人アレド
 猶ソレヨリサキ景行天皇ノ御時筑紫ノ熊襲ガ叛キシヲ伐ルベシトテ周芳ノ娑婆サハニ至リタマヒシホドニ此ノ國ノ
 魁帥神夏ヒコノカミ碓ウシ媛ヒメトイフ女ノ素幡シロハタヲ建テテ參向マツキシトイフ事モ見エケリ(日本紀二)サレバ此ノ物神代ニヤ始マル又人
 ノ代ノ始ニヤ起レル其ノ始ハイマダ詳ナラズ歟凡本朝ノ俗旌旗讀ミテ波太ト云フコト波トハ長キ義ナリ太トハ
 手也手ノ長クカ、リタレバ波太ト云ヘリト萬葉集註ニハ見エタリ
 古ノ旌旗ノ制イマダ詳ナラズサレド令ノ宮衛ノ條ニ儀仗軍器トイフ事ノアルヲ禮容ニ用フルヲ儀仗トイヒ征伐
 ニ用フルヲ軍器トイフスナハチ實ヲ同ジクシテ號ヲ異ニスル者ナリト義解ニハ見エシサレバ仗旗トイヒ軍旗ト
 イフ其ノ號ハ同ジカラズトモ其ノ實ハ異ナルベカラズ仗旗ノ制ハ延喜式ニモ詳ニ見エテ古代ノ圖ヲモ見タリキ
 カツハ近キ比行ハレシ儀ヲバ世ノ人モ又見ルニ及ベリ此等仗旗ノ制ニヨリテ古ノ軍旗ノ制ヲモ想ヒ見ツベキモ
 ノニヤタ、其ノ詳ナル說ノゴトキハイマダ見ル所アラズ
 古ノ時凡元日又ハ御位ニ即カセタマフ時建テラレシ仗旗マツ殿前ニ鳥像トリカガノハタネ幟ハタネヲ建ツ左ニハ日像ヒカガノハタネ幟ハタネ次ニ朱雀旗

次ニ青龍旗右ニハ月像 幢 次ニ白虎旗次ニ玄武旗ヲ建テ又左右ノ近衛府ノ陣ニハ龍像 幟 幟 一旒 應像
 隊 幟四旒小幟四十二旒左右衛門府ノ陣ニハ鷲像幟幟一旒應像隊幟二旒小幟四十九旒左右ノ兵衛府ノ陣ニハ
 虎像幟幟一旒熊像隊幟四旒小幟九十六旒ヲ建テラル又大射ノ時羅幟阿禮幟ナド建テラル、事アリ(延喜式ニ)今
 モ猶天子御位ニ即カセ給フ時ハ古ノ儀ヲ用ヒラル但シ近比ハ鷲像ヲ改メテ兕像幟ヲ用ヒラル、歟カ、ル儀
 ヲ用ヒラル、事モ文武ノ朝廷大寶元年正月元日ヨリ事始マレルヤウニイフ人アレドソレヨリサキ推古天皇ノ十
 一年十一月上宮太子朝廷ニ請ヒテ旗幟ニ給カキ大槓初ナド作ラレシ事ハ儀衛ノタメニ備ヘラレシトゾ見エタル
 其ノ餘舒明天皇ノ四年十月唐國ノ使人難波津ニ至リシ時船三十二艘ニ鼓吹旌幟皆具ニ整ヘ飾リテ江口ニ迎ヘシ
 メラレシトアルモ又孝德天皇白雉元年二月穴戸國ヨリ白キ雉獻リシヲウケタマフ日朝廷ノ隊仗元會ノ儀ノゴト
 シト見エタルモ(共ニ日本紀ニ)皆此ノ事トゾ覺ユルオモフニ文武天皇ノ御代ニ唐國ノ禮ヲウツシテ宮室ノ制文
 武官ノ衣服ノ色マデモ定メ給ヒシトイヒ傳フレバコレヲノ儀制モ皆此ノ御時ニ至リテ大ニ備レルナルベシ
 軍防令ノ義解ニ幟トハ旌旗ノ總名也將軍ノ載スル所ヲ幟幟トイヒ隊長ノ載スル所ヲ隊幟トイヒ兵士ノ載スル所
 ヲ軍幟トイフヨシ見エタルモ(日本書紀ニ)五十人ノ隊トス將帥ノ出征ス時ニ兵一萬人以上ニミツ
 ルニハ將軍一人副將軍二人軍監二人軍曹四人錄事四人五千人以上ニハ副將軍軍監一人ト錄事二人ヲ減ズカク兵
 ノ多少ニヨリテ副將軍ヨリ下軍監軍曹錄事等ノ員ハヒトシカラネド必ズ將軍一人アリテ其ノ軍ノ政ヲ司ドル其
 ノ將軍ノ上ニ又大將軍アリテ彼ノ三軍ノ命ヲ司ドレリ一軍ノ將ノ載スル所ヲ幟幟トイヒ兵士五十人ノ長ガ載ス
 ル所ヲ隊幟トイヒ兵士ノ旗ヲ軍幟トイヘルナリ儀仗軍器其ノ實ハ同ジト見エタルバ將軍隊長載スル所ノ幟幟
 隊幟ノゴトキ其ノ制ハ式ニ見エシ所ニゾ同ジカルベキサレド龍虎熊兕ノ類イカナルモノヲ繪カキヌラン其ノ

詳ナル事ハ見ル所ナシ(按ズルニ後花園院ノ御時上杉中務少輔持房ニ賜ハリシ御旗ノ中ニ龍ヲ繪ガキ虎ヲ繪カ
 ケル物アリ此ノ物モシ古ノ龍像虎像等ノ幟幟ノ遺制ナランニハ將帥隊長等載スル所ノ幟ニ繪カク所モ儀衛ノ物
 ニ同ジカリシヤ猶尋ヌベシ)又銷旗トイフモノアリ此ノ物ハマサシク軍旗トゾ見エタル齊明天皇ノ御代ニ蝦夷
 ノ會長淳代郡ノ大領沙尼具那津輕郡ノ大領馬武二人ニ銷旗各二十頭ヲ賜ハリシ事日本書紀ニ見エタリ其ノ制ノ
 如キハト部宿禰懷賢ノ釋ニ私記ヲ引キテ師說イマダ其ノ體ヲ詳ニセズ師ノ後說ニイハク今現在此ノ旗ノ頭銷ノ
 如クナル故ニナヅクト侍リサレド或ハ其ノ體ヲ詳ニセズトイヒ或ハ今現在トイフ一定ノ說ニアラズ今ハ猶其ノ
 制ヲ詳ニシ難シ

錦ノ御旗トイフ物ハ古ニハ聞エ侍ラヌ歟元弘ノ初帝笠置ノ山ニ幸マシマセシ時此ノ御旗建テラレシトイフ事太
 平記ニハ見エタリソレヨリ後此ノ旗給ハリシナドイフ事世ニ傳フル所多ク侍リ其ノ制ハ日月ノ像ヲ金銀ニテ打
 チテツケラレシトゾ見エタル又梅松論ニハ尊氏將軍持明院殿ノ院宣申シ請ヒテ軍起シ筑紫ヨリ上ラレシ時用ヒ
 ラレシ所ハ錦ノ御旗ニ日ヲ出シテ天照大神八幡大菩薩ノ字ヲ金ニテ打チテ附ケラレシヨシ記セリ又旗ノ銘シル
 シテ賜ハル事モ古ヨリアリシ事ニヤイマダ所見アラズ元弘ノ末參議右近衛中將源顯家卿ヲ陸奥守ニナサレシ時
 御ミヅカラ旗ノ銘ヲカ、シメ給ヒシヨシ神皇正統記ニハ見エタリ又山内上杉ノ家ニ傳ヘシ天子ノ御旗トイフ物
 三面アリキ其ノ一ハ錦ノ旗ニ
 千早振海中雲之幡之手仁東之塵於拂秋風
 トイフ歌ヲシルサレ(御製ノヨシヲ申シ傳フル歟)其ノ餘ニハ龍ト虎トヲ畫カ、レタルナリ(世ニ傳フルトコロ
 ハ龍ト虎トノ御旗ニモオノオノ銘アリ龍ニハ天子旌旗勢如飛作活龍。高擡三頭角。雲自八根。從。虎ニハ六

稲越ノ瓜傳。三略弄牙全。彌猛西山白。清風未嘯先。トシルサレタリト云フ也シカルニハアラズ是ハ文明ノ比ホ
 ヒ山内ノ上杉安房守顯定ノ求ニヨリテ萬里ガ龍虎ヲ畫カ、レシヲ用ヒシ由梅花無盡藏ニ見エタリシカルヲカ
 ク誤リ傳ヘタリシト云フ見エタレ是ハ義教將軍ノ代ニ鎌倉ノ持氏朝臣討タルベシトテ上杉中務少輔持房ヲ大
 將トシテ兵ヲ差シ下サレシ時後花園ノ朝廷ヨリ下シ賜ハリシヨシ其家ノ記ニハ見エタリ
 軍防令ニ凡私家ニハ鼓鉦弩矛稍具裝大角小角及ビ軍幡アル事ヲ得ザレト見エタリサレバ古ノ時ハ旌旗ノ類私ノ
 家ニアル事ヲ得ズ王政ヤ、衰ヘテ兵革シバシバ動キシヨリ私ノ家ノ旗モ出來シト見エシ保元平治ノ比ホヒニ
 至リテハ源平兩家ノ白旗赤幟ナドイフ事ノミ見エテ古ノ制ハ其ノ名ヲダニ聞カズ幾程ナクテ壽永元曆ノ後鎌倉
 殿天下兵馬ノ權ヲ掌ラレテ兵制一タビ變ゼシヨリ後ハ朝廷ノ令武臣ニ及バズマシテ元弘建武ノ後打チツキタ
 ル世ノ亂レニ軍器樣ノ式モ日々ニ改マリテ古ノ制ハカタバカリモノコラズソレガ中原氏ノ白旗トイフモノ、始
 世ニ傳フル所其ノ說多クシテ其ノ微トスベキ事ハ少シ或ハ其ノ家ノ祖中務卿貞純親王ニ大將軍ノ宣旨ヲナサレ
 テ月華門混白ノ幡ヲ賜ハリシヨリ事起レリトイヒ(新編纂圖ニ)或ハ昔將軍ニ命ジテ出征サシメラル、時御旗ヲ
 賜フ事アリ其ノ中ニ手長白旗トイフアルヲ源氏ノ祖ニ賜ヒシヨリ子孫其ノ色ヲ用ヒラレシトイフ也貞純親王大
 將軍ニ任ジ給ヒシトイフ事其ノ微トスベキヲ所見アラズ又將軍ノ出征ス時ニ御旗賜ハル事アリトイフ事イカナ
 ル據アルニヤ正シキ史ニ見エシ所ハ齊明天皇ノ御時蝦夷ノ會長等ニ鎗旗各二十頭ヲ賜ヒシトイフ事ハアレド此
 ノ外ニ御旗賜ハリシトイフ事モ所見アラズカツハ又令ニ見エシ所モ凡大將出征ス時皆節刀ヲ授クトコソアレ治
 承四年ノ秋前右兵衛佐源賴朝追討ノタメ小松權亮少將維盛ヲ大將軍トシ薩摩守忠度ヲ副將軍トシテ東國ヘ下サ
 レシ時承平天慶ノ蹤跡モ年久シウナリテ准ヘガタシトテ今度ハ節刀ヲ給ハラズ讀岐守平正盛ガ前對馬守源義

親追討ノタメニ出雲國ニ下向セシ例トテ鈴バカリ給ハリシ由平家物語ニハ見エタリ又建武二年ノ冬左兵衛督源
 義貞シテ尊氏將軍ヲ追討セラレシ時ハ治承ノ例ハ不吉ナレバトテ今度ハ天慶承平ノ例ヲ追ハレテ節度ヲ下サレ
 シ由太平記ニハシルセリコレヲノ記ニ見エシ所ニヨレバ將門純友ガ亂ニ藤原忠文小野好古等ノ將軍ヲ東西ニサ
 シムケラレシニモ嘉承ニ平正盛ノ出雲國ニムカヒシニモ御旗給ハリシトハ見エズ源氏ノ祖ヲ將軍トナサレテ出
 征サシメラレシトイフ事ハ彼ノ將門純友ガ亂ニ經基王ヲ副將軍トナサレシゾ始ナルベキサレド御旗給ハリシヨ
 シハ聞エズ(按ズルニモロコシノ禮ニ或ハ軍敗レ或ハ國亡ビテ降り服ヒヌル時ハ必ラズ素キ幡ヲ建ツ我ガ朝ノ
 昔モカクゾアリケル景行天皇ノ紀ニ周芳國ノ魁帥ガ素幡建シトアルモ神功皇后ノ紀ニ新羅國王素旃舉ゲシト
 アルモ欽明天皇ノ紀ニ新羅ノ大將白旗アゲシトアルモ皆是其ノ事ニテアリキサレバ昔ハ旗幟ノ類ニ素色ヲ用
 ヒラレザリシト見ユル然ルニ將軍ノ出征ス時ニ白旗給ハル事アリナドイフ事心得ヌ事也)又源平盛衰記ニハ平
 氏赤色ヲ捧グ八幡殿ノ家ニハ白色ヲ捧グ刑部殿ノ家ハ黑色ヲ捧グナドイフ落書ノ事見エタリ刑部殿トイヒシハ
 義家朝臣ノ舍弟刑部源義光ノ事ナルベシ又源氏ノ旌旗其ノ色皆白カリシニモアラズカクサダカナラヌ事ナレ
 ド源氏白旗ヲ用ヒラレシ事ノ由ハ猶世ニ傳フル所モアリキ平家ノ赤旗イカナルイハレアリトモ其ノ事ノ由シル
 セルモノイマダ所見アラス(平氏ノ祖ニ日華門ノ赤旗ヲ賜ヒシナドイフ說モアル歟但シ其ノ由ヲシルセル物ヲ
 バイマダ見ズ)常陸國風土記ニ黑坂命ノ葬具儀ヲシルシテ赤旗青旗交雜 飄 颺 雲 飛 虹 張ト云フコ
 トアリ又古人ヨメル歌共ニ青旗ト云物見エシヲ青旗トハ葬具ニ侍ルニヤト注セシモノアリ(萬葉集ニ)白馬ノ字
 ヲ讀ミテ阿於牟麻ト云フ例ニヨラバ古ノ俗ニ青旗ト云ヒシモ白旗ニヤアリシ然ルヲ後代ニ及ビテ源平兩家旗色
 トナレル事イカサマ其ノ故アルベケレドモイマダ詳ナル事ヲ知ラズ能ク知ラン人ニ尋ヌベキ事也

鎌倉殿與ノ泰衡ヲ討タレシ時千葉介常胤新調ノ旗ヲ進ラヌ其ノ制鎌倉殿ノ鼻祖入道將軍(賴義)ノ旗ノ法ヲ用ヒタリ其ノ長一丈二尺素帛二幅ヲ以テツクル上ノ方ニハ素絲ニテ伊勢大神宮八幡大菩薩ノ字ヲ繡シ下ニハ鳩ニツ相對ヒテ繡ストイフ事東鑑ニシルセリ(按ズルニ源平盛衰記ニ畠山ガ吉例トイヒシ旗ハ八幡殿武衛家衡ヲウタレシ時重忠ガ四代ノ祖秩父十郎武綱初參セシニ賜ハリテ先陣スソノ後惡源大殿ノ多胡ノ先生ヲ攻メラレシ時父ノ庄司重能ガサセシ所ナルヨシ見エタリサラバ千葉ガ新調セシ所モ其ノ祖ノ入道將軍與ノ合戰ニシタガヒシ時ニ賜ヒシ物ヲ家ニ傳ヘテ其ノ法ヲウツシテ進ラセシナルヘシ)又石清水八幡宮ノ寶藏ニアル所ノ源義家朝臣ノ旗ト云フ物其ノ制素帛三幅ヲ用ヒ二引轡ヲ繪ガキテ上ノ方ニ八幡大菩薩ノ五字ヲ書ス其ノ長サ九尺許廣サ三尺二寸許下ノ方ノ當中ヲ裂ク事二尺八寸ニシテ藍革ノ紋アルヲ以テ菊トヂシタリ其ノ帛腐敗レシカバ横上等ノ制ハサダカナラズ又上野國新田ノ後閑ガ家累代相傳セシ義家朝臣ノ旗ト云フモ其ノ制白布二幅ヲ用ヒ二引轡ヲ繪ガキテ上ノ方ニ八幡大菩薩ノ五字ヲ書ス其長サ九尺廣サ一尺七寸五分(コレハ布ノ全幅九寸五分アルヲ打チ合セテ左ノ方ヲ上ニナシテ縫ヒタリ)下ノ方縫ハツシ三尺八寸五分縫ヒドメノ所ニ無紋藍革ノ菊トヂアリ之レモ横上ノ制サダカナラズ又鎌倉ノ補陀落寺ニ平家ノ赤旗ト云ヒ傳ヘシ帛アリ其ノ長サ三尺五分許亦帛二幅ヲモテ造レリ其ノ中ニ九萬八千軍神ノ六字ヲシルヌ又大和國吉野郡和田村ニアル所ノ古旗ハ白帛一幅(帛ノ幅廣サ一尺三寸五分)其ノ長サ五尺九寸五分上ノ方ニ天照皇太神宮八幡大菩薩春日大明神等ノ字ヲ三行ニシルシ其ノ下ニ鷹ノ羽ヲ打チチガヘシ紋ヲ繪ガケリ横上ノ所ヲバフスベ革ヲ以テ裏ミ同ジ革ノ緒ヲツケタリ是レハ誰家ノ旗也ト云フ事サダカナラズ(コレラハ古キ物共ヲ見ルニ及ビシ所ナリ詳ナル所ヲバ別ニ圖シヌ猶モ世ニ相傳ヘシ物共我イマダシラザル所ハコトニモレシ事多カルベシ)體源抄ニ義貞朝臣ノ記ヲ引キテ旗ハ絹布人ノ

好ミ家ノ先規ニ依ルベキカ長ハ八尺或ハ一丈又ハ一丈餘神ノ御名思ヒ思ヒ又家ノ紋バカリモ旗ノ竿ハ長一丈二尺或ハ二尋片脇トモ云ヘリトシルセリ又同抄ニ旗ニハ五丈ノ練貫ヲ一尺三寸切リテ笠注トナシ其ノ餘ヲ旗ニ裁ツベシ縫ヒタテ一丈二尺也ト見エタリスベテコレラハ世ノ末ザマニ出來シ私家ノ旗幟ト見エシカバ其ノ制同ジカラヌ歟

旗ニ繪カク事推古天皇十一年十一月上宮太子朝廷ニ請ヒテ旗幟ニ繪カレシヲヤ始トスベキ(日本書紀ニ)私ノ旗ニ家ノ紋繪カク事ハ其ノ始ヲ知ラズ鎌倉鶴岡ノ神殿ニ二引轡ノ旗併ニ八幡殿ノ願書アリシ事太平記抄ニ見エヌ岩清水ノ寶藏ニアル所等ノ物前條ニ見エシ如クナリサラハ義家朝臣ノ比ホヒ既ニ旗ニ紋ツクル事ハアリケリ平家物語源平盛衰記ナドニモ其ノ事ヤ、見エタレド其ノ比ニハ大ヤウハ旗幟ノ色ヲ以テ軍ヲワカツコトゴトク皆紋ツケシトモオモハレズ畠山佐竹久下ノ人々始ハ皆混白ノ旗ヲ差シキ其ノ後畠山ハ小文ノ藍革ヲ貼シ佐竹ハ月出ダセシ扇ツケ久下ハ一番ノ字カク事皆コレ鎌倉殿ノ仰ニヨリシヨシ見エタリ其ノ餘武士ノ家々ニイヒ傳フル所多ケレド然ルベキ物ニ見エザル事ハ微トスルニ足ラザルニ似侍ベリ元弘建武ノ比ニ及ヒテハ家々ノ紋擧ケテ計フベカラズ

東鑑ニシルセシ所ヲ按ズルニ常胤ガ調ヘ進セシ所モ當時ノ旗ノ制ニハ異ナル所モアリシトゾ見エタル義家朝臣ノ旗平家ノ旗ナドイフモノヲ併セ考フルニソノ制モ同ジカラズ今世ニ傳フル古ノ制ナリトイフモノ東鑑ニ見エシ所ニ大ヤウハカハラズ其ノ長ノ長短ハ定マレリモ聞エズ或ハ二幅或ハ三幅ノ帛ヲ用ヒテ作ル(二幅ノ旗賴義ノ旗ノ制コレ也三幅ノ旗ハ石清水ノ寶藏ノ物併ニ太平記ニ見エタリ)横上トテ(横紙トモシルセリ)其ノ幅ヲ張ルベキ板横タヘテ下ノ方ヲバ其ノ幅ヲ縫ヒ合セズ燕尾トナシ横上ノ所ヲ竿ノ蟬口ニ結ヒツケテ(蟬本トモイフ

ナリ)下シ垂レタル也又一幅ノ帛ヲ半ヨリサキテ横上ノ左右ニツクルヲ旗ノ手トハイフ鳩居草トイフモノアリト云フコレハ彼ノ頼義將軍ノ旗鳩ニツ縮セシナドイフ事ノ遺制ナルニヤ文永ノ比ホヒ大元ノ軍入寇シテ我が國ノ戦利ナカリシ事アリシニ少貳三郎左衛門尉景資ガ旗ノ蟬口ノ鳩忽チニ飛ビ翔リシカバ景資八幡大菩薩ノ影向ナラセ給フトタノモクオモヒ馬ハセカヘシテ發ツ矢アヤマタズ彼ノ國ノ大將軍ヲ射コロシツ彼ノ大將軍ヲバ鳩翔リ來リテ擊殺シテケリト其ノ國ノ生虜共ハイヒシ由八幡愚童訓ニハ見エタリ其ノ比迄モ旗ニ鳩縮セシ事モアリシナルベシ凡我ガ朝ノ軍器ニ鳩ノカタチ作ル事ハオモフニ昔神功皇后新羅伐チ給ヒシ時ミイクサ戦ヨワク彼ノ國ノ軍強クシテ既ニカウヨト見エシカバ皇后天ニ御禱リアリシニ雲ノ中ヨリ靈鳩三ツ飛ビ來リテミカタノ楯ノ面ニアラハレ彼ノ國ノ軍忽チ敗レキナドイヘル事ハ此ノ事ノ起リニゾアルベキ(此ノ事平家物語ニ見エタリ)山鳩ハ八幡ノ御使也ナド世ニイヒ傳フルモコレノ事ニヨリテイヘルナルベシ

古ノ旗袋ノ式シルセシ物ハイマダ見ル事ヲ得ズ上野國新田後閑家ニ傳ヘシ義家朝臣ノ旗ノ袋ヲ見シニ誠ニ古代ノ物ト見エタリ倭錦ノ赤地ナル龜甲ノ紋アルニ白キ生絹ノ裏ヲ打ツ長サ二尺九寸其ノ幅一尺二寸四分ナルヲ半ヨリ折リテ中ヲ縫ヒ合セテ袋トナス左右ノ縫ヒハツシノ所四寸五分ヅ、アリ其ノ縫ハツシノ際ニ紅ノ二ツ打チナル緒ノ二尺餘ヅ、ナルヲ折リシ所ト中ト二所ニテ表ノ方ニ見ユルヤウニ横サマニ刺シ縫ヒテ縫ヒハツシノ方ニテ緒ノ餘レルサキヲバ結ビシナリ(其ノ式ハ別ニ圖ツクレリ)

義政將軍ノ代ノホド畠山左衛門督政長同右衛門佐義就ト故管領左衛門督持國入道徳本方家督ヲ争フ事アリ康正二年ノ夏河内國萱振トイフ所ニテ終ニ合戦ニ及ブ彼等トモ一族ノ中也シカバ其ノ旗同ジクシテ敵味方ヲカチガタカリトテ政長ヤガテオノガ旗ニ乳ツケテ竿ニサシケリ其代ノ人皆コレニ倣ヒテ旗ノ制一變シキ後世ニイハユ

ル乃保利コレ也(南朝記傳ニ出テタリ)○按ズルニ此ノ制ヲ乃保利トイフ事イカナルイハレニヤイマダ所見ナシ但シ大諸禮ニノホリニ乳付クル事竹ノ本ヨリ順ニツケテノボル也トイフ事ノアレバ乳ツクル式ニヨリテヤカクナツケシニヤ)大和國吉野郡和田村ニアル所ノ古旗ノ中ニ素帛一幅ナル(帛ノ幅廣サ一尺三寸五分)長二丈一尺一寸五分鷹羽打チチガヘシ紋繪カキ横上ノ所ハフスベ革ヲ以テ裏ミ同ジ革ノ緒付ケシ事等古旗ノ如クナルニ又乃保利ノ制ノ如クニフスベ革ノ乳付クル事其ノ數廿五ナル物アリコレ正シク古旗ニ乳付ケシ物ト見エタリ(其ノ制別ニ圖シヌ)古周ノ代ノ旗ノ制ニ素錦ヲ以テ竿ヲ縹ミ縹キ帛ヲソノ素錦ニ付クト見エタルハ(爾雅註疏)今世ニ縫ヒクルミナドイフ制ナレバ(縫ヒクルミトイフ物ハ甲斐ノ武田ノ家ヨリ出來シナド世ニハ申ス歟其ノ諏訪法性ノ旗トイフモノヲ見シニイカニモ縫ヒクルミニテハアリシ但シ孫子ノ旗ナドイフ物ハ章ヲ以テ乳ツクルルナリサレバ武田ノ旗コトク皆縫ヒクルミ也ト心得ン事ハヨカラジ)異朝ノ制ハ昔ヨリ我ガ朝ノ近キ制ニ似テゲリ又近キ世ニ大旗小旗ナドイフ物ハ其ノ幅ノ多キト少キト其ノタケノ長キト短キトニヨリテカクハ名ヅケシナルベシ小幡トイフ物古ノ式ニ見エタレバ(延喜式ニ)特ニ久シキ物也大旗トイフ物ハ始メテ平治物語ニ見エテ元弘建武ノ後ハ所見多シタ、其ノ制昔今ノ様カハレルノミニゾアルベキ

馬シルシトイフ物ハ永祿比ホヒ迄ハナカリシニ元龜ノ比ホヒヨリ始マレリトモ(信長記)又ハ天文ノ比ホヒスデニ始マレリトモイフ(相模ノ北條ノ家人大道寺トイフモノ河越ノ夜軍ニ本間トイフモノヲウチテソレガ差物ヲ取リテオノガシルシトス是ヨリ小マトヒトイフ物ハ始マレリト甲陽軍鑑ニハ見エタリ今ノ兵家ノ説ニ大馬シルシ小馬シルシ又大マトヒ小マトヒナドイフ物アル歟馬シルシトイヒマトヒトイフ是レ一物ニシテ名ヲ異ニス或人ノイヒシハマトヒトイフコトハ甲斐ノ武田ノ家ノコトバナリトゾ)何レノ比ナランニモ近キ世ニ出來シ物ナ

リサレド古ノ時將軍ノ幟幡隊長ノ隊幡ナドイヒシ類ニテ異朝ニシテハ中軍ノ坐蓋又ハ主將及ビ各營大將等ノ認
 旗ナドイフ物ノ類也是レモ始ハ其ノ制旌旗ニ同ジカリシニ日々ニ新ナル制出來テ今ハ異様ノ物多クナリタリ
 (甲陽軍鑑信長記北條五代記等ヲ併セ見ルベシ)又凡シルシトイフ文字標トモカキ注トモカキ符トモカキ
 事古ノ俗也近代ニハ印トモカクニヤ徽幟ノ二ツノ字ハ本朝ノ文書等ニモ見エタレバ(共ニコレ令式等ニ見ユ)シ
 カジタマコレヲノ字ヲ用ヒタランガ其ノ義ヲ得タルニハ
 平治ノ戰ニ源氏ノ大旗腰小旗皆オシナベテ白カリシ由見エタリ其ノ腰小旗トイヒシ物近代ノ腰差々物ナドイフ
 物ノ類ニヤソレヨリ後ノ事シルセル物ニ此ノ物ノ名ハ見エザル歟元龜ノ比ホヒ迄ハ旗モ多カラズ小差物モ極メ
 テ小シキ也シガ次第ニ大クナリタル由信長記ニシルシタレバ此ノ物近代ニ又出來テ今ハ異様ノ物ドモ多クナ
 リシ也(按ズルニ信長記ニ見エシ小差物トイフモノ其ノ比ニハ戰ノ急ナルニ臨ミテハミツカラ鎧ノ後ニサス戰
 終リヌンバ從者ニモ、タセシ其ノ後其ノ制次第ニ大クナリテ隊長ヨリ上ツカタハ馬ニソヘテ建テシヨリ馬幟
 ト差物トノ制大小異ナル物ニハナリタルナリ)

笠標トイフ物ハ大將軍ヨリ下兵士ニ至ル迄各甲冑ニツク異朝ノ昔ニハ徽幟トイヒ近世ニハ盃旗ナドイヒシ物
 ノ類ナルベシ我ガ國ニテハ淨見原天皇不破宮ニマシクテ紀臣阿閉麻呂村國連男依等ヲ大將トシ兵ヲ分チテ近
 江ノ朝廷ニムケラレシ時男依連ガ軍ハ不破ヨリ出デテ直チニ近江ニムカフ其ノ衆近江ノ軍トワカチ難カラシ事
 ヲ恐レテ赤色ヲ以テ衣ノ上ニ着ケシトアルハ(日本紀ニ)此ノ物ノヨリテ起レル所ニゾアルベキ源平盛衰記ニ衛
 府ノ弦袋ヲモ笠注トイヒ今川ガ難太平記ニハ馬ニ著ケシ幟ヲモ笠驗トイヒシカバ甲冑ニツクル物ノミカクイフ
 ニモアラズサレバ冑ニアルヲ笠標トイヒ袖ニアルヲ袖標トイフナドイヒ傳フル事ハ殊ニ近世ノ俗ナルベシ但シ

此ノ物名ツケテ笠標トイフ事イカナルイハレアリトイフ事ハイマダ所見アラズ
 鎌倉殿奥ノ泰衛ヲ討タレシ時下河邊庄司行平仰ニヨリテ御冑ヲ調へ進セシニ冑ノ後ニ笠標ヲ付ケタリ此ノ簡袖
 ニ付クル事尋常ノ儀ナル歟トノタマヒシニ行平承リテ是レ彘祖秀郷朝臣ノ佳例タリ其ノ上兵ノ本意ハ先登ニア
 リ先登ニス、マン時敵ハ名ノルヲ聞キテ其ノ人ヲ知ル御方ハ後ヨリ此ノ簡ヲ見テ其ノ先登ノ由ヲ知ルベキ者也
 但シ袖ニヤ付ケタマフベキ凡カ、ル物ヲ調へ進ラヌル時家ノ様ヲ用フルハ故實ナリト申シケレバ御感アリシナ
 ドイフ事アリ(東鑑)サラバ笠標ハモト冑ニ付ケン物ナルヲ鎌倉殿ノ比ホヒ世ステニ袖ニ付ケシトゾ見エタル袖
 ニ付クル事モ大ヤウ射向ノ袖ニツクル事ニヤ一谷ノ落足ニ重衡卿ノ侍後藤兵衛尉守長射向ノ袖ノ赤符カナグリ
 ステ、ニダ行キシナドイフ即是也(盛衰記ニ)此ノ物必ズ一ツヲノミ付クルニモアラズ木曾殿平家追討ノ院宣ヲ
 承ラレシ時鎧ノ左右ノ袖ニ笠符ツケラレシ事モ見エタリ(同記ニ)凡鎧ノ袖ニ笠標ツクル所ハ射向ニモアレ左右
 ニモアレ冠板ノ下ノ中ホドニツクベシ古畫ニ見エシ所コトゴトク皆然リ體源抄ニハ袖ノ耳絲ヨリ十一メニ付ク
 ル由シルセリ

笠標ノ制定マレル式アリトモ見エズ體源抄ニハ五丈ノ練貫ヲ一尺三寸切リテ三ツニワリテ笠ジルシニシテ其
 ノ餘ヲ旗ニ裁ツ笠ジルシハ刀ヲ逆手ニ持チテ裁ツ其ノ縫様ハオモテハマクリテ針ヲ下ヨリ上ヘサシ出ダシ縫
 留ムル所ヲモ針ヲ上ニテ留ムル也ト見エタリサラバ其ノ長サ一尺三寸ニシテ濶キコト三寸餘ナルベシサレド下
 河邊庄司ガ鎌倉殿ニ進ラセシ所ハ簡付シ由見エタレバ其ノ形小シキナルベシ後醍醐院ノ山門ニ幸アリシ時紅ノ
 御袴ヲ脱セ給ヒ三寸ツ、切リテ賜ヒシヲ官軍ノ笠符トセシ事太平記ニ見エシハ殊ニ小シキナル物ナルベシ同記
 ニ千種頭中將忠顯ノ京軍ニ白絹一尺ツ、切リテ風トイフ字カキテ笠符トナシテ鎧ノ袖ニ付ケサセラレシト見エ

本朝軍器考卷一

シハ稍大キナル物ト見エタリ又同記ニ見エシ島津四郎が濃紅ノ大笠符禰津小次郎が薄紅ノ大笠符畑六郎左衛門尉ガ一引幅ニ三糶ノ笠符馬ノ草頭ニ吹キ懸ケサセシ明德記ニ一色左京大夫ガ金襴ノ大笠注ナドシルセル類ハモツトモ大キナル物トゾ見エタル古畫ノ源義家朝臣ノ像見シ事ノアリキ其ノ馬副ノ兵ガ冑ノ上ニ一幅ノ赤絹ノ長三尺許モヤアルラント覺ユルヲ左右ノ吹返シニ絲ニテ付ケンガ風ニ靡キシ體ヲウツセルアリコレラカノ大笠標ナドイフ物ノ類ニヤアルラン又笠標ニハ其ノ人ノ名ヲモカキ又其ノ家ノ紋ヲモツク下河邊庄司ガイヒシ所ニヨレバ古ハ名ヲシルセル也太平記ニ見エシ河野七郎通遠ガ側折敷三文字久下ノ者共ノ一番ノ字畑ガ一ツ引幅ニ三糶ナドノ類ハ其ノ家ノ紋ナルベシ又此ノ物必ス帛ヲ以テツクルニモ限ラズ法住寺殿ノ合戦ニ官兵青松葉ヲ冑ノ鉢ニモ鍔ノ袖ニモ付ケラレ(平家物語盛衰記等ニ)青野原ノ合戦ニ桃井ガ鷹鈴ツケ今川ガ赤鳥ヲ馬ニツケテ笠注トセシナドイフ事モアレバ(難太平記ニ)何ニモアレオノガ手ノ幟ニツクルモノヲ笠標トハイヒシ也彼レ是レヲ通シ考フルニスベテハ定マレル式アラズトコソ見エタル

冑ノ立物トイフモノモ笠符ヨリコト起リヌトゾ見エタル鍔形鷹角ウチシナドイフコトハ古代ヨリモ聞エキ此等ノ外ニハ法住寺殿ノ戦ニ官兵ノ笠符ニ青松葉冑ニサシタルナド見エシハ此ノ物ノ濫觴トヤイハマシ元弘建武ノ後ニハヤウヤク見ル所多シ源義貞朝臣節刀ヲ賜ハリテ尊氏將軍ヲ伐タレシ時箱根山ノ戦ニ道場坊助注記祐覺ガ兒紅梅ノ作花ヲ冑ノ眞向ニ挿シタル又尊氏將軍舍弟左兵衛督入道慈源ト京ニテ合戦アリシ時桃井カ扇一揆ノ中秋山新藏人光政ガ冑ノ鍔形ノ間ヨリ紅ノ扇ノ月日出ダシタルヲ開キシ又武藏野ノ合戦ニ饗庭命鶴丸ガ花一枝ヲ折リテ冑ノ眞甲ニ挿シタルソノ餘土岐悪五郎康貞大鍔形打テ徑三尺許ニ金ニテ桔梗ヲ打チテ附ケタル甲長山遠江守頼基ガ徑三尺許ナル大日ノ丸打チタル鍔形ノ冑ナド見エシ(共ニ太平記并異本太平記ニ)コレラ皆今ノ立物ノ類トゾ覺ユル猶詳ナル事ハ甲冑ノ類ノ下ト通シ見ルベシコレモ又天文元龜ノ初ヨリ異様ノ物トモ殊ニ多クナリヌルヨシ信長記ニハ見エタリ

本朝軍器考卷一終

本朝軍器考卷二

金 鼓 類

筑後守從五位下 源

君 美彙輯

右ノ制大ニ戰フ時ハ鼓ヲウチテ進ミ金ヲウチテ退ク(司馬法ニ)凡旌旗金鼓ハ大將ノ司ル所ニシテ其ノ要ハ耳目
 フ一ツニスルニアリト見エタレ我國ノ昔モ又カクゾアルベキ神功皇后ノ新羅ヲ伐タセ給ヒシ時金鼓節ツノナク旌
 旗錯カヒ亂レナバ士卒整フラジト令シ給ヒシナド日本書紀ニハ見エケリ軍防令ヲ見ルニ凡軍團ニハ(團トハ聚也
 軍士相聚ル所ヲイフ)各鼓二面大角二口少角四口ヲ置キ兵士ヲ通シ用ヒテ(鼓ト角トヲ通シ用フル也角ノ事ハ下
 ニ見エタリ)番ヲ分チテ教ヘ習ハシメラレキ又鼓鉦トイフ事ノアルヲ義解ニハ鼓ハ皮鼓也鉦ハ金鼓也以テ喧ヲ
 靜ムル所也トハ注セリ但シ我が國ニシテ此等ノ物ヲ戰陳ニ用ヒラレシ事ノ始ハイマダ見ル所アラズ神功皇后ノ
 紀ニ此ノ物スデニ見エシカバ其ノ因リ來ル所猶ゾ久シカルベキ其ノ後齊明天皇ノ紀ニ蝦夷ノ酋長沙尼具那馬武
 等ニ各旗二十頭鼓各二面ヲ賜ヒシ事モ見エケリ又凡朝廷ニ大禮行ハレテ階下ニ陣ヲ張ラル、時モ必ズ鼓鉦ヲ設
 ケラル、事トゾ見エシ然ルニ戰陣ニ大鼓用フル事ハ源判官義經ヨリ始マレル也其ノ事ハ源平盛衰記ニ詳也ナド
 世ニハイフ事アル歟大ニアヤマルル事ニヤ彼ノ記ニ見エシ所ハ壽永三年正月鎌倉殿木曾義仲ヲウタレシ時九郎
 御曹司ハ宇治ノ手ニムカハルミカタノ大勢オモヒノニド、メキテ下知シ給フヤウノ聞エザリケレバ平等院ノ
 御堂ヨリ大鼓取リ寄セテヤグラノ下ニテウツ何事ナラント鳴ラシヅメシ由シルセリ同記ノ中ニ木曾殿北國ノ合
 戰ノ時大鼓法螺貝千バカリ籠メラレシナドイフ事モ見エタリ此ノ事宇治ノ合戰ヨリ猶サキノ事ニテアル也凡戰
 陣ニ用フベキ鼓ノ制山重レルト海濶キト地ノ形勢ニヨリテ其ノ用意アル事也トイフ心得ベキ事也

令義解ニ鉦ハ金鼓也ト見エタリ源順倭名抄ニモ鉦鼓ハ俗ニ常古トイフ兼名苑ニ鉦一ツニ鑊ト名ヅク金鼓也トイ
 フ由見エタリ是等金鼓トイフ物ハ金ニテ作レル鼓也神功皇后紀ニ見エシ金ト鼓トノ二ツヲイヒシ如クニハアラ
 ズ司馬法ヲ按ズルニ卒長執、饒兩司馬長執、饒進、軍鳴、饒退、軍鳴、饒トイフ事アリカノ饒トイフ物ハ我が國ノ鉦
 鼓ニテ鑊トイフ物ハスナハチ鈴ナルベシアハセテ此レヲ金トハイフタ、軍ヲツカサドル人ニヨリテ其ノ制ヲ異
 ニスルノミ也キ天目一箇命鑊ツクラレシ由舊事記ニハ見エ古語拾遺ニハ天鈿女命手ニ著鑊之矛ホ持シ事見エタ
 レバ此ノ物ハ神代ヨリアリシ物也前ニシルシ嘉承治承ノ追討使ニ鈴バカリ賜ヒシナドイフ事ハカノ執、鑊ノ
 義ニヤ取ラレタリケンサラバ本朝ノイニシヘ饒鑊ニツナガラ用ヒラレシ物也近世ニハ此ノ事聞エザルニヤ治承
 ニ熊野ノ那智新宮ノ大衆等源氏ニ心合セテ軍起シ戰ヒテ具鐘ヲ鳴ラシヨロコビノ時ツクレリナド盛衰記ニ見エ
 シハ古ニ聞エシ鉦鼓ニハアラズタ、寺院ニ用フル所ノ物同記ニ見エシ三井寺ノ合戰ニ三院ノ大衆ノ會合ストテ
 鳴ラシケン貝鐘モ同ジ義ニゾアルベキ近世ニ至リテハ銅鑊ヲ用ヒテ鉦鼓ニカフ鉦鑊今ノ銅鑊也ト異朝ノ書ニモ
 見エタレバ(楊升菴說)彼ノ國ニテモ近キ比ハ銅鑊ヲ以テ古ノ鉦鑊ノ制ト思ヘル也サレド本朝ノ儀仗ニ設ケラレ
 シ鉦鼓トイフ物ハ銅鑊ノ制トハ同ジカラヌ物也

本朝ノムカシ鉦鼓ヲ用フルノミニアラズ大角小角トイフ吹モノヲモ用フスベテ此ノ事ヲ鼓吹司ニツカサトリ軍
 團ゴトニモ兵士ヲ通シ用ヒ番ヲ分チテ教ヘ習ハシメラル倭名抄征戰具ヲ按ズルニ楊氏漢語抄ヲ引キテ大角ヲ波
 羅乃布江小角ヲ久太能布江トヨミタリ此ノ角トイフ物ハ黃帝蚩尤ト涿鹿ニテ戰ハセ給ヒシ時ニ蚩尤ガ造リ出ダ
 シテ吹キシ由ヲイヒ傳ヘ侍リ倭名抄ニモ兼名苑ノ注ヲ引キテ此ノ物モト胡中ヨリ出ヅ或ハ吳越ヨリ出ヅトモイ
 フ由ヲ載セヌ其ノ制モト異朝ヨリ出テタル也彼ノ國ニハ今モ用フル軍器ナレド我が朝ニハ寶螺ヲ用ヒ來タリシ

ヨリ此ノ物ハスタリシニヤ其ノ制モツタハラズ今モ邊地ニテ竹ヲ截リテ管トシ筒貝ト名ヅケテ吹クハ彼ノ角ノ遺レル制ニゾアルベキ

寶螺ヲ鳴ラス事ハモト西域ノ俗ニテアル也千手經ニモシ一切ノ諸天善神ヲマテギヨバンニハ寶螺ヲ手ニスベシトハ見エタリ又法螺トモカク梵貝トモイフニヤモロコシノ書ニハ海中ニ出ヅル梭尾螺トイフ物トゾ見エタル我が朝ノ近キ代ニハ貝太鼓ニツノ物ヲ以テ軍中ノ要器トス軍陣ニ用ヒシ事ハ新宮ノ大衆等ニ起リ貝ト太鼓トナラベ用ヒシ事ハ礪浪山ノ合戰ヲヤ始トシナン是ヨリサキノ事ハイマダ所見アラズ韻書ヲ考フルニ螺ノ字ハモト俗字ニテ正字ハ羅トカク羅ノ字又通ジテ蠡トモカク按ズルニ宋ノ東南夷傳ニ林邑國ノ人吹シ海蠡ニ爲角トイフ事アレバ蠡角トイフ事ハ寶螺ト角トノ二ツニテアルベキヲ蠡角篇トイフ書ニハ蚩尤角ヲ制出セシヨリ後其ノ長六尺ナルヲ角トイヒ五尺ナルヲ蠡トイフ由見エタリコレハタゞ角ノ制ノ長短ニヨリテ其ノ名ヲ殊ニセル物也アヤマレルニ似タリ異國ニテ寶螺ヲ以テ角ニ代フル事久シキ事ニテアレバ我が朝ニテモ其ノ來タル事治承ノ比ヨリ猶遠キ事ナランモシルベカラズ近キ比朝鮮國ノ使來タリシニ其ノ軍官ノ中螺角手トイフ者アリ此ノ事ヲ司レルモノ也カレコレヲ通ジ考フルニ異國ニモ此ノ物ヲ用ヒテ軍器トスル事ハ本朝ノ制ニ同ジキトコソ見エタレ

本朝軍器考卷二終

本朝軍器考卷三

節 鉞 類

筑後守從五位下

源 君 美彙輯

令ニ凡大將出征皆授節刀ト見ユ義解ニハ凡節トイフ物ハ鬣牛ノ尾ヲ以テツクル使者ノ執ル所也今ハ刀劔ヲ以テコレニ代フ故ニ節刀トイフ名實相異ナレド其ノ辭ト用フル所トハ一ツ也ト註セリ此ノ事ノ因リテ起レル始ハ神代ニ高皇產靈命皇孫ヲ葦原中國ノ主ニシ給ハントテマヅ國中ノ邪鬼ヲ撥平シメントテ天稚彦ニ天鹿兒弓ト天羽々矢トヲ給ヒテ下シ遣サレシ是レ後世ノ將軍節施ヲ賜フノ事也ト後成恩寺殿ノ御説ニハ見エタリ(神代纂疏)

又清三位宣賢ノ説ニハ日本武尊ノ東夷ヲ征シタマフ時マヅ伊勢ノ太神ニ參リ給ヒシニ倭姬命天叢雲劔ヲ授ケ給ヒシハ後世ニ節度ヲ賜フ事ノ始也ト見エタリ(神代卷抄)サレド古事記ニハ東方十二道ノ荒神ト不伏人等トヲシヅメラルベシトテ命ヲツカハサレシ時比々羅木ノ八尋矛ヲ給フ命罷リ行キ給フ時伊勢太神宮ニ參リ給ヒシニ其ノ御姨倭比賣命草薙劔ニ火打袋ソヘテ參ラセラレシ由見エタリサラバ命ノ朝廷ヨリ賜ハラセ給ヒシハ實ハ比々羅木ノ八尋矛也シカド此ノ事大將出征ス時ニ節鉞ヲ賜フ義ナレバ日本書紀ニハ斧鉞ヲ賜ハルナドシルサレシナルベシ劔ハ御姨ノ命ノ私ニ賜ヒシ所ナレバ朝廷ノ賜ニハナゾラヘ難シサレバ命ノ叢雲劔ヲ賜ハラセ給ヒシ事ハ後世節刀ヲ給ハル事ノヨリテ出ヅル所也ナドハイフベシ始トハイフベカラズ其ノ後來目部小楯(清寧天皇ノ紀ニ)億計弘計兩皇子ヲ迎ヘ奉リ大伴大連金村大連等ガ臣連等シテ男大迹王(繼體天皇ノ紀ニ)迎ヘ奉リシ時ニ持チシ節ハ鬣牛ノ尾ニテヤ作リヌラン延曆ノコホヒ大伴宿禰家持ノ持節征東將軍ニナサレシ時ハ既ニ刀劔ヲ以テ代ヘラレシ後ナレドモトノマヽニ持節ナドイヒシナルベシ節施ノ制ハ異朝ニモ後代ニハサダカナラヌニヤ

唐ノ代ノ人ノイヒシハ晋ノ顧愷之ガ繪カキシ蘇武ガ像ニ手ニ執リシ物上ハ圓ニシテ曠ノゴトク下ハ數層ノ紅羽ノミダレタルガ夜合花ノヤウニナンアル今鹵簿ノ中ニアル節モコレニ似タリ其ノ首マタ圓ニシテ相去ルコト一尺計數重ノ圓ナル板アリテ鬚牛尾ヲ以テコレニ綴ルトイヒケリ(續博物志)韻書ニハコレ古ニ用ヒテ指麾スル所ノモノ周武王ノ白旄ヲ乘リテ麾カセ給フトイフモ是也ト見エタリ本朝ノ古ニイハユル節旄ノ制モサコソハアリケメ合作ラレン比ダニ既ニ刀劔ニ代ヘラルトアレバナホ後世ニイフナル節刀ハ名ノミニテ刀劔又ハ鈴ナド下サレシトコソ見エタレ順德院ノ御抄ニ(禁秘抄)大刀契ノ條ニ匡房記ヲ引カセ給ヒテ顯實ガイハク鋒劔三尺或ハ二尺總テ十其ノ中一劔背ニ銘アリ北斗左青龍右白虎其ノ外ハ見エズ是レ百濟ヘ渡サル、所ニ劔ノ一欸但シ節刀ハ此ノ外ニアルベシ青龍ト注スノ條六典ニ稱スル所ノ傳符ニ似タリモシ大將軍ヲ遣スノ時用フベキ欸(大唐六典)ヲ按ズルニ傳符トイフモノハ郵驛ニ給シ制命ヲ通ズル物也ソノ中青龍之符トイフアリ我ガ朝ノ節刀モ青龍ト注シタレバ刀ノ傳符ノ如クナル物ニヤトシルサレシナルベシ又節刀ノ鑰ハ天曆ノ帝寶劔ノ帶取ニ付ケテ御身ヲ離サレズト云々誠ニ我ガ國ノ至極ノ重寶ナル者也トシルサセ給ヒキ又後成恩寺殿ノ御記ニハ(桃花葉)節刀ハ雜劔也ソノ中靈劔二柄アリコレスナハチ百濟國貢進スル所日月護身劔破敵將軍ノ劔等也(按ズルニ匡房記ニハ日月護身ノ劔三公闢戰ノ劔ニ作レリ)靈劔雜劔合セテ卅四柄ノヨシ天德記ニ見エタリ(按ズルニ匡房記ニハ)ノ由見エタリ建武ノ度紛失セシカバ新ニ造ラレシ由シルサル弘安禮節ニハ節トハ大將驛路ノ手印丹漆ノ筐ニ盛テ錦襪ノ袋ヲ以テコレヲツムト見エタリ此ノ說ハ禁秘抄ニ見エシ所ニ同ジキヤウニハアレド令並ニ後成恩寺殿ノ御記ニハ異ナルニヤコレハ周ノ禮ニ見エシ龍節虎節玉節ナドイフ物ニテ後世ノ虎符竹使符ナドノ類各其ノ半ヲワカチテ左ヲ北京ニトメ右ヲ巴郡國ニアタヘテ凡兵ヲ發スル時其ノ國ニ遣ハシテ符ヲ合ハス符合フ時ハ

スハナハチ發スナドイフ物ノ如クナルベシ(按ズルニ令ニ見エシ所ハ大唐六典ニ見エシ旄節トイフモノニテ後世コレニカフルニ刀劔ヲモテセラレシナリ後成恩寺殿ノ御記ハスナハチ後世ノ制ニヨリテシルサレシ也弘安禮節ニ見エシ所ハスナハチ六典ニ見エシ傳符ノ制ニテ旄節ナドイフ物ニハカハレル物ナリ禁秘抄ニ見エシ所モ傳符ノゴトクナルニヤトアレバナホ疑ハシキ所アルニ似タリ禮節ノゴトクタシカニ傳符ノヨシニハ聞エザルカ)周代ノ禮ニ大旄ヲ建テ田カストイフ事アリ(周禮)此ノ物モ武王白旄ヲ乘ラセ給ヒシ事ヨリ起リテ後代ニモ乘輿ニハ黃ヲ以テシ諸公ハ朱ヲ以テシ刺史二千石ハ纁アキヲ以テスコレヲ旄旄トイフヨシ、ルセル物モアリ(中華古今註ニ)北畠准后ノ說ニ將帥ヲ稱シテ旄ト又戲下トイフ漢書師古注ニ戲トハ軍ノ旄旄ヲイフ也ト見エタリ(職原抄)サレド古ヨリ乘輿ノ物ニモ用ヒラレシカバ將帥ノ事ニモ限ラズ我ガ朝ノ國史ニモ崇神天皇熊襲梟帥ガ二人ノ女ヲ旄下ニメシ納ラレシナドシルサレシハ乘輿ノ物ヲモ斥言シ也推古天皇ノ御時新羅王白旄ヲ舉ゲテ將軍ノ旄下ニ至リテ降リヌナドアルハ將帥ノ事ヲサシタル也又楚辭ノ注ニハ手ヲ以テ教フルヲ旄トイフトモ見エ韻書ニハ旄旄ヲ以テコレヲシメヌヲ旄トイフトモ見エタリ彼是ヲ通シ考フルニ節旄トイフモ旄旄トイフモノトコレ大將軍ノ執ル所ニシテ將士ヲ指麾スベキ物也近代主將ノ執リテ軍ヲ指麾スル物ニ或ハ左以或ハ左以波以ナドイフモノ出來ヌ隊長ナドノ類ハ主將ヨリユルシ給ハラチバ執ル事ヲ得ベカラズ其ノ制紙ヲ細クタチテモ又鬚牛ノ尾ニテモ作ル是レ古ノ節旄旄旄ナドイフ物ノ遺制トヤイハマシ此ノ物亂レタル世ノ俗ニ始マリタレバ然ルベキ文字モアラズ按ズルニマヅ左以トイフ事ハ山鷹トテ角鷹ナドクマカツカフ時ニ紙ヲ細クタチタルヲ竿頭ニ圍結テ手ニスル事アリ鷹ノ善ク習ヒ得タルハ其ノ左以ノ指麾スルマ、ニ諸鳥ヲ下リ撃ツ將帥ノ軍ニ令スル事コレニ似テ其ノ物モ相似タレバ其ノ名ヲ取リテカク名ヅケシナルベシ鷹ツカフ左以ハ旄トカク田獵ヲ建ツルトイフ周禮ニ

オノツカラ合ヒタルニヤ又其ノ義ニヨリテ此ノ字ヲ用ヒ來タレルニヤクハシキ事ハ知ラズ俗ニハ又不計利ナドモイフ物ニヤサラバ左以トイハシニハ魔ノ字ヲ用フベキ事也次ニ左以波以トイフ物ハ神ニ奉ル幣帛ヨリ出デシ名ナルベシ軍陣ニ幣捧ル事ハ我が國ノフルキ俗也コレスナハチ九萬八千ノ軍神ヲ祭ルノ義也トゾ神功皇后ノ新羅ヲ伐タセ給ハン時ニ底筒男中筒男上筒男三柱ノ大神神託シ給ヒテ今マコトニ其ノ國ヲモトメント思ヒ給ハハ天神地祇マタ山神ト河海ノ諸神悉クニ幣帛ヲ奉リ我が御魂ヲ船ノ上ニ坐テ眞木ノ灰ヲ瓠ニ納レテ又箸ト比良傳トヲ多ニ作リテ皆々大海ニ散シ浮テ渡リ給フベシトアリシカバ神教ノマニク軍ヲ整ヘ船ヲ雙ベテ渡リ幸キマシマセシトイフ事古事記ニ見エシナド其ノ事トゾ覺ユル鎌倉殿ハジメ伊豆國ヨリ兵起シテ相模國石橋山ニ陣ドリ給ヒシ時永江藏人賴隆白幣ヲ上箭ニ付ケテ御後ニサブラヒシモ此ノ義ニゾアルベキ(東鑑)過ギニシ比上落セシ時ニ吉田ノ二位兼敬卿ニ軍神勸請ノ幣ト云フ物ノ事ヲ問ヒシニ家ニ傳フル事侍リト答ヘラレタリキサレバ其ノ戰ノ急ナルニ臨ミテ此ノ幣執リテ軍ヲ麾指セシ事ナドノ有リシヨリ事起リタランモ知ルベカラズ犬追物ノ時ニ神ニ進ラセシ幣ヲ執リテ指麾スル事ハ侍リ巫祝ノ輩ガ神ヲ祭ルニ幣トリテ祝詞マキラスル始ニ再拜々々トイフ事ノアルヲ聞キテ今モ幣ヲバ再拜トモイヒ御幣ナドモイフニヨリテ稜串ヲバ三幣ナドイフモスベテコレカタクナ、ル俗ヨリ出デタル名ナレバ正シキ文字モアラズ今ハ世ニ采幣ナドカク人アリシカジタ、アリシマ、ニ再拜トカキタランガマザレルニハ其ノ文字ノ雅ナラン事ヲモトメバ魔ノ字用ヒナンニハシクベカラズ但シ我が見タリシ所ハ左以トイフ物ハ左以波以トイフ物ノ制ニハ少ク異ナルニ似タリ此ノ物ヲ執リテ軍ヲ指麾セン事モソノコトバモ故實アリナドイフニヤ異朝ニハ將帥節旄賜ハリテハ節堂トイヒテ其ノ幕府ニ堂建テコレヲサメ歲時ニハコレヲ祭ル師出タサンズル時ハ旌旗金鼓ニ至ル迄悉ク皆祭ラル、事ナリマコトニ此等ノ物ハ三軍ノ司令

ナレバサモアリヌベキ事也本朝ニハカ、ル事モ聞エズ近代ノ俗ニタ、正月ノ初鏡ヲ祭ルノ儀ノミアリ是ハ將帥ヨリ下ツカタ兵士ニ及ブマデ纒ニ身ヲ防グベキタメノ物ナレバ其ノ祭ル所小シキナルニ似タリ凡將帥タラン人ハ異朝ノゴトク旗節ナドヲバ常ニ祭ラルベキ事ニコソアレ

古ハ團扇ヲ執リテ軍ニ令セシ事モアリキ上宮太子ノ執リ給ヒシ物也トテ太秦ノ廣隆寺ノ寶藏ニ今モアルヲ見タリシニ其ノ形翳ノゴトクニテ章ノ長サ九寸廣テ八寸許ナルニ枚ヲモテウラオモテトシ鐵ノ柄ノ二尺許ナルヲ中ニシテ章ヲ細ク截テメグリヲモ柄ヲモ夾ミ縫ヒタルニ一面ニハ雲日一面ニハ輪鋒ヲ漆ニテ彩リ畫ケリ矢ニ中リテ破レシトイフ痕アルガ實ハ火ノタメニ燒カレタルト見エシソノ物フリタルサマ、ガフベカラズ遠キ世ノモノニテ其ノ制マダヨノツチニ用フベキ物トモ見エズ征戰ノ具タル事疑フベカラズ今モ世ニ軍配團扇トテ戰ニ臨ミテ時日占フベキ法ナド圖シタル物アリ此ノ制何レノ代ヨリヤ起リヌラン是モ軍師ヲ除クノ外ハミダリニ執ル事ヲ得ズ主將賜ハリテ後ニ執ルベシ近代マデ何某ハイヅレノ國ニテ團扇ユルサレシナドイヒテ眉目アル事ニゾシタル此ノ外摺扇執リテ軍ニ令シタル事ナドフルキ世ノ事ニ見エタレドコレヲ執ル事將帥ノミニ限ルベカラズ義家朝臣執ラレシ所也トテ見タリシ物ハ表ノ方ハ雲母地ノ薄紅ナルニ日形ヲ金ニシ裏ノ方ハ白キ雲母地ニ銀ノ月形アリ日月ノ徑各四寸竹骨ノ長サ一尺一寸二分ナル十二本ニ餘石ノ鷓目アリテ紅ノ打緒ヲ貫キ其末ヲ結ベリ是モ上野國新田後閑ノ家ニ相傳ヘシ所ナリキ(其ノ詳ナル事ハ圖ニ見エタリ)

古ノ時將帥節鉞ヲ賜フノ制アリ節度ハ其ノ信ヲ示ス所也斧鉞ハ以テ刑戮ヲ專ラニスル所也ト北畠准后ノ説ニモ見エキ(職原抄)節旄ノ事ハ上ニシルシヌ斧トイフ物ハ天目一箇神ノ作ラレシ物ト見エタレバ(舊事記)此ノ物神代ヨリモアリキ人代トナリテ景行天皇ノ御時東國ヤスカラズアラブル神サハニ起リ又蝦夷叛キシカバ日本武尊

ニミコトノリシテコレヲ平ケシメ給ヒシニ帝斧鉞ヲトリテ授ケ給ヒシヨシ日本書紀ニ見エタリコレヲ斧鉞賜ヒシ事ノ始トヤイハマシサレド此ノ時尊ノ賜ハラセ給ヒシハ比々羅木ノ八尋矛ノヨシ古事記ニハシルセリ其ノ後又神功皇后ノ新羅ウタセ給ヒシ時モミヅカラ斧鉞ヲ執リテ三軍ニ令シ給ヒシ御事日本書紀ニ見エタリ夏ノ時ハ玄成ヲトリ般ノ時ハ白威ヲトリ周ニハ左ニ黃鉞ヲツキ右ニ白旄ヲ掲ルトイフ事司馬法ニ見エキ周武王ノ牧野ニテ衆ニ誓ハセ給ヒシ時カクコソアリケレ皇后ノ三軍ニ令シ給ヒシ事オノツカラ彼ノ三代ノ禮ニ合ヒシモノニヤタレシ新羅王服ヒマキラセテ後ツカセ給ヒシ矛ヲ王ノ門ニ樹テ後葉ノ印トセサセ給フ其ノ矛今モナホ新羅王ノ門ニ樹ツルヨシ同紀ニ見エタレバ始ノ三軍ニ令シ給ヒシ時執ラセ給フモ實ハ新羅王ノ門ニ樹テ給ヒシ矛ナレドカクシルサレシ事日本武ノ賜ハラセ給ヒシ矛ヲ斧鉞トシルサレシ例ナルモシラズ末代ニ至リテ斧鉞賜ハリシ事イマダ所見アラズ弘安禮節ニハ其ノ制ヲ載ス鉞ノ及一尺二寸柯ノ長サ六尺其ノ柯黒漆ヲ以テ塗ル及握ノ下一尺許アリテ紫紅ノ組ノ絲ヲムスブトゾシルセル元弘建武ノ、チ兵士ノコレヲ執リテ戰ヒシ事ナドハ見エタレド將帥ミヅカラ執リテ軍ニ令セシコトハ聞エズ

本朝軍器考卷三終

本朝軍器考卷四

弓 矢 類

筑後守從五位下 源

君 美彙輯

我が國ノ弓矢ハ伊弉諾尊ノ御時ニ始マレルヨシシルセル物アレド(源氏河海抄)其ノ事正史ニ見エテバイカゾアルベキ日本紀ニ見エシハ素盞尊父母ノ神ニ逐ハレ高天原ニ上リ向ヒ給ヒシ時ニ日神背ニ千箭鞆ト五百箭鞆トヲ負ヒ臂ニ稜威高鞆ヲハキ弓鞆ヲ振起給ヒシトアルゾ此ノ物ノ見エシ始ナルベキ其ノ後高皇產靈尊天鹿兒弓天羽矢ヲ天稚彥ニ賜ヒシ皇孫天降マヌ時ニ及ヒテ天忍日命天穗津大來目ヲヒキキテ背ニ天磐鞆ヲ負ヒ臂ニ稜威高鞆ヲ着手ニ天梳弓天羽々矢ヲ捉リ八目鳴鏑ヲ副ヘ持チテ頭追劔ヲ帶テ御前ニ立チテ行キ降リシ又彥火火出見尊山ノ幸マシクテ弓ト箭モタセ給ヘリシナドイフ事ハ同紀ニ見エタリサレバ是等ヲ神代四弓ナドイフ事ノアルニヤ(日神ノ執リ給フ座陣弓天稚彥ニ賜ヒシヲ發向弓皇孫降リ給フ時諸部ノ神ノ執リ給ヘルヲ護持弓彥火火出見尊ノモタセ給フヲ治世弓トイフヨシ神代抄ニ見エタリ)シカハアレド饒速日命ノ天羽々矢ト步鞆トヲ天表トシ給ヒシトイフ事モ同紀ニ見エタリ此ノ事ハ皇孫ノ降り給ヒシヨリ猶サキノ事ニテアルナリ又古事記ヲ併セ見ルニ火々出見尊弓箭モタセ給ヒシトイフ事ハ見エズ地神大己貴命大野ノ中ニ射入レシ鳴鏑ヲトリ得給ヒ又生大刀生弓矢ヲ得テ其ノ大弓持テ八十神ヲ追ヒ避ヒ始メテ國作ラレシナドイフ事ハ見エタリサラバ天地ノ神代ニ此ノ物ノ事聞エシ所タレニ四ツノミニモ限ラズイカデカクハイヒ傳ヘラレケンオボツカナシ天鹿兒弓トイフ事ハ弓ノ曲レル形ノ鹿ノ背ノ屈ルニ似タレバカクハ名ヅケシト見エタリ後成恩寺殿御説モ私記ニ見私記ニハ或説ヲ引キテ天香山ノ樞木ヲ採リテ作レル故ニカクハ名ヅケシト見エタリ後成恩寺殿御説モ私記ニ見

エシ所ニヨラレテ鹿兒ト香ト其ノ訓同ジ又射麿ノ弓ナルヲアヤマリワカチテ鹿兒トカキシ共イフ也ト見エタリ
 古事記ニ據ルニ高產皇露尊ノ天稚彥ニ賜ヒシ天之麻迦古弓天之波々矢ヲ又天之波士弓天之迦久矢トモシルセリ
 サレバ其ノ麿ヲ射ルニヨリテハ天鹿兒弓ト云ヒ其ノ材ヲ採リシニヨリテハ天樞弓ト云フ其ノ名異ナレド其ノ實
 ハ一物ナリシト見エタリ私記ニ引キシ或説並ニ纂疏ニ見エシ土師氏ノ遠祖ノ作レル所ナレバ波志ト云ヘル由ノ
 説ハ共ニ心得ラズ又天羽々矢トイフハ二羽ニテハゲルモノ也トイフ説モアレト(神代抄ニ)一雙ノ箭ヲイフヨ
 シ後成恩寺殿ノ御説ニハ見ユ(纂疏)私記ニハ鳥ノ羽ヲモテハゲル矢也シカルヲカクカサチイフ事ハ其ノ羽ノ矢
 多キ也ト見エタリサレド舊事記ニ據ルニ饒速日尊神避給ヒテ其ノ天羽々弓天羽々矢ト神衣帶ト手貫ト三物ヲ葬
 歛メテ御墓作ラレシト云フコト見エタレバ弓ニモ亦羽々ト名ヅケシアルナリサラバ天ノ羽々矢ト云フ事鳥ノ羽
 ニヨリテ此ノ名アリト云フ諸説モイカバアルベキ上古ノ神ノ代ニ羽々ヲ以テ名ヅケシモノ弓矢ノミニモ限ラズ
 素盞鳴尊ノ八岐大蛇ヲ斬リ給ヒシ劍ノ名ヲモ天羽々斬ト名ヅク古語ニ大蛇ヲ羽々ト云ヒシガ故也シ由ハ古語拾
 遺ニ見エタリ古事記ニ見エシ天迦久矢ト云フ物ハ迦久ト鹿兒ト其ノ語相通ジヌレバ日本紀ニ見エシ眞鹿鏃ト云
 フ物ト同ジク是モ鹿兒ヲ射ルニヨリテ其ノ名ヲ得タルナルベシ人代ニ至リ第二代之朝廷ノ(綏靖)初弓部稚彥ヲ
 シテ弓作ラセ倭鍛冶天津眞浦ニ眞鹿鏃作ラセ矢部ニ箭作ラセ給フ事我が國ノ弓箭作レル始也トイフ人アレド第
 一代ノ朝廷(神武)ノ始此ノ國ヲ平ケ給ヒシトキ御兄五瀬命流矢ノタメニウセ給ヒシト見エタレバ此ノ國ニテモ
 既ニ弓作り矢ハギシ事ノアリシ也タゞシ弓作り矢ハギシ工ノ名コヽニ始メテ見エタリトイハムハアシカラジ
 漢ノ許慎ガ説文ニ夷トイフ字ヲ釋シテ夷ハ東方ノ人也大ニ从ヒ弓ニ从フト見エシハ我が國ノ事ヲサシイヘルナ
 ルベシ大己貴ノ神此ノ國ヲ作ラレシ始大弓ヲモテ八十ノ神ヲ追避ヒ給ヒシ事ハ我が國ノ史ニモ見エタリ(舊事

記ニ)人代トナリテモ我が國ノ弓ハ其ノ制大ニシテ萬國ノ中ニコエスグレタリ昔國々ノ人民ヲ校ラレテ其ノ調
 役ヲ科セラレシ始ニ男ニハ預調トイヒ女ニハ手末調トイヒテ奉リケリ(崇神天皇十二年記ニ)カク其ノ調役ノ物
 ニモ名ヅケラレタリケム事ハ其ノ俗ノ尙ミシ所ニコソアリケメサラバ又善ク射ル俗モ他國ヨリスグレタリトゾ
 覺ユル後代ニ至リテ天子ミヅカラ殿門ニ出デマシナ王卿ヨリ下ツカタ大夫士ニ及ブ迄詔ウケ給リテ射ル事ハ卅
 三代ノ朝廷(清寧)四年九月射殿ニ出デマシテ百寮ニ射サシメラレシヨリ始マレルナルベシ此ノ時ヨリ藩國ノ使
 人等モ射ルコトニアヅカリシトゾ見エタル孝德天皇ノ三年ニ至リテ正月朔日朝廷ニ射サシメラレシヨリ大射ハ
 正月ニ行ハレ日次ハ十七日ヲ用ヒラル、事ニハナリタリ十五日ニマヅ兵部省ノ手番トイフ事アリコレ射手ヲト
 ヲノヘ定メラル、儀ナルベシモ正月ニ行ハレザル時ハ三月十三日ニモ行ハルベシト見エタリ此ノ事異朝ニモ
 聞エシニヤ我が國ニハ正月一日ニ至ルゴトニ必射戲シテ酒ノムトイフ事彼ノ國ノ史ニ載セタリシカルニ平城天
 皇ノ大同二年ニ正月ハ三節豐樂キコシメシクサノノ事モシゲクイトマナキ月也トテコトシヨリ九月ヲ以テ此
 ノ禮ヲ行ハレシカドイテ程ナクテ嵯峨天皇ノ御時弘仁二年ヨリ又正月ニ行ハル此ノホド迄モナホ藩國ノ使人等
 角弓賜ヒテ其ノ事ニアヅカレリ後成恩寺殿ノ御説ニヨレバ(公事根源)射禮ノ明クル日射遣トテ昨日參ラザル四
 府ニ射サシメラル、事モ此ノ年ヨリゾ始マレル又賭射トテ天子弓場殿ニ臨ミ給ヒテ四府ノ舍人等シテ射サシメ
 ラル勝ノ方ハ眞ノ方ニ爵酒ヲ行フ又勝ノ方舞樂ヲ奏ス此ノ事天武天皇五年正月祿ヲ置キテ西門ノ庭ニ射サシメ
 的ニ中レルモノニハ祿賜ハリシヨリ始マルナドイヘド賭射トイフ事ノ國史ニ見エシ所ハ淳和天皇長元年正月
 ニ行ハレシヲ始トスベキ又殿上ノ賭射トイフ事臨時ニ殿上ノ侍臣ニ射サシメラル、事トゾ此ノ事ハ仁明天皇
 ノ御時承和元年二月ニヤ始マリヌラン又射場始トテ十月ノ三日ニ左右ノ衛門弓場ノ期ヲ築ク此ノ日天子射場殿

ニ出デマシテ射サセテ觀給フ事アリ公卿ヨリ下ツカタコレヲ射ル此ノ日天子モ御射席ヲ設ケラレ御弓矢ヲモ御座ノ左右ニタテラルコレ群臣ト共ニ弓ヲ射給フヨシ也射場始ナクバ賭射アルベカラズ賭射ナクバ相撲ノ節アルベカラザル由後成恩寺殿ノ御説ニ見エタルハ(公事根源)マコトニ深キ義アリヌトゾ覺ユルサレバ天長二年正月ノ勅ニモ射禮ハ國家ノ大事ニテ闕クベカラザル由見エタリ此ノ御代ニ紀朝臣眞道トイフ人アリキ(眞一本ニハ與ニモ作ル)中納言從三位勝長卿ノ男ニテ弘仁天長承和三代ノ朝廷ニ仕ヘテ位累リニ從四位下ニ至リ職ハ兵部大輔左中辨右兵衛督歷テゲリ此ノ人門風相承ケテヨク射禮ノ容儀ヲ傳フ又大同ノ比從五位上伴宿禰和武多麻呂トイフ人アリコレモ亦此ノ法ヲ傳ヘキコレヨリ後世ノ武士ナガク彼ノ兩家ノ法ニナラフ其ノ法頗ル異同アレド大體ハコレ一ツ也ト見エタルバ(續日本紀)後世ノ武士射ル事此ノ兩家ノ法ニヤ倣ヒヌラム寛平ノ比右大臣源能有ト申シシハ文德天皇ノ皇子ニテ代々ノ朝廷ニツカヘテ終ニ執政ノ臣トナリ給ヒシガ此ノ人弓馬ノ藝ニ達シ給ヒタリケリ源氏ノ祖眞純親王ト申シシハ此ノ人ノムコ君ニテオハシケレバ其ノ藝ヲ傳ヘラレシヨリ此ノカタ源氏ノ人々ノ箕裘ノ業トハナリテケリカクテ後白河ノ法皇賴朝ノ大將朝家ニ勤勞オハシケル事ヲ賞シサセ給ヒシカバツヒニ幕府ヲ東國ニ開キテ專ラ天下兵馬ノ權ヲ司ドラレシヨリコトニ其ノ禮ヲ講シ其ノ藝ヲ試ミラル事モ多カリキモコレノイニシヘ周ノ武王ノ御時牧野ノ事終リテ武ヲ偃セ文ヲ修メ給ヒシ後貫革ノ射ハ廢レテ天下一ツニ禮射ヲノミ事トス後王德衰ヘ給ヒ天下僭亂ノ世トナリ齊桓晉文ノ業起ルニ及ヒテ禮射又廢レテ貫革ノ射ヲ事トスル世トナリシカバ射ルコトハ革ヲシモ主トセズ力ノ科同ジカラザルガ爲也トゾ孔子モコレヲ嘆キ給ヒケルサレバ彼ノ幕府ニ講シ行ハレ試ミ用ヒラレシ射儀モオノヅカラ古ノ道ニハカハレル事ドモスクナカラズ此ノ後又鹿苑院ノ大相國其ノ禮ヲ修メラレシカド(今川左京大夫氏賴伊勢武藏守滿忠小笠原兵庫助長秀等三人

ニ仰セラニ議一統ノ書ヲ撰バレシト云フ)幾程ナクテ天下ノ亂ウチツキテ文武ノ道共ニ地ニ墜チテ古ノ朝廷ニ行ハレシ禮ハイフニヤオヨブ幕府ニ用ヒラレシ儀モ今ハヨク知レル人ナキ世ニナリヌルゾカシナキ古代弓馬ニ便ナルトイフ事ハ弓トハ步射也馬トハ騎射也トゾ令義解ニハ見エタル後世ノ如クタゞニ弓射馬騎ル事ヲノミイヒシニハアラズ兵部省ニテ諸衛人士ヲ選バレシニモ必步射騎射ヲ試ミラレシヨシ式ニモ見エタリ(延喜式)今モ武士ノ行フ步射ノ中ニハ其ノ儀尤モ正シクシテ古ノ禮射ノ遺レル風ニヤト見ユル事モ多シ小的ナドイフ事ハ古ノ賭射ノ事ニ起リ八の小串ナドハ其ノ藝ノ精シキヲ試ミントノタメナルベシ流鏑馬笠懸追物ナドハ戲射ノ事ナレド是等ハ騎射習フベキタメニコソアルベケレ揚弓雀小弓ナドハ武士ノ事トスベキ戲トモ見エズ凡騎射トイフ事天武天皇ノ九年ニ朝婦ニ幸マシマセシ時長柄ノ社ニテ大山位以下ノ馬觀サセ給ヒテスナハチ馬的ヲ射サシメ給フトイフ事ゾ始ナルベキ(日本紀)彼ノ流鏑馬ト云フ事ハ古ヨリ神事ニ用ヒラレシ所也イカナルイハレアル事ニヤソノ故ヲバシラズソノ由リ來タル事モ久シキ事也信濃國ノ住人諏方大夫盛澄トイフモノ流鏑馬ノ藝ヲキハメテ秀郷朝臣ノ秘訣ヲ慣ヒ傳ヘシヨシ東鑑ニ見エタルバ秀郷朝臣ノ時既ニ此ノ事ハアリキソレヨリサキ田村麻呂將軍ノ安倍高麻呂ヲ伐タレンズル始信濃國ニ至リ諏訪ノ御神ニイノリ申サル、事ノ有リシニ梶ノ葉ノ文ツケシ直垂着タル人湖ノ波ノ上ニ馬ヲ趨セテ笠懸ヲ射タリシ是レ彼ノ御神ノ現レ給フ所也トソサレバ此ノ後趨波トモシルシテ諏訪トヨメリ此ノ事諏訪ノ御縁起ニモ侍ルメリ後世ニ至リテ諏訪ノ神事ニハ必ズ遠笠懸射テ進ラスル事ハ其ノ例ニゾアルベキオモフニ此ノ事彼ノ國ノ風俗ニヤ木曾殿ノ御曹司志水冠者義高ノ十一歳ニ成リ給フヲ鎌倉殿ヘ參ラセラレシニ歸リ參ルホドノカタミトテ笠懸七番射テ母上ニ見セ進ラセラレシナドモイフ事アリ(盛衰記)小笠懸トイフ事ハ壽永三年五月鎌倉殿池大納言賴盛等ノ客ヲ伴ヒ由比浦ヨリ船ヲウ

カメ杜戸ノ岸ニ至リ此所ノ松陰ニテ小笠懸アルケル時ニコノ土風也此ノ儀ニアラズハ他ノ見物アルベカラザルヨシノタマヒシ事東鑑ニ載セタルバ此ノ事ハ東國ノ風俗ヨリヤ始マリヌラン遠笠懸トイフ事ハ此ノ後ヨリ始マレルナルベシ右大臣實朝公ノ代ニ至リテ建仁四年二月由比濱ニ出テ給ヒ笠懸遠笠懸等ノ的ヲ射サシメラレシ由同記ニ見エタリ追物ノ始サダカナラズ倭名抄ニハ後漢書ノ馳射ノ事ヲ引キテ今按ズルニ俗ニ云フ於牟毛乃以流ト注シタルバ順ノ比スデニ此ノ事アリ鬼童丸ト聞エシ盗源頼光ヲ恨ムル事アリシニ彼ノ朝臣鞍馬詣デスト聞キテ市原野ノ邊ニ出テ向ヒテウカマフカクルベキ便リナケレバ野飼ノ牛ノアマタルガ中ニモ大キナル牛ヲコロシ腹カキヤブリテソノウチニゾカクレ居ケル案ノ如ク頼光出テ來リテ馬ヲヒカヘ野ノ氣色與アリ牛其ノ數アリ牛追物アラバヤトイハレシカバ綱公時定通季武ナド聞エシ四天王ノ鬻我モト射ル綱イカニ思フ所ヤアリケムトガリ矢ヌキ出ダシテ彼ノ死シタル牛ヲ射タルニ大ノ童矢ニアタリナガラ打刀拔モチ走り出テ頼光ニムカフヲ頼光大刀ヲヌキテ其ノ首打チオトシケリナドイフ事アレバ(古今著聞集)其ノ比スデニ牛追物ハアリキ鎌倉ノ比モ牛追物アリシゾ追物ノ始ニテハアリケル壽永元年四月前右兵衛佐殿金洗澤ノ邊ニテ牛追物射サシメラレ同年六月由比浦ニテ又此ノ事アリキ其ノ後モ此ノ事アリシニヤ東鑑ニハ見エズ犬追物ノ事ハ三代將軍ノ記ニハ見エズ入道將軍頼經ノ代ニ至リテ貞應元年二月南庭ニ於テ此ノ事アリ其ノ後ハ此ノ事ヲシルス事絶エズ足利殿ノ代ニハコトニ盛ニ行ハレキ中原高忠ガ聞書ニ(多賀豐後守カ事ナリ)笠懸ハ頼朝ノ御代ニ射始メラル也犬追物ハ前代ノ時ヨリ射始メラル其ノ後アマリニ墓目モコボレ篋モ折ルノ間大儀タル由皆々申シ合セ篋モ白篋ニナリ墓目モ黒ク草ニナサレタリ墓目赤漆本也笠懸墓目ニテ射始メラレシニヨリテ赤漆本也トゾシルシケル此ノ説モツトモ據アル事ニヤタマシ笠懸ハ頼朝ノ御代ニ射始メラレシト云ヒシハ小笠懸ノ事ヲイヒシナルベシ前代ノ時トイヒシハ北條ガ家鎌倉ノ執權タリシ時ヲサシケル也(按ズルニ高時入道滅ビ其ノ子相摸二即時行ガ兵起シシ時中前代トイヒシ事太平記ニモ見エタリコレハ足利殿ノ代ヨリサシイヘル稱ニテアル也)サラバ東鑑ニ見エシ頼經將軍ノ代ニ此ノ事アリシゾ其ノ始ナルベキカツハ笠懸墓目ニテ射始メラレシニヨリテ犬射墓目モ赤漆タルベシトアルモ此ノ事ノ笠懸ヨリ後ニ起レル證トヤイハマシ又彼ノ聞書ニ昔ハ犬追物已前ニハ小牛ヲ射ル也トモシルセリ東鑑ヲ見ルニ頼朝ノ代ニハ牛追物ノミアリキ是レモ高忠ガ説ニ合ヒケルニヤ又犬追物ハ入道將軍ノ御時ニ始マレリ嘉禎年中平泰時經時等矢所矢落等ノ批判ヲ議定セラレシヨリ永ク此ノ事ノ儀式トナリシ由記セル物モアリ(騎射秘抄)コレモ又東鑑并ニ高忠ガ説ニハ合ヒタリ然ルニ世ノ傳フル所ハ牛追物ハ神功皇后新羅ヲ伐チ給フ時吉備國ノ海ニテ牛鬼射ラレシ事ニ起リ犬追物モ同ジキ時新羅王ハ吾ガ國ノ犬也ト詔アリシヨリ始マルトモ又近衛院御在位ノ時那須野ノ狐カラレシヨリ起ルトモイフ也順徳院ノ御製ノ禁秘抄ニ犬狩ノ事ヲシルサセ給ヘリ此ノ事藏人仰ヲ承リテ下知ス所ノ兼胤口參ル瀧口弓箭ヲ帶シテ所々ニ儲ケテ犬ヲ射ル所衆像ノ下ニ入りテ狩出タスノヨシ見エタリ其ノ事ノ體大ヤウ犬追物ノ儀ニ似タル所モアレバ犬追物トイフ事ハ此ノ事ヨリ起レルニヤタマシ犬狩ハ騎射ノ事トモ見エズ犬追物ハ必ズ騎射ヲ用フカノ高忠ガ鎌倉ノ代ニ此ノ事始マレリトイヒシハ其ノ比ニ及ヒテ犬追物ノ儀全ク備ハレリシ事ノ始ヲサセルナルベシ犬狩ノ始又イツレノ時ニヤ起リヌラ

ン彼ノ御抄ニ匡房記ヲ引カセ給ヒテ堀河院ノ時犬狩ニ諸陣ヲ閉テラルシカレドモ前例ハ御物忌ニアタル時犬狩便リアリトイフ事見エタレバ寛治嘉保ノ比ヨリ猶サキノ代ノ例アリシ事ハ分明也聖武天皇ノ御時神龜元年五月ミカト重閣中門ニ出デマシテ獵騎ヲ觀給ヒシトイフ事アリ(續日本紀)禁内ニシテ御覽セラレムニハ野ニアル獸ヲ獵ラセ給ヒシ事トモオモハレズコレラ又後世ノ犬狩ナドイフ事ニ似タル所モ侍ルニヤツラノ思フニ凡追物

トイフ事ハ騎射習フベキワザニ事起リテ其ノ事ノ始ヲ尋チントスレドサダカナラチバ好事人ノ牛鬼狐妖ナドノ事附ケ合セテイヒ出シタリケンモ知ルベカラズ草鹿トイフ事モ其ノ始詳ナラズ是レモ始ハ夏野ノ草ワクル鹿ナド射ナラフベキタメニヤ起リヌラン唐代ノ人鹿射ントテハマヅ期ノ上ニ鹿繪カキテ射ル事アリ梁武帝ノ御時ヨリ此ノ事アリシニヤノ由記セル物モアリキ(酉陽雜俎)建久三年八月鎌倉右大臣殿生レ給ヒシ時將軍家御産所ニ渡リ給ヒ父母兼備ノ射手等ヲ召サレ草鹿ノ勝負アリシ事東鑑ニ見ユサラバ其ノ比ハ此ノ事又習藝ノ事ノミニモアラザリキ圓物ハ正治年中海野小太郎幸氏工藤小次郎行光等藤源二郎親綱ガ家ニ會合シテツクリ出ダセリ左金吾頼家將軍此ノ由聞召サレテ御臺ノ内ニ的カケテ射サセ給ヒシホドニ人々コレヲ學ビ射タリシ由圓物ノ書トイフ物ニハ見エタリ此ノ事東鑑ニハ見エザレドウケ傳フル所コソアルラメ八的三々九ノ手挾ナドイフ事ハ右大將家ノ時ヨリ既ニ見エタレバ其ノ來タル事久シキ事トコソ見エタレサシ矢遠矢ナドイフ事モ古ヨリ聞エシ倭名抄ニ淮南子ニ見エシ越人遠射ヲ學ブトイフ事ヲ引キテ遠射トカキテ止保奈介トヨム今按ズルニ遠射ハスナハチ射ル事ノ遠キ也ト注シタリ又保元物語ニ興福寺ノ衆徒等吉野十津河ノ差矢三町遠矢八町トイフ者共ヲ具シテ千餘騎ニテ新院ノ御方ニ參ルトモ見エタリ又源平盛衰記ニモ或ハ遠矢ニ射或ハ差矢ニ射ルナドイフ事モアレバコレヲノワザ久シク聞エシ事ナレド得長壽院ノ堂ニテ差矢射テ其ノ藝ヲ試ミル事ノ盛リニナリシハ近世ニ起レル事ニテアル也(世ニ傳フル所ハ後白河院御在位ノ時吉野ノ奥ニ蕪坂源太トイフ者アリ生國ハ紀伊國熊野山蕪坂トイフ所ノ者ナレバ其ノ字ヲカク云ヒケリ此ノ男常ニ狩スル事ヲ業トス精兵ノ手キ、ニテ二町ガ程ヲ隔テ走ル鹿ヲハツサデコソ射タリケアル時里人集マリテソレガ弓勢ノホドヲ試ムルニ差矢ハ三町遠矢ハ八町ヲタヤスウ射渡シケレバサテコソ差矢三町遠矢八町トハ名ヅケ、レカクテ保元ノ亂出來シ時興福寺ノ衆徒等ニ催サレテ新

院ノ御方ニ馳セ參ルニ新院ノ御軍ヤブレヌト聞エシカバ衆徒等ハ南都ニ引キ返ス源太ハ同隸共六七人伴ヒテ都ノ中コ、カシコメグリ見テ得長壽院ニ至ル此ノ御堂ト申スハ凡ハヨノツチノ二間ヲ一間トナシテ三十三間ニ建テラレタリ源太アツパレカ、ル所ニテ己ノガ弓勢ヲモタメサメト思ヒテヤガテ御堂ノ後ニ廻リテ芝ノ上ニヒザマヅキキテマヅ例ノ差矢ニ射タリシニ御堂ニタケニ餘リテ射ワタシツ次ニ御堂ノ椽ノ上ニ上リ居テ小キナル根スゲタル矢取り出ダシテ軒端ノ下ヲ射ワタスニ七筋マデアアマタズ御堂ノ内ヲ射トホシテ餘ル矢ハナホ御堂ノタケニハアマリキ此ノ事ハ保元ノ日記ニ見エタル也ハルカニ代ヲヘダテ、後文祿ノ頃東山今熊野ナル觀音ノ別當ノ坊アリケリ此ノ坊モト弓矢トル家ヨリ出ダレバ僧トナリテモナホ此ノ事ヲ好ミテ常ニハ八坂ノ青塚ニ向ヒテ遠矢射ル此ノ堂ノ邊打チ過グルトテ彼ノ源太ガヤウニ差矢射ル事モアリケリサレド其ノ比ニハ矢ノ數多ク射ルニモ及バズ慶長十一年正月十九日ニ淺岡五兵衛尉トイフモノ始メテ五十一筋ノ矢射トホシテヨリ此ノ事ヲモテ其ノ藝ヲ試ムル事ニハナリタリカノ淺岡ハ石堂竹林トイフガ弟子ニテゾアリケルナリ)

清三位宣賢ノ説ニ我ガ國ノ弓ハ月ヲ見テ作レル也弓ノイマタ張ラザルハ月ノ初メニ生ズル象ニテ張レルハ上弦下弦ノ象也箭ハゲテ引ク時ハ月スデニ盈テル象也弓ノ長ハ七尺ナレド今長七尺五寸也神代ノ弓ハ一丈五尺是レ一尺ヲ十五合セタルモノニシテスナハチ十五日ノ數也今ハ人ノタケ短キニヨリテ七尺五寸トナス事神代ノ弓ノ半ナル也但ハ七尺五寸ナランヲ圓ニ引キ滿ムニハ圓一丈五尺ナルベシ矢ノ長ハ弓ヲ三ツニスルガ一ツナレバ今ノ矢ハ二尺五寸也(按ズルニ今ハ二尺七寸ヲ以テ定トス)神代ノ矢其ノ長五尺ニゾアルベキ劍ニハ十握九握八握ナドイヒテ其ノ長定マレリトモ見エチド弓ノ長ハ定マレルモノ也トゾ見エケル(神代抄)大己貴ノ神大弓持チテ此ノ國ヲ平ケラレシトイフ事モアレバ神代ノ弓人代ノ制ニ異ナリシモシラチド人代ノ弓ダニ萬國ニスグレテ其

ノ制大ナリトゾイフナルマシテ神代ノ弓甚長カラシハ誠ニアヤシキ事也彼ノ卿ノ説ナレバヅケ傳ヘテレシ所コ
 ン有ルベケレサレドタ、張レル弓ノ形ハ上弦下弦ノ月ニ象リソレヲ引キ滿ツル形ハ月ノ望ニ象リサレバ十五
 望ノ數ヲ半ニシテ七尺五寸トセリトイフ説コソヤスラカナルヤウニ侍レ又弓ノウラハズノ下一尺バカリヲ鳥打
 トイフ事ハ大友皇子淨見原天皇ノ御位ヲ奪ハントテ白キ雉ト化シテ來リ給ヒシヲ弓ヲモテウチコロサセ給ヒシ
 ヲリカクハイフ也トイフモ彼ノ卿ノ説也コレヲノ説ハコトニ信ジガタシトヤイフベキ(大友ウセ給ヒシ事ハ日
 本書紀ニ詳也又白雉ノ事ハ天武即位二年三月備後國司白雉ヲ龜石郡ニ獲テ獻ルヌナハチ當郡ノ課役コトノク
 免シ給ヒ天下ニ大赦アリシ由同紀ニ見ユ)又弓ヲ御多羅枝トイフ事モ天竺ノ貝多羅葉ハ其ノ長サ七尺五寸也弓
 ノ長モ同ジ事ナル故ニコレヲ多羅枝トハ申スニヤト後成恩寺殿ノ御説ニ見エタリ(公事根元)サレド多羅樹ノ高
 サ八九十尺トモ又一多羅樹トハ高サ七尺四寸トイフハ其ノ高サ四十九尺也ナドイフ事ハアレド(翻
 譯名義集)ソレモ一定ノ説トモ聞エズ萬葉集ノ歌ニハ御執ノ梓ノ弓ト讀ミケリ男子ノ執レル物ナレバ(後代ニモ
 武士ヲバ弓矢取リナドイヒシ)イニシヘニハ御執トイヒシヲ後代ニ至リテ御多羅枝トイフ事ソノコトバノ轉ゼ
 シナリタトヘバ刀劍ハ佩トコロノ物ナレバ彌波迦志トイヘル例ナルベシ(日本書紀崇神ノ紀ニ彌波迦志比賣ノ
 事ヲ御刀媛トシルセリ)

上古ノ弓ノ制詳ナル事ヲ知ルベカラズ今モ世ニ遺レル物ハ大和ノ大安寺八幡宮ノ神寶ニ神功皇后ノ御弓矢靱也
 ト云フアリ同國法隆寺ノ寶藏ニ上宮太子ノ弓矢靱等アリ山城國愛宕郡靜原二ノ宮山王社ノ神寶ニ天武天皇ノ御
 弓靱目等アリ是等親シク見シ所ノ物ナリ大安寺ニアル所ノ物ト法隆寺ニアル所ノ物ハ其ノ制同ジクシテ神功皇
 后ノ御弓ト云フ物ハ其長七尺許上宮太子ノ弓ハ其ノ長六尺餘共ニオノヅカラナル木ノ皮ヲ去キテ弭ツケン如ク

ニ見ユ大安寺ニアルハ特ニ古キ物ニテ朽損セシ所アリ靜原ニアル物ハ其ノ長六尺八寸餘木ヲ削リ成シテ丹ヲ塗
 リタル附ト見ユシ所ノ上下ニ鍍石ノ潤サ一分許ナルヲ絆纏ヲ鍍石ヲ以テ包ミタリ是等古ニ聞エシ梘弓梓弓ナ
 ド云ヒシ物ニヤ延喜式ニ見ユシ梓弓ノ制ハ下ニ見エタリ檀弓楓弓柘弓ナドシルセル物未レ知其詳ニ(大安寺ニ有
 ル物ハ貝多羅樹ノ枝也ト云フニヤ心得ラズ法隆寺ニアル物ハ梓弓也ト云フサレド是等ハ神世ニ聞エシ波士弓
 ノ遺制ト覺ユル也過ギニシ比琉球ノ使人ニ遇ヒシ時ニ其ノ國ノ弓ノ制ヲ問ヒシニ山桑ヲ以テ作ル其ノ材極メテ
 得ガタシアラ木ノ時多クハ引キ折ルモノ也ト云ヒキ其ノ説大安寺法隆寺ニオイト見シ物ノ制ノ如シ亦按ズルニ
 舊事記ニハ梘ノ字ヲ借り用ヒテ波士トヨムコレハ倭名抄ニ梘子訓ジテ久知奈之ト云フ物ニモアラズ黃檀訓ジテ
 波迦之下ト云フ物ニモアラズ爾雅ニ桑ノ一半ハ梘アリ一半梘ナキヲ梘ト云フニ據リテ梘ノ字ヲバ用ヒラレシナル
 ベシ其ノ實ハ桑ヲ以テ弓作レルナリ禮ノ内則ノ注ニ桑弧本大古也ト見エタレバ異朝ノ事モ又相同ジカリキ)又
 南都東大寺正倉院ニアル聖武天皇ノ御弓ノ圖ヲ見ルニ其ノ制スナハチ彈弓ニシテ我が國ノ物トモ見エズ(是等
 ノ物ドモ別ニ圖ニ見ユ)

天子ノ御弓ノ制古兵庫寮ニテ作レル御梓弓ノ制ハ式ニ見エタリ(延喜式)御弓ハ白木ノマヽニヤ之ヲ錯ルベキ料
 ノ木賊ノ事ナドハ見ユレド塗レシ料ノ漆ノ事ハ見エズ御附ハ鹿ノ角ヲ以テ作り線ノ組ヲ以テ纏フ御矢ハ角ノ大
 伊多都伎角ノ細伊多都伎木ノ大伊多都伎麻麻伎各一具一具トハ五十隻ヲイフ羽ハ雉ノ羽ヲ用ヒテ生絲ヲ以テハ
 グ之ヲ塗ルニ金漆ヲ用フ御柄ハ熊ノ皮ニテ作り牛ノ皮ノ手ツケテ紫ノ組ヲ緒トス御弓袋モ皆帛ヲ以テ作り紫表
 ニ緋裏セリ金漆ノ櫃ニ合ニ御弓矢ヲ納レテ其ノ櫃ヲ漆ニテ塗レル案上ニオクトゾ見エタル其ノ中ニ麻々伎矢
 トイモノ式ニ其ノ鏃トナスベキ鐵熟銅ノ料ヲシルサレタリ倭名抄ニ細射トカキテ唐ノ鹵簿令ノ細射弓箭トイ

フ事ヲヒキテ今按ズルニ此ノ間ニ萬々岐由美トナヅクト注シタリ江家次第ニハ眞卷弓矢トカキタリ或人眞卷弓
トイフハイカナル物ゾ或ハ小弓トモイヒ或ハ大弓トイヒ侍ルト中國入道相國ニ尋テ進ラセシニ予ガ所存ハ眞弓
ニ籐及ビ樺ヲ卷クナレバカクイヘル也近代ニハ紙ヲモテ籐樺ニカフト答ヘ給ヒキ(園大曆ニ)サラバ延文文安ノ
頃既ニサダカナラヌ事也シニゾ

同式ニ凡武官ノ人等ハ皆漆弓ヲ用フ其ノ正月十七日ノ大射ノ節ハ文官ノ人モ亦同ジトアレバ文官ノ人ハ常ニ漆
弓ヲハ用ヒヌ也後世ニ至リテハコトニ華飾ヲ加ヘラレシニヤ弓ハ籐ニ隨ヒテ蒔繪シ或ハ貝ヲ摺リ繡ニハ銀ヲ彫
メ取柄ヲバ錦モシハ綾ナドヲ用ヒ其ノ上下ヲバ或ハ赤キ或紫ナル組ヲ卷ク樺ヲバ白キ檀紙紅ノ檀紙モシハ色ア
ル薄様ナドヲモテ卷ク矢ハ水精ヲ筈トシ白キモシクハ紅梅ナル紙ヲモテコレヲ卷クコトニハナレリ萬葉ノ歌ニ
梓弓末ニ玉纏クナド見エシモカ、ル物ニヤ皮ヲシモ主トセザラムハサル事ナレドコレモマタ文ノ過ギテ質滅シ
タル物ニテ古ノ道ニハアラザルベシ

武士ノ弓式ニ見エシ所ニ據レバ漆弓ヲ用ヒシ也萬葉ノ歌ニ麻周羅遠ノ佐郡由美ト讀ミシモノ武弓也凡又ハ薩雄
ノ弓也凡注セシモノ其ノ制詳ナラズ(麻周羅遠ハ即武夫也薩雄ハ薩人也此等ノ注藻羅草萬葉集抄ニ見エタリ)白
木黒塗絲長籐卷節卷籐籐籐籐籐二所籐三所籐矢ハ鏑矢墓目的矢野箭征箭ナド云フ事ハ中世ヨリ開エシ所也
近代ニ至リテ昔ニハ聞キモ傳ヘヌ物凡多ナリケルニヤ其ノ實ハ皆古ノ物ナレド其ノ家ゴトニ傳フル所ノ故實
異ナル事アレバ自ラ其ノ制モ多ク其ノ名モ異ナルヤウニハナレルナルベシ鎌倉ノ右大將家當時弓馬堪能ノ輩ヲ
召シ集メ舊記ヲ披キ先蹤ヲトブラハレシニ其ノ故實各相傳フル所ノ家説面々ノ意見同ジカラザリシヨシ見エタ
レバ(東鑑)其ノ代猶シカ也マシテ古ヲ去ルコト遠キ世ニオイテヤ今世ニ傳フル射ル法モ其ノ具足モ鹿苑院殿

ノ時ニ定メラレシ所ニヨル事ナレバシカジタ、今ニ從ヒテ古ヲ稽ヘムニハ

近世ニ傳フル所一張弓八張弓ナドイヘルモノアリ(太平蛇形羅形相位四足陰陽福藏世平等ノ名アリ)古ニ聞キ傳
ヘシ所ニアラズオモフニ神代ノ四弓ナドイフ事ニヨリテ後代ノ人意見ヲモテツクリ出ダセル所ナルベシ其ノ中
ニ怪シキ物射ルベキ弓也又常ニ枕ノ上ニタツベキ弓也ナドイヘルニ張アリ(蛇形弓羅形弓ナドイフナリ)昔白河
院ノ御時御トノゴモリテ後物ニオソハレサセ給ヒシニ然ルベキ武器ヲ御枕ノ上ニ置カルベキ由沙汰アリテ義家
朝臣ニメサレケレバ眞弓ノ黒塗ナルヲ一張進ラセタリケルヲ御枕ニタテラレテ後オソハレサセオハシマサソリ
シ由宇治大納言物語ニモ古事談ニモ見エタリ又仁平ノ比近衛院御在位ノ時兵庫頭賴政怪シキ物ヲ射ラレシ所モ
滋籐ノ弓トコソ平家物語ニハ見エタレ(世ニ鶴滋籐トイフハ賴政ノ怪鳥射ラレシ弓ノ制ナリト申スカ)今八張弓
ノ中ニアル怪物射ルベシ枕ノ上ニタツベシナドイフ物ハ黒塗ニモアラズ又滋籐ニモアラザルニヤ但シ源平盛衰
記ニハ賴政朝臣ノ弓滋籐タルヨシハ見エズ其ノ弓ノ名ヲバ雷上動トイヒシ由ハ見エタリ昔周公ノツクラセ給ヒ
シ周禮トイフ書ニハ其ノ世ノツカサ、ノ掌ドレル事ドモヲシルサセ給ヒタリケリ其ノ中ニ庭氏トイフハ秋官
大司寇ノ屬官ニテ國中ノ妖鳥ヲ射ル事ヲ掌レリキアヤシキ鳥獸ノ夜ナ、聲バカリシテ其ノ形見エヌヲバ救日
ノ弓ニ救月ノ矢ヲモテ射ルアラブル神ノ怪シキ事ヲナスヲバ大陰ノ弓ト枉矢トヲモテ射ルコトアリコレヲノ、周
公ノ制リ始メ給ヒシ所ニモアラシ古ノ神聖ノ時ヨリ設ケ給ヒシ教ニコソアルヲメ我が國ノ神代ニ螢火ノカ、ヤ
ク神五月蠅ナス惡神多ニアリテ磐根木株草葉モ猶ヨク言語コトアリシヲ撥平ヨトテ天稚彦ヲ下サレシ時天ニマ
ス御神ノ給ヒシ弓ト矢ハカノ庭氏ノツカサドレル物ニ似タル義モアリヌベシ周ノ代既ニ滅ビ給ヒ奏漢ヨリ後ノ
代ニハカ、ル事掌レル官モカ、ル弓矢ノ制モ聞エズ姓ヲカフル事十餘リ六ツ年ハ二千バカリモヤ經タリケム宋

徽宗皇帝ト申シミカドオハシマシキ我が朝ニテハ堀河院ノ御代ノ末ツカタ鳥羽院ノ御在位ノホドニヤアタリ
 スベキノ御代ニ黒管トテタトヘバ我が朝ニテ頼政ノ射ラレシ物ノゴトクナル物ノ夜ナク宮中ニアラハレテ
 怪シキ事ドモ多カリシカドコレヲシヅメムスベナクシテヤガテ世ハ亂レケリ彼ノ黒管ノ見エシ事仁平ノ比ヨリ
 ハ三十年バカリモヤ隔リヌラム本朝ニモ異朝ニモ遠カラヌホドニ似モ似タル物ノ怪アリシコソアヤシケレ此ノ
 頼政朝臣ハ仁平ノ度ノミニモアラズ應保ノ頃ニ條院御在位ノ時モ鶴トイフ怪鳥射ラレシ由平家物語ニハ見ユ但
 シ源平盛衰記ニハ平治二年ノ夏鶴トイフ怪物射タリトモ又仁安元年ノ夏ノ事トモイフトシルシテ二度射ラレシ
 トハ見エズ其ノ後後醍醐院重祚ノ後建武元年ニモ隠岐二郎左衛門尉廣有トイフ者紫宸殿ノ上ニテ夜ナク鳴キ
 シ怪鳥ヲ射ルカク我が朝ニテハ怪物射ラレシ事度々ニ及ビシカド彼ノ周ノ代ノ後ニハ異朝ニハ其ノ例聞エズサ
 レバ我が國ノ人射ル事ハ他國ヨリコエスグレタリトハ覺ユル也又彼ノ八張ノ中ニ産屋ノ墓目射ツベキ弓アリ
 (相位弓トイフ歟)周代ノ禮ニ子生レヌルニ男子ニハ弧ヲ門ノ左ニマウケ女子ニハ幌ヲ門ノ右ニマウク三日ニシ
 テ始メテ保コレヲ負フ男子ナレバ射人ノ官桑弧蓬矢六ツヲモテ天地四方ヲ射ル女子ニハシカセズトイフ事アリ
 (内則)我が國ニテ子生ルル時墓目射ル事ノ始ハ天孫此ノ國ニ降り給ヒシ始諸部ノ神手ニ天柅弓ト天羽々矢ヲト
 リ八目ノ鳴鏑ヲトリソヘ御前ニ立チテユキクダリシトイフ事ニ起レル也凡ハ天孫ノ降臨マシマセシモ人ノ降誕
 スルモ其ノ義同ジキカ故也サレバ人ノ子ウム時十二段アル秋ノ中天孫降臨ノ段ヲヨム時ハ其ノ子必ズ平ニ生ル
 事也トゾ宣賢卿ノ説ニハ見エタル(神代抄)コレヲノ事ヲオモフニ産屋ノ墓目射ンズル弓我が國ノ神代ノ遺風
 ナラムニハ柅ノ木ニテヤ作ラマシサラバオノヅカラ他國ノ聖主ノ代ノ禮ニ相合フ所モアリヌベキサレド彼ノ産
 屋ノ墓目射ル弓トイフモノハコレヲノ制トモ見エズ平家物語御産ノ卷ニハ小松大臣桑弧蓬矢ヲモテ天地四方ヲ

射サセラルトハ見エタリ又産屋ニテ弓ヲ揮スル事アリ此ノ事古キ風俗ニヤ壽永三年鎌倉ノ頼家生レ給ヒシ時ニ
 此ノ儀アリケリ(東鑑)凡鳴弦トイフ事何事ニヨリテ何レノ代ニヤ起リヌラム天照太神天ノ岩窟ニコモリ給ヒシ
 時諸神樂ヲ奏シ給フニ弓六張ヲ並ベテコレヲ彈ゼラレシナド聞エシハ弓弦ナラセシ事ノ始ニヤアルベケレド
 此ノ事ハ和琴ノ始トコソイヒモ傳フレ後代ニ鳴弦ナドイフ事ノ始トモオモハレズ雷鳴ノ時古ハ上卿兵衛佐ヲメ
 シテ御前ニ候センメ諸衛警固ス後代ニ及テハ藏人瀧口ノ弓ヲ持テ御椽ニ候シアルハ瀧口少々御壺ニメシテ鳴
 弦セシメラル、儀侍ルナド禁秘抄ニシルサセ給ヒタレバ此ノ事又古ヨリアリシ事ニゾ堀河院御在位ノ時オビエ
 魂ギラセ給フ事アリシニ義家朝臣南殿ノ大牀ニサフヲヒテ御椽ノ刻限鳴弦スル事三度ノ後高聲ニ前陸奥守源義
 家トナノリタリケレバ聞ク人身ノ毛ヨダツテ御椽必ズオコタラセ給ヒシナド平家物語ニモ見エタリ又八張ノ中
 ニツクウチタル弓モアルニヤ凡ハ弓ニツクウツ事矢コボレセザラム料ニテ戰ノ急ナラン時ニ便リアル事ナレバ
 古ヨリ此ノ制ハアリキ(太平記等)中コ、カシコニ見ユ)サレド世ニイフ事ノゴトク定マレル式アリトモ聞エズ
 彼レ是レヲ併セ考フルニスベテハカノ八張弓トイヘル物ハ古ノ制ニハアラズ又村刮側黒ナドイフ物モ近代ノ制
 也其ノ中村刮ノ弓尋常ノ人タヤスク持ツマジキ物也トゾ世ニハ申シ傳フル
 世ニ半弓トイフ物ハ異國ノ制ニテアル也サレドカノ國々ノ弓モ古ヨリ今ニ至リテ其ノ制コトニ多カリ本朝ノ制
 ニ準フレバタマ其ノ長ノ短カケレバ我が國ノ弓ノ半也トイヘル義ニゾアルベキ今ハ世ニ彼ノ制ニ倣ヒ造レルモ
 アレド彼ノ國々ヨリ來タレルニハ及ビガタシ異國ノ弓我が朝ニ來タレル事ハ神功皇后攝政ノ四十六年我が朝ノ
 使人ニ百濟ノ肖古王ノアタヘシ物ノ中ニ角ノ弓箭見エタルヲヤ始トスベキ其ノ後ハ藩國ノ使人等來タレル時角
 弓賜テ射サシメラレシナドイフ事世々ニ見エタリ又唐書杜氏通典等ニ我が國ノ使者蝦夷人ト僭ニ朝ス其ノ鬚長

サ四尺許箭ヲ首ニ理ム人ヲシテ瓠ヲ戴キ立ツコト數十步射ルニ中ラズト云フコトナシトシルセリ齊明天皇五年七月唐國ニ使ヲ遣サレシ時陸奥ノ蝦夷ヲ以テ其ノ天子ニ示サレシト見エシ事ニヤ今蝦夷弓矢ノ制ヲ見ルニ是レ又半弓ト云フ物也弓長サ三尺七寸餘其ノ地ニ産スルヲツコト云フ木ヲ削リ成シテ作り樺皮ヲ纏ヒテ弦ニハ草皮三條ヲ組ミタルヲ用フ矢ノ長サ一尺二寸許松枝ヲ削リ成シ鶴鷹等ノ羽四ツダテニシテ鏃ニハ鹿ノ足骨ヲ用フ(ヲツコ此方ノ俗ニ伽羅木ト云フ歟)

弦ハ古ハ皆塗弦也シヲ中比ヨリ白木ノ弓ニハ白弦ヲ用フル也トイフ事アレド古モ白木ノ弓ニハ白弦カケシニヤト見ユル事モアリ其比武官ノ人ハ皆塗弓ナレバ塗弦タル事ハイフニ及バズ又今ノ塗弦ハ必ズ管ダマリアルニヤ昔ハ塗弦アリセキ弦アリ滋藤ノ弓ニセキ弦カケシナド源平盛衰記ニ見エシモヨノツ子ノ塗弦ニ同シカラチバコソカクハシルシタレ又俗ニ關弦トカクハアシカラジ禦弦トカク由ハイカヤアルベキ異朝ニテハ弓ニ矢ハグル事ヲ關ストイヘバ(孟子左傳等ニ見ユ)關ノ字ヲ借り用フルソノ緣アルニハシカジ異朝ノ弩ノ弦ノ羽管纏ナドイフ物此ノ類也又フセ弦ト云フアリ(フセ弦セキ弦其ノ制少ク異ナリト見エタリ)又昔ハ弦ヲ一條ニ條ナドシルス今ノ俗ニハ一筋二筋トカク也雅俗ノ字ハ同シカラチドトナフル所ノ異ナルニハアラズ又一張トハ七筋ヲイヒ一桷トハ廿一筋也又替弦トイフ事モ昔ハ副弦(合ニ)又ハ儲弦トモ(日本書紀)又設弦トモシルセリ一ツニハ字佐由豆留トモイヒシ由舊事記ニハ見エタリ

鳴鏑トイフ物ハ天孫此ノ國ニ降リマセシ時諸部ノ神天梳弓天羽々矢ヲトリ八目ノ鳴鏑ヲ副持ラレシトイフ事此ノ物ノ見エシ始ナルヨシ申セド此ノ國ニシテ大己貴神須世理媛ヲヨバヒ給ヒシ時大野ノ中ニ射入レシ鳴鏑ヲ取リ得給ヒシトイフ事舊事記ニ見エタルハ天孫ノイマダ降ラセ給ハヌサキノノゾ有リケル後成恩寺殿ノ御説ニ

ハ八目トハ鏑ニハ竅アリ漢書ニイハユル冒頓ガ作レル鳴鏑是レ也トシルサレタリ(纂疏)是ハモロコシニテ漢ノ比北ノ狄冒頓單于トイヒシガ父コロサムトテタクミ出ダセシヨリ始マレリトイフ説ヲ引カレシカド莊子ノ中ニ嚆矢トイフ物見エシ其ノ注ニ矢ノ鳴ルモノ俗ニ響箭トイフヨシ見エタリサラバ彼ノ國ニテモ此ノ物既ニ周ノ代ニ見エタリ我が國ニテコレヲ加布良トナツケシ事ハイカナルイハレニヤイマダ所見アラズ但シ矢頭トイフ物ハ神代ヨリ始マレル物ナレバ凡ハ矢ノ始ニテ神頭ナドモカク也其ノ矢頭ヲハ米加布良トテ海ニ生フル藻ノ根ニテ作レルガ本式ニテハアル也ムカシ神代ノ時櫛八玉ノ神海藻ノ柄ヲ鎌ニシテ燧曰トシ海藻ノ柄ヲ燧杵トシテ火ヲ鑽出セリトイフ事モアレバ(舊事本紀)此ノ物モトハ米加布良ニテ作り出ダセル物也シニヨリテカクハナツケシニヤ又平家物語ニハ蕪トモシルシタレバ其ノ形ノ蕪膏根ニ似タレバトテカクナツケタルラムモシラズ是レヲ八目トイフ事ハ或人ノ説ニハ木ノ成數ニテ卦ニオイテ震也雷也雷ハ動キテ音ヲ發スカブラハ木ニテ音ヲ發スル物ナレバ其ノ穴ヲ開ク事モ又八ノ數用フルト見エタリ(神代抄ニ)又其ノ説ニ音トハ其ノ文字立ノ字ニ从ヒ日ノ字ニ从フ立ノ字ハ六一ニ从フ一六ハ水ノ數也陰也日ハ太陽ノ精也陽也ナドイヘリ此等ノ説ウケ傳フル所コソアラメ信ジガタキ事ナリ天神地神カ、ル深キ義ヲモテ各此ノ物ヲツクリ出ダシ給ヘルモイブカシ但シ天神ノ副持ラレシハ八目ノ鳴鏑ト見エタリ地神ノ取り得給ヒシハタ、鳴鏑トノミアレバ其ノ目ノ數ハシラズオモフニ此ノ物作り出ダサレシ始タ、其ノ鳴ルコトアランガタメニ其ノ竅ヲハ開カレタリケメ八ツトイフ事ハ凡ハ神代ニ用ヒ給ヘル數ナレバカクハイヒケルナルベシ今モ鳴鏑ニ目ヲサス事ニツモ三ツモ四ツモ五ツモサス定マレル數アルニモアラズ鎮西八郎爲朝ノ鳴鏑ニハ目九ツサ、レシ事モ保元物語ニハ見エタリキ殊ニハ又音トイフ事ハ陰陽ヲ合セシ義也ナドイフ説ハアヤマレル事ニヤ於登トイフ詞ハ我が國ノ語也音トイフ字ハ秦漢ノ隸書也今ノ

楷字ハ應神天皇ノ御代ニ百濟ヨリ經典ナド獻ラレシ時ニヨソ此ノ國ニハ傳ヘタル人皇十六代ノ朝廷ニ始メテ傳ヘタラン文字ヲ八十萬歳ノサキニ天地ノ神ノシロシメサレテ其ノ字ノ義ニヨリテ此ノ物作り出ダサセ給ヒシトイフ事ヤアルベキ又説文ヲ考フルニ音ノ字立ノ字ニ从ヘルニモアラズ又日ノ字ニ从ヘルニモアラズ凡我ガ國ノ俗古ヨリ言傳ヘシ所カ、ル事凡多シ能々心得ベキ事ナリ古ノ鳴鏑ノ今モ世ニ遺レル物トモ見ルニ及ビシ所ハ天王寺ノ寶藏ニアル所ノ上宮太子ノ鳴鏑矢一筋法隆寺寶藏ニアル所ノ上宮太子ノ鳴鏑矢一筋東大寺正倉院ニアル所ノ聖武天皇ノ御鳴鏑矢二筋アリ其ノ形オノノ近世ノ制ニハ同ジカラズ上宮太子ノ矢ニハ目六ツト七ツトサ、レタリ聖武天皇ノ御矢ニハ其ノ目八ツト六ツトサ、レタルナリ大安寺ノ神寶神功皇后ノ御矢ト云フ物ニ其ノ形ハ鳴鏑ノ如クニシテ目サ、ヌヲ角ニテ作ラレシ一筋アリキ(是等ノ制別ニ圖シヌ)世ニ相傳フル所此ノ物ノ制羽ハグニモ篋コシラヘムニモ各故實アリト云フナリ此ノ矢ヲ以テ上サシニスル事ハ彼ノ諸部ノ神ノ天羽々矢ヲ副持ラレシ遺ル俗トコソ見エタレ又神通ノ鳴鏑矢トイフ物アリヨノツチノ物トハ少々異ナル也此ノ物ノ名フルキ草紙ナドニハ見エタレド(田村草紙ナドイフ物ノ類)シカルベキ物ニ見エザルニヤイカニウケ傳フル所モアル事ニヤマタ流鏑馬ノ時ニ用フル物ハヨノツチノ木ニハ異ナルベシ

奴多米鳴鏑トイフハ鹿ノ角ニテ作り三方ニヌタヲ殘ヌ目ハ二ツヲ本トストイフ讃岐國屋島ニテ那須余一宗高ガ扇射タリシ矢此ノ物ナリ(平家物語ニ見エシ所ナリ盛衰記ニハヌタメノ由ハ見エズ)今モ其ノ子孫ノ家ニハ傳ヘラレケメ文字ハ滑田目ナドカクニヤ正シキ文字ハアラザルニコソコレヲ作ラムヤウハ故實アルベシ(後ニ順ノ倭名抄ヲ考フルニ唐韻ヲ引キテ觔角上波皮也和名沼太ト見エタリサラハ觔目鏑トカクベキニヤ)

墓目トイフ事ハ其ノ形ノ蝦蟆ノ目ニ似タレバカクハナツケシタトヘバツクリ皮ノ難メルガ蝦蟆ノ背ニ似タレバ

比木波太トイフガゴトシ此ノ矢ノ鳴ル音蝦蟆ノナク聲ニ似タレバカクナツク此ノ事深キ義アリナドイフ事ハ心得ラレズ昔人ノ物ノ名ツケシ事ヤスラカニシテムヅカシカラズ此ノ物ノ異名ヲ志禰久利トイフ事ハ志禰トイフ鼠ハ蘆根食フ物ナリ其ノ聲此ノ矢ノ鳴ル音ニ似タル故ニカクモイフ也ナドイフ説ノアレバ(三議一統)發目トイフモ其ノ聲ニ取レルナドイヒシニヤ古ノ物今モ世ニ遺リシハ靜原二宮ノ神寶ニアル天武天皇ノ内庫ノ物也ト云フモノ其ノ長サ一尺二寸桐ノ木ヲ以テ作りテ胴ニハ竹ヲフセテ胴卷セリ其ノ餘ハ今ノ制ニカハレリトモ見エズ(別ニ圖アリ)此ノ物竹ノ根ヲモテモ作レル事其ノ由アルニヤ廷尉義經屋島内府并セテ鎌倉ニ下向アリシニ路次ニテ藤原能保朝臣ノ侍後藤原新兵衛尉基清ガ所從ト伊勢三郎能盛ガ下部ト團諍ニ及ブ能盛ガ引キ馬ノ鞅ヲキリテハシリユクヲ能盛ハセ出デテ竹ノ根ノ引目ヲモテ射タリシ事東鑑ニモ見エタリオヨソ墓目ノ制犬射笠懸誕生ノ時ニ用フル式コトニ多カリ

四目トイフ物蘆藁抄ニハ立標トカキタリ是レハ式ニ(延喜式)五月五日ノ競馬ニシメタツル事ヲ立標トシルセシヲ心得アヤマリテ此ノ物ノ名ニ取り用ヒシニゾアルベキ中原高忠ガ聞書ニ此ノ物目ハ四ツアルベキ事本也四ツアルニヨリテ志米トイフ但シ三ツニモスル也クルシカラズサレド畧儀也ト見エタレバ四目トカクニハシカジ竹ノ根ニテモ木ニテモ作ル大小マタ定マラズ赤クモ黒クモ漆ニテ塗ル草鹿圓物ナド射ンズルモノ也オモフニ是レハモロコシニイハユル飽箭ノ類ナル也今モ彼ノ國ニテ教閱ニ施ス木標頭箭トイフハ飽箭ノ遺制ニテ我ガ國ノ四目ノゴトクナル物ニテアル也(其ノ圖武備志等ニ見エタリ)

矢頭ハ米加布良ヲホシカラシ作りテ黒漆ニテ塗レルヲ本トス又ハ木ニテモ作ル又鐵ニテモ作りシ事モ見エタリ(太平記ニ見エシ金鐵頭コレナリ)此ノ物ハ古ニ聞エシ大伊多都伎ノ制トゾ覺ユル倭名鈔ノ平題箭ノ下ニ楊雄方

言ノ鏃不_レ銳者コレヲ平題トイフ郭璞ガイハク題ハ頭ノゴトシ今ノ戲射箭也トイフヲ引キテ和名ハ以太都伎ト
 シンセリ此ノ矢草鹿圓物ナドヲ射ツベキ物ニテ鏃ノ銳カラザル物ナレバ順ノ引キシ所方言ノ説ニハ合ヒヌサレ
 ド今ノ伊多都伎トイフ物ハ鏃ニテツケレバ矢頭トハ異ナルヤウニハアレドカ_レル物イニシヘト名ハ同ジケレド
 モ實ハ異ナルモ名ハ異ナレド實ハ同ジキモアル事其ノ例コレ多シ延喜式ニ見エシ所角細伊多都伎角大伊多都伎
 ナドノ制多カリ今ノゴトク薄鐵ニテ作レルノミヲ伊多都伎トイヒシニハアラズ又矢頭トカクヨシハ下學集ニ見
 ニ堪彘抄ニハ磁頭ニ作り太平記ニハ鏃頭ニ作ルオモフニタ_レ矢頭トカキシガ據アルニハシカジ神頭トカキテ此
 ノ矢神代ヨリアル物也ナドイフ説アレドシカルベキ物ニシルセル事ヲ見キバイカ_レアルベキ
 的矢トイフ名久シク聞エ侍リ古ハイカニヤイヒケム近代ニハ伊太都伎トテ薄鐵ヲモテ篋ノ先ヲツ_レム古ニ聞エ
 シ伊太都伎ノ制ニハカ_レル物ハ見エズ又角木木銚ナドイフ物アリ是レハ古ノ角細伊太都伎木伊太都伎ナドイフ
 モノ、遺制ナルベシ或人ノイヒシハ角木トイフ物ハモロコシノ砲箭トイフ物也トゾ此ノ説ハ誤レルニ似タリ宋
 ノ蒼梧王ト申シ天子ハ御フルマヒヨカラヌ事トモ多カリケリ蕭道成トイヒシ大臣ノ腹ニ繪カキテ的トナシ砲
 箭ヲモテコレヲ射給フニ其ノ臍ニ中リシカバ大キニヨロコバセ給ヒシトイフ事アリ此ノ蕭道成ト聞エシハ後ニ
 齊ノ高祖皇帝ト申シシ御事也其ノ注ニ砲箭ハ骨鏃ノ人ヲ傷ル事アタハザル物トコソアレ今ノ角木ナランニハイ
 カデソノ御命オハシマスベキ骨ニテ作レルヲ砲箭ト云フゾ心得其ノ制ヲ詳ニセザルニヨリテカクハ誤レルナ
 ルベシ

野箭トイフ物古ニ聞エシ獵箭ノ遺制トゾ覺ユルタマシ日本書紀ニハ獵箭トシルシテ志々夜トハヨミタリ此ノ物
 野矢トナツケイフ事ハイヅレノ比ニヤ始マリヌラ_レ堪彘抄ノ中ニ篋矢ナドシルシタルハシカルベカラズ又アル
 人ノ野箭トハスナハチ征矢ヲイフ也トイヒシハモツトモ誤レル事ニゾアルベキ保元物語ノ異本ニ(半井通仙院
 家藏ノ本也)鎮西八郎ノ大矢ノ事シルシタルケルコトバニ征矢ヲモ能キ羽ニテハハガザリケリマシテ野矢ハ晴
 ノアラバコソ能キ羽ニテモハガメ夜晝朝夕ノ狩ナレバ昨日ハイダルハ今日ノ狩ニ射損ズ今日ハグ矢ハ明日ノ狩
 ノ料常ノ狩ナレバ篋モ羽モコラヘザリケレバ鷄ノ羽モ鳥ノ羽モハギ附ケ_レハギシ由シルセシハ野箭即チ獵箭
 ニテ征矢ニハアラヌ證ナルベシコレノミニモアラズ東鑑ノ中ニモ建久三年十一月鎌倉殿入洛ノ日先陣後陣ノ隨
 兵等ハ各背ニ腹卷シタル張替持一騎上髪ニ征矢負ヒタル小舍人童一人ツマラグシ水干着ノ人々ハ皆々野箭ヲ負
 フ又元久元年二月實朝將軍由比ノ濱ニ出デ給ヒテ遠笠懸ノアリシ日供奉ノ輩水干ヲ着テ或ハ野箭或ハ征箭負ヒ
 シナド見エタリ野箭征箭同ジカラマシカバカクハワカチシルスベシヤハ又同記ニカノ建久三年上洛ノ料ニ佐々
 木三郎盛綱野箭一腰ハギテ進ラス鷲ノ白尾ヲ以テ無文ノ染羽トセシヲ樺ハキニシテ藤ノ口卷ス又青鷲ノ羽ヲ以
 テ表箭トシキコレ鎌倉殿ノ曩祖將軍天治年中奥州ノ凶賊ヲ征伐セラレシ後歸洛ノ日用ヒラレタル式也トゾシル
 セル古ノ野箭ノ式其ノ大略ヲ想ヒ見ツベシ凡ハ其ノ時ニヨリテ野矢負フ事故實アル事也此ノ事武家ノ故實ノミ
 ニモアラズ明月記建仁二年十一月九日ノ條ニモ其ノ夜ノ失火ニ弓箭ヲ帶スル事頗ル古儀ニ似タリ帶_レ之輩野矢
 タルベケレド忽チニ其ノ物ナキニヨリテ狩胡錄ヲ帶ブナドイフ事見エタリ

征箭ノ事征戰ノ時用フル所ナレバカクハナツケタル也倭名抄ニハ唐式ヲ引キテ諸府衛士人別ニ弓一張征箭卅隻
 トシルシタレド本朝ノ令ニハ(軍防令)征箭五十隻胡錄一具自ラ備フベシト見エタリサラバ本朝ノイニシハハ五
 十筋ヲ以テ一腰トシタル也後代ノ制ニハ異ナルニヤ後代ニ及ビテ箆羽壺等ニサシヌル數ハ詳ニ下ニ見エタリ
 石打征箭古ノ時ハ大將軍ノ具足タリキサレバ齋藤別當實盛ガ北國ニ向ヒシ時此ノ物ト錦ノ直垂トヲ内府宗盛ニ

望ミ申ジシナド源平盛衰記ニモ見エタリ又切符中黒ナドモヨノツチノ人ハ用フベカラザル由古ノ人ハ申シキ寛
 ノコトモ節陰塗リタルヲ本トスル也ト中原高忠ガ聞書ニハ見エタリサレド塗篋白篋ナドモ古キ物語共ニハ見エ
 タリタバシ夫等ハ略儀タリケンモシラズ鏃ノ事神代ニハ聞エズ人皇ノ始第二代ノ朝廷ノ御時(綏靖)倭鍛部天津
 眞浦シテ眞鷹鏃ツクラレシトイフ事アリ(日本書紀)鍛部シテ作ラシメラレシトアレバ鍛ヲ鍛シ作レルモノナリ
 天鷹弓トイフハ射鷹ノ弓也ナドイフ説ニヨレバ此ノ物ハ後代ノ鷹箭ノ鏃ノ類トゾ覺ユル其ノ後允恭天皇崩シ給
 ヒシノチ太子木梨輕皇子御弟穴穗皇子ヲウシナハントシ給ヒシカバ各兵與シ給フ時穴穗括箭輕括箭トイフコト
 始マレル由日本書紀ニ見エタリ古事記ニハ其ノ時作レル矢ハ銅也故ニ輕箭トイフ穴穗皇子ノ作り給フ所ハスナ
 ハチ今ノ矢也コレヲ穴穗箭トイフヨシヲ注シキ(穴穗皇子トイフハ安康天皇ノ御事也)モシ此等ノ説ニヨリテ鐵
 鏃モ此ノ時ニ始マレル物也ト心得シ事ハシカルベカラズ古ノ鐵鏃今モ世ニ遺レル大安寺法隆寺東大寺ノ藏ニア
 ル物ドモ見ル事ヲ得タリ(コレヲノ制ハ別ニ圖シヌ)後代ノ制ニ鷹股鳥舌蠅尾鏃矢丸根楯ワリ鑿根ナドイフモノ
 ハ古キ物ドモ見エタリ今ハ其ノ制特ニ多クナリタレド凡ハ彼ノ鷹股鏃矢丸根ナドノ制ニヨリテ作り出ダセル
 物ナレバ其ノ名多キニ似タレド其ノ實ハ大ニ異ナルニモアラズ其ノ中鷹股トイフ物ハ鷹ノ足指ノ間ニ幕アリテ
 相連リ着ク物ヲ鏃トイフ鏃ノ形ソレニ似タルガ故ニカクハ名ツケシタトヘバ鳥ノ舌蠅ノ尾ナドイフ事ノ如ク也
 サラバ別ナドカクハシカルベカラズ(鑿囊抄ニ)此ノ鏃必ズ鳴鏃ニ用フ常ノ矢ニスゲタルヲバスガリマタナド
 イフ事也サレド大安寺法隆寺東大寺等ノ藏ニアリシ者凡ハ鏃皆々鷹股ノ制ニハアラズ鏃矢ノウチニ鷹クリト云
 フ物ノアル矢ハ父ノ仇射ムズルモノ也ナド世ニイフニヤ逆鬚アリテ拔ムトスルニタヤスカラヌガ故ナルベシ大
 安寺法隆寺等ノ藏ニ逆鬚アリテ其ノ制異ナル物ドモ猶多カリ倭名抄ヲ見ルニ鏃ノ字ヲバ夜佐岐トヨム俗ニハ夜

之利トイフヨシ、ルセリ其ノ比既ニ雅俗ノワカレアリキ矢ノ根ナドイフ事ハ猶其後代ノ俗ニ出デシ名ナルベシ
 打根トイフ物ハ射ツベキ料ニハアラズ世ニ手裏劔ナド云フ類ナル也建武二年正月神樂岡ノ戰ニ妙觀院ノ因幡堅
 者全村ガ長船打ノ鏃ノ五分鑿ホドナルヲ管本マデ中子ヲ打チトホシニシテチヂスゲ香卷ノ上ヲ翠ノ絲ヲモテチ
 タ卷ニ卷キタルヲ手衝ニシテ敵ノ鎧ノ表裏ニ重ヲツキトホセシナドイフ物コレナリ今モ世ニ此ノ制ニ倣ヒ作レ
 ル物見ユ其ノ因リ來ル事久シキモノニヤタバシ其ノ始ヲバシラズ
 漢ノ代ノ比ヨリ箭ニハグニ鵬羽ヲモテ最トス我ガ朝ニテモカクゾ有リケルサレバ鵬羽ニ限リテ眞鳥羽トハイフ
 也萬葉集註釋ニ眞鳥ハ鶯也エビスハ鶯羽ヲ眞鳥ノ羽ト云フト見エタリサラバ此ノ名ハ東夷ノ方言ニ出デシナル
 ベシコレニ又大鳥小鳥ナドイフアリ唐韻ニ鶯ハ大鵬也ト見エシハ大鳥ノ事ニテ山海經ニ鶯ハ小鵬也トアレバ小
 鳥ノ事也又鷹羽トイフモノトハ角鷹ノ羽ヲイヒシ也鷹ノ羽マタ肅慎ノ羽トモ稱シタリキ(過ニシ比在洛ノ間攝
 政大相國肅慎ノ羽ノ事ヲ尋子仰セラレ東北ノ夷地ニ出ヅル箭ノ羽トコソ心得侍レ我ガ國ノ俗凡物ノ産スル地名
 ヲ以テ其ノ物ヲ稱スルコト譬ヘバ果ヲ上林ト云ヒ酒ヲ下若ト云フ類即チ此ナリ昔時肅慎國ヲ征セラレシ事肅慎
 人ノ來タリシ事等日本書紀ニ見エシ所モ多ク渡島津輕ノ津ノ司等シテ靺鞨國ニ遣サンシ事モ續日本紀ニ見エ侍
 リシガ靺鞨ハ古ノ肅慎之地ナリトハ異朝ノ書ニ見エタリ陸奥國多賀城壺ノ碑ニハ靺鞨國ヲ相去ル里數ヲシルシ
 侍レバ其ノ代ニハ彼ノ地方ニ出デシ箭ノ羽ツチニ我ガ國ニ來タリヌレバ其ノ箭ノ羽ヲ肅慎トハ稱セシニヤ今モ
 蝦夷地方ヨリ出ヅル物ハ其ノ品スグレテ侍リト答ヘ申シキ後ニ保安元曆ノ記ニ執柄供奉行幸ノ時府生番長平籙
 左鷲羽右肅慎羽コレヲ新調ス鳥鷲ノ羽ヲ以テ三府ニ切り續キタリト云フ所ヲ抄出シテ賜ヒタリ鳥鷲ノ羽ヲ以テ
 三府ニ切り續キタランハ鷹ノ羽ノ妻黒ニ倣ヒシモノナリ)其ノ外山鳥尾雉尾鶴鶴鴒ナドノ羽ヲ用フ其ノ中ニ鶴

トイフハモト異朝ニテ黄鶴トモ天鵝トモイヒ本朝ニテ今ハ白鳥トイヘル物也サレド古ニ鶴トイヒシハ此ノ物ニ
 ハアラズ倭名抄ニハ於保止利ト讀ミシ今ハ古布トイヒ異朝ニテハ鶴トイフ物也鶴トイフ物モ日本書紀ニ見エタ
 ル桃花鳥ニテ倭名抄ノ紅鶴ハ豆木トヨムト見エシ物也紅鶴ハ漢ノ時ニイハユル朱鷺タルヨシ異朝ノ書ニモ見エ
 タリタバシ鶴ノ字ハ韻書等ニ見エズ凡ハ箭ニヨリテハグベキ羽モ各定マレル式アル也藤原秀郷朝臣ノ家寶シキ
 リ羽ト云フ矢ハ白羽黒羽ニテハギマゼテ侍リシ由見エタリ(秀郷ノ草紙詞書ニ見ユ)今世ニシキリハギナド云フ
 物ノ制ニハアラズ又矢入ノ矢ハグニ山鳥鷲鳥鷲鷲此ノ五ツノ羽ヲ用フ今蜂鷲ヲ多ク用フ蜂鷲トハ好ミテ蜂ク
 ラフ角鷹ヲイフヨシト部家説也(神代抄)世傳フル所モ又同ジ但シ蜂鷲ト云フ物ハ其ノ羽ノ文ハ文字ヲナセバカ
 クナヅケシ也

凡羽ノ文ヲ我ガ朝ニハ符トシルシ又生ノ字ヲモ用フオモフニモトハ文ノ字ヲ用ヒテ聲ノマヽニヨビシヲ後ノ俗
 カクハ誤レルナルベシ石打中黒(大小)切符本白護田鳥尾ナドハ古代ヨリ聞エシ物也是等ヲ始メテ其ノ名特ニ多
 ケレド本白中白妻白本黒中黒妻黒切符護田鳥尾等ノ外ニ出ヅル事ナシ世ニ羽形羽揃ナドイヒテ昔ヨリ圖ニエガ
 キシ物アリ僧雪村ガ畫ガキシ物ハ某ガ家ニモ傳ヘタリ其ノ中石打トイフハモト鷹ノ尾ノ名所ニテ中黒切符本白
 ナドイフ類ハ羽ノ文ヲモテ名ヅケシ也字須倍乎又字須倍布ナドイフヲ世ニハ鷹ノ字ヲ用フルニヤ源平盛衰記ニ
 ハコトク護田鳥尾トカキタリ倭名抄ニ爾雅集注ヲ引キテ鳩一名ハ澤虞即護田鳥也倭名ハ於須賣止里トイフ
 ヨシ見エタレバモトハ於須賣乎於須賣布ナドイヒシヲ後ニカク轉訛セシナリコレハ小鳥ノ尾ノ彼ノ護田鳥ノ文
 ニ似タレバカクイヒケル也

樂羽ノ事周禮ニ鍾氏ノ官ハ羽ヲ染ムル事ヲ掌リキ我ガ朝ニシテイヅレノ比ニカ始マリケム凡箭ニハグニハ眞鳥

羽ノ白尾ヲ染ムル事定マレル式也サレド鶴ノ羽鷲ノ羽ヲモ又鶴ノ白尾ヲモ染ム

倭名抄箭ノ條下ニ釋名ヲ引キテ箝ノ字ヲ夜加良トヨメリ韻書等ニハ箝ノ字ヲモ箝ノ字ト同ジク用フ同鈔竹ノ條
 下ニ唐韻ヲ引キテ箝ノ字ヲ乃トヨミタリ箝ハモト箭竹ノ名ニテ箭箝ノ事ニハアラズ然ルニ我ガ國ノ俗箭箝ノ事
 ニ箝ノ字ヲ用ヒテ乃ト謂フナリ箭ニヨリテ加良トイヒ能トイフベキ故實アレバ其ノ文字ヲ分テ用ヒシニヤ凡箝
 モ白箝塗箝陰塗タルナドイフ事ハ古キ物ニ見エタリ中比ヨリヌグヒ箝コカシ箝サハシ箝ナドイフ事聞エ侍リ
 箝モ櫛箝續箝ナド各箭ニヨリテ用フベキモノ定マレル式アルナリ

倭名抄ニ毛詩ノ注韞ハ扶也トイフヲ引キテ由美加介トヨミタリ近代ノ俗ニ弓懸トカクハアシカラズ指懸トカク
 ハ然ルベカラズ古ノ射禮ニ用ヒラレシ決拾ノ制ハ吉部秘訓ニ圖セシ所ニヨリテ想ヒ見ツベシ(コレハ建久二年
 閏十二月十日弓場始ニ民部卿藤原經房卿ノ用ヒシ本様ヲ圖セラレシ也其ノ圖ハ別ニシルシヌ)武士ノ射儀ニ用
 ヒシ制ハ步射ニハ右弓懸バカリヲサシ騎射ニハ一具弓懸ヲサス但シ片弓懸諸弓懸ナドハイハヌ事ナリシ異朝ノ
 決拾ノ制ハ本朝ノ俗ニ謂フ所ニハ同ジカラズ周ノ禮ニ朱極三トイフ事アリ朱ノ革ヲモテ食指將指無名指ノ三ツ
 ニカケテ大指ニハ象ノ骨ニテ作レル弦ヲカケテ弓引クベキ物ヲカクススベテコレヲ決トハイフ也今モ朝鮮ノ人
 ノ鞞ナドハ此ノ遺レル制ト見エケリ拾トイフ物ノ事ハ下ノ鞞弓小手等ノ條ヲ通シ見ルベシ古ノ武士ハ馬ニ乘ル
 程ナラムニハ必ユガケヲサス其ノ代ニハ馬ノ上ニテ弓モタヌ人ヲババカシキ事ニイヒシホドニモシミヅカラモ
 タザラムニハ心ズ人ニモタセテ具シケリトゾフルキ物ニハシルセル
 武士ノユガケニ縫フ革モ錦革又ハ何色ニモアレ無文ノ革ヲバ用ヒズ指ヲ續クトイフ事モナカリシニ鎌倉殿富士
 野ニ狩リシ給ヒシ時大指トクスシユヒノ革ニ弦ツヨクアタリテヤブレシヲツギ給ヒシカバ時ノ人コレニ倣ヒテ

クスシユビトタケタカユビヲニツ續キタリシヨリ始マレルトゾイヒ傳ヘタル(高忠聞書)ソレモ始ハトモ革ニテ
コソツギケレ異革ニテ續ク事ハ後ノ世ノ事ニテアル也サレバ晴ノ時指續ギタルヲ用フベカラズト古人ハ申シキ
緒トムル様モ歩射ト騎射ト甲冑ヲ帶スル時ト各サダマレル式アリ又流鏑馬ノ時ニハ手袋トイフベシ弓懸トハイ
フベカラザルヨシコレモ古人ハ申シ傳ヘ侍リ

日神臂ニ稜威高鞞ヲハキ給ヒシ事日本書紀ニ見エタリ清原宣賢ノ抄ニハ今ノ弓小手ナル由見エタリサレド古事
記ニハ竹鞞トシルサレタレバ始ハ竹ニテ作ラレシ物ニヤ釋日本紀ニハ延喜式ニ見エタル神寶ノ注ヲ引キテ注セ
ラレタリ式ニ見エシ所ハ鹿ノ皮ヲモテ縫ヒ胡粉ヲ塗リテ墨ヲモテ畫カクヨシ見エタリ須佐能乎命ノ御子磐坂日
子命國巡行マス時ニ出雲國惠曇里ニ至リマシテ國ノ形畫鞞ノゴトクアルカナトノタマヒシヨリカクハ名ヅケシ
ヨシ彼ノ國ノ風土記ニハ見エタリサレバ神代ノ昔ヨリ鞞ニハカナラズ畫カクモノニヤマサシキ物ヲバイマダ見
テド近キ比太神宮ニ進ラヒラレシ御鞞ノ圖ヲバ見ル事ヲ得タリキノノ形モノノ畫カキシモノモ共ニ世ニイフ鞞
繪トイフ物ニハ似テケリ(世ニトモエトイフモノハ水ノウヅマク形ナレバ巴ノ字ヲ用フトイフナリサレドモフ
ルキ物ニ皆鞞繪トシルセリ但シ吉部秘訓ニ圖セシ所ハ鞞繪カキシ物ニハアラズ)式ニ見エシ兵庫寮ニテ作り進
ラセシ御鞞モ熊ノ皮ニテ作レル物也サレバ此ノ物ハ熊鹿等ノ革ヲモテ作ルベシ其ノ中ヲ虛ニスルナレバ弓弦觸
ル、毎ニソノ音アリ萬葉集ノ歌ニ丈夫乃鞞乃音爲奈利物部乃大臣楯立良思母ナドヨミシモ此ノ事トゾ見エタル
應神天皇ノ御事ヲ譽田別尊ト申シシ御事御腕ノ上ニ宍生ヒテ其ノ形御母ノ皇后ノ新羅伐ヲ給フ時雄裝シテハキ
給ヘル鞞ニ似給ヒタリケリ古ノ俗ニ鞞ヲ褒武多トイヒシカバカクハ名ヅケ申シトイフ也(日本書紀)古キ賭弓
ノ圖ニ鞞ハキシ人畫キシヲ見シニマコトニ腕ノ上ニ宍ノ生フル形ノ如クニハアリケリ鞞ノ字ハ韻書等ニモ見エ

ズ源順モ鞞ノ字楊氏漢語抄日本紀等ニハ見エタレド本文イマダ詳ナラズトイヒケリ又蔣飭ガ切韻ノ鞞ハ臂ニ在
リテ弦ヲ避クル具也トイヘルヲ引キテ止毛ト訓ジ又捍ニモ作ル也毛詩ノ註ニイハユル拾ハ途也禮ノ弓矢圖ニイ
ハユル途ハ臂鞞朱ノ韋ヲモテコレヲツクルトイフ説ナド引キケリサレバ御臂ニハキ給フトイヒ御腕ノ上ニ生フ
ル宍ノ鞞ハキ給ヘルニ似タルナドイフ事順ノ説トハ合ヒタリシカルニ鞞ハ鞞ノ事也トシルセル物アリ(王代一
覽)心得ヌ事ナレドシカルベキ人ノ説ナレバイカナル據カアリケン又順ノ倭名鈔ニ鞞ノ外ニ又射鞞ノ字ヲ出ダ
シテ説文ノ射臂沓也トイフ説ヲ引キテ和名多末岐一ニイハク小手也ト注シケレバ鞞ト鞞トハ其用ハ同ジケレ共
其ノ制ハ異ナル物也サレバ又鞞スナハチ弓小手也トイフ説モイカアルベキ説文ヲ按ズルニ鞞ハ古人以韋鞞
袖取ニ其便執事也トアレバ倭名鈔ニ見エシ射鞞一云小手也ト云フ物ハスナハチ俗ニ云フ弓小手トイフ物ナル
ベシ鞞ノ字讀ミテ太沼岐トモ云フ舊事記ニ饒速日尊ノ弓矢手貫ナド見エシ其ノ手貫ト云フ物即チ此ノ物ナルベ
シサラバ今ノ弓小手ト云フ物神ノ世ヨリノ遺制トゾ見エタル世ニイハユル弓小手ハ騎射ノ時ニサス事也其ノ制
ハ精好ニ裏打タルヲ本トス或ハ絹スハシナドヲ用ヒシ事モアリ緒ハ菖蒲草ニ條ヲ用フ指懸ノ緒アリ(又指ヌキ
トモイフナリ)又籠小手トテ綿入レタル宿老ノ人ナドハ冬ノ比小袖ノ上ニサス事モアル也又籠手トハカクベ
カラザル事ニヤフルキモノニハ皆小手トコソ見エタレ

令ノ武官ノ禮服ニ錦ノ行騰^{ハカキ}アリ股脛ヲオホヒ衣ヲシテ飛揚セザラシム物也ト註セリ順ノ倭名鈔ニハ行旅ノ具ニ
載セタリ釋名ヲ引キテ行騰ハ行騰也脚ヲ裏ミテ跳騰スルコト輕便ナラシムベキ物ナリト注シヌ古ハ錦ヲモテ作
リテ武官ノ禮服トセシニ順ノ比既ニ行旅ノ具トノミナリシナリ進士志定茂ガ有馬ノ湯へ行クトテ行騰ヲ人ニカ
リテハカムスベ知ラザリシ事著聞集ニ載セタレバ承元ノ比迄猶シカゾアケルサレド武士ノ騎射スル時ハ必ズ

ハキシ物也豊後守中原高忠ガ聞書ニ昔ハ今ノ人ノ上下着ルヤウニ衣裳ニモハキケリサレバ何事ヲモセヨ行騰ハ
 キテセシホドニ今ニ笠懸小笠懸流鏑馬又ハ獵スル時モ式々ノ時ハ皆ハク也ト見エタリ鎌倉殿ノ時御家人等ガ御
 弓矢ナド進ラスル時ニハ御行騰ヲモ副ヘテ進ラス賜ハル時ニモカクゾアリケルオモフニ古ノ禮服ト後代ノ物ト
 ハ其ノ名ト其ノ用トハ同ジケレド其ノ制ハ異ナリシニヤ武士ノ行騰ハ皆鹿ノ皮ヲ用ヒシ也夏毛ヲ用フル事定マ
 レル式也秋フタ毛トワリアハセニスル事モアリシ塗行騰トテ漆ニテ塗りタルモアリ又ソレヨリ後代ニハ或ハ熊
 皮或ハ豹虎ノ皮ナドヲ以テワリ合セニシタルモアリ緒ノ革ハ菖蒲草ヲ本トス黒皮フスベ皮ナドヲバ晴ノ時ハ用
 ヒズ葦目トメ沓ゴミノ緒ナドイフアリ足利殿ノ時御所ノ御行騰ノ緒ニハ紫草ヲ用ヒラレテ裏ニハ色々ニ染メ
 タル綾唐ノ織物ナドヲウタレシ又裏ウタレヌヲモメサレシトナム又神事ニ用フル行騰ハ其ノ制スコシク異也又
 沓モ歩射騎射トモニ鼻高ヲ用ヒシトイフ高忠ガ説ニ昔ハ晴ノ時ニハトモ皮ノ沓ヲバハカザリシ由見エタリ
 弓袋ノ事スデニ延喜式ニ見エタリ倭名鈔ニモ説文並ニ唐式ヲ引キテ此ノ物ヲ載セタリサレド異朝ニテ韃トイフ
 物ハ我が朝ノ制ニ同ジカラズ三禮圖六經圖毛詩圖等ニ見エタリ我が朝ニシテ古ハ武士ノ事アル時ニ必ず弓袋指
 ヲ具シケリ年中行事圖ニ檢非違使ノ下部等各其ノ主ノ冑着テ袋ニセシ弓ドモ捧ケシト見エテ其ノ餘後三年合戰
 圖西行法師卷物ナド云フ物ドモニ此ノ儀見エタリ又鳥山二郎重忠白旗白弓袋ヲサ、ゲテ前右兵衛佐殿ノ御陣ニ
 參リシナドイフ事モ見エタリ(源平盛衰記ニ)シカルニ世ニハ此ノ物鎌倉殿上洛ノ時ヨリ始マレリ又袋ニスベキ
 弓殊ニ大事ノ物ナリナド申シ傳フル歟(八張弓ノ中世平弓トイフヲ袋ニスベシトイフ歟)誤レルニ似タリ建久六
 年ノ夏入洛ノ日御弓ノ袋指一騎具セラレシ由東鑑ニシルセルナドヲ見テカクハ傳ヘ誤レルナルベシ弓袋ノ式モ
 家々ニツタフル故實同ジカラヌ歟今ハ大ヤウ水色ニ紋ヲ繪カクニヤ古ニハ其ノ色定マレルニモアラズ源氏催促

シテ平家ヲ亡シ奉ラムトテ白旗白弓袋ニナリ返レルト云フ事源平盛衰記ニハ見エシソノカミ源平兩家ニ屬セシ
 武士ノ旗弓袋ノ如キモ各兩家用フル所ノ色ニシタガヒシニ源氏スデニ滅ビ平氏榮ユルニ及ビテハ國々ノ武士等
 コトノク赤キ色ヲ用ヒシニ源氏又兵ヲ起スニ及ビテハ皆白キ色ニナリ返レルニゾサレバ弓袋ノ色定マレルニ
 ハアラズ
 弦袋ノ事兵士每人弓一張弓弦袋副弦二條ヲ自ラ備フベシト軍防令ニ見エタリ倭名鈔ニハ唐式ノ諸府衛士弦袋
 トイフコトヲ引ケリ源平盛衰記ニ見エシ長兵衛尉信連ガイヒシ所ハ弦袋トイフハ後ノ内侍所ノミカタチヲカタ
 ドレル也衛府ノ官ハ淺官ナレバ地下ニシテ奉公ヲ效サレバタ、人ニマギルベケレバトテ内侍所ノ御カタチヲ
 學ビテ弦袋ヲ賜フ左右兵衛尉赤皮左右衛門尉藍皮コレヲモテ侍ノ品ヲシルトゾ見エタル源義光ノ兵衛尉ヲ辭シ
 申シテ陣ニカケタリケンモ此ノ物ナルベシ信連ガイヒシトコロタシカナル據アリトハ見エテド今其ノ形ヲ見ル
 ニマコト神鏡ヲウツサレシナドモイフベキ物也コレ儲弦ヲ卷カナン料ナレバ世ニハ又弦卷トモイフニヤ堪囊抄
 ニ弦袋弦卷別ニワカチ出タセルハアヤマレルニ似タリコレヲ帶ムズルヤウヲモ今ハヨク知レル人多カラヌ歟
 日神背ニ負ヒ給ヒシ千筋鞆五百筋鞆饒速日命ノ天表トセシ步鞆天孫ノ降り給フ時諸部ノ神ノ負ハレシ磐鞆ナド
 皆神ノ代ニ聞エシ物ドモナリ延喜式ニ見エシ神寶ノ中ニ姫鞆蒲鞆革鞆等ノ制詳ニ見エタリ神代ノ遺レル制ニゾ
 アルベキ姫鞆ノ長サ二尺四寸上ノ廣サ六寸下ノ廣サ四寸五分^{ヤサ}矢刺ノ口方二寸九分檜木ヲモテ作り錦ヲモテ表ニ
 黏ジ緋ノ帛ヲ裏ニツク緒ヲ着クル事四所紫草ノ長サ二尺廣サ一寸三分ナルヲ緒トス蒲鞆ノ長サ二尺上ノ廣サ四
 寸五分下ノ廣サ四寸コレモ檜ニテ作り蒲ヲ編ミテ表ニツケ鹿ノ皮ヲモテ頂ニツケ丹ヲモテウラニ繪ガク緒ハ長
 サ二尺廣サ一寸ノ紫草ヲ用フ革鞆ノ長サ一尺八寸上ノ廣サ四寸五分下ノ廣サ一寸八分^{ツナグ}調布ヲ黏ジテ黒キ漆ヲモ

テ塗リ緒ツクル事上ニ同ジ其ノマサシキ物ハ見テド過ギシ頃太神宮ニ進ラセラレシ物ノ圖ヲバ見ツ其ノ繪ガキ
 シ所誤レルニヤ式ニ見エシ所ニ併セ考フルニ疑ハシキ事ドモアリ後ニ南都ニ赴キシ時法隆寺ニアル所ノ上宮太
 子ノ靱大安寺ニアル所ノ神功皇后ノ御靱ト云フ物ヲ見シニ是等ハ皆々式ニ見エシ所ノ制相合ヘリ大安寺ノ物ハ
 蒲柳ヲ編ミテ作レル也コレハ式ニ見エシ蒲靱ナド云フ物ニヤ(左氏傳ニ董澤之蒲トアルモ水草ニハアラズ蒲柳
 也蒲柳ハ倭名鈔ニ夜奈木ト云フ物ナリ)法隆寺ノ物ハ桐ノ木ヲ以テ作レリ織物ノ類ヲ黏セシガ剝落セシト見エ
 ズ緒ヲ着クル所所ニ綠青ヲ以テ葉ノ形ノゴトクナル物ヲ イロドリエガキ 彩盤シガノコリトマレリ(コレヲノ圖別ニ見エタ
 リ)世ニハ今モアル胡祿スナハチ此ノ物ノ遺制也ト云フニヤサレド倭名鈔ニハ靱ヲバ由岐ト注シ釋名ノ步人帶
 プル所ノ靱ト云フ箭モテ其ノ中ニ又スル也トイフ説ヲ引キ又靱ヲバ夜奈久比ト注シテ周禮ノ注ニ箠ハ矢ヲ盛ル
 器也唐令ニ胡祿二字ヲ用フ廣韻ニ胡箠ハ箭室也トイフ説ヲ引キテ靱トノフタツヲ分チ出ダセリ古ノ靱ヲ見
 ルニ其ノ制自ラ同シカラズ

古ハ箠ノ字ヲ用ヒテ夜奈久比トヨムコレスナハチ胡祿也(源順ノ説上ニ見ユ)今ハ胡祿ノ字ヲ夜奈久比トヨミテ
 箠ノ字ヲバ衣比良トヨム胡祿ニハ平胡祿壺胡祿ナドイヒテ木地螺鈿時繪螺鈿等ノ制アリ又狩胡祿トイフ物モア
 リコレヲハ衛府具足ナレバ征戰ノ具ニハアラザル歟鎌倉殿ノ比スデニ平胡祿ニ矢サ、ムヤウ丸緒ツケシヤウナ
 ド東國ノ武士ハシラザリシニ平家ノ侍監物太郎頼方ガ弟武藤小次郎資頼トイフモノ其ノ事ヲシレルヨシニテ罪
 エルサレテ調ヘ進ラセシ事東鑑ニハ見エタリ

箠ノ字古ハ夜奈久比トヨム中比ヨリシテ衣比良トハヨミシ也源平盛衰記ニ箠箱トモ箠トモカキテ衣比良トハヨ
 ミタリ此ノ物モトハコガヒシテ置作ラスル器ヲ見テ制出セルニヤ倭名鈔ヲ見ルニ箠箱ノ具ニアル箠箱ヲ衣比良

トヨミテ一名ヲ箠トモイフヨシ注シタリ矢ヲ盛ル器ハ其ノ制夜奈久比ニハ異ナル物也衣比良ニハ逆類トイフ物
 特ニ古キ制也韻書ニ箠ハ獸ノ皮ニテ作ルナドイフ説ニハアヒシニヤ柳箠竹箠等又古キ制也其ノ外ニ異ナル制多
 ケレド皆後ノ世ニ作り出ダセル物也凡箠ニ矢サ、ムヤウモ矢タバチセンヤウモ帶バムヤウモコト、ク其ノ故
 實アリ其ノ中ニモ箠ニサス矢ノ數ノ事十六モ廿五モサスベシ大箠ニハ廿八三十六六十四モサスナドイヘド九ツ
 モ十八モサシタル事フルキ物ニハ見エタリ(異本保元物語)大ヤウハサシタル形ノ方ナラムヤウニアルベケレバ
 十六廿五三十六ナドヲ本トスルカフルキ物共ニモ此ノ三ツノ數コソ多ク見エタレ但シ廿五サシタルニ限リテ廿
 四トイフ事イカナル故ニヤイマダ詳ナラズ一筋ヲバ必ズトメテ射マジキ物也ソレ故ニ實ハ廿五ナレド廿四ト
 ハイフ事也又其一筋ノ矢ヲ體ノ矢ナドイフ事ナリト世ニハイヒ傳フレド十六ニモアレ三十六ニモアレ一筋ノ矢
 ヲトメテ射ザル事ハ武士ノ家ニ傳フル故實也サラバ十六ヲモ十五トイヒ三十六ヲモ三十五トコソイフベケレ
 コレヲハアリノママニカゾヘイヒテ廿五ニノミ限リテ廿四トイヒテ其ノ一筋ハ射ツベカラヌガ故ナリトイハム
 ハ心得ラズ必ズソノイハレアリナマシ尋ヌベキ事也

羽壺トイフモノ空穂トカク事ヨノツチノ事歟此ノ外世ニ用フル字モ多カリ東鑑ニハ羽壺トシルセリ異朝ノ書ニ
 モ羽トノミイヒテ箭ノ事ニ用ヒシ事多シ又箭壺盧トイフ物ハ矢ヲ盛ル器ナレバ字ヲ用フルコトモ心アリテゾ見
 エル又其ノ制モ壺胡祿ニ遠カラズシテ羽ナガラニ盛ルベキ物ナレバ彼レ是レニツキテ羽壺ノ字ヲ正シトスベシ
 此ノ物ハモト源義家朝臣筥ノ宮ヲ見テ制リ出ダサレシヨシト部兼俱卿ノ説ニ見エタルガ(管鍵抄ニ)サモアリヌ
 ベシヤ陸奥前九年ノ戰ニ貞任ハウタレ宗任ハ降人ニ成リテ來リケレバ赦ルサレテ常ニ八幡殿ノ許ニ祇候ス或日
 物詣ストテ宗任ヲ具シテユク二人共ニ狩裝束ニツツホ負ヒテ馬ニ乘レリ廣キ野ヲ走ル狐射ラレシニ宗任馬ヨリ

下リテ其ノ矢取リテ進ラセタルヲソレヲシテウツボニサ、セラレシカバ他ノ郎等コレヲ見テアブナクモオハス
 ルモノ哉降人ニ參リタリトモ、トノ意趣ハノコリタルラムモノヲ脇ヲツラシテ矢サ、スル事ヤアルベキトカタ
 ブキ申シケリ又後三年ノ戰ノ始義家朝臣陸奥トテ武衛家衛攻メラル、ト聞エテ舍弟義光力合セムトテ兵衛尉ヲ
 辭シ申シ陣ニ弦袋カケテ馳セ下リシ時相摸國足柄ノ山ニテウツボノ中ヨリ筈ノ譜取り出シテ大食調入調ノ曲
 ヲ豊原時秋ニ傳ヘラレシナド云事モ侍リ(共ニ古今著聞集)サレバ此ノ物其ノ頃ハ既ニ出テ來タルナリ狩裝束シ
 テウツボオヘリトイフナレバ此ノ物モトハ狩ノ時山ニモアレ野ニモアレシゲミナドニワケ入ラン時羽ノ觸レテ
 ソコネザラン料ニ作り出ダサレシニヤ或説ニモトハカマド、イフ所バカリアリシヲ我ガ矢ノ數ヲ人ニシラセジ
 トテ穂トイフ物ツクリクハヘシカバ穂ツ、マム皮ニ定マレル式ナシトモイフ也(高忠聞書)狩獵ノ具ナラムニハ
 モトヨリ異體ノ物定マレル式モアラジ但シ古書ドモニ見エシ形ハ穂ト云フトコロ細クシテ今様ノ物ノ如クニハ
 アラズ或ハ黒ク色トレルモ竹ニテ組ミシ形モ鹿皮ニテ包ミシナドモ見エタリ世ノ人ノイヒ傳フルニモ八幡殿筈
 ヲイレラレン爲メニ此ノ物ニツ作ラレテ箭ノ矢十六筋ヲ二ツニ引キ分ケテ七筋ト九筋トヲサシテノドノ中へ筈
 ヲバ納レラレタリサレバ空穂ノ實トハ七筋九筋ヲイフナリトイフ事アリ此ノ説兼俱卿ノ説ニ少シク異ナレド始
 ヲリ穂トイフ物ノアリシ一ノ證ニハアル也但シウツボニ矢サス事九筋十一筋タル事ヨノツネノ事也サ、ムヤウ
 又故實アルニヤ又此ノ物ハ矢母衣トイフ物ヨリ出デシナドイフ事ハ尤信ジガタキ事也古キ平治物語ノ圖ノ中ニ
 矢母衣ナド云フベキ物一ツ二ツ見エタレド矢母衣トイフ物古キ物ニシルセル事イマダ見エズ(世ニ東山殿矢母
 衣作り出ダサレシナドイフカ)羽壺ノ制ニシテ特ニ大キク作りテ矢多ク盛ルベキモノ、ドヒヤウ、ツボトイフ
 アリ近代ニ出テ來シ物ニヤフルキ物ニハ此ノ物ノ事見エズ(世ニハ蟻川ノ家ニテ作り出ダセル物也トモ又豊臣

關白秀次公ノ作り出ダシシトモ申ス歟)大ウツボトイフ物ハ見エタレドソレハ腰ニツクベキ物也此ノ物ハシカ
 ハアラズ人シテモタスベキ物ナレバ大ウツボトイヒシ物ニモアラズ又其ノ文字モサダカナラズ(其ノ穂ノ形土
 俵トイフ物ニ似タレバカクハナツケシナドイフ今ハ弩瓢ナドカクニヤ弩トハ其ノ形ノ大キケレバ弩矢盛ルベキ
 トノ義ニテ瓢トハ其ノ形ノ似タルガ故也トイフ又行旅ノ具ナレバ道襪トカクナドモイフ歟此ノ物近代ニ出テ來
 シ物ナレバ然ルベキ文字モアラザルニコソ)矢籠ハ胡祿ノ異制ナルニヤ足利殿ノ頃獵場ノ供奉ニシラヤナグヒ
 ノ尻籠負フベキ由シルセル物アリ(三議一統)日神ノ負ハセ給ヒシ千箭五百箭ノ鞆ヲ矢籠也今ノ平胡祿也ト注シ
 タルアリ(神代抄)鞆ト云フ物今ノ平胡祿也ト云フ事ハイカマアルベキ筑紫人ノ古代ノ物也トテ矢ヲ盛ル器ノ譬
 ヘバ羽壺ノ鞆ト云フ所ノ如クナルヲ竹ニテ編ミ成シタルヲ贈リキ其ノ物ノ名ハサダカナラチド其ノ制ハ竹籠也
 平家物語ニヤブレ腹卷ツ、リキ山ウツボ竹籠ニ矢少々サシテナドカキタレバ竹籠トイフ物モ射獵ノ具ニヤアリ
 シ其ノ頃ニ矢籠ナドイフ物ハ聞エズ玄惠ノカキシトイフ庭訓ニ見エタレバ鎌倉ノ代ノ末ニハスデニ此ノ物アリ
 キ但シソレハ尻籠トカキタリ下學集藝抄等モ又同ジイカナルイハレアルニヤ矢筒トイフモノハモロコシニテ
 箭筒トイヒシ物ノ類ナルベシ足利殿ノ代ノ物ニハ其ノ名見エタリ弓立被革ナドイヒテ矢籠ニ具シテ人ニモタス
 ベキ物ノ出テ來シハ近代ノ事也矢箱又同ジ但シ矢ヲ箱ニ納レオキシ事延喜式ニ見エタレバ昔モ箱ハアリケレド
 今ノ制ニハ同ジカルベカラズ

東鑑ノ中ニ調度懸トイフ事多ク見エタルハ弓箭ノ具ノ名ニハアラズ將軍家ノ御弓箭ヲ帶スル役ニ候スル事ヲイ
 ヒシナリ或ハ懸ニ御調度トモ或ハ御調度トモ或御調度懸トモシルシタリ凡二十ノ箭ヲモテ廿人ノ敵ヲ射トラム
 ズル者ニアラズハ調度懸ノコトカナフベカラズト右大將家常ニノタマヒシカバ此ノ役ニ候ゼン事當時ニオイテ

最勇士ノ面目ニ備ヘシトモ見エケリ(スナハチ東鑑ニ)サレバコノ役ニ候ゼン人公家ノ隨身ニヤ準フベキトイフ人アリサモアリヌベシヤ建久元年十一月九日鎌倉殿院參ノ日ハ中村右馬允時經御調度懸ノ役ニ候ヌ明クル十二月一日右大將拜賀ノ時ニ隨身ヲ給ハリテ右府生奏象平ヲ具セラレシ日ハ調度ヲ懸クル人ヲバ具セラレズ大將ヲ辭シ申シ隨身ヲ還サレシ後同日院參ノ日ハ又初ノ如ク右馬允時經其ノ役ニ候シタリキ又此ノ役ハ將軍ノ御弓箭ヲ帶スル事也トシル事ハカノ建久元年十一月七日入洛ノ日鎌倉殿ミヅカラ弓箭ヲ帶シ給ヒシカバ此ノ役ニ候ズル人ヲ具ラセル、ニ及ハズ同日院參ノ日ハ直衣ニテ參ラレシカバ右馬允時經ニ入洛ノ日メサレシ水干ヲ給ハリテカノミヅカラ帶シ給ヒシ所ノ弓箭ヲ帶シテゲリ又弓箭ヲ調度トイフベキ事凡ハ戎具弓箭ヲモテ第一トスルコトナレバ將軍ノ御調度トサシイハムハ此ノ物トコソ知りテケレ此ノ外ニ又調度懸トイフ事アリ彼ノ十二月九日院參ノ日御調度ヲ懸ケシハ時經其ノ次ニ布衣ノ侍六人宇都宮左衛門尉朝綱八田右衛門尉知家工藤左衛門尉祐經島山二郎重忠梶原平三景時三浦十郎義連各調度懸ヲ具スト侍ルコレ也是レハ烏帽子懸ノ事ヲイヘル也タ、シ柱ニアル烏帽子懸ノ事ニハアラズコレハ一寸マダラニ白ク黒クウチマシヘタル組ノ刀ノ緒ヨリホソキヲ烏帽子懸ニスルヲイフ之ヲウチカケシヲ世ニハ小結ナドモイフ事ニヤ調度懸ノ役ナラムニハ度ノ字吳音ニヨブ烏帽子懸ノ事ナラムニハ度ノ字ノ音ヲ豆トヨブ事ニテ侍リ近世ヨリ弓矢ノ具ニ調度懸ト云フ物出テ來タリコレハ足利殿ノ代ヨリ出テ來シ物ノ由イフ人モアレド弘安禮節ノ武器ノ中ニ調度懸小調度懸ノ二ツ見エタリ調度懸ニハ弓六張矢六手山鳥ノ尾ニテハイダル矢頭也ト注セリ其ノ制ヲ注セル所サダカナラズ其ノ圖ハ雲圖抄ニ見エタリトアレド今ノ世ニアル雲圖抄ノ中ニハ見エズ又小調度懸ハ出陣入陣ノ時將帥コレヲ備フ弓一張征矢一手ノ由注セリコレモ其ノ制サダカナラズ各中柱ノ長八尺ナドイフ事アレバ今世ニアル物ニハアラズ真相ガ畫ガキシ東山

殿御飾記トイフ物ニ御調度懸ノ圖見エタリ其ノ中ニ今世ニ用フル式モアリキカ、ル事ニテ足利殿御時ニ出デ來シナドモイフ事ニヤオモフニ今ノ式ハ足利殿ノ比弘安ノ比ノ制ニヨリテ改メ作ラレシ物ニゾアルベキ又弓矢臺トイフ物モ古ニ御弓臺御矢臺ナドイヒシ物ノ制トモ見エズ(江家次第ニ見ユ)今ノ調度懸ノ式ヨリ出デシ物トゾ見エタルコレモ又近代ノ物ナルベシ又百矢臺トモナヅク但シ矢ヲサ、ム事百筋ニカギレルニハアラズ多クサシツベキ物ナレバカクイフニゾ矢屏風又近代ノ物ナリ定マレル制モアルベカラズ

的ハ仁德天皇ノ十二年高麗國ヨリ鐵ノ盾のナド獻ラセシニ的臣ノ祖盾人宿禰カケズ射トホシケレバ的戶田ノ宿禰ノ名ヲ賜ハリシト見エシゾ(日本書紀)コレ我が朝ニ的アル始ナルトイフ人モアレドコレハタ、國史ニ見エシ始ニコソアルベケレ凡ハ昔ヨリ射ルニ射候ナカランニハイカデ其ノ藝ヲ習フベキ古ノ制騎射ノ時ハ其ノ徑一尺五寸ノ的ヲ射ル歩射ノ的ハ徑リ二尺五寸ニシテ的ヲ去ル事四十六步ニシテコレヲ射ル槩桁廣サ六尺高サ七尺山形ハ方二丈簀子ヲモテ之ヲ作ル凡大射ニ五位已上ノ箭的皮ニ激シ觸レナムヲモ猶中レル例トストイフ事式ニ見エタルバ(延喜式)古ハ異朝ノ制ノ如クニ革ヲモテ的ツクリ鶴作レルニヤ年中行事ノ繪ニ畫キシ所ヲ見ルニスベテ近世ノ制ニハ同ジカラズ後代ニ至リテ的革ト(又布革トモイフ)イフモノハ古ノ山形ノ事ヲイフソレモ簀子ヲモテハ作ラズクハシキ事ハ下ニシルス的モ後代ノ制ハ檜木ノ薄板ヲタトヘバ檜垣クムヤウニ組ミテ圓ニシテ表ヲバ紙ニテ張リテ胡粉ヲ塗リテ墨ヲモテ圓ナルマ、ニ畫ガク中ニ當レル所ノ白カラムニモ黒カラムニモコレヲ鶴ト云フ也古ヨリカクハアレド式ニハ異朝ノ文字ヲ用ヒ的皮トハシルサレシニヤ但シ異朝ノ制ハ的ノカタチモ鶴ノカタチモ方ニシテ五色ヲ以テ畫ガク事也我が朝ノ制ハシカハアラズ丈夫之得物矢手挿立向射流圓方波見爾清潔之下萬葉集ノ歌ニモ見エタル射的ヲ萬斗トイフ事モソノ形ノ萬斗加ニ見ユル故ナルベシ其ノ比ヨリナホ

古ハ射的ヲバ以久波トコソイヒツレバ盾人宿禰ニ的戶田宿禰トイフ名ヲ賜ヒシ也
 後世ニ至リテ武士ノ射ル歩射ノ的大的トイフハ徑五尺二寸ニモ又三尺五寸ニモスル弓場ハ三十三杖ニハダナレ
 バ物ノ間ハ三十一杖也式ニ見エシ所ニ大ヤウタカハズ又廿三杖ニモハダ也半的トイフハ五尺二寸ノ半ナレバ二
 尺六寸コレ又式ニ見エシ歩射ノ的ニ相似タリ凡的ニ繪カクヤウ曲尺ノ定ニシテ三分一ノツモリ也コレラノ的ヲ
 バ鶴ヲ白ク繪ガクベシ的ノ表ノ方上ト左右ト三所ニ蟬トイフ物ヲツケテ白キト水色トノ布ヲ繩ニシタルヲ二筋
 的ノ裏ノ方ニテ結ヘバ繩ノ端ノ三ツニナルヤウニシテ彼ノ蟬ノ緒ニ結ビツケテ其ノ繩ヲ的串ニ結ヒツクル事モ
 又上ト左右ト三所也的串ハ堅ニスル料二本横ニスル料一本檜木ノ徑リ二寸バカリナルヲ九クモ稜ハツアルヤウ
 ニモケヅリシロキマ、ニテ用フ堅ハ地ヨリ上六尺六寸土ニ入ル事一尺五寸許相去ル事七尺許ニシテ雙植ツ横ハ
 長サ七尺八寸堅ノ二本ノ上ニ横タフル也是レ古ノ梁桁トイフ物ナリ皮ハ水色ノ布長サ的串ノ高サヨリ長カラ
 ンホドナルヲ六幅ヲ用ヒテ幔ノヤウニ縫フ是レ古ニイハユル山形也延喜式ニハ篋ノ子ヲモテ作ルトアレド倭名
 鈔ニハ山形ハ俟後四丈許ニシテ紺ノ布ヲ張リテ矢ヲフセグ物也ト見エタリサレド近代ノ定ハ的ヲ去ル事一杖ニ
 シテ張ル事也又コレヲ布皮トモイフコレヲ皮トナツクル事ハ倭名鈔ニモ見エタリ凡神ニ百手射テマキラスル時
 ノ的ヲバ鶴ヲ黒クス又其ノ時ノ弓場ハ廿三杖物間ハ廿一杖ノ定ナルベシ
 笠懸ノ的ハ檜木ノ厚サ五六分ナルヲ裏板トナシテ表ヲバ牛ノ革ヲ張リテ革ト板トノ間ニ綿ヲ入ル大サハ徑リ一
 尺八寸畫カ、ムヤウハ中ニ當ル所ヲ黒クス但シ是レヲバ鶴トハイハズ連錢トイフ事也上ト左右ノ下ト三所ニ黒
 革ノ乳ツケテ青キ白キ黒キ三色ノ布ヲ繩ニシテ的串ニツクル事大的半的ナドノ式ノゴトシ串ハ大的ノ串ニ准フ
 レバ横モ堅モ短ク的皮モ大的半的ノ式ニカハラズ只其長ノ短キ也

小笠懸ノ的ハ其ノ形方也方ナル徑リ四寸厚サ一分許ノ檜ノ木ノ板ヲ以テ作レルヲ側テ串ニ挿ム串ノ地ヨリ上ニ
 出ヅルコト一尺二寸串ノ制ハ藤ニテモ檜木ニテモケヅレルヲ黒ク塗ル的挿ム所ヲバ口金トイフ物ニテセムル也
 裏ノ方ニテ板ヲ刻メル所ニツ有ルベシ
 流鏑馬ノ的モ方也其ノ徑リ一尺八寸串ハ三尺五寸又ハ五尺二寸ニモスル上三寸六分許ガ間ニ的ヲ挿ミテカウヨ
 リニテ二所ヲトツル也大ヤウハ小笠懸ノ的ノ式ノ如シ
 草鹿ノ的ハ鹿ノクビモダゲタラン形ノヤウニ檜木ノ板ヲモテ作レルヲ裏板トナシ牛ノ革ヲ表ニナシテ革ト板ト
 ノ間ニ綿イレテ縫ヒ合ハス徑リ四寸ノ矢アテノ星アリ其ノ外ニ大小ノ星廿三アルベシ是等ノ星ヲバ皆白ク彩ド
 リノコシテ、^ハ栗色ニ塗ル白キ黒キ青キ三色ノ布ヲ繩トナシタルヲ二筋裏ノカタニ斜ニウチ、ガヘ四ツノ乳
 ニトホシテ串ニ結ヒツクル事モ四所也串ノフトサハ大的ノ串ノ半ナルヲ横ハ五尺堅ハ地ヲ出ヅル事三尺七寸許
 ケツルモ塗ルモ笠懸ノ串ノゴトクニアルベシ的皮ハ布ニ幅ヲ用フ弓場ハ十三杖ニハダ也或說ニ鎌倉右大將家富
 士野ノ狩ニテスガウ弓手ノ物ヲ射ハツシ給ヒテ小笠原二郎ニ尋テラレシカバ馬ト鹿トノサクリヲ打チテ見ルニ
 何レモ十一杖ゾアリケルコレハイケル鹿也今ノ稽古ハ死セル物ナレバトテ九杖半ニナサレシ也本説ハ十一杖也
 トイフ事アリ(三議一統)此ノ說ノゴトクナランニハ草鹿トイフ事ハ富士野ノ狩ニ始マレルヤウニモ聞ユレドサ
 キノ年建久三年八月廿日幕府ニテ草鹿ノ勝負アリシ事東鑑ニ見エタレバ此ノ狩ノ時ニ始マレルニハアラズ又此
 ノ狩ノ時ニ鹿射損シ給ヒシコト東鑑ニハ見エズ工藤庄司景光ガ無双ノ大鹿ヲ射損ジテ景光十一歳ノ時ヨリ此ノ
 カタ狩獵ヲモテ業トシ身既ニ七旬ニ除レリイマダ弓手物獲ザル事アラズシカルニ今心神惘然トシテ甚タ迷惑ス
 コレ山神ノ駕シ給フ者ニヤ運命縮リ訖ヌト存ズ後日ニ人々思ヒ合セラルベシト申シニ其ノ夕ヨリ景光忽ニ

病ヲウケシカバ御狩トハメラルベシヤ否ノ事僉議アリシ由ハ見エタリ

圓物ハ徑リ五寸ヨリ八寸ニ至ルベシ其ノ制ハ笠懸ノ的ニ大ヤウタガハズ綿イル、事イカニモフクラカナラムヤ
ウニアルベシ連錢ハ八寸ノ徑リナランニハ四寸ヲ準トシテ串ニツケンヤウモ皆笠懸ノ的ノ式ニ同シ物間ハ九杖
ナリ但シ的綱ハ紅ナル絲ノ四ツ組ナルヲ用フル事モアリ又布利々々トイフ物モ同シ制ニシテ猶少シキナル也徑
リ三四寸ノ間ナルベシ綱ハ一筋ヲ兩ノ乳ヨリ引キトホジテ串ニツク

小的ハ定マレル事ナシ徑リ一尺二寸ヨリ下ツカタイカホドモアルベシ一箱ヲクミイレニハ一尺二寸一尺八寸
六寸五寸スベテ五ツ也トイフ繪カ、ムヤウハ大的半的ナドノ式ノ如クニテメグリニハ槍垣ヲ繪ガク是古ノ制ヲ
存センガタメナルベシ上ト左右ノ下ト三所ヲ串ニ挾ミテタツ其ノ徑リノ少シキナルニシタガヒテ或ハ二所モ或
ハ一所モ挾ムベシ裏ニ文字ナドカク事ハ古ニハナカリシ也又神ニ射テマキラスベキ時ニ繪カ、ム様モ大的ナド
ノ如シ但シ槍垣アラン所ニ七五三ノ筋ヲ引ク也又射ツケノ小的トイヒシハ稻ノ藁ヲ猫ガキトイフ物ノゴトクニ
クミタルソレヲ卷キテ三所ニテ束ヲ結ヒ長サ三尺許口ノ徑リ二尺其ノ前ノ方ニ小的ヲカケテ後ノカタニハ的皮
ヲ張ル(ツグラナドモイフニヤ)ドウユビナドイフ物モ其ノ臺モナベテ世ニ用フル物ナレバコ、ニシルサズ(卷
ワラナドモイフニヤ)

三ツ的ハ徑リ一尺五寸ナルト一尺ナルト五寸ナルトヲ串ニテ三所ヲ挾ミ合セテタツ昔五月五日ニ左右ノ近衛ノ
射タリシ六的トイフ物ハ此ノ式ニハ異也又中頃ヨリ八的ナドイフ物モ此ノ式ニハアラズ其ノ傳フル所ノ説一定
ナラズ又シカルベキ物ニ見ル所ナケレバコ、ニシルサズ

作的ノ再拜トイフモノ檜紙ヲ三枚カサテテ廣サ一寸ヅ、ニタチテ三ツニ折リテソノ中ヲ串ニ挾ム串ハ檜木ニテ
作ル長サ一尺二寸徑リ七分許ニマロクモ八稜ニモケヅリ塗ル事ヲ得ズ又ハ藤ニテモ作ル犬ノ時ニ用フルモ大ヤ
ウ異ナラズ

本朝軍器考卷四終

本朝軍器考卷五

弩 砲 類 筑後守從五位下 源 君 美彙輯

本朝ノ弩ハムカシ神功皇后ノ制出サセ給ヒシ所ナリ大唐ニモ弩ノ名アレド我ガ國ノ器ノ効利ナルニシカザルヨ
 シ善相公ノ封事ニハ見エタリ(本朝文粹)サレバ令ニモ軍國ゴトニ強壯ナラン者二人ヲ定メテ弩手ニ分チ充テ衛
 士モ事故ナカラン日ハ當府ニテ發弩拋石ヲ教ヘ習ハシメヨト見ユ其ノ制ハ弩ト云ヒ手弩ト云フニ式アリ(三代
 實錄)又世々ノ格式ヲ見ルニ陸奥出羽太宰府ハイフニ及バズ一岐對馬長門因幡伯耆出雲石見等ノ邊要ノ地ニハ
 弩師ヲ置カレテコレヲ教ヘ習ハシメラル其ノ後肥前肥後伊豫等ノ國々ニモ望ミ請フニヨリテ弩師ヲ置カルシカ
 ルニ延暦ノ十六年永ク太宰府ノ弩師ヲ停廢セラレシヨリ其ノ器ノミ有リテコレヲ善クスルモノナカリシカバ弘
 仁ノ比ホヒ再ビ弩師ヲ置カルコレ彼ノ府ノ請ニヨル所也ト見エタレバ(弘仁格ニ)モロク邊要ノ地ノ弩師停廢
 セラレシ事延暦ノ詔旨ニヤアルラン承和ニモ鎮守府ノ請ニヨリテ再ビ弩師置カレシトゾ見エタル(貞觀格)貞觀
 元慶寛平ノ比ホヒ隱岐越後越中能登佐渡等ノ國ニモソノ望ミ請フニヨリテ新ニ弩師ヲ置カルイクホドナクテ延
 喜ノ比ニ及ビテ彼ノ相公ノ封事ニハ其ノ才伎ノ短ク機弦ヲ用フル所ヲ知ラザルヨシナダキ申サレケリサレド陸
 奥前後十二年ノ戰ノ中ニ弩ヲ發シ防ギ戰ヒシナド見エタレバ此ノ比迄ハ猶此ノ物アリキ其ノ後ノ代ニ至リテハ
 サバカリ他ノ國ヨリスグレタル戎ノ器アル事ヲダニシル人マレナレバ其ノ制ハナホ傳ハラズ近キ比ハ異朝ノ制
 ニ倣ヒシモノ世ニ見エ侍レド(諸葛弩ノ類也)其ノ制委シカラヌニヤ未ダ其ノ効利ナル事ヲ見ズ
 我ガ朝ノ石弓ノ制イヅレノ比ニヤ始マリヌラン推古天皇ノ二十六年ニアタリテ隋ノ楊帝ト申シシ帝二十萬ノ軍

ヲ與シテ高麗ノ國ヲ征シ給ヒシニ高麗ノ軍ヨクフセギ戰ヒシホドニ隋ノ軍遂ニヤブレヌ今年秋高麗ノ王彼ノ捷
 ヲ我ガ朝ニ獻ラス俘虜二人鼓吹弩拋石等ノ物ニ土物駱駝一匹ソヘテマキラセタルゾ此ノ物ノ國史ニ見エシ始ナ
 ルベキノノ後天武天皇ノ白雉十四年四方ノ國ニ詔シ給ヒシニ大角小角鼓吹幡旗及ビ弩拋石ノ類ハ私ノ家ニ存ベ
 カラズト見エタリ軍防令ニモ衛士事故ナカラン日ハ弩ヲ發チ石ヲ抛ツ事ヲ習フベシト見エシニ義解ニハ抛トハ
 擲トイフガゴトシ機械作りテ石ヲ擲チテ敵ヲ撃ツモノ也ト注シキコレ則チ異朝ノ砲車ナドイフ物ノ類ナルベシ
 陸奥前後十二年ノ戰ニモ石弓ヲ發チテフセギ戰ヒシ事アマタ所ニ見エテ八幡殿ノ薄金トイフ冑モソノタメニク
 ダカレテウセケリ後ノ世ニオヨビテハ其ノ機械ノ制モ詳ナラヌ事ニナリユキシニヤ此ノ物ノ名モ聞エズワヅカ
 ニ承久ノ時ニ越後國市降淨土マタ觀應ノ比駿河ノ國薩埵山等ノ合戰ニ此ノ物ノ事見エタリ其ノ後ハタダ城ノウ
 チニ石棚ナドイフモノ搆ヘオキ石ツミタクハヘテカタキノ攻メ近ヅク時ニ其ノ石ヲマロボシオトス事ノミニゾ
 ナリケル

本朝軍器考卷五 終

本朝軍器考卷六

火器類

筑後守從五位下 源 君 美彙輯

火箭ハイニシヘヨリアリケンモシラズ國史ニ見エタル事ハ欽明天皇ノ十五年内臣等ヲシテ百濟ヲ助ケテ新羅ヲ伐タセ給ヒシ時ソノ函山ノ城ヲ攻メシニ筑紫ノ物部莫奇委沙奇ト云フモノヨク火箭ヲ射タリケレバツヒニ其ノ城ヲ燒キオトシツト云フ事百濟ノ王明ガ獻リシ表ノウチニ見エタリ彼ノ物部ノ姓名ヲ其ノ國ノ文字ノ音ヲモテウツシタレバ我が朝ニシテハイカニ云ヒケン人ナルヲモ又其ノ箭ノ制モシラズハルカニ世ヲヘダテ、源義仲ノ法住寺殿ヲ攻メマキラセシ時今井四郎兼平鳴鏑ノ中ニ火ヲ入レテ射タリシニ其ノ矢御所ノ棟ニタチタリケルガ折フシ風ハゲシク火モエ上リテ官兵忽チニ敗レキコレハタゞ鳴鏑ニ火入レテ射タルナレバ異朝ノ火拓榴箭ノ類ニ似タレド其ノ比ハイマダ火藥ナド用フル事ハシレルニハアラズ今ハ銃砲ノ制ニ倣ヒ藥ヲモチヒテ或ハ箭飛ビテ火モエ出ヅルヤウニモ或ハ多クノ箭一度ニ飛ビ去ランヤウニモシタルモノドモ出來ヌ異朝ニハソレヲノ制コトニオホカリ

世ニ鐵砲ト云ヘル物ハ龜山院御在位ノ時文永ノ比ホヒ蒙古襲來ノ日ソノ名始メテ聞エテケリ(八幡總童訓太平記等ニツマビラカナリ)サレド此ノ物今ノ代ノ制ニハアラズ宋ノ代ニアツル旋風單梢虎蹲ナド云フ火砲トコソ見エタレナベテ世ニ今アル物ノ西洋ノ國ヨリ來タレル始人々ノ傳アル所同ジカラチバイヅレガマコトナランモワキガタシマツ種子島ト云フ物ハ大隅國ヨリゾ始マリタルタトヘバ大隅國ヲサル事十八里ガホド二一ノ島アリ其ノ名ヲ種子島ト云ヒケリ後奈良院ノ御在位ノ時天文十二年八月廿五日彼ノ島ノ西村ト云フ浦ニ異國ノ人百餘人バカリ乘リタル大船一艘來リヌ其ノ人皆鼻タカク目フカクシテ物云フコトキ、辨フベクモアラズソノ中ニ大明ノ人五峯ト云フモノ一人ゾアリケルコレハ我が朝ノ人ニコトバモ文字モカヨフマジキ事ヲシリテ大明ノ人ヲキテ來タレルナリケリ此ノ村ノ長ニ織部亟ト云フモノツキタル杖ニテ沙ノ上ニ物カキテイツコノ人ノナニエニカ來リヌラント云フニ彼ノ五峯出テムカヒテコレモ物カキテコレハ西南ノ番夷ノアキモノ、タメニ來タレル也トゾコタヘケルサラバコ、ヨリ十三里ガホドヲヘダテ、赤尾木ト云フ津アル也カシコニコソ此ノ島ノ主ハオハスレ船ヲバカシコニヨセヨトヲシヘテ島ノ主ノモトヘ此ノヨシヲツグ此ノ島ヲバ種子島ノ時堯ト云フモノ領シテケリソレガ父ヲバ惠時ト云ヒ子ヲバ久時ト云フ同ジキ廿七日カノ船ヲ赤尾木ノ津ニムカフ彼ノ船ノ長二人アリヒトリヲバ牟良叔舎ト云ヒヒトリヲバ喜利志多佗孟多トゾ云ヒケルカレラ船ヨリ上リテ遊フトテ岸ノ額ニ方ナル小キ的ヲテ、鐵ニテ作レル火器ノ二三尺バカリナルヲ手ニシテ藥ヲ以テ鉛ノ彈丸ヲ飛スルニ百タビ發チテ百タビマデニアケルヲ島ノ主アヤシト見ルマ、ニヤガテソノ伎ヲマナビ試ムルニソノ的ニアタラチド又遠カラズ悦ブ事カギリナク價ヲ惜マデソノ器ニツマデ買得テソノ火藥ノ方劑ヲバ郎等篠川小四郎ト云フ者シテマナバセタリイホドナクテ紀伊國根來法師杉坊ト云ヒシガコノ器モトムトテハルバルカノ島ニタツチ下リシカバ時堯ソノコ、ロザシノ切ナルヲ感ジテ其ノ一ツヲバ分チ與ヘツカクテ時堯鍛冶ノ工ドモ集メテカノ制ニ倣ヒ作ラントシケレドソノ筒ノ底フサガンスベヲ知ラチバサテヤミアケケノ年カノ番夷ノ船又同ジキ島熊野浦ニツクソノ中ニ此ノ器作ル工一人アリシカバ清定ト(字金兵衛ト云ヒシトゾ)云フ工シテマナバセケルニコソ其ノ底ノ右ニ轉ラセバ出デ左ニ轉ラセバ入ル事ヲバシリテケレンノ後此ノ器アマタ作り出ダシテ家子郎等々ニ學バセケルホドニソノ藝ニ堪能ノ證モスクナカラズ和泉國界ノ浦ノ商人又三郎ト云フモノ(橋屋ト稱スト云フ今其

ノ子孫長崎ニ住ス藥師寺又三郎ト云フ此レナリ)彼ノ島ニ來リトマル事一二年此ノ伎ヲマナビ得テ歸リケルヲ人皆ソノ名ヲバヨバデ鐵炮又トノミ云ヒケリコレヨリシテ畿内畿外ノ國々此ノ伎ヲマナブ事ヲシリス又ソノ比ホヒ大明ニ行ク進貢船ノウチ第三ノ船風ニハナサレテ彼ノ島ニツキ便ヲマツ明クレバ天文十三年纔ヲトキテ彼ノ國ニ至リ我が朝ニ歸ラントスルニ又浪風アラクカラウジテ伊豆ノ國ニ漂ヒツク此ノ船ノ中ニ久時ガ郎等松下五郎三郎ト云フモノアリテ此ノ器携ヘタリシニゾ坂東ノ國々ニモ又此ノ伎ヲ傳ヘ習ヒテケル(北條五代記ニハ北條ガ家ヘハ根來法師杉坊ガツタヘシ由見エタリ此ノ法師ハハジメ時堯ガモトヨリ此ノ器ウケ傳ヘシ人ナリ)此ノ器鐵炮トナツクル事彼ノ五峯ガク傳ヘシニヤ又彼ノ島ノ人ナヅケシ所ニヤサダカナラズトコソ南浦ガ文集ニハ見エタレ又異朝ニモ此ノ器アル事ハハジメ我が朝ヨリ傳ヘテゲレバ其ノ名ヲ倭銃トナヅク又鳥銃トモナヅクル事ハ林ヲウガチ飛ブ鳥ヲモ射落シツベキ物也トテソノ名ヲカクモイヒシ也又鳥嘴銃トモナヅケヌ其ノ制ハモト西番ノ波羅多伽兒國ヨリ出デタリ佛來釋古者トイヒシモノ豊後ノ國ニ傳ヘテ鳥銃一門ヲツクル其ノ價二十餘兩也キト大明ノ茅元儀ガ書ニハシルシヌ彼ノ南浦ガシルセル所ニハ大隅ノ國ニ來レル人イヅコノ國ノ人トイフ事サダカナラズタダ西南番夷ノアキモノスル人トノミ見エシガ異朝ノ書ニヨリテ見レバスナハチ波爾杜瓦爾ノ人也波羅多伽兒トイフ文字ヲカノ國ノ音ニヨメバ波爾杜瓦爾ト相同ジ又佛來釋古者トシルセルハ則チ南浦ガシルセシ牟良寂舍ガ事也其ノ文字ハ異ナレド此ノ國彼ノ國ノ音ヲ相通ジテヨム時ハ其ノ名ハ同ジ番夷ノ文字ハ本朝ニモ異朝ニモ通ハチバソレガイフコトバニツキテオノノ其ノ國ノ音ヲモテ文字ニウツセルガ故ニカク文字ハ異ナル様ニナリタル也サラバ彼ノ波爾杜瓦爾ノ人再ビ大隅ノ國ニ來レルノミニアラズ又豊後ノ國ニモ來リテ此ノ器ヲ傳ヘシナリ我が朝ニシテ九州ノ事シルセシ記ニモ享祿三年ノ夏南番ノ商船九艘豊後ノ府内ニ來リシニコレモ大明ノ人三官トイヒシヲ具シタリ國ノ主大友左衛門督入道宗麟保首座トイフ僧シテ文字ヲ通ズ彼ノ商人等數ノタカラヲ進ラセシウチニ二三尺バカリナル火器ヲ進ラス其ノ名ヲバ鐵砲トナヅケタリ其ノ後天文廿年同ジキ國ノ人來リテ石火矢ヲ進ラストイフ事見エタリ(九州記)サレド大友ガ家ニテ其ノ國ニ來レル異國ノ船トモノ事シルセルヲ見ルニ(大友記)彼ノシルセル所ニハ異也宗麟入道ノ世ニアタリテ天文十年七月廿七日大明ノ人豊後ノ國神宮寺ニ來ル其ノ船ニ乗レルモノ凡二百八十八人十二年八月七日同ジキ國ヨリ來レル船五艘十五年又佐伯ノ浦ニツク永祿年中ニ來レル事絶エズ其ノ後又天正三年ノ夏白杵ノ浦ニツク此ノ船ニノセ來ル所大象一ツ猛虎四ツソノ餘孔雀鸚鵡香貓等アリ又伽羅ノホダ狸々耕ノ二十間マデツキタルナドアリケリ明クル四年ノ夏南番國ヨリ石火矢來レリ同ジキ十二年宗麟ガモトヨリ大明ノ皇帝ニ使ヲタテマツル植田入道玄佐トイフモノヲ其ノ使ニ充ツ此ノ入道ハモト美濃ノ國ノ住人齋藤ノ何某トイヒシフル兵也ケリ此ノ使朝聘ノ禮畢リテタチマチニ重病ヲウケテ彼ノ國ニシテ死シタリノコルモノトモ我が國ニ歸ラントテステニ薩摩ノ沖ニ至リシニ風アラクナリテ梶ヲレ船クダケタスカルモノワヅカニ廿餘人サレド彼ノ國ノ皇帝ノ詔書並ニ賜物等ハ事故ナク達シヌトシルシタリカク迄ニシルセル所ノ詳ナルニ享祿ノ比ホヒ南番ノ船來レル事モイハユル鐵砲ノ傳ヘ得タル事モ見エズタテ天正四年ニ彼ノ國ヨリ石火矢ノ來レル事ノミヲノセヌ天正三年ニ來リシ船其ノ國ノ名ヲバシルサチドノセ來ル所ノ物トモ悉ク西南夷ノ國ニ出ヅルモノナレバ思フニ此ノ度ノ船ハ必ズ波爾杜瓦爾等ノ國ヨリヤ來リヌランモシハ又大友ガ家ノ記ニハ天文十年ヨリ下ツカタノ事ノミヲシルシテ享祿ノ比ホヒ西南夷ノ國ヨリ通ゼシ事ヲバ漏セルモ知ラズ彼ノ波爾杜瓦爾ナドイフ國ハ西洋歐羅巴ノ地方ニテ專ラ天主ノ教ヲ奉ゼル所也我が國ノ俗ニテコレラノ國々ヨリ來ルヲバミナ南番ノ人トゾイフナル然ルニ天文廿年ノ秋大内ノ義隆卿ホロビ

シ時彼ノ許ニアリシ大明ノ勘合モウセテケレバカシコニ往來セン便リスズニタエヌ此ノ比ホヒヨリ南番ノ船我
 ガ國ニ通ジケルニ宗麟入道ハジメニソノ天主ノ法ヲウケシナドイフ事アレバ(王代一覽)彼ノ大友ガ家ニテシル
 セル天文ノ比ホヒシキリニ來レル大明ノ船トイフハミナ甌邏巴地方ノ諸國ノ人ナランモ知ルベカラズ過キニシ
 比仰ヲ奉リテ意多禮亞ノ地羅馬人ニ遇ヒシ時彼ノ地方ノ事トモ尋ネ問ヒシニ西洋ノ火炮造リ出ダシ事ハ既ニ
 二千餘年ニ及ベリ(始メ此ノ器造リ出セル地ハ番名ツツバルカイン)佛來釋古者ト云ヒシハ(其ノ番名フランシ
 スクスサペイリウスト云フ)東南洋ノ諸國ニ天主教傳ヘシ人也其ノ塔ハ今モ應帝亞ノ臥亞ト云フ所ニアリ又昔
 時豊後ノ國ノ使人羅馬ニ來リテ死シタルヲ葬リシ塔ハ今モ其ノ國ニアリトテ其ノ事シルシ番字ノ書取リ出デ
 見セ侍リキ大友ガ家人植田入道使シテ其ノ國ニ死セシト云フハ羅馬泥亞ノ事ニテ大明ニ赴キシニハアラズ彼ノ
 國ノ史籍ニモ其ノ事見ル所侍ラズ其ノ比ニ浙閩ノ商船私ニ交易ノ利ヲ通ゼンガタメニ豊後ノ國ニ來リシガ此ノ
 器ヲモツタヘシヲ茅元儀ガ書ニハカクソノ因來ル事ヲ詳ニハシルセルナルベシ又此ノ器朝鮮國ニ傳ハリシ事モ
 天正十八年ノ春對馬守平義智其ノ王ニマキラセシヨリ始マレル由彼ノ國ノ書ニハ見エタリ(懋忠錄ニ)カレコレ
 ヲ通ジ考フルニ大明ニモ朝鮮ニモ我が朝ヨリゾ此ノ器ヲ傳ヘケルアルヒハ此ノ物文龜ノ初メツカタ南番ヨリ
 來レドモ用フベキ法ハ傳ハラズトモイヒ或ハ永正七年ニ來レルナドモ云ヒ又弘治元年南番ノ人氏宇志俱智トイ
 フ者琉球ヲ經テ種子島ニ來リテ此ノ物造クル事ヲモ其ノ伎ヲ傳ヘシナドイヘド皆信ガタシ又甲斐ノ武田ノ家
 ニハ大永六年ニ傳ハリ(甲陽軍鑑)相摸ノ北條ノ家ニハ享祿元年ニ傳フルナドモ(北條五代記)イヘド南浦ノ集ニ
 ハ天文十二年ニ始メテ傳フト見エ九州ノ事シルセル記ニモ享祿三年ニ來リト見エタレバ九國ノ地ニダニイマ
 ダ傳ハラヌニハルカ東ノ國々ニマツ來リケン事コソ心得ラレキ文獻ノ徵トスルニ足リナンハ南浦ノシルセルト

コロノ異朝ノ書ニ見エシ所ニモ西洋ノ人ノ云フ所ニモ皆々符ヲ合セタルガ如クナルニハシカズ又長筒トテソノ
 タケノ四尺五尺ニ及ベルハ異朝ニハ噲密鳥銃トナヅケヌ或ハ大キクモ或ハ小コシキニモ作リナシテ遠カラシニ
 モ近カラシニモ其ノ利アルヤウニ巧ミナセル類今ハ其ノ品モツトモ多クナリタリソノ銃藥線藥ナドノ分劑オノ
 其ノ方アリコレヲ盛ルベキ器モ其ノ制多シ鉛彈彈子摸火繩ナドノ制ナベテ世ニシル所ナレバコヽニシル
 サズ
 大友ガ家ノ事シルセル記ニ天正四年ノ夏宗麟入道ガ領セル肥後國ニ南番ヨリ大ノ石火矢來レルヲ入道ヤガテ彼
 ノ國ヨリ修羅ヲモテ豊後ノ國臼杵ノ庄丹生ノ島迄引キヨセテ悅ブコトカギリナク其ノ名ヲバ國崩トナン名ツケ
 タル國ノモノモコレヲ聞キテアハレヨカラヌ名カナトサヽヤキサヽヤキイヒケレド入道更ニ改メズト見エタリ
 又天文廿年南番ノ商舶來リテ石火矢トイヘル鐵炮ノ大ナル物トツ宗麟ニ進ラヌソノ後大友島津ガ戰起リテ敵丹
 生ノ島ニオシヨセタリケルニ上野ノ何某トイフモノソノ石火矢ヲモテ薩摩ノ軍勢アマタウチ殺シテケレバ城ヲ
 バツヒニオトサレズトシルシタル物モアリ(九州記ニ)コレモ南番ヨリ傳ヘシトイフナレバ異朝ニイハユル佛郎
 機ノ制トコソ覺ユレ此ノ器異朝ニ傳ハリシハ大明ノ武宗皇帝正德十二年忽チニ海舶ノ大ナルガ二雙廣東ノ懷遠
 驛ニ至リテ佛郎機國ヨリ進貢ノ人ナリトゾイヒケルサレドモカシコヨリ貢マキラセシ例アラザレバ此ノ所ノツ
 カサマツソノ人ヲ雷メオキテ此ノ由ヲ奏シケルニ參ラセヨトアリシカバヤガテ都ニ趣カシム折フシミカド南
 方ノ國々巡リ幸シ給フホドナレバ會同館トテ外國ノ使ヲ按置セラル、所ニトヽマル事一年バカリミカド崩御マ
 シヽテ世宗皇帝御位ニツカセ給ヒケルハジメ此ノ使等不恭ノ事アレバトテ廣東ニオシカヘシテソノ境ヲカリ
 出サレヌソノ乘リ來リシ船ゴトニ此ノ銃四ツ五ツヲフナバタニナラベオキテ小シキナル銃五ツヲモテソノ一ツ

ガ中ニ火藥鉛彈ナドメグラシ入レテ火ヲモテ放ツニソノ彈ノアタルトコロクダケズトイフ物ナシカノ通事ノ人其ノ銃一ツニ火藥ノ方ソヘテ廣東ノツカサニマキラセケリ此ノ器佛郎機國ヨリ出デタレバトテカクソソハナツケ、レ(願應祥ガ説也)彼ノ世宗皇帝ノ嘉靖年中ニ又西洋ノ番國ヨリ傳ヘシ所ヲバ西洋砲トナツク半里ガ外ノ人馬ハミナ驚キ死シヌベシ其ノ後又紅夷ヨリ得タリシヲ、バスマナチ紅夷砲トナツケヌソノタケハ一丈バカリ火藥ヲ用フルコト數斗ニシテ鐵ノ彈二十里ガ外ニ及ブ最モ神器トイヒツベシトゾ彼ノ國ノ書ドモニ見エケル(天工開物武備志通雅等ニ)彼ノ正徳ノ十二年ハ我が朝ニシテハ後柏原院御在位ノ時永祿ノ十五年嘉靖ノ比ホヒハ後奈良院ノ御在位ノホドニヤアタリヌラン天文ノ末ニ傳ハリタル鐵炮ノ大ナルモノニツトイヘルハ彼ノ佛郎機ノ制ニシテ天正ノ初ニ來レルハ西洋ノ大砲ナレバ國崩トモナツケタリケン紅夷砲トキコエシハ今我が國二年ゴトニ來レル阿蘭陀ノ國ヨリ出デシナリ此ノ國ノ大砲ハ其ノ制特ニスグレタリト羅馬人モ申シキ阿蘭陀人ニ遇ヒシ毎ニ此ノ物ノ始メヲ尋テ問フニ此ノ國ノ人ハ其ノ始ヲ詳ニセズト云フ也此ノ國ハ異朝ニテハ和蘭又ハ噶蘭地トモイフ國也和蘭噶蘭阿蘭其ノ音相同ジシカルニ紅夷ハ和蘭ノ類ニシテ同ジ國ニハアラズトイフ人アレド(朱舜水ノ説)和蘭又紅夷トモ紅毛鬼トモイフヨシ正シク大明ノ書ニハ見エタリ(皇明世法錄等)此ノ國ノ火器ハ今世ニオホク傳ヘ侍リ

本朝軍器考卷六終

本朝軍器考卷七

矛 槍 類

筑後守從五位下 源

君 美彙輯

周ノ禮ニ戈、戈、戟、會矛、夷矛、五ツノ兵ヲ兵車ニタツ其ノ制モ又各異也我が朝ニハ矛戟ニツノ制ノミゾアリケル倭名鈔ニハ矛又鉞ニモ作リテ天保古トヨミ戟アルヒハ干トイヒアルヒハ戈トイフスベテコレヲ保古トヨムヨシ見エタリ此ノ國ノ始伊弉諾伊弉冉ニ柱ノ神天ノ浮橋ノ上ニ立シテ天ノ瓊矛ヲ指シ下シテ滄溟ヲ探リ給ヒシニソノ滴リ凝リテ島トナレルヨリゾ此ノ大八洲ヲバ產生セ給ヒタルサレバ我が國ノ戎ノ器矛トイフヨリフルキ物ハアラジソレヨリノチ大己貴神此ノ國ヲ細戈千足ノ國トナツケ給ヒ天孫ノ降ラセ給ヒシ時昔國平シ時杖給ヘル廣戈ヲマキラセラレシトモアリケリ彼ノ細戈千足トイフハ軍ノ器備ハリタリマルガ故也ト聞エタレバ戈トダニイハンニハモロノ軍ノウツハモノハ其中ニコソコモリタルヲメ神功皇后ノ新羅ヲ征シ給ヒテ其ノ王ノ門ニ杖給ヘル稍ヲ樹テナガキ代ノシルシトナサレケンモイカサマユエアル御事ニゾアルベキ日ノ神天ノ窟ニ入り給ヒシトキ天ノ金山ノ銅ヲトリテ日矛鑄造リシト聞エシハ其ノ制又異ナル物也(舊事記ニ)日本武尊ノ東夷ヲ征シ給ハン時ニ賜ハラセ給ヒシ比々良木乃八尋矛トイフ物ハ其ノ制イカニヤアリケン四十二代ノ朝廷(文武天皇)大寶二年ノ夏四月春忌寸廣庭獻ニ杠谷樹八尋梓根ヲ伊勢太神宮ニ奉ラシメ給フヨシ續日本紀ニノセテ杠谷樹ハ俗ニ比々良木トイフヨシ注シタレバ彼ノ尊ノ賜ハラセ給ヒシ矛モ其ノ梓根ノ木ニヨリテカクハナツケラレケメ又平鉞三股鉞ナドイフ物モ見エタリ令ノ載スル所ヲ見ルニ諸臣ニモ儀戈ト云フモノアリケリ太政大臣ハ四竿左右ノ大臣ニ竿大納言一竿義解ニハ儀戈トイフハ平頭ノ戟ヲイフコレヲ威儀ニ用フルガ故ニ儀戈トハイヘリ

コレ必ズ蓋ヲ用フル時並ビ用フルノミヒトリ用フベカラズト注セリ又令ニ矛槍ハ私ノ家ニアル事ヲ得ザレトモ見エタリコレ常ニハ郡國ノ兵庫ニ藏メラレテ征戰ノ時ニノゾミテ兵士ニ分チアタフベキ物ナルガ故トゾ見エタル今モ山城國靜原二ノ宮社ニアル天武天皇ノ御餘南都正倉院ニアル聖武天皇御餘トモ今ハキ、モ及バヌ物トモ特ニ多カリ倭名鈔ニ見エタル天保古ナドイフモノハ近代マデモアリケルニヤ玄惠ノツクリシトイフ庭訓又墜囊鈔ノ中ニモ見エタリ(イヅレモ手銚トシルシタリ)ソノ外ノ制ハ後代ノ物ニ見ル所ナシ

槍トイフモノ本朝ニシテハ何レノ比ニヤ始マリヌラン第十代ノ朝廷ノ御時(崇神天皇)豐城命ノ御夢ニミツカラ三諸ノ山ニノボリ東ニムカヒテ八タビ弄槍シ八タビ擊刀スト見給ヒシトイフ事舊事記ニ見エタルゾ此ノ物ノ見エシ始ナルベキ日本紀ニ見エシ新羅ノ王子天日槍マウキテ出石槍マキラセシハ第十一代ノ朝廷ノ御時也(垂仁天皇)令ノ軍防ノ條ニ凡衛士ハ中分シテ一日ハ上リ一日ハ下レ事故ナカラシトハ下ルゴトニスナハチ當府ニオイテ弓馬ヲ教ヘ習ヒ刀ヲ用ヒ槍ヲ弄バシメヨト見エタリシヲ槍ハ木ノ兩頭銳キモノスナハチ戈ノ屬也ト義解ニハ注シヌ倭名鈔ニハ雜藝ノ類ニ弄槍ノ二字出ダシテ保古斗利トヨミタリ又令ノ武官朝服ノ下ニ兵衛ハ會集ノ日挂甲ヲ加ヘテ槍ヲ帶ブ衛士ハ横刀弓箭モシクハ槍ヲ帶ブヨノツチニハ槍ヲ去クト見ユ皇極天皇ノ天下ヲシロシメス三年天智天皇ノイマダ中大兄乃皇子ト申シマキラセシ時蘇我ノ入鹿ノ臣ヲウチ給フニミツカラ長槍ヲ執ラセ給ヒシトイフ事モ見ユソノ、チニ見エタル花槍(延喜式ニ)鎌槍鎗尾槍ナド(三代實錄)云ヒシモノ、制ハイカニヤアルラム義解ノ注セシ所ヲ見ルニ戈ノ屬也トハアレド木ノ兩頭銳キモノトシルサレタレバ刃ヲ施セシモノトモ見エズ其ノ後ノ物ハ皆刃アル物トコソ見エタレ異朝ノ書ヲ併セ考フルニ槍ト云フモノハ近キ代ニアル也利ト云フモノニテアルナリオモフニコノ也利ト云フモノハ古ノ槍ノ制ニヨリ作り出ダサレシニヤ俗ニハ鎗ノ字ヲ

作り出ダシテ此ノ物ノ名ニ用ヒ來リタレド正シキ文書等ニハ用ヒ難クモヤアルベキスベカラクハ古ノ槍ノ字ヲヤ取り用フベキ又異朝ニシテモ近キ比ホヒ鎗ト云フモノハ我が朝ノ也利ノ類ニテ侍レバ又鎗ノ字ヲヤ用フベキ今ノ鎗ト云フモノハ貞和四年十二月住吉ノ合戰ニ橘正行朝臣ガツハモノ阿間了願ト云ヒシガ柄ノ長サ一丈バカリノ鎗ヲモテ多クノカタキヲツキオトシケリト太平記ニ見エタルゾ其ノ物ノ見エシ始ナルト世ニハ云フナレド建武二年正月三井寺ノ合戰ニ土矢間ヨリ鎗長刃出タシテ散々ニツキケルヲ義貞朝臣ノ兵互理新左衛門尉ガ十六マデ奪テステタリト云フ事モ同記ニ見エタリ此ノ事住吉ノ合戰ヨリハ猶サキノ事ニテアルナリ建武ヨリサキニハ此物ノ事見ル所ナケレバ元弘建武ノ間ヨリハジマレル事ハ一定ナルベシソノ、チ織田殿ノ年ヲカクマシマセシ時小侍トモニ鎗習ハセ試ミ給ヒテ古ノミジカキハヨカラジトテ或ハ一丈八尺二丈一尺ニツクリ出ダサル世ニ三間柄三間半柄ナド云フハコレヨリゾハジマレルコレ又柄ノ長槍ノ類ナルベキ異朝ニモ近キ代ヨリ長槍ト云フモノ見エ侍リ今ノ鎌鎗ト云フモノハ周ノ代ノ戈ト云フ物ノ制ニスコシモカハラズ但シ我が朝ノ古ニ戈ト云ヒシ物ニハコト也オモフニ此ノ物ハ彼ノ鎌鎗ト云ヒケンモノ、遺レル制ニヤアラン此ノ物古ヨリアル物也トシルセ

ル物モ侍リ(鎌鎗ノ事北條五代記ニ見エタリ此ノ鎌ト云フモノニモ尖アレドソノ四寸ノ距ヲモテ身ノフセギトスル利アルカ故ニ後ノ世ノ人又十文字ヲモ作り出ダセルトシルセリ)十文字ト云フ物ハ古ノ三股ノ銚ニ似テゲリ此ノ物ハ殊ニ近キ比ホヒ南都ノ僧家ヨリ出デタル也異朝ノ鎗ト云フ物モモトハ少林寺ノ棍法ヨリ出デシトゾ聞ユル世ノ末ザマニナリヌレバサラス僧法師モカ、ル伎習フ俗ニナリヌル事我が國モ他ノ國モ同ジ例トゾ見エタル(南都寶藏院ノ住僧ハ穴澤ガ長刀ノ弟子也ソノ、チニ柳生但馬守宗嚴ト相議リテ此ノモノ制リ出デシト云フナリ)此ノ物異朝ノ鏡鉞馬又ナド云フ物ニ同ジト云フ人アレド鏡鉞ノ横股ハ四ツノ稜アリテ敵遠ケレバ此ノ

股ニ火箭カケテ火ヲモチ箭ヲ發ツカタキ近ヅケバ箭ヲステ、コレヲサスナド見エタレバ(武備志)我が國ニシテ
 近キ世ニ出來シ加伎也利ト云フモノニコソ似タレ此ノ外日々ニ新シキ制ドモ出來テ今ハ悉クニシルスニ暇アラ
 ズ足利殿ノ代ノ末ニ及ビテ我が國ノ軍制ヤ、又改マリテ東國ニコソ騎戰モアリケレナベテ世ハ步戰ヲ用フルホ
 ドニ凡ソ軍功ヲ論ズルニ鎧マシフル事ノ一番ニ番ナドイフ事ニテソノ賞格ヲ定ムル事ニナリシカバ弓矢打物ト
 リテノ高名ハアレドモナキニ似タリキ異朝ニモ槍ハ藝中ノ王也トイヒタレバ(少林棍法闡宗ニ)彼ノ國ニモ近キ
 ホドハ我が國ニ同ジキ俗トコソ見エタレカ、リシノチハ此ノ物軍國ノ要器トナリテ古ノ儀戈ナドイヒシ物ノ如
 ク其ノ人々ノ品位ニヨリテ此ノ物ヲ執ラシメテソノ威儀トセラル、事ニハナリタリサレバ此ノ國作ラレシハジ
 メ大己貴ノ神ノ細戈千足乃國トナヅケ給ヒタリケンソノ八十萬歳ノ、チ又カ、ル世ノ俗トナリケル事マコトニ
 アヤシキ事也トコソ覺ユレ

長刀ト云フ文字フルキ物ニシルセル所皆カクノ如シ節用集ニハ薙刀トモカクヨシ、ルセリコレ其ノ比ニハ世ニ
 長キ打刀ノ出テ來タレバ薙ト云フ字用ヒテ其ノ物ヲワカテル也倭名鈔ヲ見ルニ長刀ノ下ニ唐令ノ銀裝長刀又細
 刀ト云フ説ヲ引キテ之路加彌都久利乃奈伽太遲トヨミタリ太政入道淨海ノ銀ノ蛭卷シタル長刀ナド云フモノソ
 ノ物ニヤイヅレノ比ヨリ奈伎奈多トハナヅケタリケン陸奥後三年ノ戰ニ將軍金澤ノ柵ヲ攻メラレシニ武衛ガコ
 ハウチトキコエシ龜次ト次任ガ舍人鬼武ト戰フニ龜次ガ頭肯キナガラ鬼武ガ長刀ノサキニカ、リテオチヌト云
 フ事ヲ繪ガキシ物ヲ見ルニ即今ノ長刀ノ制ナレバ(後三年合戰ノ繪)此ノ比ハスデニ奈伎奈太ト云ヒシナリ其ノ
 後ニ又大長刀トイフモノ出テ來ヌ元弘建武ノ比ホヒハ三尺餘リナルヲモ猶小長刀トイヒテ大長刀トイフハ五尺
 六尺ニ餘レリ又身モ柄モ五尺餘ヅ、ノモノアリケリコレ今ノ世ニアル制トハ同ジカラヌ歟又フルキ草紙ニ長刀

小反コノリ及ナドオシナラベテイヒシモアリ(高館ノ草紙等)カレコレヲ通シ考フルニ近キ代迄アリシ中巻トイヒシモ
 ノ及モ柄モヒトシクツクレル物ナレバカノ大長刀トキコエシ物ノ類ニヤアラン今ノ世ニアル物ハ古ヨリノ長刀
 ノ制ニテ小反及ナドイフモ此ノ類ニゾアルベキ異朝ノ書ニ見エシ我が朝ノ制ニ刀ノ大ニシテ長キ柄アルモノハ
 スナハチ擺導ノ用フルトコロ人ヲ殺シツベキ物ニテコレヲ先導トイフトシルセルハ長刀ノ事ニテ皮條ヲ刀ノ鞘
 ニツマリテコレヲ肩ニハキ或ハ手ニトルモノハ則チ隨後ノ用フルトコロコレヲ大制トイフトシルセルハ中巻ノ
 事ヲイヘルナルベシ(武備志ニ見ユ)スベテカ、ル物古ト名ハ同ジケレド其ノ實ハ今ニ異ナルモ又今ハ其ノ名異
 ナレド古ト其ノ實ハ同ジキモアル事ナレバ昔ノ物見チバオボツカナシ筑紫長刀トイフ物ハ其ノ制スコシク異ナ
 ル也コレモ古ヨリアル物ニヤ詳ナル事ヲバ知ラズ

本朝軍器考卷七終

本朝軍器考卷八

劔 刀 類

筑後守從五位下

源 君 美彙輯

倭名鈔ニ四聲字苑ヲ引キテ刀ニ似テ兩刃ナルヲ劔トイフ劔ニ似テ一刃ナルヲ刀トイフ大刀ハ大知トヨミ小刀ハ加太奈トヨミ長刀ハ奈加太暹トヨム短刀ハ兼名苑ニ刺刀ハ短刀也トイフ能太知トヨムヨシヲ注セリ此等ノ外國史令式及ビ古今ノ書ニ見エシ所ドモ刀劔ノ類其ノ制コトニ多シ古ニ聞エテ今ハ見エヌモノ今見エテ古ニ聞エヌモノ或ハ其ノ名同ジクシテ其ノ實ハ異ニ或ハ其ノ名異ニシテ其ノ實ハ同ジキモアルニヤマツ劔トイフ物ハ伊弉諾尊佩セル十握劔ヲ抜キテ軻遇突智ヲキリ給ヒシトアレバ此ノ物既ニ神代ヨリ聞エキ其ノ後素戔嗚尊八岐ノ大蛇ヲキリ給ヒシモ十握劔ニテ(其ノ劔ノ名ハ蛇之尾正トモ蛇韓劔之劔天蠅斫之劔トモ天羽々斬トモ云フ石上神宮ニアリテ吉備神部ノ許ニアリトモ云フ也)又其ノ大蛇ノ尾ヨリ出デニシ劔ハ後ニ日神ニマキラセラレシ天叢雲劔是也此ノ劔ハ皇孫此ノ國ニ降ラセ給ヒシ時八坂瓊曲玉八咫鏡ト共ニサツカラセ給ヒシ三種神寶ノ中ナルベシ第十代ノ朝廷崇神天皇ノ御時其ノ神劔ヲウツサレントテ天目一箇神ノ裔孫シテ大和國宇陀郡ニテウツクラシメラル神劔ヲバ神鏡ト共ニ倭姬命ニツケテ伊勢ノ太神宮ニイツキマツラレシヲ日本武尊東夷ヲシヅメ給ヒシ時ニ及ヒテ御姨ノ命ヨリ賜ハラセ給ヒテ後ニ草薙劔ト名ヅケラレ尾張ノ熱田社ニ納メマツラレシヲ天智天皇ノ七年沙門道行トイフ者ヌスマキラセテ新羅ニ逃向ントセシカド中路ニシテ雨風ニ茫迷テツヒニ歸シ入レマキラセキ初神劔ヲウツシクテラレテ世々ノ朝廷傳ハラセ給ヒシ寶劔ハ八十一代ノ朝廷ノ御時ニ(安德)西海ニ沈ミヌレド日神ノ皇孫ニ授ゲサセ給ヒシ所ハ今モ熱田ノ社ニオハシマヌベケレバ彼ノ三種ノ神寶ハ自ラ天地ト共ニ永

ク此ノ國ヲ鎮メ給フベキ御事也(駿河國風土記ニ據ルニ草薙トハ天叢雲劔ノ別名也其ノ義燒錄ノ利録ニ取ル其ノ及ノ利キヲ以テナリ日本武尊野火ヲ免カレ給ヒシニヨリテ此ノ名アリト云フハ大ナル誤ナリト見エタリ)此ノ外諸部ノ天神ノ佩キ給ヒシ劔トモ又代々ノ朝廷ノ寶トナサレシ靈劔雜劔ナド猶少カラズ其ノ中日月護身劔三公團戰ノ劔ナド聞エシ靈劔ハ百濟國ヨリ獻リシ所ナルベシ(靈劔雜劔ノ事日本紀略天德記禁秘抄玉英等ニ見エタリ節刀ノ下ヲ併セ見ルベシ)又壹切トイフ劔ハ代々ノ儲君ノ授カラセ給フ御寶ニヤコレハ漢ノ張良ガ劔ノヨシ江談抄ニ見エタリイカナル證ヤアルラム續古事談ニハ此劔ハ昭宣公ノ物也延喜儲君ノ時奉ラレシトコソ見エタレスベテコレヲノ御事ハ凡人ノ身トシテ言ニイヒ出デンモ猶畏アレバ筆ニハイカデシルシ參ラスベキ近キ代ノ俗ニハ劔トイフ字シルシヲ太知トヨミ大刀ノ事ニ用ヒ來レルニヤ倭名鈔ニ注セシ所ニヨレバカノルベクナムアラズ(彼ノ鈔ニ注セシ所刀劔ノ制同ジカラザルガ故也)サレド古事記ヲ見ルニ彼ノ伊弉諾尊ノ軻遇突智ヲキラセ給ヒシ十握劔ヲ又御刀トモシルシ又キル所ノ刀ノ名ヲ天ノ尾羽張トイフトモシルセリ味相高彥根命ノ天稚彥ノ喪屋ヲ切伏シ斗擲劔ヲ又其持テテ切ル所ノ大刀ノ名ヲ大量トイヒ亦ノ名ハ神度劔トイフトモシルセリ皇孫ノ降リ給フ時諸部ノ神ノ佩キタル頭槌劔ヲ頭椎ノ大刀トモシルセリ又須佐之男命ノ八俣遠呂智ノ中尾ヲ刺割テ都牟刈之大刀ヲ得給フトモ見エ又日本武尊ノ薨シ給ハン時ノ御歌ニモ都流岐能多智ト讀ミ給ヒシ是等皆草薙劔ノ事ヲゾイフナルサラバ上古ノ時都流岐トイヒ大刀トイフ異ナル物トモ見エズ後代ニタチ劔トイフ物ハ兩刃アリテ劔ニ似タル大刀也トイヘバ都流岐能多智ト云フ物モカノル物ニヤアリシ(天國ガ作リシ大刀ノ半ヨリ上録ニ至リテ兩刃ナル物今モアルメリ之ヲ古ニツルギノ大刀トイヒ後代ニ大刀劔トモイヒシ制ナルベシ又古キ小刀ニモ此ノ制ナルモノ猶アリ)○按ズルニ越ノ都流我ノ郡ヲ古ニハ角鹿トシルシタリキサラバ都流岐トイヘル名ハ

モトハ其ノ鋒銚ノ尖ニシテ獸角ノゴトクナル故ニヨソ大刀ニモアレ小刀ニモアレ其ノ鋒銚ノ角ノ尖ナルニ似タ
ランモノヲバ劔トモ又大刀トモ刀トモイフベキモノニヤ(倭名鈔ニモ亦今按ズルニ僧家所持是也ナド注シタル
ハ順ノ比既ニ劔ハ世ニ稀ナル物トゾ見エタル異朝ニモカクアリケルニヤ古ノ劔ハ戰闘ニ施スベシ故ニ唐ノ太宗
ノ御時劔士千人アリキ今ハ其ノ法傳ハラズナド近代ノ人ハシルセリ(大明茅元儀ガ武備志ニ)

聖德太子劔銘ノ事ハ江陵抄ニモ見エタリ過ギニシ比天王寺ニテ其ノ丙毛槐林劔ト七星劔ナド云フ物ヲ見侍リ其
ノ形ハ即チカタナノ制ニテ兩刃ナルニハアラズ丙毛槐林ト云フモノ及ノ長サ二尺一寸五分濶サ八分許莖ノ長サ
四寸五分其ノ志乃岐ノ所ニ金銀ニテ銘四字アリ七星劔ハ及長サ二尺三分濶サ九分餘血漕二條アリ金ヲ以テ七星
并ニ龍ト雲トヲ嵌タリ其ノ莖ハ四寸但シ丙毛槐林ト云フ事ハ其ノ銘セシ字ニヨリテ此名アル也匡房卿ノ説ニハ
守屋ノ大臣ノ頸ヲ斬ルノ義也ト見ユ又法隆寺藏太子傳ノ抄ニハ(聖德抄ト云フ)丙毛槐林トハ馬子大臣ト云フ義
也又ハ蝦夷大臣ト云フ義也トモ見エタリスベテ此等ノ説イカハアルベキ我ガ見シ所ハ其ノ銘ハ漢家ナド云フモ
ノ、體ニシテ正シク丙子椒林ノ四字也丙子トハ此ノ刀造レル年ヲ誌シ椒林ハ刀ヲ造レル工ノ姓名ナルモ知ルベ
カラズ椒姓ハ姓苑ニモ見エテ侍ルメリ是レ又古ノ時ニ劔ト云ヒ太刀ト云フ異ナル物ニモアラザル證也其云フベ
キニヤ大已貴神御父素戔嗚尊ノ生大刀ヲ取り持テ逃ゲ出デ給ヒシトイフ事ノ舊事記ニ見エタルハ此ノ物ノ事見
エシ始ナルベキ後代ニ至リテハ其ノ制日々ニアラタナル多クナリテ其ノ名モ又同ジカラズソレガ中延喜式ニシ
ルサレシ所神寶ノ中ニ見エシ物トモハ神代ノ遺制ヲヤ用ヒラレケム後代ニ聞エシ物トモニモアラズマツ玉纏横
刀トイフハ其ノ柄ニ小環アリテ五色ノ玉ヲ纏ヒ勾金ニハ鈴八口ト玉二ツ、ケテ餅形須惠組ナドイフ物アリ次ニ
須我流横刀トイフ物ハ大ヤウ後代ノ大刀ノ制ニ似タリト見エタレド柄ヲハ細羽ヲモテ纏ヒ四角ニ乳形着テ五色

ノ組ノ長サ一丈ナルヲツクルナドイフ事アリ又次ニ新作横刀トイフモノ柄ヲモ鳥ノ羽ヲモテ纏フナド見エケリ今
モ進ラセラル、御神寶共ハ其ノ圖ヲ見シ事ノアリキ式ニ見エシ所ヲ併セ考フレバ大ニ同ジクシテ少シク異ナル
所モアルニヤ山崎ノ神寶ノ中ナル大刀ニモ式ニ見エシ所ニ似タル物アリト云フ狛劔大刀劔ナドイヒシ物カ、ル
制ニヤアルラン(藻鹽草ニ狛劔ハ柄長クテ輪ノアル也大刀劔ハ兩方ニ及ノアル也劔ニ似タリツバニハアラデワ
サノトシタル輪ノアル也ト注セリ)筑紫ノ彦山ニテ地中ヨリ掘リ得シ大刀アリ武内大臣ノ物ニヤ大刀頭ノ飾
槌ノヤウニナムアルトイヒシ人アリモシ其ノ言ノ如クナラムニハソレヲ頭槌ノ大刀ナドイフ物ノ制ニヤ(武内
大臣ノ物ノ事猶尋ヌベシ)天王寺聖德太子ノ像ハ太子自ラ書キ給フ所ノ由ヲ云ヒ傳ヘ侍リ其佩キ給ヘル大刀ノ
飾今ノ制ニハ異ナリ凡古ノ制其ノ物ヲ見ザレバ今ノ制ヲモテ推シ測リ難キ事多カリサレバ古ノ大刀小刀ナドノ
制イカニヤアリケムイブカシ合ニ見エシハ凡武官禮服衛府督佐兵衛督金銀裝横刀又朝服衛府督佐金銀裝横刀其
ノ志以上鳥裝横刀(横刀ハ與古波伎トヨムヨシ璫囊抄ニ見エタレド日本書紀舊事紀及ビ令式等ニハ太知トヨミ
タリ)式ニハ畫飾大刀又刻鏤大刀ノ新作ニアラザルハ五位已上コレヲユルスト見ユ又鳥裝横刀作ルベキ功程ヲ
シルサレシ所モ見エタレド其制ハ詳ナラズ又凡衛府舍人刀緒左近衛緋繩右近衛緋繩左兵衛深綠右兵衛深綠左
門部淺綠右門部淺綠緋繩囚獄司物部胡桃帶刀資人黃也ナドイフ事モ式ニ見エタレバ古ニハ刀ノ緒ヤウノ物悉ク定
マレル式アリケリ鎌倉ノ在柄社ニマストイフ菅神ノ像ヲウツセル物我ガ家ニアリ其ノ佩キ給ヘル大刀ノ頭ノ飾
鳥ニ似テ鳥ニモアラヌ物ニテアル也イカナル物トイフ事ヲシラズムカシ大夏ノ赫連勃々ガ帶ビシ龍雀刀ナドイ
フ物モカ、ル物ニヤアリケム鳥頭ナドイフ物ニヤトオモヘド鳥頭ノ大刀ハヨキ人ノ用ヒラレシ事イマダ所見
アラズ(江次第鷹飼裝束ノ下ニハ鳥頭ノ大刀ノ事見エタリ)彼ノ式ニ見エシ畫飾ノ大刀トイフモノハ後代ニ飾大

刀ナドイフ事ニヤ飾大刀ハ節會及御稈行幸供奉ノ公卿臨時ノ祭ノ使等コレヲハキ給フ物ニヤ古ノ物大略ハ木ニテ作レル物トゾ見エタル(飾抄)如法飾大刀ナドイフハ異様ノ物ニハアラテ常ノ劔ノ裝束所彫透シ飾ノ玉ナドスベシナドモ見エタリ(園大曆ニ)飾大刀代々ガ代ナドイフモアリケリ葦手劔琉璃柄劔其ノ外木地螺鈿蒔繪螺鈿種螺鈿等ノ大刀蒔繪細大刀螺鈿野大刀蒔繪野大刀(コレハ或ハ平鞘或ハ毛拔形或ハ革緒大刀ナドモイフ也)沃懸地大刀黒漆大刀コレヲ或ハヨノツチノ行幸或ハ遠所行幸或ハ節會ノ時其ノ官位ノ高キ卑キニヨリテ用ヒラル、物ドモニテ武ノ大刀ニハアラザルカ

古ニ聞エシ武ノ大刀ト云フ物(東鑑ニ見ユ)イカニヤアリケム野劔ハ近衛次將外衛佐等常令持之ト飾抄ニ見エタレバ野劔ノ事ヲヤ云ヒケン後三年平治等ノ事ヲ繪キシ古キ繪ニ見エシ所武士ノ佩キシ皆々野劔也又ハ卷大刀(源平盛衰記ニ見ユ)トモイヒ近代ニ至リテ絲卷大刀又左右卷大刀(又鞘卷大刀ニモ作ル)ナドイヘル物ヲヤイフラム(大諸禮ニ大刀ニモ、ヨセノアルハ武家ノ大刀也トイフ事アリコレハ東鑑ニ見エシ長覆輪ノ野劔ノ事ヲ云ヒシニヤ保元物語ノ異本ニ鎮西八郎爲朝ノ大刀ノモ、ヨセニ敵ノ矢ヲ射留メシトイフ事アレバ昔ヨリ武士ノ佩キシ大刀ニハモ、ヨセト云フ物ハアリシナリ)又足利殿ノ比晴ノ時ハ白大刀ヲ佩ク從者ニモタセシ大刀ハ黒作ナルヨシ、ルセル物アリ其ノ白大刀ト云フハ銀作ノ野大刀ニシテ黒作ナルハ黒漆ノ大刀即チ是也鎌倉ノ代マデハカ、ル儀アリトモ聞エズ(野大刀銀作ナルハ五位以上用フベシ黒漆ノ大刀ハ六位以下用フベシ太平記ニ其ノ代ノ武士ノ奢侈ナル事トモシルシテ鮫懸ケタル白大刀佩キシナド見エタレバ晴ノ時ト云フトモ叙爵セヌ人ノ用ヒン事ハ然ルベカラザル儀ナリ伊勢下總入道宗五ガシルセル物ニ白大刀ハ柄鞘トモニ白シ黒大刀ハ鞘ヌリトホシ柄鮫ヲカケテ黒クヌリカナガ赤銅ニテウケボリケボリナノコタルベシ目貫ハ我が家ノ紋ヲヤキツケニスベシ

オビトリ菖蒲草足間モ柄モマカズト注セリ按ズルニ此ノ黒大刀又持大刀トモ云フ也又ナノコトイフハ魚子ニ似タルガ故也古ノ時魚ヲバ奈ト云フサレバ奈乃古ト云ヒタリ今ノ人奈々古ナド云フハ訛レルナリ)練鑄黒漆ノ大刀ムク鞘丸鞘足白金覆輪長覆輪兵庫鐔鳥頭イカ物作爲作ナドイフ物フルキ物語共ニ見エタレドソレラノ制今ハサダカナラヌ多シ又後代ニ至リテ大大刀トイフ物見エタリ畠山庄司二郎忠重ガ備前作ノカウヒラト云フ大刀ハ平四寸長サ三尺九寸ナルヲダニ(源平盛衰記ニ見ユ)其ノ比ハ殊ニスグレタル物トイヒシニ元弘建武ノ後ハ五尺六尺ニ及ブ大刀イクラモ出デ來ケレバ古ノ制ヲバ小大刀トナツケテ大小二振ヲゾ佩キケル元弘ノ初山徒都ヘヨセタリシ時丹波國ノ住人佐治孫三郎ガ五尺三寸ノ大刀ヲバ其ノ比會テナカリシヨシ太平記ニシルシタレバ大々刀トイフ物モ其ノ比ヨリ始マレル也豐臣大閤ノ朝鮮ヲ侵サレシ事ヲ彼ノ國ノ人ノシルセル物ニ大同江トイフ大ナル江ヲ隔テテ見ルニ我が朝ノ兵皆大キナル大刀ヲ肩ニカケタルガ日ノ光ニカ、ヤキテ電ノ如クニ見エケリ或ハマコトノ大刀ニハアラズ木ヲモテ作レルニ白鐵トイフ物ヲソ、ギテ人目ヲ眩サセムタメ也トイフト見エタリ(徳政錄ニ)ハジメハ心得ヌ事ニ思ヒシニ後ニ我が朝ノ人ノ其ノ時ノ事シルセル物ヲ見ルニマコトニ彼ノ國ノ人ノイヒシ如ク此ノ比ハ木ニテ五尺六尺バカリノ大刀コシラヘテ佩キソヘタリ其ノ大刀ヲバ昔籠ナド負ヒシヤウニオビトリヲ肩ニカケテ負ヒケリ(伊達成實記ニ)昔モ大大刀ヲバカク負ヒシ事モアリキハジメ大々刀トイフ物出デ來シダニ心アル人ハ世ノ末ニナリヌルトコソイヒケレ(璣囊抄ニ)マシテ木ニテ作レル物ヲヤ他ノ國ニ譏ヲノコセシ事口惜シキ事也

足利殿ノ代ノ初ニハ上ヨリ賜フモ下ヨリ奉ルニモ必ズ大刀ニ馬ソヘテ引カル其ノ餘種々ノ物ヲバ此ノ二ツノ物ニソヘケリ始ハ白大刀黒大刀絲卷大刀皮囊大刀ナドヲ用ヒラレシニ世ノ季ニナリユクマ、ニ事繁ク禮煩シクナ

リテ國モ又貧シク窮リシホドニ一尺許ノ鐵ヲノベテ絲卷ノ大刀ノヤウニツクリナシテ大刀ト名ヅケ馬ノ代ニハ青錢白銀黄金ナドヲ賜ハリモ奉リモスルコトニナリケリ此ノ比ヨリゾ卷大刀ヲ眞ノ大刀ナドモイフ事ニナリケル此ノ物ノ事ヲモ異朝ノ書ニシルシテ贊禮賀禮トナスモノ其ノ名ハ刀ナレド其ノ實ハ用ナキモノ也トイヒケリ

(武備志ニ)

近代ニ及ヒテ野大刀トイフ物又出テ來タリケリ其ノ實ハ古ニ聞エシ物ドモニアラズ凡野大刀トイフ物其ノ制ニツアリ倭名鈔ニ短刀ハ刺刀也能大知トヨム由見エタルハ古ニ紐小刀(古事記ニ)ヒ首(日本書紀)ナドイヒシ類後代ニ打刀腰刀ナドイヘル物ノ類ナルベシ又螺鈿漆繪等ノ野大刀トイフ物ハ或ハ平鞘或ハ毛披形或ハ革緒大刀ナドイヘル物也又近代ニ及ヒテ野大刀トイフ物ハ或ハ長大刀或ハ中卷ナドイフ物ニテ倭名鈔ニ長刀トシルセル物ノヤウニゾ覺ユル(大雙紙ノ中ニ長具足トイフモノニ野大刀小鎧ナドイフ事見エテ又大々刀トシルセリ天文永祿ノ比シルセル物ニ長大刀ハ長サ二尺七寸柄ハ其ノ人ノ耳ノ下ヨリ寸尺ヲ定ムベシトイフ事アリサラバ野大刀長大刀ナド云ヒシ物ハ其ノ及長クシテ其ノ柄モ長キ物ニテアル也武備志ニ皮條ヲモテ刀鞘ニ綴リコレヲ肩ニ佩ビ或ハ手ニ執ルスナハチ隨後ノ用フルトコロ是レヲ大制トイフヨシ、ルセルハ此ノ物ノ事ヲシルセルナルベシ)

尻鞘トイフ物萬葉集ニハ劍後鞘トカキテ大知乃志利左也トヨミタリケレバ此ノ物昔ヨリアル物也モノ、フノ大刀尻鞘ノ虎ノ尾トモヨミタレバ昔ハ虎豹ノ尾ヲソノマ、ニコン用ヒタルヲメ又サキヲリカケテトモヨミケレハ其ノタケモ長カリシニコソ布衣騎馬殊ニ刷^{カシラ}ハル、時ハ虎皮ノ細尻鞘ヲ用ヒ又諒關ノ時ハ水豹ノ尻鞘無文青革裝束ナドイフ事モ見ユ(飾抄)マタ舞人ノ時ハ虎皮竹豹皮(同上)又魚形斑猪鹿皮ノ尻鞘ナド用ヒシ事モ見エタリ

(江家次第)又魚形鰐形丸尻鞘ナドイヒシハ其ノ制イカニヤアリケム(江家次第圖大曆等ニ見エタリ)蒙古襲來ノ事ヲ繪キシ古書ニ我が國ノ兵佩キシ大刀尻鞘ニ魚形ノ如クニ撥尾アルヲ黒ク繪ケルアリキ此等魚形尻鞘ナド云フ物ニヤオモフニ此ノ物始ハ行旅モシクハ征戰ノ時ノタメニツクリ出デシ物ナレド終ニハ大刀ノ飾トモナレルニヤ武士ノ甲冑帶セシ時ニ虎皮尻鞘カクル事大將軍ナラデハカナフマシキヤ其ノ餘ハ大ヤウ熊ノ皮ナド用ヒシトコソ見エタレ(平家物語源平盛衰記等ヲ併セ見ルベシ)倭名鈔ニ見エシ鞘ハ劍衣也太知不久路トヨム物也トイフ人アレドシカハアラジ彼ノ鈔ニモ説文ノ鞘ハ劍衣也トイフ説ヲ引キテコソカクハ注シタレ禮ノ少儀ニ禮ノ字ヲモ劍衣トハ注シタリ凡劍衣トイフハ劍ヲ函ニスル時ニマツ布久呂ニ入レテ納ム其ノ布久呂ヲ劍衣トハイフ也鞘ニノミカクル物ヲ云フニハアラズ又今ハ行旅ノ時ニ刀ノ鞘ニ革ノ袋カケテ比伎波駄トイフ也比伎波駄トハ袋ノ名ヲイフニハアラズ革ノ名ニテアルナリ革ノ文ノ皺メルガ蟆ノ膚ニ似タレバカクハイヒケル延喜式ニモ皺文トカキテ比伎波駄トヨミタリ

刀子ノ類ノ長短ニヨリテ其ノ飾モ少シク異ニシテ其ノ名モ亦同ジカラザル物古今ニコレ多シ其ノ中小刀トシルセル物凡四ツアルニヤ倭名鈔ニ小刀トシルシテ加太奈トヨミシ物古事記ニ紐小刀トシルシテ比毛加太奈トヨミシモノ又同記ニ小刀トシルシテ佐比トヨミシ物又近代ニ及ヒテ小刀トシルシテ知以左加太奈トイフ物是也コレヲ其ノ文字ハ同ジケレド其ノ稱ズル所モ其ノ制モ同ジカラヌカ

古ノ小刀ノ制詳ナラズ垂仁天皇ノ御時昔ノ新羅王子日槍奉リシ七物ノ中ニ出石小刀トイフ物アリケリ其ノ七物ハ但馬國ニ納メラレ神寶トナリシヲ日槍ガ曾孫清彥トイフニ勅シテ其ノ物ドモヲ召サレシニ清彥彼ノ小刀ヲバ惜ミテ袍中ニカクシテ自佩ク刀子袍中ヨリ出デ現レシトイフ事アリ(日本書紀ニ)此ノ物ハ倭名鈔ニ小刀加太奈

トイヒシ物ニテ式ニ見エシ衛府舍人等ノ帶ブル所ノ刀後代ニ及ビテ鞘卷ナドイフ物其ノ遺制ナルニヤ常ニハコレヲハキヌベキ物ナレバ美波加之ナドモイヒツラメ(日本書紀ニ御刀トシルシテ美波加之トヨメリ)鞘卷ノ事ハ下ニ猶詳也

古事記ノ垂仁天皇記ニ沙本比古王帝ウシナヒマキラセムトテ八鹽折之紐小刀ヲ作り其ノ伊呂妹ノ皇后沙本比賣命ニ授ケテ此ノ小刀ヲモテ天皇ヲ刺シ殺シ給ヘトハカラレシヨシ見エシヲ日本書紀ニハコノヒ首ヲ^{コボ}柎中ニ佩キテ刺シ殺シ給ヘトハカラレシヨシ、ルサレテヒ首スナハチ比毛加太奈トハヨミタリ(按ズルニ八鹽折之紐刀トハ今ノ刀ノヤウニ色々ノ絲モテ組ミシ緒ツケタルニゾアルベキサレバ其ノ時天皇ノ御夢ニ錦色ノ小蛇御頸ヲマトヒメグルトハ見給ヒケメ)此ノ物ハ倭名鈔ニ刺刀短刀也能太知トヨムトミエシ物ニテ今ハワレマロバニトゲルコシガタナ世ニツカハレヌ身トゾナリヌルト讀ミシ後代ニ腰刀ナドイフ物トコソ覺ユレ腰刀ノ事モ亦下ニ詳也

天孫此ノ國ニ降りマス時天宇受賣命海ノ儲廣物儲狭物ヲトリアツメテ大神ノ御子ニツカヘナムヤト問ヒシニ諸ノ魚ハ皆ツカヘムトイフニ海鼠ハマウサソリシカバ細小刀ヲモテ其ノ口ヲ折ク故今ニ海鼠ノ口折タリ又火火出見尊綿津見神ノ宮ヨリ歸リ給フヲ一尋ノ鰐ノ送り奉リシニハカセル劍ノ小刀ヲ解キテ其ノ頭ニサシテ返シ給フ故其ノ一尋ノ鰐ハ今ニ佐比持神トイフ也ト古事記ニ見エシハ今モ刀ノ鞘ニ挿ム小刀ニテカチトギノマダハモアハヌコガタナノ世ニタエテコソ思ヒワビヌレトヨミシ物ニテアル也但シ古ハ佐比トイヒシヲ後ニハ文字ノマ、ニゾイフナル(按ズルニ此ノ物ノ事ヲモ武備志ニシルシテ刀上又一小刀ヲ挿ムテ雜用ニ便リスルモノ也ト見エタリ)

鞘卷トイフ物ハ古ニハ刀ノ事ニテアリシヲ今ハ卷大刀ヲモテ鞘卷トイフナリサラバ古ト今ト其ノ名ハ同ジキモノアレド其ノ實ハ異ナルナリアル人ノシルセシモノニ鞘卷トイフモノハアメザヤ卷ナル故ニ鞘卷トイフ大刀ノ作リツネノ大刀ト同ジ又鞘ヲ絲ニテ卷ク故ニ鞘卷トイフ柄ヲ絲ニテマク故ニ絲卷ノ大刀トイフカ古今兵具也ト見エタレド(東帶色目)イカバアルベキノシルセシヤウモ一定ノ説トモ見エズ平家物語ニ白拍子ノハジマレル事ヲシルシテ昔鳥羽院御宇ニ島ノ千歳ワカノ前舞ヒ出ダシタリケル也始ハ水干ニ立烏帽子白鞘卷ヲサイテ舞ヒケレハ男舞トゾ申シケルヲ中比烏帽子刀ヲノケラレテ水干バカリ用ヒタリト見エ侍リ今ノ大刀ナランニハハクトコソイフベケレマシテマサシク刀ヲノケラレテ侍ルヲヤコレノミナラズ石橋山ノ合戦ニ佐那田余一義忠侯野トクムデ其クビヲカケドモカケドモキレズサセドモトホラズ余一刀ヲモチ上ケテ雲スキニ見レバ鞘卷ノ栗形カケテ鞘ナガラ抜ケタリケリト源平盛衰記ニモ見エ又東鑑ニ御刀鞘卷有下緒トモ注シタレバ鞘卷トイフ物刀タル事疑フベカラズ又三議一統ニモ騎馬ノ御供ノ時裏打ト云フ事大口直垂鞘卷ノ刀ヲサスベシトシルシタレバ今ノ知以左加太奈トイフ物即チ其ノ物ナリ(鞘卷トイフ事ハ刀ノ鞘ヲ絲ニテ卷キテ塗レル也笛鞘卷ナドイフモタトヘバ笛ヲ卷キタランヤウニ卷キヌルガ故也白鞘卷ト聞エシハ白大刀ナドイヘル物ノゴトクニ白作ナル也トアル人ハイヒケリ義家朝臣ノ像ニ大刀ニソヘテサレシ刀ノ鞘ノ今ノ千段卷ナドイフ物ノゴトクニ繪キシモアレバ其ノ説ノ如クニモヤアルベケレド鞘卷トイフ物其ノ鞘ヲ絲ニテ卷キシガ故ニハアラズ此ノ物ヲサスニハ鞘ナガラヌケザランタメニ其ノ緒ヲ帶ノ上引コシテ鞘ニマキ其ノ餘リヲバ腰ニ挿ムベシサレバ鞘卷トイフ也佐那田余一ガ鞘卷ノ栗形カケテ鞘ナガラヌケシナドイフ事併セ見ルベシ)職人盡トテ百工ノ事ヲ繪キシ古畫ニ鞘卷切ト云フ者アル也其ノ造リ成セル物ノ形ヲ見ルニ即チ今ノ知以左加太奈ト云フ物ノ鞘也其ノ詞

昔ニ當時ハヤラヌ物也ト見エタレバ後花園院御治世ノ比ステニ世ニ用ヒラレヌ物ト見エタリ
 打刀トイフ物ハ鍔ノ上ニサステヒサキ刀ナルヨシ三議一統ニハシルシタレド鍔ノ上ニサステヒサキ刀打刀ノミ
 ニモ限ラジ又腰刀トイフ物サセシ事モ見エタリ但シ打刀トイフ物腰刀ニクラブレバ其寸ノ稍ノビタル物ニヤ上
 總五郎兵衛尉ガ懐ニシタル打刀ハ一尺餘リニテ(東鑑ニ見ユ)出羽守源齊頼ノ腰刀ハ九寸許リノヨシ見エテ(古
 事談ニ)巴ガ内田三郎家吉ガ頸カキシ腰刀ハ七寸五分トゾ見エタル(源平盛衰記ニ)コレヲ打刀腰刀ナドイフ物
 ノ長ノ古ノ物ニ見エシ所也彼レ是レヲ通シ考フルニ打刀トイフ物ハ古ノ小刀ニシテ腰刀トイフハ刺刀短刀ナド
 イヒシ物ナルベシ(大明ノ孝元儀ガ武備志ヲ見ルニ我ガ國ノ刀制ヲ記シテ刀ノ大小長短同ジカラズ名ヲ立ツル
 事モ亦異ナリ人毎ニ一長刀アリ之ヲ佩刀トイフ又一刺刀長サ尺ナルモノヲ解手刀トイヒ長サ尺餘ナルヲ急抜ト
 イフ又刺刀ノ類也此ノ三ツノ物ハ即チ隨身必用ノモノナルヨシ見エタリ異朝ノ書ニ見エシ所ナレド我ガ國ノ刀
 制ヲシルセシトコロ詳ナリトゾイフベキソノ佩刀トシルセル物ハスナハチ近代ニ出テ來シ刀トイフ物急抜トシ
 ルセシハ打刀ノ事ニシテ解手刀ト見エシハ此ニテモ昔刺刀共イヒ腰刀トモイヒシ物ニテアルナリ(吉野ノ郡和
 田村ニアル所ノ後醍醐院ノ御刀ナリト云フ物吉久ガ打造レル所ニテ其飾ハ今ノ脇差ト云フ物ノ制ノ如クニシテ
 柄ノ長四寸餘鞘ノ長サ一尺五寸餘柄モ鞘モ盡ク金ヲ以テ作ラレテ柄ヲ革ヲ以テ卷キ緒ハ紫ノ組ヲツク小キナ
 ル鍔アリテ今ノ世ニ小刀ヲ挿ム所ニ金ノ筭ヲ挿ム是古ノ打刀ノ制ナルニヤ三議一統ニ刀ノ柄ヲ絲ニテ革ニテ
 モ卷キシハ鍔ノ上ニサステベキ物也ヨノ常ノ時ニ用ヒシ事然ルベカラズトイフ事アリ(按ズルニ此說ニヨル時ハ
 ソノ代ニハ打刀ヲバ柄卷キテ鞘卷ノ柄ヲバ卷カザリシナルベシ)コレモ定マレル事トモ覺エズカノ源齊頼ノ腰
 刀クステイトニテ柄マキシヨシ見エテ(古事談ニ)文覺坊院中ニ推參セシ時ニサシタルハ管ニ馬尾ヲ組ミテ卷

キタル一尺餘ノ刀トコソシルシタル(源平盛衰記ニ)コレヲ鍔ノ上ニサ、テド柄卷キシ也忠度朝臣ノ最後ニサ、
 レシハ赤木ノ柄ニ白銀ノ筒金卷キシ刀ニテ九郎義經ノ鷲尾ニ賜ヒシモ花桐木ノ管ニ筒金入レタル刀トゾ見エタ
 ル(共ニ源平盛衰記ニ)コレヲ戰場ナレド柄マキシ物ニハアラズ又今ノ刀ヲモテ打刀トイヘル人アリモツトモア
 ヤマレル事ニヤ(上總五郎兵衛尉ガ打刀ノタケ又三議一統ニ見エシ所ナド併セ見ルベシ)但シ今代ニ刀トナヅク
 ルモノモ其ノ制ニツアル也知以左加太奈トイフ物ハ古ノ鞘卷ニテヨノツチニ腰刀ニサシソフル加太奈トイフ物
 ハ古ノ大刀ノ身ヲ鞘卷ノヤウニカザレル物也此ノ刀トイフモノ、出テ來シヨリ鞘卷ノ刀ヲ知以左加太奈トナヅ
 ケイフ事タトヘバ大刀ノ長キガ出テ來タレバソレヲ大々刀トイヒテ昔ノ大刀ヲバ小大刀トイフガ如シサレバ古
 ニ小刀トカキテ加太奈トイヒシモノ中比ハ鞘卷トイヒシヲ今ハ又小刀トカキテ知以左加太奈トイフ事其ノ文字
 ハ昔ニカハラテドナヅケイフ事ノカハレル也(今ノ刀ノ出テ來シ始サダカナラズ大雙紙ノ中ニヨノツチニハ白
 大刀ハキテ從者シテ黒大刀持タセシヨシ見エタレバ其ノ比マデハ今ノ刀トイフ物ハアラザルナリ凡刀ニ其ノ工
 ノ名ヲ銘ズルニ大刀銘刀銘ナドイフ事アリ大刀銘ノ物多クハ古ノ工ノ造レルナリ刀銘ナルハ多クハ近代ノ工ノ
 造レル物ニテアルナリ其ノ工ノ世ヲ論ジテ刀トイフモノ、出テ來シ始ヲ推シ知ルベシナドイフ人アリソノ、チ
 又陣刀トイフモノ出テ來タリ其ノ飾大ヤウハ大刀ニ似タレド帶トリモナク鞘モマカデ鍔ノ上ニ腰當シテハクベ
 キ物也又古ノ打刀腰刀ナドヲ異様ニ飾リナシテサシソフル陣脇差ナド、モイフ也コレヲコトニ近代ニ出テ來
 シモノトゾイフナル)

脇差トイフ物モマタニツアリケリ貞治六年八月十八日最勝講行ハレシ時ニ南都北嶺ノ大衆等鬪諍ニ及ビシ事ヲ
 太平記ニシルシタルニ南都ノ衆徒ハ面々ニ脇差ノ大刀ナド用意セシヨシ見エタリ其後山名陸奥守氏清ガ叛キシ

時御所ハ御腹巻ノ上ニ篠作トイフ御大刀ニニッ銘トイフ御大刀ニ振ソヘテ佩キ給ヒ藥研徹トイフ御脇差ヲサシ給ヒシヨシ明德記ニハシルセリ藥研徹トイフ刀ハ其ノ長サ八寸三分ニテアルナレバ其ノ比ニ脇差トイヒシモノハ古ニ聞エシ腰刀ニテ(源齊頼ノ腰刀ハ九寸許ト見エテ巴ガ腰刀ハ七寸五分ノヨシ見エタレバ藥研徹ノタケヲモテソノ腰刀タル物ヲバ知リヌ)太平記ニ見エシ所トハ同ジカラズ(太平記ニハ脇差ノ大刀トアルガ故也)腰刀トイフ物ハ其ノタケ最モ短クシテモシクハ敵トクマム時ニ鑑ノ透間サシ透スニ便リアレバ世ニ鑑ドホシトモイヒ馬手ノ脇ニモサセバ馬手差トモ又脇指トモ脇刀トモイヒ(懐ニモスベケレバ懐刀ナドモイフメリ)今ハ又コレヲ小脇差ナドイフナリカクナツケイフ事ハ近代ヨリ又打刀ノ身ヲ腰刀脇差ナドイフ物ノ如クニ飾リナシテサシケルホドニソレヲ脇差トイヒテ昔ノ脇差ヲバ小脇差トイフ事カノ大々刀小刀刀小刀ナドイフ事ノゴトシ其ノ後又ツチノ脇差ヨリ猶寸ノ、ビタル物ヲコシラヘテ大脇差ト名ツケタレバツチノ脇差ヲバ又中脇差トモナツケシ也カノ小脇差トイフ物ノ柄ニ鮫皮カケテ絲ニテマカヌヲバハナシ目貫ナドイヒスコシキナル鑄ウチタルヲバハミ出シトイヒテ鑄ウチヌヲバ合口ナドモイフスベテ今ハカク種々ノ物ドモ多クナリケリ

倭名鈔ニ欄ハ太知乃豆加也劍柄也(按ズルニ古ノ物ニ管ノ字ヲモ用ヒシナリ鞘ハ佐夜刀室也鮫皮佐女乃加波刀橋ヲ裝フモノ也鐔ハ都美波劍鼻也(今ハ鐔ノ字ヲ用ヒテ都波トヨム鐔ノ字ニハ劍鼻ノ義ナシイカニアヤマリ來レルニヤ)釋義トハ於比度利ナド注シタリ(倭名鈔ニハ釋義ノ字注ヲ闕キタリ按ズルニ説文ニ佩刀絲ノヨシ注セリ)又延喜式ニ柄頭卍銀勾金勾皮押鏡形乳形餅形阿志須惠組ナド見エシ物今ハサダカナラヌモアルニヤ鮫具トシルサレシ物ハ今俗ニ金具ナドイヘル物ナルベシコレラノ外俗ニイフナル毛拔形目貫ソラ目貫露ノ緒玉ブリ并ニカブトガチ大セツバ小セツバ覆輪シバ引モ、ヨセイシツキセメ足間カハサキカハノモンナドイヘル類ノ飾イニシヘニハイカニ名ツケイヒケム其ノ文字モ又詳ナラズ能クシル人ニ尋ヌベキ事也

周代ノ禮ニ男子ノ常ニ佩ブル物アリケリイハユル紛悅刀礪觸燧瑛捍管遯ナドノ類コレ也(内則)我が國ノ習俗ニハ此等ノ物大ヤウハ腰刀ニツケテ佩ブル事ニゾアリケルマヅ刀ニ小刀サス事ハ神代ヨリノ俗ナリ其ノ事ヲ前ニシルシヌ次ニ髮攝トイフモノハ(世ニハ笄ノ字ヲ用フルニヤ)カノ大小ノ觸ナドイヒケル物ノ類ニシテ此ノ物刀ニサス事モ又フルキ俗ニテアル也大納言行成卿イマダ殿上人ニテオハシケル時實方中將ニ冠ウチ落サレテイトサワガズシテ冠トリテカウフリテマモリ刀ヨリカウガイヌキイデ鬢ツクロヒシトイフ事寢覺記ニハ見エタリ武人ハ特ニ尋常ニ身ヲハナスマジキ故實アル事ナルベシ又次ニ火打袋ツクル事ハ昔日本武尊東夷ヲ平ゲ給ヒシ始御姨倭姫命天叢雲劍マキラセラレシニ其ノ劍ニ錦ノ袋ヲゾツケラレケル尊相摸國ニ至リ給フホドニ其ノ國ノ夷等野ニ火放チテ燒ウシナヒマキラセント謀リシニ及ビテ叢雲劍自ラ拔ケ出デテモエタル草ヲ薙キハラフ尊彼ノ錦ノ袋ヲヒラキ見給フニ其ノ中ニ燧ヲイレオカレタリケレバヤガテ石ノ稜ヲトリテ火ヲ打チ出シ給ヒテコナタヨリモマタ火ヲ放チ給ヒシカバ風忽ニ起リテ猛火夷ノ方ニ吹キオホヒテ悉クニヤケホロビスコレヨリシテ劍ヲバ草薙劍ト名ツケラレ其ノ野ヲ燒ツメノ野トハイヒケル(古事記ニハ燒遣ニ作り日本書紀ニハ燒津ニ作レリ)此ノ燧ト申スハ日神ノミヅカラ御像ヲウツサセ給ヒケルニ初鑄損ゼラレシ鏡ハ紀伊國日前宮ニオハシマス第二度ノタビニ鑄出ダサレシ鏡ヲ取りアゲテ見ソナハシ給フ時取りハツシテ打チ落サセ給ヒテ三ツニワレタリケルヲ火打トナサレテ錦ノ袋ニイレテ彼ノ劍ニツケラレシニゾアリケル今ノ世マデ人ノ腰刀ニ錦ノ赤皮ヲサゲテ燧袋トイフ事ハ此ノ故也ケリト源平盛衰記ニハ見エタリ寛正ノ比ノ記ニ足利殿ノ御腰物ニモ此ノ物ツケラレシ事見エケリ(親元日記)其ノ比モ四十ヨリ後ノ人ハツクベシソレモハレノ時ニハツクベカラズ宿老入道ナドノ人ハ

クルシカラズトイヒタル人モアリキ(大雙紙ニ)織田殿ノ比マデモ猶此ノ物ノ事見エケレド(安土日記)今ハカ、
 ル物ツクル事ハ見エズ(近代ニ及ビテ巾着ナドイフ物帶ニツクル事火打袋ノ遺俗ナルニヤ)ミジカキ刀袋ニイレ
 タルニ又護身符ナド袋ニイレテ其ノ刀ニツケテ幼キ人ノ身ヲハナサデ護刀ト云フナルモノハ彼ノ神劍ニ袋ツケ
 ラレシ事ニ似タルヤウニモ侍リ古ニ聞エシ護刀トイフ物ノ式ハイカニヤアリケム(マモリ刀トイフ物東鑑愚管
 抄癡覺記等ニ見ユ)江談抄ニ見エシ寶劍ノ鞘ニ卷キ付ケラレシ物又源義朝ノ守刀ニ大刀契ノ唐櫃ノ小鈎ツケシ
 ナドイフ事ハ(愚管抄ニ)ヨノツチノ例ニハアラズ

目貫トイフ物ハ目貫穴ヲ貫キテ其ノ柄ノヌケザラン料ニテアル也(我が國ノ習俗ニテオヨソハ孔竅ヲモテ目ト
 イフナリ墓目猪目ナドイフ類コレナリ)昔ハ麻布多岐トモイヒケリ古事談ニ肥前守景家トイフモノ常ニ鳥括ノ
 水干無文袴紅衣着テ赤ヅカノ刀ノ麻布多岐ニ具摺リタル差シテ家ノ中ニハ居タリケリト見エシハ此ノ物ニテア
 ル也又前右兵衛佐殿山本判官ヲウタレシ時夜討ニハ大刀ヨリ柄ノ長キ物ヨカンヌトテ加藤次景廉ニ長刀ヲ給フ
 コレハ故左馬頭殿ノ身ヲハナサデモタレタル物ニテ銀ノ小蛭巻シテ目貫ニ寶螺ヲスカシタル也トイフナレバ
 (源平盛衰記ニ)昔ヨリ此ノ物ニハ物ノ形ヲ作りケル也今ハ目釘トイフ物ヲモテコレニカスルホドニ此ノ物不用
 ノ物ニナリタレバ目貫穴ヲモ又目釘穴トイヒカヘタリ筒并淨妙々春ガ敵ノ胃ヲ打チ破リテ大刀モコラヘズ目貫
 穴ノモトヨリ折レニケリトコソ源平盛衰記ニモ見エタレ柄頭トイフ事ハ延喜式ニ見エシカバフルキ代ヨリノ名
 也ムカシ柄口トイヒシヲ(三議一統)今ハ布知トイフ鋸モ葵鋸トイフ物ハフルキ歌ニモヨミタリ練鋸(保元物語
 盛衰記等)葵鋸(庭訓往來)ナドイフ物イカニアリケン栗形トイフ事モフルキ名也(盛衰記ニ)折金トイフ物ヲバ
 負金トイフベシ刀ノ鞘ナガラヌケタラムニハウシロザマニ負ヒテ我が器ニ此ノ物ヲ懸ケテヌクベキ料也ナドイ
 フ人アレド普廣院殿富士御覽ノ時ノ御腰物ノ飾ヲシルセルニ柄頭コジリ栗形折金イヅレモ獅子ヲスエラレシヨ
 シ見エタリ(大諸禮ニ)サレバ古ニハ折金トコソイヒタレ今ハ逆角ナドモイフニヤ鞘ノ梢ヲバ近代ヨリ古之里ト
 イヒケリ昔ノ物ニハ鞘尻トゾシルセル(盛衰記ニ)波々幾ヲモ昔ハ脛巾金トイヒキ(コレモ盛衰記ニ)金トイフ字
 ソヘテイフベキ事ニヤ切羽トイフ字フルキ物ニ見エタレド(節用集)其ノ義詳ナラズ鴉目トイフハ其ノ形ノ彼ノ
 鳥ノ眼ニ似タレバカクハナツケシナルベシ

刀ノ形制モ亦多シ鎬作莖蒲作鶴頸冠落切刃平作ナド云フアリ莖蒲作ヲバ又餘尾トモ云フニヤ又種カキ彫物キリ
 物ナドイフアル也サレド皆昔ヨリ云ヒ習ハセル語ノミニテシカルベキ文字モアラズ異朝ノ書ニ備前刀ニ血漕ア
 ルヲ巧トスト見エタルハ種カキ物ニテ或ハ龍ヲ鑿リ或ハ劔ヲ鑿リ八幡大菩薩春日大明神天照大神宮ノ字ヲ鑿
 ルナドモ見エシハ(武備志ニ)ホリ物キリ物ナド云フ物ニテ侍リ昔ハ峯トイヒシ所ヲ今ハ棟トイフ也異朝ニハ脊
 ノ字ヲモ背ノ字ヲモ用ヒシ山脊ヲ峯トイヒ屋脊ヲ棟トイヘバ各其ノ義ハ同シカルベシコレニモ丸棟三ツ棟菴棟
 ナドイフモノアルニヤ鋒ノ字ヲ用ヒテ幾都左伎トヨミ中心トカキテ奈可古トヨム異朝ニハ莖ノ字ヲモ(周禮)鐔
 ノ字ヲモ(通雅)鐔者劍刀之本入レ把者也ト注セリ)用ヒ又柄ノ字ヲ用ヒシ事モアリキ其ノ形又其ノヤスリメナ
 ドノ式ニヨリテ各其ノ名アルナベシ(古ノ大刀ノ中心ニハ近世ノ物ト異ナル多シ其ノ中ニ中心ニ細ク長キ孔ヲ
 鑿開キシアリコレハ毛抜形ノ大刀ノ身ニテアル也)志乃岐トイフモノハ昔ヨリ鎬ノ字ヲ用ヒ來リタレド(太平記
 ニモ貝鎬ナド記セリ)此ノ字ハ異國ノ地ノ名ニテ志乃伎トイフベキ義ハ見エズオモフニ金ニ高キニ双ヒシ字ナ
 リケレバ我が國ニシテ此ノ字ヲ借リテ志乃伎トハヨミシナルベシ異朝ノ書ニハ峯ノカタヲ脊トイヒ及ノカタヲ
 脾トイフ事ハ見エタレド脊ト脾ノサカヒナル志乃伎ト云フ所ノ事ヲシルセル文字ハ見エザルニヤ(按ズルニ刀

稜劍稜ナドイフ事アレバ志乃伎トイフニハ刀稜ノ字ヲ借リ用ヒナマシ但シ稜ノ字ハモト四方木也ト注シタル也タトヘバ方ニケヅレル木ノ四ノ角ヲ稜トハイフコノ義ヲカリテ五稜八稜ナドイフ事モアリカノ志乃伎トイフ所ハ脊ト脾トノサカヒニシテスコシク稜アル所ナレバ此ノ字カリモチヒンコトアシカラジ(横手際トイフ所ヲバ異朝ニハ肩トイフ凡ソ刀劍ノ鑄及ヲ我が國ニテ也以波トイフ事ハ其ノ火ノタメニヤカレテ及ノ利キ事人ノ齒ノヨク物ヲ斷ツコトアルニ似タレバ名ヅケシ也(俗ニハ及ノ字ヲ波トヨム及齒ソノ訓ズル所同ジ)世ニハ又刀劍ノ文理ヲモ也幾トイヒテソノ文字ニモ亦及ノ字ヲ用フルナリ心得ヌ事ニヤ昔吳國ノ干將鑄耶トイフ夫婦ノモノ、作レル劍陽ヲ干將トイヒテ龜文ヲナシ陰ヲバ莫耶トイヒテ綬理アリト(吳越春秋)イフ事ヲ龜文トハスグヤキ綬理トハミダレヤキトイフモノ也トイヒモ傳フレバ也幾トイフニハ文理二ツノ字ヲ用ヒンゾヨカルベキ但シ龜文ヲスグヤキ綬理ヲミダレヤキトイヒ傳ヘシ事ハイカバアルベキ陽ニハ文章アリ陰ハ即チコレヲ平綬ニストイフ注コソハアレシカラバ陽ノ干將ニハ文章アリ陰ノ莫耶ハ平カニ文ナクヤキタル也綬ノ字ハ韻書ニモ無文也ト注シタリ文ナキ理ナランニハ綬理ハスグヤキニテ龜文ハミダレヤキニゾアルベキ龜甲ノオノヅカラ文アルヲモ又ハヤカレテ折タルヲモ共ニ龜文トイフナレバ龜文トイハニハ必ズ文章ハアリヌベシ淮南子ニ見エシ魚腸トイフハ正シクミダレヤキトゾ見エタル高誘ガ注ニ文繞リ屈リテ魚ノ腸ノ如シト侍リ歐陽子ガ寶劍ニ七星ノ文アリ又其ノ紋星ノ行ナルゴトシナドイフハ玉ヤキトイフ物ニテ彩ノ虹ノ蔚スルガゴトクナルトイヒシハ仁保比トイフ物光ノ流ル、星ニ似タリナドイヒシハ仁衣トイフ物ニヤアラン宋ノ沈存中ガ魚腹トイフハ魚ヲ燻テ其ノ腹ヲ見ルガゴトシ今ハ松文トイフモノ也トイヒシハ地肌トイフモノニ似タルヤウニ聞エ侍リソレヲモ文理トハイフベケレドアザヤカニ文アルモノハ也幾トイフ物ニシクハナケレバ古ニ龜文綬理龍龜魚腸星文ナドイヒシハ

ミナ也幾トイフモノ、事ニゾアルベキ
昔ハ刀ナドハ私ノ家ニモアリテツチニ身ニ隨フベキ物ナレド孝徳天皇ノ大化元年ニオホヤケニメサレシヨリ後ハ京師宮衛ノ士邊要軍團ノ兵ニアラサレバミダリニ帶ブル事ヲ得ズ持統天皇ノ世ヲシロシメサレシ七年ニ至リテゾ親王ヨリ進位已上ハ大刀一口ヲアラカジメ備フル事ヲユルサセ給ヒタリケリ令ニモ兵士ハ大刀一口刀子一枚自ラ備ヘヨト見エ式ニハ(延喜式)刀子ノ及長サ五寸以上ハタヤスク帶ブル事ヲ得ズタ、衛府ノ者ハコレヲ許ストモ見エタリ天慶承平ノ間甲斐信濃ノ國司等ガ望ミ請フニヨリテ帶劍ヲユルサルコレ平將門ガ叛キマキラセテ彼ノ國々モサワガシカリシ故トコソ見エタレ其ノ後天曆ノ比駿河國ハ三關ヲ帶ブレバトテ彼ノ天慶承平ノ例ニマカセテ望ミ請ヒシニヨリテ國司郡司等帶劍ヲユルサレシナドイフ事アレバ(朝野群載)此ノホド迄ハ宮衛ノ外邊要軍團ノ兵ニアラザレバ尺寸ノ及ヲモタヤスクハ帶ブル事カナハザリケラシコレラノ事ヲオモフニ古ノ令ノ嚴ナリシモ亦世ノ治マレルサマモ推シゾシラル、其ノ後イットナク其ノ禁ユルミテ南都北嶺ノ僧徒等モ兵仗ヲ帶スル事ニナリケリマシテ鎌倉殿天下兵馬ノ權ヲ專ラニシ給ヒ國ニハ守護庄園ニハ地頭ヲ置カレシヨリ後ハ弓箭兵仗ヲ帶スルモノ五畿七道ノ中ニ充滿ヌ今ノ世ニ至リテハサラヌ農工商賈ノ類マデ刀子帶ビザルモノハアラズ武人ニアラズシテミダリニ戎器ヲ帶フベキ事ハ本朝ニモ異朝ニモ先王ノ法ニアラザレバヨカラヌ事ニコソアルベケレ又古ノ令ニ凡ソ擊刀コトハ衛士暇アラム日ニ教ヘ習フベキヨシ見エヌレバ此ノ伎ヲ習フベキ法ハ古ヨリゾアリケル崇神天皇ノ御子豊城命ノ御夢ニ八タビ刀ウチ給フヨシ見給ヒシ事ゾ古事記ニ見エタルハ特ニフルキ代ノ事也ケリサレド此ノ伎ハ一人ニ敵スベキ事ナレバヨキ人ハミヅカラ得ル所アレド其ノ藝ニ名アラン事ヲ耻ヂケルニヤ世ニ顯レテ聞エシモ多カラズ筑紫ニ聞ユル肥後國ノ住人オイトノ次郎大夫教高九國一番ノモ

ノ切り也八郎御曹司爲朝ソレニ打物遣フ事習ヒテ師ニハ遙カニ超過シテオハセシ(此ノ事保元物語ノ異本ニ出
 ツ)又九郎御曹司義經鬼一法眼ト云モノニ兵法傳ヘラレシナドイヒ傳フレドソレモ爲朝ノ事ハ矢弓ノ名コソ高
 ケレ打物ツカハレシ事ハシレル人モマレニテ義經ノ兵法傳ヘラレシナドイフ事ハ今ノ世ノヤウニ刀ウツ事ヲイ
 ヒシニハアラズ彼ノ御曹司ノ手ツカラウツサレシ黄石公素書ヲ見シ事ノ侍リキカ、ル兵家ノ法ナド傳ヘラレシ
 トイフ事ニコソアリツレ近キ比此ノ伎ニ名ヲ得シ誰カレ異朝ノ昔劍客ナド聞エシモノ、如クナル人ハ多クゾア
 リケル大明ノ世宗皇帝ノ嘉靖四十年少保戚繼光トイヒシ將軍我ガ國ノ人ニ傳ヘ得ラレシ影ノ流ノ目錄ハ茅元儀
 ガ武備志ノ中ニ見エタリカノ嘉靖四十年ハ我ガ朝ニシテハ正親町院御在位ノ時永祿ノ四年ニヤアタリヌベキ誰
 ヤノ人ノ彼ノ國ニユキテ此ノ事傳ヘタリケム彼ノ國ニモ我ガ國ノ刀鑿ツ法ヨシト思ヘバコソカクハ教ヘ習ヒツ
 ラメコレノミニモアラズ我ガ朝ノ刀制ハ世ニスグレタルモノ也トテ或ハ日本刀凡イヒ或ハ倭刀トモ名ツケテ古
 ヨリ歌ニモ作り書ニモシルセシモノ世々ニ絶エズ(宋ノ歐陽永叔日本刀歌作レルノテ元明ノ人ノ賦シタル事ト
 モ多カリ)我ガ國ノハジメ天目一箇ノ神作金トナサレタリシヨリ後人皇第十代ノ朝廷ノ御時(崇神)其ノ神ノ初
 子シテ天叢雲劍ウツサレテ後ノ寶劍ヲバ作ラレタリケリ(神皇正統記ニ)此ノ後ノ寶劍ツクレル工ハ大和國宇多
 郡ノ人天國トイヒシナド世ニハ傳ヘタレド平家重代ノ寶小鳥ト云フ大刀ニハ大寶三年天國トイフ銘アルメリ
 (此ノ大刀今モ伊勢ノ家ニ傳ヘラル、カ)大寶トイフハ第四十二代ノ朝廷ノ(文武)年號ニテアルナレバ天國トイ
 ヒシハ後ノ寶劍作りシ人ニハアラジ但シ後ノ寶劍ヲハ大和國宇多郡ニテ作ラレシヨシ見エタレバ彼ノ天國トイ
 ヒシモ天目一箇神ノスエニテ後ノ寶劍作りシ人ノ子孫ニコソアルベケルカク我ガ國ニシテハコレヲノ工モ多ク
 ハ天地ノ神ノスエニテ世ヲ累テ其ノ業ヲ墜サマリケレバオノヅカラソレガ中ニハスグレテ妙ナル工モスクナ
 カラズ世ノ寶トナレル大刀小刀ノ類古今ニ其ノ名聞エシモ多カリ(名劍名刀ナドイフモノ、名ドモシルセシモ
 ノハ世ニ多ケレバ併セ見ルベシ悉クシルサムニハ事煩シケレバコ、ニ注サズ)萬國ノ中ニ我ガ國ノ制ニシクモ
 ノナシト他國ニテイヒケン事理ニモアリケリ彼ノ四十二代ノ朝廷ノ御代ニ撰バレシ令ニハ凡軍器ヲ營ミ造ラム
 ニ皆スベテ様ニヨリテ年月及ビ工匠ノ姓名ヲ鑄題サシメヨト見エタリサレバ天國ヨリ後ノ代ノ工ノ造レル大刀
 小刀ニハ年月姓名ヲ鑄リシ事令ニ見エシガゴトクナレバ其ノ工ノ巧ナルモ拙キモ其ノ代ノ遠キモ近キモツマビ
 ラカナレド天國ヨリサキノ代ノ物ハサダカナラズカクテ八十二代ノミカト後鳥羽院ノ御時ニ至リテ鎌倉ノ故將
 軍ノ會ハ絶エヌレド平義時ガ陪臣ノ身ナガラ猶天下ノ政ヲ出ダシケルコトヲ憤ラセ給ヒ御讓位ノ後ニハヒタス
 ラカレテ誅シ給フベキ愆慮オハシマシテモノ、フノ道ニ御心ヲ寄セラレタリケルホドニカチヨキ刀ヲモ求メサ
 セ給ハムトノ御事ニヤアリケム則宗(備前)貞次(備中)延房(備前)國安(粟田口)恒次(備中)國友(粟田口)宗吉
 (備前)次家(備中)助宗(備前)行國(備前)助成(備前)助延ナドイフ當時ニ名高キ鍛冶ノ工十二人ヲ撰バレテ十二
 月ニワカテ院内ニ番上セシメ多クノ刀ヲ作ラセラレ上皇又御手ツカラニ作ラセ給フ物モアリシナドイヒ傳ヘ
 侍リ此ノ事サモオハシケルニヤ承久ノ記ニ見エシモ東國ノ軍勢馳セ上ルト聞エテ大炊ノ渡ヘムケラレシ筑後六
 郎左衛門尉ガ佩キタル大刀ハ御所燒トイフ聞ユル大刀ニゾアリケル此ノ御所燒トイフハ次家ニ作ラセテ君御手
 ズカラ燒カセ給ヒケリトゾシルセル此ノ君ノ國々ノ工召シ集メラレテ多クノ刀作ラセ給ヒシ事異朝ニモ傳ヘ聞
 エシニコソ其ノ事シルセシ物モアルナレ(武備志ニ)サレバ又大刀小刀ヲ相スル事モ昔ヨリ聞エヌレドソノカミ
 ハタマンノ吉凶禍福ナドヲ相スル事ニテイヅレノ代イヅレノ國何某ガ作レル真ナル僞レルナドイフ事ヲ鑒ミ定
 ムル事ニハアラズ中比相摸國ノ住人五郎正宗入道ト聞エシハ古今ニ雙ナキ工ニテアリケリ此ノ者花園院御在位

ノ比ノ人也トゾイヒ傳フル正宗國々ヲ巡リアリキテ其ノ工ドモノ家々ニ傳フル所ヲウケテ始メテ筆ニシルシヌ
 正宗ニ男子ナケレバ近江國高木トイフ所ノ人貞宗トイフモノ養ヒテ家ツガス貞宗ガ弟子九郎三郎秋廣トイフハ
 後光嚴院ノ御時文和ノ比ノ人也ケリソレガ時ニ至リテ二十五箇國ノ押形トイフ物作りシヨリ始メテ代ヲモ國ヲ
 モ工ヲモ真ナル僞レルヲモシル事掌ヲ指スヨリモ猶明ラカニナリテゲリ秋廣此ノ事ヲ齋藤彈正忠ニ傳フ宇都宮
 三河入道トイフモノ齋藤ニ受ケ傳ヘテ又國々ヲ巡リアリキテソノ傳ヘシ所ヲタマシアキラメテゲリ此ノ三河入
 道ガ時初メテ大刀小刀ノ價ヲバ定メタル也コレハ其ノ時ノ公方東山殿ノ仰ニヨレリトゾイフナル木下美作入道
 トイフモノ三河入道ニ傳ハリテ齋藤左京進ニ傳ヘ齋藤又三好下野守ニ傳ヘシヲ細川二位法印玄旨ウケ傳ヘテ建
 部内匠頭ニハ授ケラレケリ又足利殿ノ代ニ妙本阿彌陀佛トイフモノ、世々刀磨ク事ヲ業トスルアリケリコレガ
 先祖ハモト相模國ノ住人松田ガ一族ニテアリケルガ足利殿ノ都ニ移リ給ヒシ後モ都ニ移ル妙本阿彌ガ時ニ至
 リテオノガ業ノ巧ナルノミニモアラズ刀相スル事モ堪能ノモノニテ其ノ名ヲ世ニ施コシテ其ノ家ヲ起シタリケ
 レバ嫡流ノ子孫ソレガ名ヲ家ニナヅケテ本阿彌トハナノリケリ妙本阿彌ガ四代ノ孫清信トイヒシガヨク父祖ノ
 業ヲ起シテ入道ノ後本光トナヅキシヨリ子孫又光ノ字ヲモテ名トス凡ハ古ノ刀ノ用シアシ眞僞ヲモ價ノ貴カラ
 ム賤カラムヲ鑒ミ定ムル事今ハ此ノ流ノミゾ世ノ鏡トハナリケルタ、シ其ノ家ニハ妙本阿彌ハ龜山院御在位ノ
 比ノ人ナリ又本光ハ普廣院殿ノ時ノ人也ナドモ申スニヤサラバ妙本阿彌ハ五郎入道正宗ヨリハナホサキノ代ノ
 人ニテアル也ソレガ子孫家ヲウケ傳フル事此ノ比迄ハ十一代也トモイフナレバ凡ハ四百三十餘年ガ程ニワヅカ
 十一代ヲ歴タラム事ハ其ノ家ノ傳フル所ナレドイブカシクコソ覺ユレ(東山殿ノ代ニ刀ノ價定メサセラレシハ
 其ノ比六十餘州ガウチ皆々大名等ニサキアタヘラレシ上ハタトヒ奉公ノ勞アラヌ人ニモ所領ニ給ハラシ關所ナ

ドモ多カラズ此ノ事ヲトカク按ジ類ヒ給ヒテ彼ノ三河入道ニ仰セテ刀ノ上中下アマタノ品ヲワカチテ其ノ品ニ
 ヨリテ又其ノ價ヲ定メシメ彼ノ奉公ノ勞ノ淺深ニシタガヒテコレヲ給ハリシヨリ始マレル也凡一貫トイフ事ハ
 五百錢ヲモテ一貫トスル錢法トゾイフナルコレ衰アル世ニ一時ノ權宜ヲ行ハレシニ事起リシカド遂ニ永キ世ノ
 例トナリケリ異國ニモ百金ノ劍萬金ノ刀ナドイフ事先王ノ御時ニハ聞エザリキ

本朝軍器考卷八終

本朝軍器考卷九

甲 胄 類

筑後守從五位下

源 君 美彙輯

素戔嗚尊父母ノ神ニ逐レテ高天原ニ昇リ給フ時濱瀆鼓ニ盪ヒ山岳鳴リ响エシカバ日神スナハチ丈夫ノ武備ヲ設ケ給ヒシト聞エシハ我國ニシテ軍容ヲ壯ニスル事ノ始ナルベキ日本書紀ニハ神武天皇ノ御代ノ始ニ兵甲介冑ノ字已ニ見エタレド古事記舊事記等ニハソノ事見エズ又日本書紀ニモ或ハツハモノトヨミ(兵甲ノ字ヲ)或ハイクサノ人ナドヨミタレバ(介冑ノ士ヲ)タゞ其ノ言ヲ文ニスルノミニテマコトハ戎衣ヲサスニハアラズ第十代ノ朝廷(崇神)天下シロシメヌ十年武埴安彦ガ叛キマキラセテ山背ヨリ都ヲ襲ハントセシニ大彥命彦國尊命等那羅山ニ軍シ輪韓河ニ進ミテ河ヲ挾ミテ各相挑ム安彦忽ニ彦國尊ノタメニ射殺サレシカバ彼ノ兵皆退ルヲ追ヒテ河北ニシテ首ヲ斬ルコト半ニスグウチモラサレシ者共皆甲ヲ脱ギテコノヲノガル其ノ甲脱ギシ處ヲナツケテ伽和羅トイヒシヨシ日本書紀ニ見エタレバ其ノ時ニハ此ノ物ステニアリケル也但シ其ノ代ニハ甲ヲバ伽和羅トコソイヒケレ古事記ニモ大山守命其ノ弟ノ皇子宇遲能和紀郎子ヲ殺シマキラセントテ菟道ニムカヒ給ヒシニ御弟大雀命ノタメニハカラレテ宇治ノ川中ニ陥リテウセ給ヒシヲ鈎ヲモテ其ノ沈ミ給ヒシ處ヲサグレバ其ノ衣ノ中ノ甲ニカヽリテシカモ其所ノ名伽和羅島ナレバ其ノ地ヲナツケテ伽和羅前トイフヨシハ見エケリ韻書ニモ甲ハ物ノ鱗甲アリテ自ラ禦グニ似タリ甲介函鏡皆堅重ノ名也ト注セリ今モ俗ニ龜甲ヲ加米乃伽字羅ナドイフハ伽和羅ナドイフ詞ニ相通ヘリ屋フク瓦ヲ伽和羅トイフモ鱗ニ似タレバカクハイヒケン昔ハ革ニテツクリタリケルヲ神功皇后ノ新羅ウタセ給フ時武内宿禰ノハカラヒニテ始メテ鐵ヲモテ造ラレシナド世ニハイヒ傳フルニヤ此ノ事國

史ニハ見エズタゞ國々ニ詔シテ船ヲ集メ兵甲ヲ練リ給フナドイフ事ハ見エタリサレド彼ノ大臣ヲ高良明神トイハヒシ事ハカヽルイハレモアリケルニヤ高良又伽和羅ト相通ヒヌ桓武天皇御時陸奥ノ夷賊大ニ起リケレバ延暦九年三月太宰府ニ仰セテ鐵冑二千餘枚ヲ造ラレシハ鐵ニテ造レル事ノ正シク見エシ所ナルベシ(是ヨリサキ廢帝ノ御時新羅ヲ征シ給フベキニテ天平寶字六年正月太宰府ニ仰セテ綿襖冑六萬餘具唐國ノ新樣ノ如ク造シメラレ又綿甲冑一千領ヲ造リテ鎮國衛府ニ貯ヘラル此ノ制ノ如キハ唐ニ所謂綿甲ノ制トゾ見エヌル又桓武ノ御時延暦九年閏三月諸國ニ仰セテ革甲二千領ヲ造ラレキ其ノ制ハ本朝ノ古制ニヨラレシ如クニゾ見エタル)コレヨリサキ孝德天皇大化元年七月詔アリテ開曠ナル所ニ兵庫ヲツクリテ國郡ノ刀甲弓矢ヲ收メ聚メ邊ノ國ノ近ク蝦夷ト境ヲ接ヘシ處ニハ盡クニ其ノ兵ヲ數ヘ集メテナホ本ノ主ニ假給フ天武天皇十二年ノ詔ニハ馬兵并ニ當身裝束ノ物務メテ具ニ儲ケ足セト見エ持統天皇七年ノ詔ニハ淨冠ヨリ直冠ニ至ルマデ人ゴトニ甲一領大刀一口弓一張矢一具輒一枚鞍オケル馬ヲ預メ備ヘヨト見エタリ其ノ後ノ令ニハ軍器戎仗ヲバ公庫ニ收メラレテ京師ノ宮衛ニモ國郡ノ軍團ニモ又將帥ノ出テ征ス時モ官ヨリ出ダシ給ハル事ニテ損失アランニハ官ニ申シテ推徴コトニゾアリケルタゞ兵士ノ自ラ備フベキ物ハ弓箭大刀刀子其ノ外ハ私家ニアルコトヲ得ズトコソ見エタレシカルニ後代ニ至リテ私家ニモ此ノ物ヲ自ラ備フル事ヲ得タルハ何レノ比ニヤ始マリヌラン中比ヨリ衛士ノ諸國ヨリ參ル時兵仗戎具ヲ給ハリテ身ニ隨ウテコレヲ役ス交代ノ日ニ及ンデモ兵仗戎具ヲ收メラレズ各持チテ歸ル事ヲ得シナドイフ事ノアレバカヽル事ヨリ古ノ禁モヤブレシニヤ弓箭ノ業ニタツサハラン人ハサモソアラメサラヌ山法師寺法師ナドイフモノモミダリニ甲冑兵仗ヲ藏シテ動スレハコレヲ帶シテ非法ヲ行ヒケム世ノクダレルサマコソウタテケレ

古ノ甲冑ノ制サダカナラズ式ニ見エシ(延喜式)朝ニ大儀ヲ行ハル、時近衛ヨリ四府ニ至リテ帶セシ甲冑トイフモ皆金銀ヲ以テ畫キシ絹ノ甲形布ノ冑形ナドイフ物ナレバ其ノ觀ヲ壯ニセシノミニテ實用ノ物ニハアラズソレヨリ後ニ至リテハ鍔腹卷腹當筒丸ナドイフ物共聞エテツハモノ、家々ニ傳ヘシ鍔ノ名ナドモ世ニ聞エシアリ小野朝臣右雄ノ家ノ羊革ノ甲牛革ノ甲各一領(弘仁中右雄東夷ヲ征セシ時着シモノ陸奥ニ有リシヲ貞觀中其ノ子陸奥權守春枝對馬守春風ニ分ケ賜ヒシ事三代實錄ニ見エタリ)藤原秀郷ノ室丸平石源義家朝臣ノ月數日數源太ガ産衣八龍澤瀉薄鐵楯無膝丸(源太ガ産衣一本ニハ七龍トシルセリ)平貞盛ノ唐皮源三位賴政ノ産衣木曾殿ノ薄鐵源義貞朝臣ノ薄鐵足利殿ノ小袖ナド皆々フルキ物語トモニ見エシ所也(秀郷ノ草紙陸奥後三年ノ圖ノ事書保元物語平治物語平家物語源平盛衰記太平記明德記等ニ見エシトコナリ)秀郷ノ家ニ傳ヘシ鍔ハジメ龍宮ヨリトリテ歸リシ所也ナド申ス歟室丸ハイカニヤナリケン平石ハ其ノ子孫佐野ノ家ニ傳ヘシヲ今モイヅルトイフ所ナル觀音ノ御堂ニ納メシアリ(イヅルトイフ所ハ下野國佐野ノ庄ニアリ彼ノ堂ハ千手院ノウチニアルナリ其ノ靈寶ノオヒライシト云フハ彼ノ鍔也秀郷ノ草紙ニハ平石トシルセリ佐野庄ノ者ノ申シハ避來矢トシルシ侍ルニヤト申シキ)義家朝臣ノ鍔ハ嫡孫ナレバ六條判官爲義ノ家ニ八領ナガラ受ケ傳フ保元ニ爲義子息義朝ト引キワカレテ新院ノ御方ニ參ラレタリケルニ産衣膝丸二領ノ鍔ハ嫡流ニ傳フベキ物也トテ下野守ノ許ニ遣ハシテ其ノ身ハ薄鐵ヲ着シ月數ヲバ四郎左衛門尉賴賢ニキセ日數澤瀉楯無ヲバ殘ル子息等ニ着セラル八郎爲朝ハ器量人ニスグレテヨノツチノ鍔身ニアハズ八龍ヲ似セテ黒キ綾ヲフトクタ、ミテ成シタリケル大荒目ノ鍔ノ獅子丸ノ裙金物白覆輪ナルヲ着ラレケリ(世ニ行ハル、保元物語ニ白キ綾トシルシタレド諸ノ異本ニハ黒キ綾トシルス此ノ鍔八龍ヲ似セタランニハ黒キ綾トシルシタルヲヨシトヤセム)ウスガネトイフ鍔ハ八幡殿奥ノ戰ニ身ヲハ

ナサズ着給ヒシ鍔ナルヲ後三年ノ戰ニ伴ノ次郎兼俊資兼常ニ軍ノ先ニタツテ着セラレシニ金澤ノ柵攻メラレシ時ニ石弓ノタメニ冑ハクダカレテウセニケリ鍔ヲバトリ傳ヘテ爲義ミヅカラ著ラレシ也下野守義朝此ノ時ノ戰ニハ八龍ヲ着ラレタリケルガ平治ノ亂ニハソレヲバ惡源太義平ニユヅリテ我が身ハ楯無ヲ着澤瀉ヲバ中宮進朝長源太ガ産衣ヲバ右兵衛佐賴朝ニゾ着セラレケル(義家朝臣ノ鍔八領ノ中日數ノ事詳ナラズ月數ハ柄葉色ノ唐綾ニテ成シタリ源太ガ産衣トイフハ八幡殿ノ幼名ヲ源太ト申シタリケルニ二歳ノ時院ヨリ參ラセヨ御覽セント仰セ下サレシカバ親父賴義朝臣ヲザト鍔ヲ成サセテ其ノ袖ニ居エテゾ參ラセラレケルサテコソ源太ガ産衣トハ付ラレタレ胸板ニ天照大神八幡大菩薩トツケマキラセ左右ノ袖ニ藤ノ花ノ咲キカ、リタルサマヲ成セル也又賴政ノ鍔ニモ産衣トイフ物アリ義家ノ後ニツタヘラレシ所ハ源太ガ産衣トイヒシカバオノヅカラ異ナル物ニゾアルベキ膝丸ハ牛千頭ガ膝ノ皮ヲトリテ成シタレバ牛ノ精ヤ入りケム常ニ現ジテ主ヲ嫌ヒケリサレバ塵ナドヲ拂ハントテモ精進潔齋シテ取リ出ダシケル由見エタリ八龍ハ黒絲ニテ成シシ鍔ノヨシ見エタレド諸説同ジカラヌ事共アリ保元物語ノ一本ニハ八龍トハ龍ヲ八ツ、打ッテ一ノ板ニ附ル故也ト見エ平治物語ニモ八龍トテ胸板ニ龍ヲ八ツ打ッテツケヌルヨシ見エタリ又保元ノ一本ニハ八龍トハ義家後三年ノ戰ノ時八幡大菩薩ノ神八神守護ノタメ八大龍王ノ形ヲ金ヲモテ内兜ノ眞向鍔ノ胸板オシツケ所々ニ附ケケル間八龍トゾ名付ケタル八領ノ鍔ノ中ニ殊ニ秘藏ノ重寶也然ル間嫡々タルニヨリテ義朝是ヲ相傳シテ着ラレシヨシ、ルセリ又源平盛衰記ニハ八龍トイフ冑ハ源氏ノ重寶銀ニテ龍ヲ前ニ三ツ後ニ三ツ左右ニ一ツ、打ッタレバ八龍トナツク保元ノ軍ニハ郎爲朝ノ着タリシ所也ト見エタリ或ハ八龍ヲ胸板ニツケシトモ或ハカブトヨロヒ所々ニツケシトモ或ハ冑ノ前後左右ニツケシトモイヒ又龍ヲ金ニテ作レリトモ銀ニテ作レリトモイヒ保元ノ軍ニ義朝ノ着ラレシ所也トモ又

八郎爲朝ノ着ラレシ所也トモイフ其ノシルセル所同ジカラズタシ保元ニ爲朝ノ着ラレシヨシハアヤマルルニ
 ヤ元弘ノ比長崎悪四郎左衛門尉ガ着タリシ白星ノ五枚冑ニ八龍ヲ金ニテ打ツテケシト見エシハ彼ノカブトニ
 做ヒシ所ナルベシ澤瀉ハ澤瀉威ニシタル也薄鐵ハ火威ノ鎧也キ源平盛衰記ニ木曾殿ノ最後ノ時ウスガチトイフ
 鎧着ラレシ由見エタルハ爲義ノウセラレシ後其ノ二男帶刀先生義賢此ノ鎧ヲ傳ヘテ子息義仲ニユツラレシニヤ
 タシシ平家物語ニハ木曾殿ノ最後ニ着ラレシ鎧ノ名ハ見エズタシ唐綾威ノヨシ見エタレバ保元物語ニ見エシ所
 ニハ異ナル歟ハルカニ代隔タリテ後源義貞朝臣重代鎧ヲモ薄鐵トイフヨシ見エタリ此ノ鎧ハ赤威ナリシ事梅松
 論ニ見エタレバ彼ノ義家ノ物ヲヤ傳ヘラレケム楯無ハ黒絲威ノ鎧ニ獅子ノ丸ノ裙金物打ツタル也近キ代マデ甲
 斐源氏武田ノ家ニ傳ハリシ重代ノ鎧ニ楯無トイフアリ此ノ源氏ハ八幡殿ノ流ニハアラズ其ノ舍弟刑部源義光ノ
 末ナルニイカニシテカハ其ノ家ニ楯無ハ傳ハリタリケンタシ爲義ノ家ニツタヘラレシ物ニハアラチド其ノ制
 ヲ同ジクシタレバ其ノ名ヲモ同ジクセシニヤ今モ世ニ産衣様楯無様ナドイフ鎧ノ制アレド古ノ制ニハ同ジカラ
 スモノニゾアルベキ又平家重代ノ鎧トイヒシハ桓武天皇ノ御時帝ノ御叔父慶圓ト聞エシ上人祈リ得ラレシ所
 ニテ六代ノ朝廷ニ傳ハリテ大内ノ御寶也シヲ高望王ノ御孫平將軍眞盛ノ時ニ下シアツケラレシヨリ此ノカタ小
 鳥トイフ大刀ニソヘテ其ノ家ノ嫡流ニ傳フル事凡九代ニシテ維盛朝臣ニ至ル維盛都ヲ落チラレシ時子息六代ガ
 成人ノ後ニ傳ヘヨトテ都ニトメ置カレシト見エシガ其ノ後ハイカニヤナリケンコレハ黄楯ノ勾ヒニ白ク黄ナ
 ルフタツ蝶ヲ裙金物ニウツ絲威ニハアラズ皮威也ケリ裏ヲ返シテ見ルニ札ノアヒノニ虎ノ毛アルニゾ虎ノ皮
 ニテ威シタリトハシラレタルサレバ其ノ名ヲ唐皮トハツケラレシヨシ源平盛衰記ニハシルセリ古キ鎧ノ猶今モ
 世ニ遺リ傳ハレル物ドモ法隆寺ニ聖德太子ノ幼キ時ニ甃ビ給ヒシ物也トテ小キナル甲冑ノ形アリ是ハ眞ノ物ナ
 ラチド其ノ代ノ制モ後世ノ物ニ異ナラザリシトハ知リヌ藤森ノ社ニ崇道天皇ノ御鎧トテ紫絲威ノ鎧ノ弦走ノ破
 レシアリ(鎧ハ古キ物ナルコト疑フベカラズ冑類當小手脇當等ノ類ハ其ノ代ノ物トモ見エズ)石清水ノ社ニ義家
 朝臣納メラレシト云フ紺絲威ノ鎧同ジ毛大星ノ冑ニ二ツ引轡ノ旗副ヘテ唐櫃一合ニイレタルアリ其ノ唐櫃ノ制
 ニ至ルマデ誠ニ古代ノ物也鞍馬寺ニ義經ノ物也ト云フ物障子板弦走脇楯等ハ失セタルガ昔ノ威毛ハイカニヤア
 リケン紅絲威ナルアリコレハ此ノ比或人ノ毛引ヲホシテ納メシト云フ也其ノ冑特ニ奇代ノ物也大星ノ五枚冑ニ
 鍬形ノ長サ一尺六寸三分餘ナルニテヘンニモ左右ノ吹返ニモ黄金物ノ獅子ヲ打ツテツク其ノ冑ノ重キコト大十
 斤ヨノツチノ人ノ堪フベキ物ニモアラズ八郎御曹司爲朝ノ八龍ヲ似セテ大荒目ノ鎧ノ獅子丸ノ裙金物白撥輪ナ
 ルヲ着ラレシト見エタレバ此ノ冑ハ彼ノ御曹司ノ物也シヲ九郎御曹司ノ物也ト傳ヘ認レルモ知ルベカラズ猶モ
 此等ノ物ヤアルト尋チシホドニ鞍馬法師原ガ預リノ物トテフルギ星冑ノ鉢三ツ龍ノ金物八ツ吹返目庇ナドノ破
 レ殘リタル金物ドモ八ツヲ出ダセリ其ノ八ツノ龍ハ義家朝臣ヨリ代々相傳ヘテ悪源太義平ニ至レト云フ八龍
 ノ金物ナルニヤ其ノ制皆々奇代ノ物也又白絲ヲ色々ノ絲ニテ妻取リシ同ジ毛ノ鎧ノ破レタルヲ五領マデ出ダシ
 タリキ春日社本談議屋ニ義經ノ赤絲威ノ鎧同ジ毛ノ四方白ノ五枚冑ニ鍬形打ツタルアリ又興福寺勸修坊ニ義經
 ノ左右ノ小手アリ何レモ正シキ證ハナケレド古ノ物ナル事ハマガフベクモアラズ南都周防ノ得業聖佛ハ師檀ノ
 契アリシ故ニ豫州都ヲ落チ去リテ彼ノ坊ニ來リシヲ下法師等相副ヘテ伊賀國マデ送リシナド云フコト東鑑ニ見
 エタレバコレヲ時後ノ形見トモナレトテ甲冑脱ギオカレタリケンモ知ルベカラズ又本談議屋ニ紫絲威ノ鎧ヲ
 同ジ毛ノ冑副ヒタル二領アリ(南都具足師ハ五音威ト申スナリフルキ物ニカ、ル威毛ハ聞キモ及バズ但シ五色
 ノ絲ヲ以テ逆オモダカノ形ニ毛引シ所アリ如此ナル鎧ノ毛ハ右畫ニモ多ク見タレドイカニ云フランモ不詳)

又センダンノ板獅子頭ノ前立物等アリキ是等ハ皆見ルニ及ビシ物トモ也(別ニ圖ニ詳也)是レ等ノ外ニハ彼ノ秀郷朝臣ノ平石又殿島社ニ義家朝臣ノ鎧アリ(爲春九國紀行ニ見ユ)備前見島ノ上寺ニ佐々木三郎盛綱ノ鎧アリ武藏秩父ノ御嶽社ニハ島山庄司二郎重忠ノ鎧アリ下野ノ那須ニハ余一宗高ノ鎧アリト云フ是等又聞キ及ビシ所ナリ此ノ餘古キ宮寺ノ寶トモ成リ又舊キ家々ニ取リ傳ヘラレシ物モ多カメレドソレヲ見ン縁ナケレバ其ノ制ヲモ知ラズ

應仁ノ後ウチ續キタル世ノ亂レニ古ノ鎧腹卷腹當筒九ナドイフ物ハ皆廢レテ筒九ノ制ニヨリテアラタメ作レル具足トイフ物ノミゾ世ニ聞エヌル昔ヨリ鎧ニツキシ物トモヲ小具足ナドイフコトハアリシ今ハ昔ノ制ヲ鎧トイヒ今ノ制ヲバ具足トイフ俗ニナリタルニヤ凡具足トイフコトバ、何ニテモアレ其ノ具ノ盡ク備ハレルヲイフコトバ也衛府具足射手具足弓具足鞍具足ナドイヒシ是也タトヒ其ノ制ハカハリヌトモ今ノ制ヲモ鎧トコソイフベケレ又古ニ鎧ヲ着背トモイヒシ事ハ腹卷腹當ナドイフ物ハ皆其ノ背ノ合ハザルニ鎧ハソレラニ異ナレバカクハ名付ケイヒタル也(又着背長ナドモシルスニヤソレモソノタケノ腹卷腹當ナドイフ物ヨリ長クシテソノ背合ヒヌルガ故ナルベシ)又物ノ具トイヒシ事ハ戎具トイヘル義ナルベシ又古ニ三ツ物四ツ物七ツ物ナドイフ事モ聞エタリ胴冑袖ヲソロヘテ三ツ物トイフヨシハシルセシ物アレド(大諸禮ニ)四ツ物七ツ物ナドイフ事ハ詳ナラズ鎌倉ノ滅ビシ時島津四郎トイヒシモノ高時入道ヨリ賜ヒシ馬ニノリ濃紅ノ大笠驗浦風ニ吹キノラサセ三ツ物四ツ物取リツケテアタリヲ拂ヒハセ向ヒシトイフ事太平記ニ見エシニ又異本ノ太平記ニ笛吹峠ノ戰官軍ステニカケマケシニ上杉ガ兵長尾彈正禰津小次郎將軍ノ陣ヘマギレ入り尊氏ヲ討チマキラセムトセシ事ヲシルセシニ禰津小次郎フスベ革ノ鎧ニ同キ毛ノ甲着テ七ツ物山ノ如クニ取リ附ケテ薄紅ノ大笠驗ツケシヨシ見エタリサレバ

ワカチテイフ時ハ三ツ物四ツ物トモイフ物ヲアハセテソレヲ七ツ物トモイヒケルニヤ梅松論ノ中ニ多々良濱ノ戰ノ事シルシニ凡御當家(足利殿ノ家ヲサスナリ)戰場ノ御出立條々秘説アリムカシ頼義朝臣安倍貞任ヲウタレシトキ自ラ手ヲ碎キテ十二年ガ間暗夜雪ノ中ニモ戰ハレシホドニ亂レ合ハン時必ス誤アルベシトテ清原武則ガハカラヒトシテ將軍ニ七印トイフ七ノシルシヲ附ケ奉ル皆武具ノ内ニアル也タヤスク知ル人有ルベカラズ今日ハ七ツ迄ハナカリシカドモ佳例ニ任セテ少々御心カケラレケルトゾ承ルト見エタリ又體源抄ニモ義貞朝臣ノ記ヲ引キテ八幡殿奥州合戰ノ時大將軍ノ驗三ツヲ定メラレシト云フ事アリ七ツノシルシ三ツノシルシナドイフ物ハ彼ノ三ツ物四ツ物ナドイヒシモノニ同ジキニヤ但シ將軍ノシルシト見エタレバヨノツテノ兵ノ用フル所ニハアルベカラズ又ヨク知ル人アルベカラズナドモシルシタレバ其ノ代ニモ此ノ事ヨクシルル人ハマレニヤアリケン又世ニ兵ノ六具ナドイフ事ハ(甲冑類當小手脛楯腰當ノ六ツヲイフ其ノ外異説多シ)僧家ノ六物ナドイフ事ニ倣ヒシニゾアルベキ凡戎ノ具其ノ六ツニノミカギルベカラズ片小手ニ諸具足シタルナドイフ事コレモ太平記ニ見エシカド其ノ事サダカナラズ但シ片小手トシルセシヲ一本ニ弓小手トハシルシタリ古ノ制一タビアラタマリテ今ノ具足トイフ物出來シヨリ年月ヲ歴ル事モ多ク今ノ代弓ヲクロニシ戈ヲツ、メル事モステニ百トセニ及ビヌレバ其ノ工ヲ業トスルモノダニ古制ヲヨクシルルハ希也サレバ其ノ此ニシルセル物共ヲ見ルニ疑ハシキ事ノミゾ多カル

弘安禮節ニ見エシ甲冑ノ名所古ノ物共ニシルセルニ合ヒシ所スクナシ又今ノ世ニイヒナラハセル所ノ古ノ物トモニ見エヌモ多シ昔ノ鎧ハ脇楯アレバ馬手ノ脇ハ合ハズ乳ノ下ヨリ下札四段ナレバ古キ物ニモ四枚胴ナドイヒケリ此ノ四枚ハ前ヨリ射向後マデツラナル禮節ニ衛胴トカキテ加布幾銅トヨミ左右ノ乳下也ト注シタル是也衛

胴ヨリ上ヲ前モ後モ立舉トイフ射向ノ方ハ脇板トイフ也立舉ハ前後共ニ三段ツ、アルベシ鏡ノ前ノ第一ノ板ヲ一ノ板トモ(源平盛衰記ニ)胸板トモイフ禮節ニ鬼會トカキテ於爾他麻里トイフ領ノ下也ト注セシ是也胸板ノ次ヲバ弦走ノ板トイフ(源平盛衰記ニ)世ニハ假粧板ナドイフ也コレヨリ下ノ板トモ皆弦走ヲモテ覆フベシ弦走ノ三ノ板トイヒシハ(承久記)第三ノ板ヲイヘルナリ(此ノ板弦走ノ下ニアリテ上ヨリハ第三ニアタルガ故ナルベシ)高紐トイフハ禮節ニ神道札ノ下二寸ノ穴也ト注シタリ(此ノ注必ズ脱字アルベシ善本ヲモテカンガフベキ事ナリ)又神道ノ札ヲハ慈牟助乃佐禰トイフ兩肩ノアタル所也ト注シタレバ此ノ札ハ即チ今ノ綿嚙トイフ物也其ノ下二寸ノ穴ヲ穿チナンニハ今イフ綿嚙ノ相引ノ緒スナハチ高紐トイフモノ也高紐ニ弦セカレシトモ又弓ツヨク引カントテ甲ヌギ高紐ハツセシナドフルキ物共ニ見エシハ(保元物語ノ異本太平記等ニ見ユ)此ノ物ノ事ヲイヒシ也今ハ馬手ノ引合ニアル緒ヲ高紐トイフ事ニヤ誤レルナルベシ梅檀板トイフモノハ此ノ高紐ノ上ニ覆ヘル也古ハオシツケノ板トイヒ今ハ綿嚙ノ横板ナドイフ物禮節ニハ月被トカキテ都幾加都幾トイフ背ノ領也ト注シタリ此ノ板ヨリ左右ニ別レテ兩肩ヲオホヒテ前ノ方ニ至リテ高紐ヲ懸クベキ板ハ禮節ニ見エシ神道ノ札ニシテ今ハ綿嚙トイフモノ也此ノ板ノ上ニ障子ノ板トイフ物アリコレモ古ヨリ聞エシ物ナリ障子ノ板ト云フ物ハ其ノ形下弦ノ月ノ如シサレバ綿嚙ノ横板ヲ月被ト云フナルベシ綿嚙ノ横板ノ下ニアタル板ハ逆板也此ノ逆板ニ總角ヲ付ケヌレバフルキ物ニハ總角付板トシルシタリ(太平記ニ)草摺ヲバ禮節ニ草藤トカキテ久左津里トヨミ左右ノ膝ノ上也ト注シタリ靡ノ字モシハ又靡ノ字ヲヤ誤リウツシヌラム凡草摺ハ前ト後ト射向トニ合セテ三枚アルベシ前ヲバ前板トイヒ後ヲバ引敷ノ板トイフ射向ノ方ヲバフルキ物ニハ弓手ノ草摺トゾシルセル(源平盛衰記ニ)此ノ板ニ大刀懸トイフ物アリ脇楯ニツキタルヲバ壺板ト名付ケタリ(太平記ニ見ユ)今ハユルギノ糸ト

イフモノ昔ハ草摺ノ横縫ノ糸トイフ太平記ニ大刀懸草摺ノ横縫ト見エシハ是也前モ後モ射向モ其ノ終リノ板ヲ菱縫ノ板トイフハ此ノ板ニ菱縫ノ糸アレバ也袖ト背ノシコロトノ終リヲモ菱縫ノ板トイフ事又コレニ同ジ(異本保元物語ニ八郎爲朝鏡ノ名所ヲカソヘラレシコトバニクツケイ弦走障子板脇立ノ上ト云フコトアリ其ノクツケイト云フハイツクナルニヤ未詳)左ノ袖ヲバ古ヨリ射向ノ袖トイヒシカド右ノ袖ノ名ハ聞エズ袖ノ上ノ板ヲ冠ノ板トイフ事モ古ヨリ聞エシ其ノ板ノ前ノカタヲ世ニハ櫛形トイフ其ノ次ヨリ一ノ板二ノ板ナドカゾフル也オヨソ袖ニ緒付クル事四所也綿嚙ニ結ブベキヲシツカノ緒トイヒ袖付ノ管ニ懸クベキヲ後ヲバ懸緒トイヒ前ヲバウケ緒トイヒ合セテコレヲ四ツ緒トモイフ總角ニ懸クベキヲバ水吞ノ緒トイフニヤ此等ノ名ハフルキ物ニハ見エズタゞ世ニイヒナラハセル所也脇楯ノ事ハ下ニ詳ナレバコトニハシルサズ背ノ制ハ大ヤウ昔モ今モカハラズ鉢トイフ事古ヨリイヒ傳ヘタルコトバ也近キ比異朝ヨリキタル書ニ盃ハ孟ノ屬スナハチ鉢也今首鏡ヲイヒテ盃トイフナリト見エタリ(品字箋)彼ノ國ニモ今ハ鉢トイフ字ヲ加布登ノ事ニ用ヒケリ自ラ其ノコトバノアヒヌルコソメヅラシケレ禮節ニ神宿トカキテ加牟也登利トイフ頭上ヲイフ也ト注シタルハ今ハ世ニハ幡座ナドイフ所也(猶下ニ詳ナリ)古ニハ此ノホトリヲ皆手反トイヒケリ宇治ノ軍ニ足利又太郎忠綱ガアマリアフノキテ内甲射サスナアマリニウツムキテアヘン射サスナトイヒ義經モマタアヒ引キシテシコロ射ラルナイタクウツブキテ手反射ラルナトノタマヒシハ皆今イフ息出シノ穴ナドイフ所ヲサシタルニヤ又手反ノ直中トモシルシシアリ(太平記ニ)前ノ方ヲバ昔ハ真向トイヒシ禮節ニ筋宿トハ雙顔ノ盡ル所也ト注セシモ真向ノ左右ヲ云フナルベシ目底ノ板トイフ物フルキ物ニハ其ノ名聞エズ義貞朝臣ノ最後ニ流矢來テ真向ノハヅレ眉間ノ真中ニタチシヨシ太平記ニ見エタレバ其ノ比ハタゞ真向ノハヅレナドイヒケルニヤ此ノ板ヲバ必ズ丸キ頭ノ針ヲ以テ背ノ鉢ニ三

所ニテウツナレバオノツカラ三ツノ星ノヤウニゾ見ユル禮節ニ三台ノ座ト注セシ所コノ所ニヤトオモヘド其ノ注ニ左右ノ耳邊ナリト見エタレバイカマアルベキ吹返シ又フルキ名ナリ禮節ニ左右ノ雙座也ト注シタリ異朝ノ割ニ風翎盔トイフモノアリ今モ我ガ國ニテ秦王奏スル舞人ノカウブル冑形ソレ也其ノ風翎ニ倣ヒテ吹返シヲバ作レル物トコソ見エタレウシロニハ笠幟ノ額トイフアリ此ノ名モフルキ物ニハ見エネド笠幟ハ冑ノ後ニ付クル物也トイヘバ此ノ物ヲバ昔ヨリカクコソ名付ケイヒタルヲメ鉢付ノ板昔ヨリ聞エシ名也此ノ板ヨリシコロヲ綴ル絲ヲ古ニハ鉢付ノ横縫トイヒケリ

昔ノ制ノ今ニカハレルハ障子板梅檀板弦走逆板大刀懸ナドアルト特ニハ脇楯ノアルコソ大ニ異ナル物ナレ障子板トイフハ薄鐵ノ形ハ弓張月ノ如クニ半圓ナルヲ染皮ニテツ、ミテ左右ノ綿嚙ノ上ノ前ニヨリテソノ圓ナルカタヲ上ニナシテ側立タツ又同形ニテソノ中ヲ虛クセルモアル也コレハ頭ノ骨射ラレザラムタメノフセギ也タトヘバ屋ノ内外ヲ障子モテ隔テタランヤウナレバカクハ名付ケタリケリ又梅檀ノ板トイフハ胸板ノ左右ニアリ又小手輪ナドモイフニヤ(此ノ名ハフルキ物ニハ見エズ)又右ヲ梅檀左ヲ鳩尾トイフヨシイヒ傳ヘ侍リイハユル梅檀板ハ其ノ形左右ノ袖ノゴトクニテ特ニ少シク板ノ數モ三枚ニテタケモ縫ニ七寸五分許アルベシ鳩尾トイフ板ハ薄鐵ノ上潤ク下狭キガタケ七寸許ナルヲ染皮ニテツ、メルニ金ノ覆輪アル物也此ノ二ツノ板ヲ左右ノ綿嚙ノ相引ノ緒ノ上ニ掩フヤウニカケテ又二ツノ板ノ中ニアル紐ヲ前ニ結ビテヒラケザラムヤウニシタル也コレ相引ノ緒キラレザランタメノ料ナルベシ昔ハ二ツナガラ合セテ梅檀ノ板トイフニモラム梅檀ノ板トイフ名ハフルキ物共ニ見エシ多ケレド鳩尾ナドイフ名ハ見エズ(コレヲ梅檀ノ板トイフ事オモフニモトハ杏葉ノ形ヲ用ヒタリケム春日社ニアル補正成ノ筒丸ナリトイフモノニハ杏葉ノ形ヲ用ヒラレタリ杏葉トイフ物ハ特ニフルキ物ニテ

アル也古ノ馬ノ飾ニモ此ノ物用ヒシ事アリ梅檀ハ二葉ヨリカウバシキナドイフ諺モアレバ此ノ物葉ノ形ニツツ用フルガ故ニカクハナツケタルナルベシソノ、チニ其ノ制アラタマリヌレド其ノ名ハモトノマ、ニヨビシニヤ此ノ板ニハカナラズ匂ノ絲トイフモノヲツカヘバカクナツケシナドイフ説アレド匂ノ絲トイフモノハ袖ニモ草摺ニモツカフベシ此ノ物ニノミカギリテ其ノ義ヲ取ルベシトモオモハレズ又鳩トイフ鳥ハ八幡ノ御使ナリナドイフ事アリテシカモ此ノ板ノ形モイハ、鳥ノ尾ニ似タルモノナレバ鳩尾トハ名付ケタリケン但シ此ノ板ノ形我が見シ所モ少シキ異ナル物ドモアリキ)弦走トイフ物ハ染皮ノ形凸ノ字ノ如クナルヲ上ハ假粧ノ板ノ下ヨリ下ハユルギノ絲ノ下ニ至リ射向ノ半馬手ノハヅレ迄ニカ、ルヤウニシテ鏡ノ前ヲ掩ヒタル也其ノ染皮ノ上ト左右トノメグリヲバ或ハ錦皮或ハ織物ノ類ヲモテ縁トナシ皮ト縁トノ縫ヒメギハニハ組ヲモテフセヒニシタルヲ上ノ方ヲバ小櫻トイフ釘ニテウチ下ハ其ノ皮ヲ穿チテユルギノ絲ヲ引キ出ダシケル也藤森社ニアル崇道天皇ノ御鏡ト云フ物弦走ノ破レテ上ノ方バカリ殘リタルガ獅子頭ヲ染メシ皮也ツク、トコレヲ見ルニ其ノ皮ノ上ニ小シキナル紋アル赤地ノ織物ヲ覆ヒシガ所々ニ破レ殘リシアリ縁トナシシ物トモ見エズメツラシキ物ニ覺エ侍リ(假粧ノ板トイフ物ハ胸板ノ下ニモオシ付ノ板ノ下ニモ又ハ袖ノ冠ノ板ノ下ニモアルベシ廣サ五六分ノ板ヲ横タヘテ紋アル皮ニテツ、ミテ間ノ金物トイフ物ヲ打チ其ノ板ノ下ニ白キ赤キ二色ノ綾ヲモテ水引トイフ物ヲツクル此ノ水引ヲマタリウモントモイフニヤ)逆板トハオシツケノ板ノ下ニアル板ヲイフ凡鏡ノ札ヲバ下ノカタノ上ニカサナレヤウニスルニ此ノ板バカリ上下トノ上ニナルヤウニシタル物ナレバサテコソ逆板トハ名付ケタレ其ノ制上ハ札頭トイフ物シテ下ハ一文字ニシタルヲ上ノカタニハ啄木ノ組ヲモテウナメトイフ物ニシテオシツケノ板ニ綴リ下ノカタニハ菱縫ニ通シテ其ノ下ノ板ニ綴ル此ノ板ノ真中ニ總角付ノ金物アリテ總角ヲ

付クレバ總角付ノ板トモイフ又總角トイフ物鏡ノ後ニツクル事ハ昔素戔嗚尊ノ天ニ昇リ給ヒシ時日神ミクシヲ
 アゲテ髻トナシ給ヘルヨリ事起リ其ノ後又神功皇后新羅ヲ征シ給フ時西ノ海ヤ樞日ノ浦ニ至リマシテミグシヲ
 解キテ海ニ臨ミ給ヒ吾神祇ノ教ヲウケ皇祖ノミタマノフユヲカウフリ滄海ヲ涉リテ自ラ西ヲ征サント思フモシ
 驗アラシニハ髮自ラ分レテ兩ニナレトノ給ヒテ海ニ入レテ洗キ給ヒシニ髮オノヅカラ分レヌ皇后即チ親ラニア
 ゲ給ヒ男ノ形ヲ假リテ遂ニ彼ノ國ヲシタガヘ給ヒテゲリコレヨリシテ彼ノ髮ノ形ニ倣ヒテモノ、フノ鏡ノ飾ト
 ハナシタル也ト部家ノ説ニハ冠トイフ物ハ三十四代ノ朝廷ノ御時ヨリ始マル(推古)ソレヨリサキノ代ハ男ハ髮
 ヲフタツニワケビソツラニユフ女ハサカ髮ニワケテ額ニヒトツニユヒテ櫛ヲサシソノ餘ヲ後ニサゲシ也ビソツ
 ラトハ總角トカク髮ヲニツニワカチ結ビシ形ハ角ニ似タリ其ノ餘ノ垂レタルハ總ニ似タレバ也コレヲ又アゲマ
 キトイフ也鏡ノ總角ハ神代ヲマナビ總角ヲ表スル也ト見エケリ(按ズルニ冠トイフ物伊弉諾尊ノ御時ヨリ始マ
 レルニヤ其ノ事舊事記ニ見エタリ又大己貴命ノ冠ノ事出雲風土記ノ中ニモ見エタリ三十四代ノミカドノ代ニ始
 マレルトイフ事ハイカバアルベキ)コレヲノ説ニヨリテ總角トイフ物ハ尙ニツケタルヲイフ鏡ニツクル事ハ後
 代ノ事也ナドイフ人モアレド昔ヨリ鏡ノ總角トコソハイヒタレ(尙ニアルヲバ世ニハ母衣付ノ緒ナドイフ也)大
 刀懸トイフモノハ射向ノ方ノ草摺ヲ綴レル物ニテアルナリ前板引敷ノ板ヲバユルギノ絲ニテ綴レド弓手ノ草摺
 ハシカハアラズ其ノタケハユルギノ絲ノナガサノ如クソソハハ草摺ノ板ノ廣サノ如クナル染皮ノ左右ニ異皮
 ヲ縁トナシテ縁ト皮トノ縫ヒメギハニ組ノフセヌヒシテ織物ノ裏打タルヲ用フル也草摺ノ一ノ板ニ金物ヲ打ツ
 コト三所コレハ彼ノ皮ヲトツベキ料也此ノ板ニ絲ヲ用ヒザル事ハ大刀ノ鉸具ニ觸レテ其ノ絲ノ絶エナン事ヲオ
 モフガ故ナルベシサレバ大刀懸トモ名付ケタリケム草摺ノ制モ今様ニハ異ナル多シ其ノ形牝瓦ヲフセタルヲ見

ンヤツニ中タカク左右ハクダレリ俗ニカスガヒダメナドモイフ事ニヤ前板モ引敷モ弓手ノ草摺モ又脇楯ノ壺板
 モ皆五枚ヅ、ニシテ菱縫ノ板ヲバ中ヨリワリテ二ツニナルヤウニシタル也脇楯トイフ物ハ神功皇后ノ新羅ウタ
 セ給フ時應神天皇イマダ胎中ニマシシカバ御腹ノ大キクナリ給ヒテ御鏡ノ脇アハザリケルニ武内ノ大臣御
 鏡ノ草摺切リテ御脇ニアテマキラセシコレ此ノ物ノ始也トモ又此ノ物ヲ作り出ダシテ進ラセラレシトモイヒ傳
 ヘヌ(神祇靈應記太平記等)此ノ事フルキ物トモ見エシ所ナレド正史ニハ見エズ日本書紀ニハ皇后新羅ヲウ
 チ給ハントテステニ吉日ヲウラヘテタチ給フベキ時ニ適開胎ニ當リ給ヒシカバ自ラ石ヲ取リテ御腰ニ挿ミテ事
 竟リテ還ラン日茲ニ産レ給ヘト祈給ヒシニ新羅ヨリ還ラセ給フ時胎中ノ天皇筑紫ニテ生レサセ給ヒタリケリソ
 ノ生處ヲ宇瀨ト名ヅク其ノ石今モ伊都縣ノ邊ニアリトハ見エタリ又萬葉集ノ中ニ山上臣憶良ガ鎮懷石ヲ詠
 ゼシ歌ノ序ニハ筑前ノ國怡土郡深江村子負原ノ海ニノヅメル丘ノ上ニ二ツノ石アリ大ナル物ハ長サ一尺二寸六
 分圍一尺八寸六分重キコト十八斤五兩小ナル物ハ長サ一尺一寸圍一尺八寸重キコト十六斤十兩並ニ墜圓ニシテ
 狀雞子ノゴトク其ノウルハシキコトイフベカラズサキニ息長足日女命新羅國ヲ征シ伐チ給ヒシ時此ノ兩ツノ石
 ヲ御袖ノ中ニ挿ミ着ケテ鎮懷給フトイフマコトハ御裳ノ中ニ着給ヒシ也或ハ此ノ二ツノ石ハ肥前國彼杵郡平敷
 ノ石ナルヲウラヘノマ、ニ取リ給ヒシトモイフトゾ見エタル萬葉集ニ見エシ所ハ國史ニ合ヒヌモシ此ノ石ノ事
 ヲアヤマリ傳ヘタリケンモシラズ又此ノ石ニ象リテ脇楯トイフ物作レルナドイフ事ニヤ但シ古ノ鏡ノ制ヲヨク
 ヲク見ルニ始メヨリ馬手ノ脇ヲバ合ハセズシテ脇楯ヲ用ヒテフサガンヤウニ造レル物ナリカクツクル事便リ
 アル事トモ多カリヌベシトコソ見エタル其ノ制ハ一枚ノ板ノ長ハ鏡ノ射向ノ方ニヒトシキガ上ノカタハ脇板ノ
 形ノ如クナルヲ盡ク染皮ニテツ、ミ織物ノ類ニテ裏打タルニ壺板ヲツケタル也壺板ヲツクル革ノ制又大刀懸ニ

同シ脇楯ノ板ノ中ニアタリテ隙木ノ組ノ緒引キ出ダスベキ穴一ツモ二ツモ三ツモアリ前後ノ下ノカタノハヅレ
ニ今ノ世ニクリジメトイフナル物アリオヨソ鏡着ンズル時マツ脇楯シテ後ニ鏡ヲバ着ルベシ脇楯ノ緒結バムヤ
ウ其ノ故實アル事ニヤ又主君ノ鏡着タラム時ニハ脇楯ヲ鏡ノ上ニ着ル故實タル由佐々木四郎高綱ノ云ヒシ事東
鑑ニハ見エケリ

凡鏡ヲ造ル事ヲ我が國ニシテ威ストイフ事ハ日神丈夫ノ武キ備ヲナシ給フ時稜威ノ高鞞ヲ負ヒ給フトイフ事ヨ
リ始マレリ稜威トハ餘所ニ畏ルベキ故也トゾト部家ノ説ニハ見エケル鏡ノ威毛ナドイフ事イヅレノ比ヨリヤ其
ノ色目ハ聞エタリケン白絲黒絲黃絲紺絲紫絲淺黃絲萌黃絲赤威火威(マタ緋威トモ)絲火威紫威紅末濃紫末濃
(又ハ下濃トモ源平盛衰記ニハ坐滋ト見ユ)小櫻(東鑑ニハ小櫻草威ニ作レリ)卯ノ花澤瀉サカオモダモ萌黃ニ澤
瀉威シタル黃返シ藍白地ヲ黃ニ返シタル小櫻ヲ黃ニ返シタル楯ノ句萌黃句白絲ノ妻ドリケル赤威ノ肩白白キ唐
綾黒キ唐綾朽葉色ノ唐綾萌黃ノ唐綾ノ坐紅赤草黒草紫草品草洗草露草赤草黃絲節繩目(又摺繩目伏繩目トモ)大
荒目敷目ノ鏡ナドイヒシ物フルキ物語共ニ見エタレド(近代ノモノニ多門ノ鏡トイフモノ見エタレド其ノ制モ
サダカナラズマタフルキ物ニカ、ルモノハ見エズ)今ハ詳ナラヌ多カリ古ノ今アルモ多クハ威毛ノ色カハリヌ
レバサダカニハ見エワカヌモアリ世ニイヒ傳フル所詳ナルニ似タル説モアレド衣ノ色目ナドモ古ノ物今サダカ
ナラヌモアルニヤ且古ノ鏡ハ今ノ様ニ絲威ノミニモアラズ或ハ綾ヲ疊ミ或ハ革ヲ染メテ威セシアリスベテ古ノ
物イマダ其ノ物ヲ見ズシテ思ヒハカリシ事ハ其ノ物ヲ見ルニ及ンデハカネテノアラマシニタガフ事ヨノツチ也
正シキ徵ナキ事ハ信ジガタシ疑ハシカラム事ヲバタ、其ノ疑ノマ、ニ傳ヘムニハシクベカラズトヘバ紅末濃
紫末濃ナドイフ物ハ鏡ノ前後ヲバ紅ニモ紫ニモ威シタルガ草摺ヲ紺絲ニテ威セシ也ナドイフ説アレド腹卷筒丸

ナドハサモアル事モアリナマシ古ノ鏡ハ前ハ弦走ノ草ニテ掩ヒタレバ其ノ毛色ハ見エズ後ニハ總角アリ或ハ籠
ヲモ負ヒ母衣ヲモカクイカデ毛色ハ見エワカツベキタ、打見ルヨリイチシルキ所ハ左右ノ袖草摺ノミゾアルサ
レバ古ノ威毛ハ此ノ二所ニテコソワカリタルナシ古キ鏡ドモ又ハ古ノ畫師ノ繪カキシ草紙ノ繪ナドヲ記セシ所
ニ併セ見テ年比ノ解疑ケヌル事モアリキノレモ繪カキタルモノハ鏡ノ威毛ノ色ナドハワカレヌレド或ハ絲或ハ
綾或ハ革ナドイフ事サダカナルベキニモアラズ白絲黒絲黃絲紺絲紫絲淺黃絲萌黃絲威毛ナドイフ物ハ疑フ所ナシ
(コレラ皆絲威ナリ)火威トイフハアケノ草ニテ威セル也今鏡ニ見エシ大内記保胤江ノ匡衡ノ文評ジタリケル詞
ニ其ノ由ハ見エタリ(又保元物語ノ一本ニ義朝幼少ノ弟ドモノコロサレシ時兵ドモ皆袖ヲヌラス中ニモ波多野
二郎ガ緋威鏡ノ袖洗革ニナリヌナド見エタリ此ノ物革威ナル事ヲシルベシ)絲火威トイフハ革威ニハアラデア
ケノ絲ニテ威ス赤革威ト云ヘルハ火威ニハ異ニシテ赤威ト云フハ又絲火威ニハ異也(赤革ト云フハ赤滑ノ事也
南都本談議屋ノ黒皮威ノ筒丸ノ菱縫其ノ革ナリキ赤絲威ト云ヒシハ其ノ絲ヲ茜ニテ染メシナリ南都ニアル義經
ノ鏡ノ毛シカゾアリケル)赤威肩白トイフハ左右ノ袖ノ一二ノ板白絲ニテ威セシ也(古畫ニ見エシ所也)紅末薄
紫末濃ナドイフ物ハ古畫ニ左右ノ袖草摺ノ或ハ薄紅或ハ薄紫ナルガソノスソヲバ薄紅薄紫ナドヲモテ彩成セル
物ソレナルベシ(アル説ニスソゴトハ紺紺トカクベシ鏡ノ前後紅ナランニモ紫ナランニモ草摺ヲ紺絲ニテ威シ
タル也トイヘドフルキ物ドモニ紺緋ナドシルシタルモノモ見エズ又末濃村濃ナドイフ物ハ古ノ物ニ猶アリ紫末
濃ノ鞞紫村濃ノ鞞植末濃ノ鞞植村濃ノ鞞又蘇芳末濃青末濃ナドノ下簾トイヒシ類コレナリ)小櫻威トイフ物ヲ
東鑑ニハ小櫻草威トシルシタリ藍草ニ小キナル櫻花ノ形ヲ染メシヲ以テ威セシ也又小櫻ヲ黃ニ返シタルト云フ
ハ彼ノ小櫻ノ草ヲ黃ニ返シヌレバ藍ノ色ハ萌黃ノ如クニナリ花ノ形ハ黃色ニナレルヲ以テ威セシ也是等ノ鏡ハ

飛驒守惟久後三年ノ戦ノ繪ニモコ、カシコ見エタリ卯ノ花威ト云フハ上ハ白絲ナル下ハ次第ニ薄藍萌黃濃藍
 等ノ絲ニテ威セル也タトヘバ衣ノ色ノ卯ノ花ハ表白ク裏青キヲイフガ如シ(又古キ繪ニ袖草摺ノ半ハ白ク半ハ
 萌黃ナルモ見エキ)澤瀉威サダカナラズ古畫ノ袖草摺ニ色々ノ絲ヲモテ鷹ノ羽ノオモダカ切生(羽形ノ圖ニ見
 エ)ナドイフ形ノゴトクニ毛引キシヤウニ繪カキシハ其ノ物ナルニヤサカオモダカトイヒシハ其形ヲ逆ニ威セ
 ルニテ萌黃ニテ其ノ形ヲ威セシヲバ澤瀉ヲ萌黃ニテ威セシナドモイヒシニヤ黃返シノ鏡トイフハ藍白地ヲ黃ニ
 返シタルトイフ物モアレバ綾ヲモ革ヲモ返セシナルベシ凡黃ニ返セシトイフ事ハ或ハ革或綾ヲノミイフニモア
 ラジ紫末濃ノ菊ノ丸ヲ黃ニ返シタル裙金物打タル鏡ハ平家物語ノ異本ニ見エタレバ鍍金ナドイフ物ヲモ黃返シ
 トイヒシ也(凡黃覆輪ナドイフモ鍍金ナルベシ金覆輪トイフハ眞ノ黃金ニゾアルベキ)楯句萌黃句ナドイフ類ハ
 今モツカフ句ノ絲ナドイフモノ也ト云フ人アレド心得ラズ白絲ノ妻トリタルト云フハ鞍馬法師ノ預レル物ソ
 レナルベシ(妻トレル鏡ハ古畫ニ多ク見エタリ句ノ絲ヲバ又ハ耳絲ナドモイフナリ)唐綾威トイフ物ハ唐綾ヲ疊
 ミテ威セル也(保元物語ニ見エシ鎮西八郎ノ鏡ハ唐綾ヲフトク疊ミテ威シ源平盛衰記ニ見エシ義經ノ鏡ハ萌黃
 ノ唐綾ヲ疊ミテ坐紅ニ威セシナドコレ也)革威ノ類マタ疑フベクモアラズソノ中ニ品革威トイフハ藍皮ニ紋オ
 シタル也トイフ事源平盛衰記ニ見エタリ節細目ノ鏡ト云フハ細目ノ色革ヲ以テ威シタル也此ノ物マタ後三年ノ
 繪ニコ、カシコニ見エタリ(細目ノ色革ハ昔坂東ヨリ出デシニヤ其ノ事源平盛衰記ニ見エタリタトヘバ幕ノ手
 繩ト云フ物ヲ白キ青キ黒キ布ヲ繩合セシガ如クニ白キト薄藍ト紺トノ筋アル染革ナリ)赤革黃絲ト云フハ革ト
 絲トヲ以テ威セル也大荒目ノ鏡ト云フハタトヘバ今ノスガケナド云フ物ノ如クニ威セル也保元物語ニ黒キ唐綾
 ヲフトク疊ミテ威シタル大荒目鏡ト云フ即チ此レナリ三枚皮ノ大荒目ノ鏡ト云フハ保元ノ異本ニカナマゼノ鏡

ナド見エシ類ニヤ黒革威ノ大荒目ノコガネマゼタル鏡又火威ノ鏡ノ數目ニコシラヘシナド云フ物イマダ詳ナラ
 ズ(オヨソ鏡ヲ威スニ今モ啄木ノ組ニテ耳絲ヲトル事ハ古ノ人ハ父祖ノ鏡ヲウケ傳ヘテ永ク子孫ノ寶トセシ其
 ノ鏡ノ毛ヲモテ五行ノ色ニ配スルニ人々ノ性ニヨリテ鏡ノ毛或ハ又相尅ノ禁忌アリサレバ雜レル色ノ組ヲ用ヒ
 テ其ノ正色ヲ亂リテソノ主ヲ嫌フマジキタメノ用意也トモイヒ又タトヘバ二色ノ毛ニテ威タラムニハ二毛ナド
 イヒテモノ、フノ嫌フ詞也サレバカナラズ此ノ組ヲ用ヒテソノ嫌ヲサクルトモイフナリ)
 鍍ノ金物古代ノ物ヲ見ルニ鍍金白銀又ハ鍍石白鐵ヲ沃ギシナリ胸金物裙金物ナドイフモノフルキ物ニ見エタリ
 菊(菊ノ丸トモイフ)蝶鴛鴦獅子(獅子丸トモイフ)ナドノ金物打タルト見エシハ皆其ノ形ヲ鍍メテ鍍金ヲモテ飾
 レルナリ銀ノ蝶ノ丸キビシク打チシナドイフハ白銀ヲ彫リタルニテ又白金物ナド見エシハ白鐵ヲ沃ギシナルベ
 シ白ク黃ナル兩蝶ヲ裙金物ニ打チタルト見エシモ又上ニ同ジカルベキスベテ裙金物トイフハ菱縫ノ板ニ打チシ
 ライフ八龍ヲ胸板ニ打チタルナドイフハ胸金物トイヒシ也古ノ金物トイフモノ多クハカクゾアリケル家ノ紋ナ
 ド打ツ事ハ元弘建武ノ後ニ出デ來タル也凡金物打所胸板脇板總角付ノ板左右ノ袖ノ冠板菱縫板ト草摺ノ菱縫ノ
 板ゴトニウツ草摺ニハ一枚ニ二ツモ三ツモウツ鏡ノ前後左右ノ袖ノ假粧ノ板ノ金物ヲバ今ハ八相ノ金物間金物
 ナドイフ也又總角付ノ鍍アリ胸板ヲシツケノ板脇板脇板等ニ覆輪アリ綿嚙ニ袖付ノ管アリ(又胡頰トモイフ其
 ノ形ノ似タルガ故ナリ)高紐引合ノ緒脇楯ノ緒ナド引キ出ダス所々ニ或ハ鷗目或ハ座ノ金物ト云フアリ
 古ノ甲冑ハ染皮ヲモテ飾ル弦走ノ外ニ胸板障子板オシツケノ板脇板脇楯冑ノ吹返マビサシノ板ナドヲバ小紋ノ
 染皮ヲモテツ、メリ又或ハ異皮或ハ織物ヲモテ其ノ染皮ノ縁トナシ縁ト皮トノ縫ヒメキハ二組ヲフセテ縁ノ上
 ヲ小櫻トイフスコシキナル花形ノ頭アル釘ニテウツ胸板吹返ナドノ金物ヲバ此ノ染皮ニテツ、メル上ニ打ツ事

也古代ノ物ドモヲ見ルニ今世ニ染メ出ダスベキ物トハ見エズ凡飾レル所ニヨリテ其ノ革ノ文モ同ジカラズマツ
 弦走ノ革ハ我ガ見タリシ所モ其ノ紋ノ大キナル小シキナルハ同ジカラチド多クハ世ニ格子ナド云フ物ノ如クナ
 ルヲ筋違ニ染メ成シテ其ノ中ニ獅子形鬼形鷲形ナド古ニ聞エシ物ドモヲ様々ニ彩成セシ也又此ノ制ニハアラデ
 大キラカナル獅子ヲ一ツ二ツ染メ出ダシテ其ノ地ヲ花ト葉トヲ彩成シ物ナリ昔ハ各其ノ名コソ有リツラメド聞キモ傳ヘズ
 脇楯ナド包メル革ハ多クハ小シキ獅子ニ花ト葉トヲ彩成シ物ナリ昔ハ各其ノ名コソ有リツラメド聞キモ傳ヘズ
 正平革トイフ物モ其ノ紋ハ似タル所アレド其ノ様ハカハレリ此ノ革ハ異朝ヨリ來レル物也トモ又南朝ノ朝廷ニ
 テ染メサセラレシヲ嘉慶ノ比鹿苑院公方ヘ紀伊國矢田庄ヨリ其ノ數アマタ進ラセシトモイフ今其ノ革ヲ見ルニ
 正平六年六月一日トイフ字ヲ縦ザマ横ザマコカシコニ染メ入レタリサレバ異朝ノ物ナリトイフ事ハ心得ズ異
 朝ニテ正平ノ號ヲ用ヒシ事ハ元魏ノ代大武帝辛卯ノ年太平兵君ノ號ヲ改メテ正平ト號スソノ年ハ我ガ朝ニシテ
 ハ二十代ノ朝廷(允恭)天下ヲシロシメヌ四十年ニヤアタリヌラン其ノ後幾ホドナク大武帝崩ジ給ヒ御孫文成帝
 位ニツカセ給ヒシカバ正平ハ二年ニシテ興元ト改元アリキ其ノ外此ノ號ヲ用ヒラレシコトイマダ見ズカレバ
 彼ノ元魏ノ正平ニ六年トイフハ有ルベカラズ我ガ朝ニシテ正平トイヘルハ南朝ノ朝廷ノ號ニシテ其ノ六年ニハ
 南北一統シテ北朝觀應ノ號ヲトメラレテ天下盡ク正平六年ト號シタリキサレド明クル正平七年南北又ワカレ
 テ北朝ハ文安ト改元アリコレヨリ又正平ノ號天下ニ通ジ行ハル、事ヲ得ズ南朝ハ終ニ亡ビサセ給ヒシカド其ノ
 號ハ空シク此ノ革ニトママリテ後ノ代マデニ用ヒ行ハル、ゾセメテモ彼ノ朝廷ノ御名殘ナル紀伊國ハモトヨリ
 南朝ノ領シサセ給ヒシ所ナレバ後ニ此ノ物彼ノ國ヨリ出デシナドイフ事サモアリナマシ、カルニ世ノ人八幡殿
 ノ鏡判官殿ノ着背ナドイフ物ニモ其ノ紋ノ似タル物ヲ見テ正平革ナドサシイフハ僻事ニゾアルベキ此ノ物正平
 ノ比ニ出デ來タル物ナレバソレヨリサキノ代ノ物カ、ル名ハアルベカラズ菖蒲草トイフ物フルキ物ニ其ノ名ハ
 見エチド或ハ小紋ノ藍皮或ハ藍皮ニ紋ヲシタルナドイヒシハコレヲノ類ナルベシ或ハ假粧ノ板ヲツ、ミ或ハ染
 皮ノ縁トセシ革多クハ此ノ物也古ノ物ハ今ノ世染メ出ダスガ如クニハアラデ藍皮ニ菖蒲ノ花ト葉ノ形ヲナラベ
 テ染メタルナリ杉立トイフ革モ菖蒲草ノヤウニ杉ノ村立チシ形ヲナラベテ染ム今ハ鱗形ナドイフ物ノ如クナル
 文アル藍革ヲ菖蒲草トイヘルハ最略ナル物ニテアル也古ニ錦ノ赤皮ナドイヒシモノ今ハ御免革ナドモイフ也古
 ハ此ノ革ヲモテ弦走脇楯ナドノ縁ヲモ飾リ又高紐ナドヲモ此ノ革ヲマロクヌヒテ其ノ縫ヒメギハニ組ラフセヌ
 ヒテ用ヒシナリ

古ノ冑ノ制三枚冑五枚冑四方白八方白片白星白龍頭獅子頭錨形鷹角盔甲帽子冑ナドイフ物フルキ物共ニ見エケ
 リ今ノ制モ大ヤウ古ノ制ニカハラズタマハ異様ノ物ドモ多ク出テ來タル也古ニハシコロ三枚ナルヲバ三枚冑
 トイヒ五枚ナルヲバ五枚冑トイフシコロノ形モ特ニ大キニシテ今ハ世ニ大饅頭小饅頭ナドイフモノ古ノ制ニテ
 アル也四方白八方白ナドイフハ鏝メタル銀マタハ白鐵ヲ沃ギシ板ヲ前後左右ニ四所ニウテバ四方白トイヒ八所
 ニウテバ八方白トイヒ一方ニウツヲ片白トイフ星白又白星ナドイフハ其ノ星ノ白キ也龍頭ノ冑トイフ物後三年
 ノ戰ノ日八幡殿ノツクラレシ八龍ノ冑ニヤ始マリヌラン(保元ノ時義朝ノ着ラレシ龍頭ノ冑スナハチ此ノ物也
 詳ナル事ハ鏡ノ下ニ注シタリ)昔齊ノ蘭陵王ト申シシガ鐵ノ面具ヲカウフリテ金墪城下ニ敵ヲウチャブリ給ヒ
 シ事甲冑ニ鐵面具ヲ用フル始也キ時人此ノ王ノ敵ヤブリ給ヒシアリサマヲ樂ニ作リテ舞フ本朝ニモ其ノ樂ハ傳
 ハレリケリ今モ奏スル蘭陵王ノ樂コレ也其ノ面ノ額ノ上ニ金龍ヲ作ラレタリ我ガ朝ノ昔コレヲノ物ニ倣ヒテ此ノ
 冑作り出ダシタランモ又知ルベカズ鞍馬ニアル所ノ龍ノ金物ノ中陵王ノ面ノ物ニ似タルアリキ獅子頭ノ冑トイ

フ事元弘建武ノ後ヨリ聞エシ春日ノ本議談屋ニアル前立物則其ノ代ノ物ト見エタリコレモ異朝ノ蓋ニカ、ル物
 アルニヤ倣ヒヌラン異朝ノ制ハ蓋ノミニモ限ラズ胸甲(コ、ニイフ胸板ナリ)被膊(コ、ニイフ袖ナリ)ナドニモ
 此ノ物ノ形ヲモテ飾ル四天王ノ像ノ鎧ノ前ニ河伯面ナドイフ物ツクルハ其ノ制也オモフニコレハ近代ニ志加美
 ノ冑ナドイフ物又其ノ遺制ト見エシ志加美トイフ物ハ泉津醜女トイフ鬼ノ面也志許賣トイフベキヲカク譌レル
 也トイフ説アリ昔伊弉冉尊神避マセシ時伊弉冉尊黃泉國ニ追ヒ往キ給ヒシガ此ノ國ハシコメキ、タナキ國ナリ
 トテニグ歸リ給フヲ恨ミ給ヒテ伊弉冉尊泉津醜女シテ追ヒ留メマキラセラル伊弉冉尊カラウジテ泉津平坂ニ至
 リ千引ノ岩ヲモテ其ノ坂路ヲフサギ給ヒシトイフ事アリ(日本書紀)醜女トイフハ人ヲトリハムベキ鬼ナリケレ
 バ兵ノ冑ノ飾ニセン事ハソノイハレナシトモイフベカラズ睚眦トイフ物ハ殺ス事ヲ好ム獸也刀上ヲ飾レル龍吻
 是也トイフ事モアレバ(類書纂要)異朝ニモカ、ル俗ハアリケル也サレドフルキ物ドモニ志加美ナドイフ事聞エ
 ザレハ其ノ説モマタ信ガタシ(此ノカブトモ古ヨリアリシ物ニヤ八幡殿ノ象ニ馬副ノ兵ノ着タリシモノ此ノ冑
 ナリキサレドフルキ物ドモニ見エザル事ハ心得ラズタ、シ獅子頭ノ冑トシルシテ昔ハ志々加之良トハヨマズ
 志加美トヤヨミタラン能ク知ル人ニタヅヌベシ)鍬形トイフ物ハ澤瀉ノ葉ノイマダ開カヌ形ヲカタドレル也オ
 モタカトイフ物ハ勝軍草トモイフナレバ鎧ニモ澤瀉威ナドイフアリトイヘル説アリマコトニ其ノ形ハヨク似タ
 リケレドカ、ル名モアリケリトイフ事イマダ見ル所ナケレバイブカシ(コレラノ外カレコレトイフ説アレド皆
 信ガタシ)蝦夷人ノ寶トスル鍬サキト云フアリ國ノ人病スル時其ノ枕上ニ立テ災ヲ攘フ物也ト云フ其ノ形我ガ
 國ノ鍬形ノ制ナル物也サラバ我が國ノ昔ヨリ此ノ物ヲ冑ノ前ニ立テシ事モ必ズ其ノ故アルベケレド今ハ其ノ義
 ヲ失ヒシニコソ古ノ物ハ其ノ形モ大キク其ノ様モ今世ノ物ニハ少ク異ナリ五尺二寸ノ鍬形又ハ三ツ鍬形ナドイ

フ物モ聞エタリキ鷹角トイフ冑ハ角鷹ノ頭ノ毛ノ角ノ如クナルニヤカタドリヌラン蓋冑トイフモノ源平盛衰記
 ニ見エタレド其ノ制ハサダカナラズ帽子冑トイフモノハ古繪ニ飾モナキ冑ノ鉢ニ鍬ノシコロナル物多クハ下部
 ノ着タル見エタリ此等ヤ其ノ物ナルラン畑六郎左衛門尉時能ガ帽子冑ニ鍬着テ足輕ニ出デ立チシナドイフ事太
 平記ニハ見エタリ應仁ノ記ニ見エシ小泉冑トイフモノ古ニモ聞エズ今モ又世ニ見エズイカナルモノニヤ凡古冑
 ノ制今イフ椎形又ハアコダ形ナドノ類多カリイヅレモ鉢ハスコシキニシテ今ノヤウニハ厚カラズ(按ズルニ應
 仁ノ亂ヨリ後世ノ人ツネニ甲冑ヲ帶シタリケレバ冑小シキナレバ氣ツマリテ頭イタム也トテ其ノ制稍大キクナ
 レリ武士ノ月代ナドノ大キクナレルモ此ノ比ヨリノ事ニテアル也カクテ鐵炮トイフ物出來テ其ノ彈丸ノワヅカ
 モ冑ニフレヌレハ忽ニ頭サケ腦クダケ、レバ帽子鉢卷ナドシテ頭ツ、ミ冑ヲモ着ケルホドニ次第ニ大キクモ厚
 クモナリタリ)手反ノ直中ニアル穴今ハ息出シナドイフ所ヲ飾レルヤウモ今様ニハカハレリ今ハ寶瓶ノ形ニテ
 中ヲムナシクセシ物ヲ置キテ其ノ下ニ幾重モ菊ノ花形エリスカシタル座金物ヲウツコレヲアゲ玉ナドイフ也古
 ノ物シカハアラズ鞍馬法師預リノ物ト後三年ノ繪トノ内ニコレニ似タル物タ、ニツアレド其ノ制大キニ異ナリ
 此ノ餘ハ皆其ノ穴ノホトリニハ今世ニ玉線ナドイフ物ノ如クナル金ノ覆輪アリ菊ノ座三重四重アリテ其ノ下ニ
 ハ葵ノ花形ノ座金物アリ吹返シ特ニ大キクシテ方五寸六寸七寸五分餘ナルアリ大ヤウ鍬一枚モ二枚モ同ジヤウ
 ニ吹返ス三枚ニモアレ五枚ニモアレ皆吹返シタルモアリウケ張ナドイフ物モ今ノ様ニ布ヲカサテ縫ヒシニハア
 ラデ洗革ヲモテ作ル多クハウケ張セシトモ見エズ但シウケ張セヌ冑着ニハ其ノ故實アルベシ冑ノ緒モ織物ノ
 類ヲ絮ヲ中ニシテ丸ク縫ヒタル物也(冑ノ緒ヲ世ニハ忍ノ緒ナド云フニヤサレド古ノ物ニカ、ル名ハ聞キモ及
 ハズ)

腹卷トイフ物何レノ代ニヤ始マリケム允恭天皇ノ御時玉田宿禰ガ甲ヲ襖ノ中ニ服タリシ事ノ見エシヨソ(日本書紀)後代ニ下腹卷ナドイフ事ノヤウニ覺ユレ此ノ物ハ古ノ物猶今モアルスタカラズ其ノ制大ヤウハ鎧ニカハラチド前ヨリ左右ニ繞リテ後ニテ引キ合ス又背板トイフモノヲモテ後ノ透間ヲフサグ事タトヘバ鎧ノ脇立ノ如シ此ノ板ヲ又臆病ノ板トイフニヤサレド此ノ板ノ事昔ノ物ニハ見エズ吉野ノ吉水院ニ古キ腹卷アリ義經ノ物ナルニヤ藍草ニ紅ト白ト紫トノ絲ヲ以テ威セシナリ背板ナド云フ物ハアラズ某ガ家ニアル所モ古代ノ物也其ノ背板ハ腹卷ト代ヲ同ジクセシ物トハ見エズ此ノ制モトハ衣ノ下ニ着ンズル物ナルヲ上腹卷ナド云フ事出デ來タレバ背板ナド云フ物モ出デ來シナルベシ源平盛衰記ニハ佐藤四郎兵衛尉忠信ガ射タル矢菊王丸ガ腹卷ノ引アハセヲツト射ヌキシト見エケリ引合トアラムカラニ必ズ背ノアハヌ物トモ見エズ此ノ物ハ弦走ノ革モナク草摺モ今様ノ物ノ如クニシテ前後左右ニ七枚アリ此ノ物ヲ衣ノ下ニ着タルヲバ下腹卷ナドイフ又弓ヲツヨクヒカントメニ上ニ着ル事モアリ上ニ着ル時ハ袖ヲモツク上腹卷ニ袖ツケシナドイフ事是也サレドコレハ異體ノ事ニヤマタ胸丸腹卷金胸鎧ナド鎧ノ下ニカサチシ事モアリケリ(今世ニ着籠トテ鏢ニテ作レル物ハ古ニ鏢ナドイヒケル物ニヤ)

腹當トイフ物ハ前ニノミアタリテ左右ノ脇ハワツカニカ、リテソレヨリ綿嚙ヲ出ダセリ其ノ綿嚙ニセメヒボアリテ後ニテカク草摺モ前ニ一枚アレドユルギノ絲トイフモナクテ一下リアル也此ノ物特ニ下部ノ着ベキモノ也筒丸トイフ物又胸丸共カク胸ヲカコミシ形ノマロク竹ノ筒ニ似タレバカクイフヨシ下學集ニハ注セリ春日社本談議屋ニアル楠正成ノ鎧ト云フ物ヲ見シニ即チ胸丸ノ制也黒革威ナルガ縫ノベナド云フ物ノ如クニシテ馬手ノ方ニテアヒユレバ脇立ヲ用フルニ及バズ草摺ハ八枚ナリ障子ノ板弦走ノ革ナドモナク梅檀板ヲバ杏葉ヲ以テ代

ヘタリ袖ハ今イフ大袖ノ制也同ジ毛ノ三枚胃ニ鍔形ヲ打ツ(正成ノ物也ト云フ正シキ證モアラズ胃ノ吹返ニウチシ金物ニ菊ノ立枝アリコレニヨリテカク云ヒシトキコユレド楠和田等ノ家ノ紋ハ世ニ菊水ト云ヒ傳ヘテ古キ紋盡ト云フ物ニアルヲ見ルニ後ノ金物トハ大ニ異也)金胸トイフハ今ノ桶皮ナドイフモノ、類ナルニヤ其ノ制イマダ詳ナラズ明德ニ一色左京大夫ガ鎧ノ下ニ着タリシ金胸ハ赤地ノ曇子ニテツ、メルヨシ見エタリ今ノ鎧ハ古ノ筒丸金胸ナドイフ物ノ制ニヨリテ作レルナルベシ(今ノ制出來シ始イマダ詳ナラズ織田殿ノ比ニ尾張國ニハ桶皮トイフ物ヲ用ヒシヨシ、ルセルモノアリサラバ此ノ制其ノ比ニ出デ來シニヤサレド高館ノ草紙トイフモノニ桶皮胸トイフ物ヲ鎧ノ下ニ着タリシナドイフ事アリ此ノ草紙イヅレノ比ニ出デ來シトイフ事ヲバシラチド此ノ制織田殿ノ比ニ始マレルニモアラジ)今ノ具足トイフ物出來シヨリ古ノ制ハ既ニ廢レテ其ノ制ノ同ジカラヌニ世ノ人今ノ物ノ具ニ古ノ鎧ノ名所ヲ附會セテ名付ケイフ程ニオノヅカラ誤レル事モ多ク又近代ノ俗ニ出デテ古ノ物共ニ見エヌ名モアリタトヘバ胸金物トイフ物ヲ今ハ矢トマリノ金物トイヒ胸板ノハタ覆輪トイヒシヲ今ハ矢トマリノヒチリカヘシトイフ一ノ板ヲ弦走トイヒ二ノ板ヲ梅檀ノ板トイヒ高紐ヲ相引ノ緒トイヒテ引合ノ緒ヲ高紐ナドイフ類ハアヤマレル事ニゾアルベキ又オシツケノ板トハスベテウシロヲモイフ又ハ綿嚙ノ横板ノツギノ板ヲモイフナリナドイフ人アリ篠原ノ戰ニ齋藤別當實盛ガ手塚ガ郎等ノ鎧ノオシツケノ板ヲツカマヘ左ノ手ニテ手綱カイクリ左右ノ鎧ヲツヨクフンデ引キオトシ馬ノ腹ニ引キツケテヒツサゲモテユク足ハ地ヨリ一尺許揚リタリト見エシモマタ水島ノ合戰ニ越中ノ次郎兵衛盛繼ガ矢田判官代義清ニ胃ノ鉢ヲツヨクウタレテ胃ヲ打チオトサレ目クレテ大刀ノ打チ所ハ覺エザリケレド打チチガヘタリケルニ義清ガ右ノ顔ヲ筋カヘニオシツケノ板ニキリツケシナド見エシモ(共ニ源平盛衰記ニ)皆綿嚙ノ横板ナドイフ物ノ事ニテアル也其ノ

下ノ板ナラムニハイカニツカマフル事モ又顔ヲステカヘニハキリツクル事モアルベシヤ又其ノ次ノ板ヲ逆板トイフモ誤レリ逆板トイフ物ハ其ノ制ノヨノツチノ板ニカハレバコソカクハ名付タルナレ今ノ制ノ如クナラムニハイカニカクハ名付クベキ胴ノ終リノ板ヲバ古ニハイカニヤイヒケムイマダ見ル所アラズ臆病金ナドイヒシハウシロノ終リトゾ聞ユル今ハ前ノカタヲ保天左幾トイヒウシロノカタヲ胴尻トイフニヤ草摺モ古ノ制ニカハリテ腹卷ナドノヤウニ其ノ數ヲ多クナシテ計佐牟ナド名付ケイフ也此ノ名近代ニ出デタレバシカルベキ文字モ見エズ其ノ前板ヲ幾牟加久之ナドイフコソムゲニアサマシキ事ナレ今ヤウハ左右ノ袖ツケタルハ希也タトヒ袖ツケタルモ中袖ナドイヒテ其ノ形小シキナレバ昔様ヲバ大袖ナドイフ也應仁ノ記ニヒロ袖トイフ事見エタレバ昔ヨリ袖狭キモアリケルニゾ足利殿ノ重代ノ御着背ヲ小袖ト名付ケラレシカバ其ノ比リヨ袖ノ小シキナルモノアリケリ但シ今イフ小袖ハ籠手ニツクリツケタルヲイヒテソレヲ又ヨノツチノ袖ツクルヤウニシタルヲバ置袖トモイフ也凡ソ鎧ノ札ニ今ハ異様ノ物ドモ多ク又威毛ノシゲキトアラキトノ異ナルモノアレバ其ノ名各カハレリト見ユレド古ノ物ニ聞エシ所ニモアラズ又世ニタメシ札トイフ物アリ菊池肥後守武光ガ延文ノ比軍起サムトセシ初オノガ着背ノ料ニ三人張ノ精兵ニ草摺ヲ一枚ヅ、射サセテ透ラヌ札ヲ一枚マゼニコシラヘテ威セシ事見エタレバ(太平記ニ)其ノ比ヨリ此ノ事アリケリサレド今弓ヲモテ試ミルニ裏カ、ヌハ必ズ鳥銃ニハタマラズ鳥銃ニヨクタヘヌレバ鐵必ズ透ルコレ剛柔相制スルトコロ異ナルガ故ニ各宜シキ所アレドフタツナガラ全キ事ヲ得ガタケレバ也サラバ其益ナキニコソ似タレツハモノ、戰場ニノゾミテ矢石ノ中ニ立タンニ弓ト銃トイヅレヲカエラバンタトヒ鐵ヲ十重廿重カサチタリトモ其透間ナカラザランニハイカニ身ヲバ、タラカスベキスデニ透間アリナムニハ敵モソコソウカマフベケレ鎧ヲ穿タムモノヒトリ此ノ二ツノ物ニカギルベシヤ大刀刀子槍長

刀猶アリアマリニ高名アラムトテ我ガ命ノ限アルヲモシラデ身ニアハヌオモキ鎧着テ思ヒカケヌ死ヲ招カン事ハ口惜シキ事也但シ大將軍ノカ、ル甲冑多ク作ラセテ戰士ノ膽ヲ壯ニセンガタメニ軍ニ從フベキ事ハ必ズコレヲ用フベキ時アルガ故也自ラ備フル例トハ同シカルベカラズ又今ノ制ニ後ノ領ノ上ヨリ左右ノ肩ノ上ニ至ルマデ織物ノ類ヲ用ヒテ襟廻肩當小鎧ナドイフ物ヲ作り前ノカタニ再拜付ノ鎧トイフアリテ腰ザシサシ物ナドサ、ム料ニ後ノカタニガツタリウケツ、ナドイフ物アル事コレラ古ニハアラヌ物ナリ
 冑ノ制モ今ハ異様ノ物ドモ多ク出デ來テ盡クカゾフルニイトマアラズ其ノ名所モ又古ニカハレルアリ今世ニ八幡座トイフ所ハ弘安禮節ニ見エシ神宿トイフ物ニゾアル此ノ所神宿トイヒシ事イカナルイハレカアリケンオモフニ昔蘇我馬子宿禰物部弓削守屋大連ト戰ヒシ時厩戸皇子束髮於額シテ馬子宿禰ガ軍ノ後ニ隨ヒ給ヒシガ白膠木ヲキリトリテ俄ニ四天王ノ像ヲ作りテ頂ノ髮ニ置キテ我ヲシテ敵ニ勝ツコトヲ得セシメ給ハ、必ズ護世四天王ノタメニ寺塔ヲ建テマキラセムト誓ヒ給ヒシニ馬子ガ軍ツヒニ勝ツコトヲ得タリケレバヤガテ其ノ御願ヲハタサル今ノ攝津國ニアル四天王寺コレ也サレバ冑ノ頭上ハ彼ノ四天王ノ像ヲ置カレシ所ナレバ其所ヲカクハ名付ケタルラメ又冑ニ四天ノ星トイフ物アルモ又白膠ノ木ヲ勝軍木ト名付ケテ凡ノ軍器ニ用フル事モ皆コレラノ事ニヤ始マリヌラン八幡座トイフ事モ彼ノ神宿トイフ事ニヨリテ附會セテヤ名付ケタルラムコレラノ名出デシヨリ鉢付ノ板ノ上ニメグルル金物ヲ玉垣ナドイフ事モ出デ來ヌカ、ル名ドモ古ノ物ニハ見エズ彼ノ四天ノ星ノ下ニ小シキナル穴ヲウガツ世ニハ赤熊付ノ緒引キ出スベキ料也トイフ白熊黒熊赤熊ナドイフモノハ鼈牛トテ西番ノ地ニアル畜ノ尾ニテ異朝ニテモ紅纒白纒ナドイヒテ盔ノ上飾スル物ナリ我ガ朝ノイニシヘ此ノ物ニテ冑飾レル事ハ聞カズ近代唐ノ頭トイヒテ冑上ニハカケシ星ニモ大星小星打出シナドイフアリ筋ニモ密キアリ疎ナル

アリ今ハシノダレトイフ物ノ數ニヨリテ二方白四方白八方白ナドイフ也古ノ制トハ少シクカハレリ前ニ角本祓立ナドイフ物アルハ前立物タツベキタメ也昔ノ物ニモ鐵形鷹角ナド打チシカバ此ノ物モ見エタレド其ノ名ハ聞エズ吹返シコロノ制昔ニクラブレバ今様ハ其ノ形コトノ外ニ小シキニナリタリ冑ノ緒近代ヨリ忍ノ緒ト云フ古ニハカ、ル名モ聞エズ

近代ヨリ銅鐵ノ類ニテ作レル笠ノ漆ニテヌレルヲ冑ニカヘテ足輕ノツハモノニ著スル事アリ此ノ事何レノ比ニ始マレルニヤフルキ繪共ノ中ニ笠キタル者コ、カシコ見エタレド戰ノ場ニテ笠キタリシ事ナドシルセシモノハイマダ見ル所アラズサレド昔瓊瓊杵尊此ノ國ニ降ラセタマフ時高皇產靈尊紀伊國志都遠祖手置帆神ヲ作笠トサダメ彦狹知神ヲ作盾トナシ天目一箇神ヲ作金トナサレシナドイフ事(舊事記ニ)ソノ事ガラミイクサノ備ノヤウニナム見ユ又古ノ冑ニツケシ幟ヲ笠注トイヒシ事モイカサマニモイハレアル事ニゾアルベキ異國ニモ既笠トイフ物ヲモテ冑ニ代フルコト今モ猶アル俗ニテ侍リ

鐵面具トイフ物異朝ニテハ齊ノ閔陵王ニ始マレリケリ(前ニ詳也)我ガ國ニテ始マレル事イヅレノ比ニカアリケン保元ノ異本ニ義朝ノ半頬カケ爲朝半頭キラレシナドイフ事ハ見エタリソレヨリ後半首頬當目ノ下ノ頬當半頬ナドイフ物フルキ物ドモ見エシ所スクナカラズコレラノ物近代ニ及シテ古ノ物見エズナリ又古ニアラズシテ出テ來シモアリ古ノ物ナレド其ノ名カハレルモアリケリマツ今イフ半首トイフ物ハ異朝ニテイヒシ鐵面具我ガ國ノ昔頬當トイヒシ物ニテアリ今頬當トイフ物ハ古ノ目ノ下ノ頬當ニテ古ノ半頬ヲバ今ハ猿頬ナドイフ事ニヤ熊野頬當トイヒシモノ太平記ニハ見エシカド其ノ制ハ詳ナラズ古ノ半首トイフモノ見エズナリシヨリ古ニ頬當トイヒシ物ヲ今ハ半首ト名付ケテ古ニ見エヌ喉輪ナドイフモノハ出テ來ニケリ古キ畫ニ冑ノ下ニ半首着タリシ

兵ドモ繪カキシヲ見シニ(賀茂祭ノ岡後三年繪保元平治ノ圖平治物語ノ圖ナドニ)其ノ制モ各同シカラズト見エシ大ヤウハ甲ノ鉢ノ如クナルヲ頭ノ半ニテ合セ造リタリケレバ半首トハイヒケル也多クハ黒ク色ドレリ黒ク塗リシ形ヲウツセシニヤ白ク色ドリテ縁ニ赤キ縫ヒメアルアリ又染革ニテ包ミシニコレモ縁ニ赤キ縫ヒメアルアリサラバ黒塗ノミニモアラズ白革染革ナドヲモテ包ミシモアリシナリ或ハ眉ノ上ヨリ左右ノマナジリニ至レルアリ(此ノ制ハ目ノ下頬當キム料ナルベシ)或ハ眉ノ上ヨリ左右ノ眼ノ下ニ至レルアリ(此ノ制ハ半頬カケム料ナルベシ)コレラ内冑射ラレザラムタメニシテ又半頬目ノ下ノ頬當ナド着タラムニハ其ノ面ヲ全ク掩フベキ料トコソ見エタレ保元ノ戰ニ鎌田兵衛尉正清ガ射タル矢八郎爲朝ノ左ノ頬サキ半頭ノ間ヲ射削リテ冑ノ手サキニ射ツケシト見エタルモ(保元物語ノ異本ニ)今ノ物ノゴトクナラムニハ何レノ所ノ隙ヨリカ其ノ間ヲ射削リテ面ニハ傷クベキ又今川五郎範國ガ八々王トイフ大刀ハ敵ノ着タル冑ノ鉢ト半首トヲ打破リテ鉢卷キレテ其ノ頭ニ創オハセタリケレバカク名付ケタリ八ヲ二ツ重タル故也ト難太平記ニシルセルモ今ノ物ノ如クニ面バカリヲ掩ハムニハ冑ト共ニ鉢ニツ打チワリシトハイフベカラズサラバ古ニ鐵鉢革鉢ナド聞エシ此ノ物トコソ見エタレ(三代實錄ニ元慶ノ初出羽國ニテ蝦夷ノ爲ニ奪ハレシ戎具ノ事シルサレシニ甲冑ノ外マタ鐵鉢革鉢木鉢ナド云フ物見エタリソレガ中木鉢ハ今モ蝦夷ニハ其ノ遺制アル也)又延懸トイフ物今ハ頬當ニ綴レル物ナレド古ノ物ハ其ノ制異ナリシニヤ欽明天皇御時ニ(アガノヨロヒ)頸鎧トイフモノ見エシヲ與多利加氣トイフ物也ト釋日本書紀ニハ注セリ

手蓋小手(マタ籠手ニモ作ル)小手ノ袋ナドイフ物フルキ物ドモ見エタリ(小手ノ袋ト云フモノ太平記ノ中ニ)判官殿ノ物也トテ南都ニアルハ今ノ制ニ少シク異也腕ト臂トノアタラム所モオホヒモ黄ニ返シタル板ヲ

或ハ雲形或ハ花形ナドホリスカシタルニ其ノ下ニ黒ク塗レル革ヲ黏タル也手蓋ノ形ハ今驗形ナドイフゴトクニ指ニ近キ所マトカニシテ錦ノ赤革ヲモテ指カケ手クビノ緒ナド作りタリ腕ニアタル所モマトカナル金物ニ菊花ノ形ヲキザミチリバメシヲ黄ニ返シテスベテ鏢ニテツラテシ也冠ノ板ハ廣サ六分長サ三寸許ニテ中ニ當ル所ニ鴟目ウチシ穴アリコレヨリ組ヲ引キ出ダセルナルベシ左右ノハヅレニ廣サ五分許ノ革緒アリコレヲ皆鏢ニツクベキ料ナルベシ淺黄ノ布ノ三ツ藤ノ紋染メタルヲ家トナシテ裏ノ方ヲ組ニテカ、レル事今ノ制ニ異ナラズ筋ノ織物ニテ小手ノ袋縫ツケタリコレハ鏢直垂ノ袖オシ入ルベキ料也今ハ篠小手筒小手ナドイフ類或ハ桴或ハ瓢ナドイフ物ヲ鏢ニテツ、レルナド其ノ制猶多シ又小シキナル袖ツケシナドモアルニヤ(コレヲ毘沙門小手トイフ歟)

脛楯トイフ物ヲ脛楯トカク然ルベカラズ此ノ物ノ名古ノ物ニシルセル事イマダ見ル所ナシ(玄惠ノ庭訓往來兵具ノ名ドモシルシ所ニモ此ノ物ノ名ハ見エズサラバ鎌倉ノ世ノ季マデハ其ノ名聞エザリシニコソ)太平記ニ藤鏢ト云フ物見エタリ古キ平治物語ノ繪ニ今ノ寶障脛楯ト云フ物ノ如クナルヲ着シモノ只一人アリ是其ノ藤鏢ト云ヒシ物ナルベシ明德ノ比ニハ因幡脛楯ト云フ物見エタリ(明德記ニ今寶障脛楯ト云フ物ハ小札毛引ク事鏢ノ如ク三枚下リニシテ下ノ板ヲバ左右各三ツニワカテ菱縫ヒスル事草摺ニ同シ其ノ板ノ上ニハヨノツネノ如ク力革鞭サシナドイフ物アル也鏢袴トイヒシハ今モ世ニ蹈籠ナドイフ物其ノ遺レル制ニテ是ノ外今ハ異様ノ物多ク見エタリ

古ニ大立舉臙當トイヒシ物今モナホ其ノ制ノコリタリ銀ノ磨付ナドイヒシモ此ノ物ヲ白銀ニテ飾レルナルベシ騎馬ノ時此ノ制殊ニ勝レシモノニヤ今此ノ制ニ倣ヒテ其ノ形小シキナルアリ(毘沙門臙當トイフ其ノ立舉ノ所ヲ十王頭ナドイフ)又篠立ナドイフ物モ昔ヨリアリシニヤ古畫ニカキタルヲ見タリキ鍔具ズリトイフ所ヲ革ニテツクルハ鏢ノ鍔具ノアタル所ナルガ故也

雲圖抄ニ布衣騎馬殊ニ刷フ時毛沓ヲ用フ帶アリ革帶ノゴトシト見エタレバ古ハヨノツ子騎馬ノ時ニモ用ヒラレキ物ノ具シタル時ノミ用ヒシニハアラズ軍ノ場ニ用フル物モ其ノ人ノ品ニヨレル事ニヤ木曾追討ノ時九郎義經院ノ御所ニ參ラレシニ義經ハ熊皮ノ頬貫ヲハキ自餘ハ牛皮ヲハクトゾ源平盛衰記ニハシルセル但シ頬貫ハ即チ履也後三年ノ繪ニ此ノ物ヲ用ヒシモノ多ク見エ又其ノ制半靴ノ如クニシテ管ヘバ世ニ馬上沓ト云フ物ノ如クナルヲハキシモノコ、カシコニ見エタリ其ノ繪カキシ様黄色栗色ナドノ革ノ其ノ篋モ同ジ色革ナルニ紋アル也志貴山縁起ノ繪ニ熊ノ皮ニテ作りシガ篋ノ所ヲバ織物ヲ用ヒシ如クニ繪ガケルアリキコレヲ今モ世ニアル馬上沓ノ制ニハ少シク異ナリ熊ノ皮ノモミタビトイフハ古ノ制イカニヤ有ラン今モ世ニアル物ノ如クナリシニヤ詳ナラズ又鎌倉年中行事ニハ鎌倉殿鏢ノ單皮メサレシトイフ事アリ此ノモノソレヨリ前ノ代ヨリヤアリケン見所ナシ

委烏帽子トイフ物又ハ引立烏帽子トモイヒキ古ノ武士ヨノツ子ニ折烏帽子ヲ着タリ物ノ具シテ胃キルニ及ビテハ其ノ折リタルヲ引キ立テ其ノ上ニ胃ヲ着胃ヲ脱ギヌレバ又其ノ頭ヲ引キ立ツサレバ此等ノ名ハアリシ也保元ニ安藏判官基盛ウハヲリシタル烏帽子ノ上ニ白星ノ胃着タリシト見エ義朝錦ノ直垂ニ折烏帽子引キタテ、脇楯バカリニ大刀佩キタリト見エ(共ニ保元物語)屋嶋ニテ奈須余一ガ扇射タリシニ胃ヲバ脱ギテ童ニモタセ揉烏帽子引キタテ薄紅梅ノ鉢巻セシト見エ十郎藏人行家平家追討ノ院宣カウブリシ時ニ引立烏帽子ニ鏢着ラレシト見エ(共ニ源平盛衰記)和田合戦ノ時義盛スデニムカフト聞エテ相模守義時折烏帽子ヲ立烏帽子ニ改メ水干着テ

御所ニ參リシト見エシモ(東鑑)皆々此ノ事ヲ云フナリ(東鑑ニ武士ノ折烏帽子立烏帽子等ノ事見エタリコレハ諸眉左眉風折ナドイフ物ニハアラズ今世ニ侍烏帽子ナド云フ物ハ其ノ折烏帽子ノ遺制ナリ)烏帽子ノコワクナリテ額ナド出デ來シハ鳥羽院ノ御時ニ始マレル由見エタレド(今鏡并ニ神皇正統記等)武士ノ烏帽子ハ猶ヤハラカナリシカバ梨子打烏帽子ナドモ云ヒシナリ(衣服ニ梨子ヲ打ツト云フハフクサ張テテ糊ノコワカラヌ也又過ギニシ比上洛ノ時東寺ニ詣デシ日佛前ノ漆器ノ制ヲ問フ事侍リシニ其ノ法師ノ答ヘテ梨子打ニモシサフヲフト云ヒシヲ又其ノ事ヲ問フニ譬ヘバ今ノカキアハセ漆ナド申ス事ノ如クニ塗リ侍ルニヤト云ヒキ彼レ是レヲ通ジ考フレバ薄塗烏帽子ナド云フ物ノ如クニコワカラチバ又梨子打トハ云ヒシナルベシ)古キ菱烏帽子一頭一條殿ノ家ニアルト云フ事ヲ聞キ及ビ侍リシカバ上洛ノ時望ミ申シケレバ是ハ綠塗ナル由仰下サレテ借シ給ハリキ古キ平治物語ノ繪ニ物ノ具シテ烏帽子着タル武士共繪ガキシ中ニ此ノ物ノ形ノ如クナル相マシハレリ其ノ餘并義家朝臣ノ像後三年ノ繪等ニ見エシ所トハ其ノ形同ジカラヌ歟(義家朝臣ノ像等ニ見エシ所ハ譬ヘバ平禮ノ如クニ頭高クシテ其ノ形ナエタルナリ平治ノ繪ニ見エシ物ドモハ高カラズシテナエズ今世ニ白丁烏帽子ナド云フ物ノ如シ山科中將義言朝臣ニ問ヒシニ引立烏帽子モミ烏帽子一物也其ノ形白丁烏帽子ノ如クニシテヤハラカニ塗リタル也冑ノ下ニテハタ、マレ其ノ頭引キ上グレバ立烏帽子ニ似タル也ト答ヘラル彼ノ綠塗ト云フ物此ノ說ニハ合ヒタリサレド義家朝臣ノ像後三年ノ繪等ニ見エシ物ノ形ニハ同ジカラズ又野々宮宰相中將定基卿ニ問ヒシニ引立烏帽子ハ永仁正安等布衣始ノ記ニ大納言以下殿上人ニ至ルマデ用ヒシ由ハ見所アレド其ノ様ハ見エズ或人ノ昔ノモミ烏帽子ノ様也トテ一條故殿下ニ作リテ進ラセシ物ハ見タマヒシ物也トノタマヒ高倉中納言永福卿モ引立烏帽子菱烏帽子等當時斷分明ナラヌト宣ヒタリキ又在洛ノ時昔様ノ折烏帽子ニ頭相求メ得タリ其ノ中

ニ京極様ト云フハ古キ繪ニ見エシ物ト相似タリサレド折リタルニハアラデ折リタル様ヲウツシ作レル也彼ノ綠塗ヲ以テ其ノ様ニ倣ヒテ折リテ見ルニ其ノ形大ヤウタガハズサレバ折リタル烏帽子引キ立ツベキ物也ト云フ事ハ知リタリ)日本書紀ニ見エシ圭冠トイフ物ハ今ノ烏帽子タルヨシ私記ニハ見エタレド凡ハ我が朝ノ烏帽子トイフ物其ノ制又多カリ其ノ中ニ殊ニ古代ノ物也ト見エタル一ツニツアリ其ノ徵トスベキ事モアリケレドツハモノ、具ニアラザレバコ、ニハシルサズ家語トイフ、ミニ君子死スル時ニ冠ハナクズトイフ事モアリケリ我が國ノ軍禮モ昔ハカクゾアリケル(應仁ノ後打チツキタル戰ノ中ニ夏ノ空ノ熱キニ堪ヘズシテ月代ナドヲモコトニ大キクサレケルホドニマシテ烏帽子ナド着ン事オモヒモヨラズソノ世ノナラハシドモノコリテヨノツ子モ猶異體ノ事ノミ多カルゾカナシキ)又彼ノ鉢巻トイフ物モ白キ布ヲ用フルトモ白キ綾ヲ用フルトモイヘド其ノ長モ又傳フル所ヒトシカラズコレヲノ說皆古ノ制トハ見エズ此ノ物ノ始ハ日神八尺瓊ノ五百箇御統ヲミイナタキニマツヒ給ヒシヨリ起レリトコソ見エタレ(神代抄ニ)令ニハ衛士ノ朝服會集ノ日ハ朱ノ抹額挂甲ヲ加フベシト見エタリ抹額トイフモノスナハチ鉢巻トイフモノニテアルナリ宗高ガ薄紅梅ノ鉢巻シタルハスコブル古ノ儀ヲ存シケル歟此ノ物ニハ朱ノ色ヲ用フベキ事古ノ制ニゾ侍ル(冑ノ額上ニアタル所ヲ俗ニ末都加字トイヒテ眞向ノ字ナド用ヒ來レリマコトハ抹額トイフコトバノ冑ニモウツリシ也額ノ字ヲ加字トヨム事イニシヘノナラハシ也帽額トカキテ毛加字ナドモヨミタリ)

日神丈夫ノ武備ヲ設ケ給ヒシ時ミクシヲアゲテミヅラトナシ御裳ヲ引キマツヒテ袴トナシ八坂瓊ノ五百箇ノ御統ヲ其ノ御髻後ト腕ニマツヒ給ヒシ彼ノ御袴トイフ物ハ今甲冑ノ下ニ四幅袴着ル事ノイハレ歟トイフ事清三位ノ說ニ見エタリ崇神天皇ノ御時武埴安彦ガ軍ノヒト、モ甲ノ下ニ襦着タリシ事見エタレド(日本書紀)コレハ四

幅袴ナドイフモノニアラズバカマノ事也世ハルカニハダ、リテ武藏守義宗左兵衛佐義興等ノ人々足利殿ト
 武藏野ニ戦ハレシ時將軍ノ先陣平一揆小手ノ袋四幅袴符マデ一色ニ皆赤カリシナドイフ事見エシカバ(太平
 記)其ノ比ハ甲ノ下ニ四幅袴トイフ物着ケル也サレバ日神御裳引キマツヒ袴トナサレシトイフ事ヲ宣賢ノ卿
 今見ル所ニヨリテカクハ釋カレシモノナルベシシカハアレド凡本朝ノ俗ハ異朝ノ制ニ同ジカラズ表ノ袴ヲモテ
 裳ニカフル事ナレバ日神ノ御裳引キマツヒ給ヒシコトハ凡袴ノ始ニテ甲冑ヲ帶スル時ニ用フル物ニカギルベカ
 ラズ但シ丈夫ノ武備マウケ給ヒシ時ノ御裳ナレバ八坂瓊ノ五百箇ノ御統ヲ腕ニマツヒ御裳ヲ引キマツヒ給ヒシ
 ナド後代ニ鏡鏡直垂ナドヨソホフ事ノ始也トイハマシ鏡直垂トイフ物古代ニハ聞エズ(永福卿堯言朝臣又定基
 卿ニ問ヒシニ各知リ給ハヌ由答ヘラル)人車記ニ保元ノ時ノ事ヲ記サレシニ高松殿ニ武士ヲ召シ集メラル平清
 盛朝臣紺ノ水干小袴紫革威ノ鏡鏡直垂同ジク武裝ヲ備ヘテ相從フ源義朝赤地ノ錦ノ水干小袴賴政以下各
 々思々多クハ紺ノ水干小袴或ハ生絹皆鏡ニ折烏帽子隨充革ノ貫ヲ着ク儷僕胡麻ヲ負ヒテ冑ヲ持ツト見エタリ保
 元物語ニハ清盛賴政等ノ事ハ見エテド義朝此ノ時ニ赤地ノ錦ノ直垂ニ折烏帽子引キ立テ脇立バカリニ大刀ヲ佩
 クトシルシ異本ニモマタ赤地ノ錦ノ鏡鏡直垂ノ由見エタリサラバ其ノ比ハ水干小袴ヲ物具ノ下ニ着タルモノヲバ
 鏡直垂ナドモ云ヒシニヤ又其ノ代ニ鏡直垂ト云ヒシ物ハ水干ノ制ノ如クナリシカバ人車記ニカクハシルサレシ
 ニヤ後三年ノ繪ニ見エシ所ハ皆々水干ノ制ニ異ナラズ凡鏡ノ下ニ着ンズル物狩衣水干等ハヨソツテノ直垂ヨリ
 ハ其ノ便リ宜シカルベキ物也(鏡着ル時ニ左ノ小ダモトヨリ手ヲ出ダシテ袖ヲ射向ノ小手ヲオシ入ル小手ノ
 袋ノアルハ此ノ料也義家朝臣ノ像并ニ後三年ノ繪ニ小具足バカリシタル體ヲ繪ガキシ所皆々此ノ様ナリ)又水
 干ト云フ物紗平絹生絹ノミニモ限ルベカラズ白キ唐綾ニ龍ヲ繡シタル水干ハ玉葉ニモ見エ侍リシカサレバ錦ヲ

モ用ヒタリシナルベシ鏡直垂ト云フ物モ當時着用ノ直垂ニ異ナラズタ、錦金襴ヲモテ作レルヲ袖ト袴ノスツト
 ヲ結ビ其ノ上ニ鏡ヲキル也トイフ説アリ(東帶色目)南朝正平七年二月穴太ノ宸居ヨリ住吉ニ遷幸アリシ供奉ノ
 人々戎衣也色々ノ織物ノ鏡直垂タリト中國入道相國ノ御説ニ見エシカバ錦金襴ニカギレルニモアラズマタ色々
 ノ織物ヲ用ヒシ也又アル説ニ鏡直垂トイフモヨソツテノ物ニカハラズタ、左右ノ襟上ニ九ツト八ツトノ菊トデ
 アルベシコレ九萬八千ノ軍神ヲ勸請スルノ義也トゾ光源院公方ノ御物也シトイフ物ノ制ヲ見シニマコトニヨ
 ツネノ如クナルガ錦ニ裏ヲ打チタル也袖ニモ袴ノスソニモ縮アリ其ノ外ニ錦ニテ作レル脛巾ハキアリ露アラム所々
 ニハ紫ト白キトノ菊トデニツツ、アリテ左ノ襟ニ紫ノ菊トデ八ツ右ノ襟ニ紫ノ菊トデニツツト白キ一ツトアリ左
 右ノ襟ノ菊トデヨソツテノ物ニ異ナレドアル人ノ説ノ如ク九ツ、八ツアルニモアラズ(九萬八千ノ軍神ト云フ事
 鎌倉ニアル所ノ平家ノ赤旗ト云フ物ニモシルシタルバ古ヨリイヒモ傳ヘシナルベシサレド吉田ノ二位兼敬卿ニ
 軍神ト云フ事ヲ尋ネ問ヒシニ大已貴命ノ子事代主神ハ八万四千軍將ノ神也ト云フ事アリト答ヘラレキ或説ノ如
 クニ鏡直垂ノ襟ノ上ニ軍神勸賞ノ菊トデスル物ナランニハ左ニ八ツ右ニ四ツアルベキニヤサラバ光源院殿ノ御
 物也ト云フ物右ノ襟上ノ白キ菊トデ一ツヲ失ヒタリシモ知ルベカラズ)又鏡直垂必ズシモ菊トデアアル物トモ思
 ハレズ源平盛衰記ニ見エシ靜憲法印ガ平相國入道ノ許ニユキシ時グシタリシ童滋目結ノ直垂ニ菊トデシテ下腹
 卷ニ矢負ヒキ木曾殿ハ最後ニ巴ガ都ヲ出デシニハ紺村紅ニ千鳥ノ鏡直垂ヲキタリシガ關寺ノ戦ニハ紫格子織付
 ケタル直垂ニ菊トデシゲクシタルニ着カヘタリ鏡直垂トイフ物ニハ必ズ菊トデアランニハカクシルスニモ及ブ
 マシヤ渡邊源三競狂文ノ狩衣ニ菊トデ大キラカニシタルヲ着タリシ事モ見エタレバ菊トデセム事直垂ニノミ限
 ルベカラズ又金襴等ヲ用フルヨシモ一定ノ事ニモアラジ古ノ時錦ニテ作レル直垂ハ大將軍ニ非ザルハタヤスウ

キズ齋藤別當實盛ガ屋島内府ニ望ミシモノイハレトゾイフナルサレド佐那田余一義忠ガ青地ノ錦島山重忠ガ
 紺地又青地ノ錦ナド着タリシ事イカナル故カアリケン又十郎藏入行家平家追討ノ事ヲ承リシ日縫物ノ紺ノ直垂
 ニ鍔着テ院參セラレシ事モ見エタルバ大將軍タラン人カナラズ此物着ラレシニモアラズ平維盛東國ニムカハレ
 シ時赤地ノ錦ノ直垂ニ大頸端袖ハ紺地ノ錦ニテ裁レシト見エタルハ其ノ色コソカハレ皆錦ニテアリケル也燧ガ
 城ノ戰ニ加賀ノ林六郎光明ガ嫡子今木寺太郎光平褐ノ直垂ニ袖ヲバ紺地ノ錦ヲツケ水島ノ戰ニ飛騨三郎兵衛景
 家ガ褐ノ直垂ニ大領耳袖ニ赤地ノ錦ヲ入レシナドシルセシハ直垂ニハアラズ襖トコソ見エタレ(源平盛衰記
 ニ見エシ所ナリ台記ニ仁平三年春日祭使還立ノ日共ノ諸大夫大舍人助雅亮顯文紗ノ襖耳袖大頸ニ錦ヲ用フルノ
 由見エ又玉葉ニモ治承二年春日祭使ノ共ノ諸大夫源國輔還立ノ日布ノ白襖ミガキニテ端袖ノホリ頸摺染唐綾ニ
 テ替ヘシ由見エタリ繪師草子ト云フ古キ繪ニ此ノ物着タリシモノ見エタリキヌベテ是等ノ事ニヨリテ按ズルニ
 保元ノ比ヨリ水干ニモアレ襖ニモアレ鍔ノ下ニ着ヌルヲバ皆々鍔直垂ナド云ヒシ武士ノ俗也ト見エタリ)金
 襖ノ直垂トイフ物古ニハ見エズ足利殿ノ比ニ鎌倉殿ニハ金襖ノ肩衣ニ小袴ヲメサレシナド其ノ時ノ物ニワヅカ
 ニ見エ(鎌倉年中行事)錦織物ノ外ニ又縫物ノ直垂アリ源三位頼政ノ鶴射シ時マツ其ノ家ニテ男山ヲ拜ムトテ生
 衣ノ捻重黄大ル大口ニ初紅葉トイフ直垂ヲキラレキ其ノ直垂ノ左ノ肩ニ八幡大菩薩ト縫ヒ右ノ肩ニ山鳩ヲ縫ヒ
 ケリト見エシモ八郎御曹司爲朝カチンニ色々ノ絲ニテ獅子ノ丸縫ヒタル十郎藏入行家ノ縫物ノ直垂巴ガ紺村紅
 ニ千鳥縫ウタル大夫敦盛ノ着タリシ練貫ニ鶴縫ウタル上總五郎兵衛忠清ガ縫摺ノ直垂ナド皆其ノ物ニテアリケ
 ル也河越太郎重頼ガ蝶ノ丸棍原源太景季ガ大文ヲ三ツツ書キタル佐々木四郎高綱ガ三日結熊谷二郎直實ガ鳩
 ニ高生縫ウタルナドハ皆其ノ家ノ紋ヲツケシ也悪源太義平ノ練貫魚龍ノ直垂長瀬判官代重綱ガウスアヲノスバ

シノ魚龍ノ直垂足利又太郎忠綱ガ朽葉ノ綾ノ直垂佐々木三郎盛綱ガ黄スバシノ直垂ナドイフ物ノ見エシハ或ハ
 練貫或ハスバシノ直垂モアリケリ平治ノ時ニ右兵衛佐頼朝浪ゲシヤウノ直垂着給ヒシナド見エタルハイカナル
 モノニヤサダカナラズ(此ノヨシ平治物語ノ一本ニ見エ世ニ行ハル、印本ニハ紺ノ直垂ト見エ又一本ニハ長絹
 ノヨシ見エタリ按ズルニ今モキヌヲコマカニ疊ミテソノ襷積メノカサナレル浪ノゴトク見ユルヲ衣ノハタ袖ナ
 ドニツケシヲ俗ニハケシトイフ也ケシトイフハ假粧トイフコトノ譏レルナルベシ知レラム人ニ尋ヌベシ)保元
 ノ亂ニ教長成雅已下ノ上北面水干袴ニ腹卷ヲ着シトイフ事見エ(保元物語ノ異本ニ)安藝判官基盛ノ白襖ノ狩衣
 競瀧口ガ狂文ノ狩衣又平相國入道ノ生衣ノ帷ヲキカキタルニ赤地ノ錦ノ鍔直垂ニ腹卷シ木曾義仲ノ赤地ノ錦ノ
 直垂ニ紅ノ衣ヲカサテテ紫威ノ鍔着ラレシ又橋ノ合戰ニ慶秀阿闍梨ガ白帷ノ脇カキタルニ黄大口ニ萌黄ノ腹卷
 シ高時禪門ガ亡ビシ日長崎次郎高重ガ筋ノ帷ノ月日オシタルニ精好ノ大口ノ上ニ赤絲ノ腹卷シタルナド見エタ
 ルハ或ハ水干袴或ハ狩衣或ハ帷又ハ衣ヲモ直垂ニカサネ或ハ帷ニ大口ヲモ着ツベケレバ甲冑ノ時カナラズ直垂
 ヲノミ用フベキニモカギラジ足利殿ノ代ニ鎌倉殿ノ出陣ノ儀ヲシルセシモノニ(鎌倉年中行事)小具足バカリニ
 テ(綠塗金襖ノ肩衣小袴籠手經幡當鐙單皮等ナリ)虎ノ皮ノ引敷シ給ヒ供奉ノ鞆モ布直垂ニ引敷セシヨシ、ル
 シタレバ其ノ比ハ小具足バカリセム時ニハ引敷ヲコソ用ヒタルラメコノ外ノ物ニ其ノ事ヲシルセシモノヲバ見
 ズ近代ニ至リテハ肩衣ヲバ着ル人モナク假粧袴ナド云フ小袴ヲモ着又腰裝ナド云フ物ヲ纏フ事ニヤ以ノ外異體
 ノ事ニナリテ古ノ鍔直垂帷大口ナド云フ事モ聞エズ
 建仁三年十月鎌倉ノ右大臣殿元服ノ事アリテ政所始ノ日始メテ甲冑ヲ着給フ時小山左衛門尉朝政足立左衛門尉
 遠元等ガ甲冑母廬ヲ着ヌル次第ノ故實ヲ遠江守義時朝臣悉ク授ケ奉ラルト東鑑ニ見エタリサレバ其ノ代ニ鍔ヲ

若スル次第武士ノ家ニ各々相傳フル所アリシナリ體源抄ニ豊原家相傳フル所鏡着ル時音取ノ事ニツキテ八幡殿
 着鏡ノ次第ヲシルセシニハ第一ニ手綱第二ニ小袖(練貫黄色)第三ニ大口(精好)第四ニ髪ヲ亂シ第五ニ鉢巻(白
 布)第六ニ弓懸第七ニ鏡直垂第八ニ脛巾第九ニ新第十ニ櫛當第十一ニ頰貫第十二ニ脇立第十三ニ手蓋第十四ニ鏡
 第十五ニ刀第十六ニ大刀第十七ニ征矢第十八ニ弓ノ由シルセリ(手綱トハ下帶ナリ小袖トハ袖ボンノ事ヲ云フ
 ニヤ結ハ直垂ノ袖結ヲスル事ナリ此ノ次第ニ烏帽子ト冑トノ事ハ見エズ心得ガタシ)又足利殿ノ比シルセシ物
 ニ(二儀一統)大將ニ物具着セマキラスル事ヲシルシテ第一ハイタテバシヤウバカマ(鐵袴ナド云フ物ノ事ニヤ
 一本ニケシヤウバカマトシルス脛楯ト假粧袴トノ二ツヲ云ヒシニヤ)第二コテビタレ(小手ト直垂トノ二ツヲ
 合セ言フ成ルベシ)第三脇立第四鏡第五ニエビラ上帶(籠ト上帶トノ二ツヲ合セイフナルベシ)第六櫛當第七ナ
 シウチ(梨子打烏帽子ノ事ナルベシ)又何方ニテモ敵ノ方ヘ向ケマキラセ先梨子打ヲ着セ其ノ後具足ヲ着セマキ
 ラス少モ足ヲ後ヘフマセマキラセヌ様ニ間違ク向ヒテカイシヤクスベシ小手ヨリ始メテ左ヨリ進ラス上帶ノ後
 ニトメヲバ合スル也御冑ノ役人御冑ヲ取リテ左ノ手ニスエテ持也ト見エタリ(トメヲ合スルトハ高紐ヲ懸クル
 ヲ云フナルベシ此ノ二條ハ少シク前後ノ異ナル所アルカ)

保呂トイフ物其ノ因リ來ル事サダカナラズ又サダマレル文字モアラズ古ニハ保侶(三代實錄)保呂(扶桑略記)母
 廬(東鑑)ナドカキシヲ其ノ後ハ縋又ハ母衣ナドシルセリ下學集ニハ縋ヲ母衣トカク事モトコレ胎衣ニ象レルヨ
 シヲノセ縋囊抄ニハ母ノ小袖ナド縋ニ懸ケシ事ノアルヲイマダ其ノ因リシレザル事モアルニヤトシルシヌ縋ノ
 字ハ韻書等ニモ見エズ(幌ノ字ハアリコレハ帷幔也ト注ス)其ノ餘世ニイヒナラハセル文字モ多ケレド皆信ガタ
 シ(武羅神衣綿衣等はナリ)神功皇后新羅ウタセ給ヒシ時住吉ノ神作り出ダシテ進ラセシトイフ説アレド正シキ

史ニハ見エズ清和天皇ノ御世貞觀十二年二月對馬守小野朝臣春風奏セシ所ニ軍旅之儲當在ニ介冑一々々雖薄助
 以ニ保侶一調布ヲモテ保侶衣千領ヲ縫ヒ造リテ不虞ニ備ヘント望ミ請ヒシ事見エ(三代實錄)又宇多天皇ノ御時寬
 平六年九月新羅ノ賊船四十五艘來リテ對馬島ヲ犯ス事アリ守文屋善友迎ヘ戰ヒテ彼ノ大將軍三人副將軍十一人
 ヲ始テ三百二人ヲ射殺シテトル所ノ大將軍ノ甲冑大刀弓胡籙保呂等各一具脚力ニ附ケテ進ラセシ由見エ(扶桑
 略記)我が師ニテアリシ人母衣ト云フ文字ハ羽衣トイフ字ヲアヤマリウツシタル也コレ毛トイフ物也トゾイヒ
 ケル毛ノ字ハ羽毛ノ飾一ニイハク羽ヲ續テ衣トス一ニイハク兜蓋上ノ飾也ト注セリ三國志ニ蜀ノ先主蒼牛ノ尾
 ヲ以テ毛ヲ結ビ給ヒシ事諸葛孔明吳ノ孫權ニ毛オクリシ事又吳ノ甘寧トイヒシ大將ノ手ノ兵ニ弓弩サシハサミ
 モタセテ毛ヲ負ヒ給フ帶ビサセシナドイフ事アリ但シ蜀ノ先主ノ結ビ給ヒシハ蒼牛ノ尾ト見ユ甘寧ガ兵ノ負ヒ
 シ其制ハ聞エズ梁ノ庾信ガ詩ニ金羈翠毛ト言ヒシハ翠羽ヲ以テ作りタレバ羽ヲ續キテ衣トストイフ注ニアヒヌ
 ルニヤ或ハ鳥ノ羽或ハ牛尾ナドヲモテ作りタレバ羽毛ノ飾トモ云ヒタルヲ又兜蓋上ノ飾ト見エシハ今モ異朝
 ノ軍裝ニ整纓トテ冑ノ上ニ或ハ紅ナル或ハ白毛ヲカケ鳥ノ羽ヲ挿ム事アルヲイヒシ也オモフニ毛トイフ物ハ三
 國ノ比專ラ軍容ノ飾トナセシ物ニゾアリケル後漢書ノウチニソレトオボシキ物スデニ見ユ三韓ノ地ニモ其ノ制
 ニ倣ヒ來リ寬平ノ御時ノ賊師モコレヲ負ヒタルニコソ我が國ノ軍裝ニ保呂挂ケ總角付クルハ神代ヨリノ事ト見
 ヲ六月晦大祓祝詞ニ比禮挂伴男手經挂伴男ト云フ即此也古時比禮ト云ヒシヲ後保呂ト云フ其ノ語轉ゼシ也春風
 ガ奏セシ所ニ據ルニ其ノ代ニハ此ノ物介冑ヲ助ケテ身ヲ保ツベキ物ト見ユ軍裝トノミモ云フベカラズ只其ノ制
 ノ如キ今ハタ知ラルベキニモ非ズ古キ給共ニ保呂挂ケシ物ヲ畫キシヲ見ルニ近世ノ制ト大ニ異也古ハ是レヲ着
 クベキ様モ兵ノ家傳フル所ノ故實アル事ナリキ建仁三年十月鎌倉殿御元服ノ後始メテ甲冑ヲ着給フ日小山足立

等ガ甲冑母慮ヲ着スル次第ノ故實ヲサツケ奉ルナド見エシコレナリ近代迄モ世ニムカシ保呂ナドイフ物ノ名ハ聞エキ過ギニシ比在洛ノ日大塔宮ノ御保呂絹ノ様也ト云フ物ヲ求メ得タリキ正シキ證ハナケレド古代ノ物トハ見エタリ今様ハ帛ノタケモ長ク其ノ幅ノ數モ多クナリシホドニ保呂籠トイフ物ニ引キオホヒテ前ニハダシトイフ物立テテ申ヲモテ鎧ノ後ニサス事ニナリケリカ、ル制元弘建武ノ比ヨリヤ始マリヌラン 長尾彈正ガ金紗ノホロ長山遠江守ガ薄紅ノホロイヅレモ十幅一丈アリシヨシ異本太平記ニハ見エタリ幅多クタケ長カランニハ古ノ制ニハ異ナルモノナルベシ近キ比マデ東國ノ方ニテハ多クハ古ノ制ヲ用ヒテ今様ノ物ヲハ挑燈保呂ナドイヒシヨシフルキ人ハカタリキ昔ヨリキヌハ素ヲモ色アルヲモ用ヒ或ハオノガ名ヲモカク或ハ家ノ紋ヲモツク又神佛ノ名經陀羅尼ナドカキシモ又袈裟カケテ保呂トセシ事モアル也古ノ兵ハ最後ト思フ軍ニハ必ズ母衣ヲモカケ又母衣カケシ人ノ首ヲバ其ノ保呂キヌ添ヘテ大將軍ヘ進ラスル事ニゾアリケルサレバ名字ヲシルスベキ事定マレル式ニヤ今モ保呂ギヌニ名字カ、ム事其ノ人ノ高キ卑キガ品ニヨリテ心得アル事也トモ云フ也又近代ヨリ羽織トイフ物ヲモテ軍裝トスル事アリケリ古ニハカ、ル物アリトモ聞エズサレド古ニ羽ヲ續キテ衣トストイヒシハ此ノモノ、類也サテコソカクハ名付ケタラメトイフ人アリ近代マデアリツル昔保呂トイヒケル物此ノ物ニ似タル所モアレバカノ羽ヲ續グトイヒシモ羽ヲ織ルトイハンモ其ノ義ノ相違カラキバ其ノ名ヲカク名付ケタリケンモ知ラレズ

母衣袋トイフ物ハ昔ヨリアリテヨノツネニハキヌヲ此ノ物ニ納メテケリ此ノ物昔ハ錦繡ヲモテ作レリトイフ太平記ノ中ニ那須五郎ガ母衣彼ノ曩祖余一資高ガ(余一ガ名或ハ宗高トモ資高トモシルセル所同ジカラズソノシルセシ物ノマ、ニシルシヌ但シ其ノ系圖ニハ資高トコソ見エタレ)屋島ノ戰ニ扇射テ名ヲ揚ゲタリシ時ニカケタル薄紅ノ母衣ヲ錦ノ袋ニ入レテ賜ハリシト見エシハ此ノ物ニテアル也今ノ制ハ文アル織物ヲモテ作リテ裏ヲウツ長サ廣サ家々ニ傳フル所ノ故實アルメリサレド今ノ保呂古ノ物ニクラブレバソノ制以ノホカニ大キクナリヌレバソノ袋モマタシカゾアルベキ

本朝軍器考卷九 終

本朝軍器考卷十

鹵 楯 類

筑後守從五位下

源 君 美彙輯

日神天窟ニ入り給ヒシ時八百萬神天八湍河ノ河原ニ神會ヒニツドヒテ其ノ祈謝スベキ方ヲ議リ種々ノ物儲ケ備ヘラレシニ彦狹知神ヲシテ作盾トスト見エタレバ(舊事紀ニ)此ノ物神代ヨリアリケリサレバ天神地神祭ラル、時ニ此ノ物ヲ用ヒラル、事モアル也三十四代ノ朝廷ノ御時ニ及ビテ(推古十一年)厩戸皇子朝廷ニ請ハセ給ヒテ作ラレシ大盾ハ鹵薄ノ類トゾ見エタル其ノ後四十一代ノ朝廷(持統)四年ノ春正月物部麻呂朝臣大盾ヲタテ神祇伯中臣大島朝臣天神ノ壽詞ヲ讀ミ畢リテ忌部宿禰色矢知神聖劍鏡ヲ皇后ニ奉 上テ天皇ノ位ニ即カセ給フナドイフ事モ見エタリ鐵ノ盾ハ十七代ノ朝廷ノ御時(仁德)百濟王ノ獻リシヲ盾人宿禰シテ射サシメラレキコレラハ專ラ戎ノ備トゾ覺ユル大伴毘羅夫連ガ手ニ弓箭皮楯ヲ執リテ馬子ノ大臣ヲ守リシトイフハ倭名抄ニ見エシ歩楯ノ類ナルベシ彼ノ抄ニ衆名苑ヲ引キテ楯一名ハ楯太天トヨム又釋名ニ狹クシテ長キヲ步楯トイフ歩兵ノ持ツトコロ也天太天トヨム也ト注セリサラバ後世ニ持楯トイフ物步楯ノ制ニシテ楯トイフハカキナラズベキ物近代ニ疊楯ナドイフ物ノ類ニヤヒシ楯トイフ物ハ(太平記ニ見ユ)竹ニテ作レルヲヤイフ近キ比鳥銃ノ始マレルヨリ竹ヲ束縛テ楯ノ類トナス物ヲ竹束トイフハ甲斐ノ武田ノ家ニテ作り始メシトゾイフナル(甲陽軍鑑ニ詳ナリ)

本朝軍器考卷十終

本朝軍器考卷十一

帷 幕 類

筑後守從五位下

源 君 美彙輯

倭名抄ニ屏障具ノ下ニ帷ハ加太比良幕ハ萬玖番ハ比良波利帳ハ阿計波利帳ハ本朝式ノ班幔ヲ引キテ萬多良萬久幌ハ止波利帳ハ此ノ間音長ト注シタリ此等ノモノ多ケレドモ陣營ニ用フル所ハ帷幕ノ二ツニ過ギズ日本書紀ヲ見ルニ廿七代ノ朝廷ノ御時(繼體)物部連伴跋ノ人ノタメニ襲ハレテ帷幕燒カレシトイフ事アレバコレヲモテ陣營ノ具トスルコトコレヨリモ猶前世ノ事ニゾアルベキ帷ハ帷裳ナドイフ事アリテ其ノ幅ヲ堅ザマニ縫フナレバ今ノ内幕トイフ物ニテ幕トイフハ今外幕トイフ物是也令ニハ兵士毎火紺布ノ幕一口ヲ備フベシト見エタリ(義解ニ一火トハ兵士十人ヲイフヨシ見エタリ)齊明天皇ノ御時三韓各御調進ラセシヲ飛鳥ノ岡本ノ宮地ニ紺ノ幕張リテミアヘ賜ヒシ事見エタレバ兵士ノ自ラ備フルノミニモアラズ昔朝廷ニ用ヒ給ヒシモノ物ニテアリケリ倭名抄ニ唐式ニ衛尉等六幅幕八幅ノ幕トイフ事アルヲ引キタレバ本朝ニモ又六幅八幅等ノ制ヲ用ヒラレシニヤ古制ハサダカナラズ飛彈守惟久ガ後三年ノ戰ノ繪ノ八幡殿ノ幕ノ紋ニハ鳩ニツヅムカヒシ形ヲカキタリウケツタヘシ事モアリケルニヤ又洛陽京極ノ北華開院トイフ寺ニ伊勢三郎義盛ガ物也トテ蝶ノ紋ツケタル幕アリトイフナリ其ノ制イカニヤアルランタマシ其ノ紋蝶也トイヘバ義盛ガ物ニハアラデ伊勢平氏ノ物ナルヲ傳ヘタラシモノ知ルベカラズ武藏國熊谷ノ庄ニ次郎直實ガ幕也トイフ今モアリ寓生ニ鳩ニツヅム繪ガケル也コレモ今ハ其ノ全制知ルベカラズ幕ノ制體源抄ニ見エシ所ハ幕布ノ長サ二丈五尺乳ノ間一尺三寸繩マゼマゼナラバ乳モマゼハ一色ナラバ乳モ一色ナリ幕申ノ長サ一丈五寸サキハキリコヒデハ一尺サダテ打ツ地ニ入ル事一尺許一帖ニ

六本ト見エ又南都興福寺多門院ニアル右京亮大江真忠(相野ト稱ス)相傳ノ幕ノ圖ニハ幕ノ長サ本ハ三丈六尺也
 手ノ長サ七間半也手三色打チマゼ但シ高家ニハ白手也乳モ同シ乳ノ數二十八幕ノ紋ハ五ツ又ハ三ツ七ツモ裾紺
 妻黒地染當流ニハコレナシ幕串一帖ニ九本ナドシルセリコレヲ其ノシルセシ所同ジカラヌハ家々ニ相傳フル所
 異ナル故ナルベシ近世ノ制ハ五幅ノ布ヲ用ヒテ長サハ二丈八尺ナリ是一匹ノ布ヲ用フルガ故也一對ノ幕通シテ
 十二幅ノ布ヲ用フベシ其ノ二幅ハ乳并ニ手繩ノ料トス二幅ノ布ヲ一幅ゴトニ四ツニサキテ其ノ一ツヲ乳トシ其
 ノ三ツヲ白キ黒キ青キ色トナシ手繩トス乳ノ數廿八ナルハ天ノ宿ニ象リテ陽トシ三十六ナルヲバ地ノ禽ニ象リ
 テ陰トス又梵字カキ符字繡ニスルノ類ハ其ノ物ヲ神ニセンタメニコソ有ルベケレド皆近世ノ俗ニヤ古ニハ聞エ
 ズ幕串ハ大將十本軍士八本其ノ長サ八尺稜ヲ八ツニモ六ツニモシテ上ノ方ヲバ蜻蜒頭モシハ頭巾頭ト云フ物ニ
 シテ石ヅキヲ鐵ニテツム頭ヨリ下四寸許ガホドニ折釘ヲウツ幕ウツ事モ晝ハ串ヲ内ニシテウツ夜ハ外ニス又
 ミカタニハウツトイヒ敵ニハヒクトイフ又ヲサムルトハイフベシハヅストハイフベカラズシラルトハイフベシ
 アダルトハイフベカラズナドイフ類ハ武士ノ家ノ故實ナレバ心得ベキ事也

内幕トイフ物ハ十三幅ノ布ヲ用フ乳付ノ幅ハ横也豎ニ十二幅ヲツク豎ノ幅ノ長サ五尺餘リニモ又横幅ヲ合セテ
 五尺ニモ六尺ニモスルトイフ乳ノ數ハ六十八廿五又ハ七十五十二ナド一定ノ説ナシ紋ヲツクル事横幅ニ五
 ツナドイフ也今ハ綵段ヲモ用フ又乳付ノ横幅ナキヲバ暖籠幕ナドイフ也此等ノ外舟ニハシラカヌ幕アリ
 凡幕ニ紋ツクル事其ノ始未ダ詳ナラズ古ノ制ニハ紺布ヲ用フト見エタレバ紋ハアラズ摺糞抄ヲ見ルニ武士ノ幕
 ノ紋ノ字トイフ事アリ其ノ比マデハカハル詞マデモ猶古ノスガタノ遺リタリケリ後代ニ至リテヨソ旗ノ紋ナド
 云フ事ハアレ昔ハ兵士私ノ旗職アル事ヲ得ズ皆其ノ大將軍ノ用アル所ニ從フ(平治物語ニ平家ハ赤旗赤職源氏

ハ大旗腰小旗皆オシナベテ白カリケリナド見エシコレナリ)タゞ其ノ陣ヲワカタンガタメニ帷幕ニハ各ソノ紋
 ヲツク武士ノ家紋トイフモノ此ノ事ヨリ始リシカバ彼ノ抄ニモ武士幕紋トハイヒケリ紋ツケシヤウモ今ノ様ニ
 ハアラズ鎌倉殿ノ幕ハ混白ノヨシ見エタレバ紋ヲバ繪ガレズ足利殿ノ二引轡トイフハ三幅白ノ事也トシルセ
 ル物アリ五幅ノ幕上中下ノ幅白カラシニハノコル所オノツカラニ二引轡ニテアル也三引轡又中黒紺紺ナドイフモ
 皆此ノ例ニゾアルベキノ外ノ紋モアリシ儘ニ幕ノ中ホドニオシナラベテツケシヲ今ノ制ヲミルニ二引轡三引
 轡ノ類モ輪トイフ物ノウチニツクソノ餘多クハ輪ノウチニツクルニヤ古ノ家々ノ紋ヲ見ルニ輪ノウチニツケシ
 ハ多カラヌカオヨソノ紋輪ノウチニツクル事ハコトニ近キ俗ナリコレヲ皆古ノ制ヲ知ラヌガイタス所ニゾアル
 ベキ

床几トイフ物ハ古ノ胡床也胡床ハ倭名抄ニ此ノ間ニハ阿久良トイフヨシ注セリ高御産巢日神天照大御神天若日
 子ヲ此ノ國ニ下シ給ヒシニ大國主神ノ女下照比賣ヲ娶リテ八年マデカヘリマウサレバ雉ノ名鳴女トイフヲ下
 シテ其ノ趣ヲ問ハシメラレシヲ天若日子射殺シツ其ノ矢天ノ安河ノ河原ニマセシ天照大御神高木神ノミモトニ
 及ビシヲ高木神其ノ矢ヲトリテツキ返シ給フニ天若日子胡床ニ寝タリシ高胸坂ニアタリテ死ストイフコト古事
 記ニアレバ此ノ物神代ヨリアリケルニヤタゞシ風俗通ニ靈帝胡服ヲ好ミ給ヒシホドニ京ミナ胡床作レリトアレ
 バ異朝ニハ後漢ノ末ニ出來シ物也又器物叢談トイフ物ニ胡床ハ胡人偃座シテ睡レバ此ノ名ヲ得タリ隋ノ時ニ識
 ニ胡トイフ字アル故ニ改メテ交床トイヒシヲ唐代ヨリ繩床トナヅクトハシルセリ風俗通ノ説ニヨレバ胡國ヨリ
 出ヅ叢談ノ説ニヨレバ胡國ヨリハ出デネド偃坐シテ睡ルベキ物ナレバ胡人ノ俗ニ似タリトテカク名ヅケシ也
 イツレニモアレ後漢ノ比ニヤ出來ヌランヲ我が國ノ地神ノ代ニ此ノ物アルベシト思ハレズサレバニヤ舊事記日

本書紀ニハタツ天稚彦ノフシタリトバカリアリテ胡床ニ寝タリシトハ見エズコレハ古事記撰バシ時ニ此ノ物
 スデニアリシカバ今見ル所ニヨリテ神代ノ事ニ此ノ文字ヲ誤リ用ヒタル也古ノ時戰場ニ用ヒシモノ今世ニアル
 制ニハアラズトイフ人アリ心得ガタシヤ用明天皇崩シ給ヒシ時帝ノ御弟穴穗部皇子ノ三輪君逆ヲ殺サントテ物
 部守屋大連ト兵ヲ將キテ其ノ家ヲ圍マル逆ノ君ノガレテ後宮ニカクレシカバ皇子ハ大連シテソレヲ討タシメミ
 ヅカラハ胡床ニシリウチカケテマチ給ヒシトイフ事アリコレ昔戰ノ時此ノ物用ヒラレシ證也モシハ又其ノ形今
 ノ物ニアラズトイハハ梁ノ庾肩吾胡床ノ詩ニ傳名乃外域入用信中原足欵形已正文斜體自平トイフ物ハ今ノ制
 ニアラザランヤハ彼ノ梁ノ代ハ我が國ニシテ用明天皇ノ御時ヨリハ猶少シクサキノ代ニゾアタリ侍リ
 敷皮鹿ノ夏毛ヲ用フ皮ノ長サ三尺二寸廣サ二尺五寸白毛ヲスコシ殘シテキル也上ヲ櫛形又ハ櫛上ナドイフ下ヲ
 白毛トイフ也何ニテモ裏ヲウツ上ニ緒ヲツク戰ノ場ニテ胡床ニカクルニモヨノツチ弓射ル時ニシクニモ各其ノ
 故實アルベシ

本朝軍器考卷十一 終

本朝軍器考卷十二

鞍 轡 類

筑後守從五位下 源

君 美彙輯

神代ニ此ノ葦原ノ中ツ國ニ保食神トイフアリ此ノ神月夜見尊ノタメニ擊チ殺サレシニ其ノ頂ヨリ牛馬ハ化出デ
 シ由舊事紀日本書紀等ニ見エタリシカルヲ馬ハ百濟國ヨリ來レル所也保食神ノ化レル所ナリトハ心得ガタシト
 云フ説アレド百濟ヨリ來レル由ハ異説也トゾ私記ニハ見エタル(萬葉集抄ニモ昔百濟國ヨリ馬ヲ此ノ國へ獻リ
 タリケルニイクバクモナカリケレバイミジクカタモノニシテ馬トハ其ノ時ニハイバウミノモノトゾ云ヒケル
 ソレヲ秦氏ノ先祖コレヲヨク乘レリケリサテ帝コレヲイミジキモノニセサセ給ヒテウマトイハント云フ事定マ
 リハジメテイコマ山ト云フ山ニハナチテ飼ハシメ給ヒケリ其ノヨリ帝ノオボエ有リケル人其ノ馬ハ給ハリテ乘
 リテアリケルサレバ此ノ馬ニ乘リタル人ヲバイミジクヤンゴトナキ人ニシケル也ナド見エタリ)又素戔嗚尊
 刺串伏馬^{ムスツル}タマヒ天ノ班駒ヲ剗ニシ給ヒシナド云フ事モ見エタレド牛ヲ服ヒ馬ニ乘ルトイフ事ノ始ハサダカナラ
 ズ日子遲神出雲國ヨリノボリ倭國ニマサントテヨソヒタテル時片御手ハ御馬ノ鞍ニカケ片御足ハ其ノ御籠ニフ
 ミイレテ歌作ラレシ事古事記ニ見エタレバ地神ノ時鞍籠ナドイフ物ハ既ニアリケリ筑後筑前ハモト一國タリシ
 ニ昔時此ノ兩國ノ間ノ山ニサガシクセバキ坂アリテ往來ノ人ノ駕ル所ノ鞍轡盡サレシ故ニ土人鞍轡盡ノ坂ト
 イヒシヨリ此ノ國ヲ筑紫州トハ名ヅケシヨシ其ノ國ノ風土記ニハ見エタリ(筑後風土記)筑紫州トイフハ伊弉諾
 伊弉冉二柱神此ノ大八洲ウミ給ヒシ時ヨリノ名ナレバ天神ノ時ニ既ニ馬ニ乘ル事ハアリシニヤタバシ二柱ノ神
 大八洲ウミ給ヒシ始ハ筑紫州ナドイフ名ハアラザリケルヲ牛馬化リ出デ、コレヲ服ヒコレニ乘ル事始マレル後

ニカク名ツケラレタリケンモシラズ人代トナリテ後三十九代ノ朝廷天下シロシメヌ七年(天智)近江國ニシテ武ヲ講シ給ヒ又多ク牧ヲカレテ馬放サレシト見エシハ我ガ朝ニテ牧置カレシ始ニヤ其ノ後ノ令ニ載セラレシ所庶牧ノ條ニ詳ナリ又格ニハ王臣ノ馬ノ數限アリテコレヲ過グル外ハ馬畜フ事ヲ聽サレズ四十代ノ朝廷(天武)十三年ノ詔ニハ文武官諸人務メテ兵ヲ用ヒ馬ニ乘ル事ヲ習ヘ馬アラムモノヲ騎士トシナカランモノヲ歩卒トシテ馬兵ニ便リナラザランモノヲハ尉セラルベシナド見エタリ又三十四代ノ朝廷ノ御時(推古)新羅任那ノ國々ヨリ貢使進ラセシニ額田部連比羅夫シテ新羅ノ使迎フル莊馬ノ長トナシ膳臣大伴シテ任那ノ使迎フル莊馬ノ長トナサレテ阿斗河邊ノ館ニ安置シ給ヒシトイフ事アリ古ニ聞エシ飾馬ノ具其ノ比ノ制ニヤアルラム凡ハ古ノ飾馬ノ具異朝ノ制ト見エシ物トモアリテ今ハサダカナラヌ事トモ多カリ(古ノ馬ノ飾蓋蒲形銀面雲珠頸總八子尾囊ナドイフ物ノ中雲珠頸總八子尾囊ハ其ノ圖飾抄ニ見エケリ又倭名抄ニ見エシ所モアル也蔡慈獨斷ニ金鍍ハ馬冠也高サ廣サ各五寸上三華ノ形ノゴトキモノ也トイフ事ヲ引キテ今按ズルニ俗ニイフ銀面ノ蓋蒲形コレ也トツ注シタル蓋蒲形トイフ物ハ金銅ニテ蓋蒲葉ノ形ノ物ニツ銀面ニタツ也天仁ノ記ニ殿下騎馬シ給フノ間額蓋蒲形ニツキアタリ給フ人々危シト稱シキヨシ見エタリ樓額倭名抄ニ沼賀々既トイフ銀面ノ類ニヤ又異物ニヤ馬ノ類ニアルベキ物也尾囊ヲハ尾箱ニ作り又考聲切韻ヲ引キテ紛ハモテ尾ヲツム所也此ノ物唐尾ニ結ブ時用フル具タルヨシ注セリ)コレヨリサキ三十代ノミカド欽明天皇紀ニ皇后ノ御鞍トイフ事見エタレバ其ノ代ニハ皇后ニモ御馬ノアリシニゾコレヨリ後代ニ至リテハ其ノ人ノ品位ニヨリテ鞍轡鞍轡ノ類盡ク皆定マレル式アリトゾ見エタル(公卿以下五位以上黑地鞍轡負佐大夫尉沃懸地ヲ用フ又近衛次將平文ノ移鞍ヲ用フ或ハ貝ヲ摺リ玉ヲ入レ或ハ薄文ヲ押スナドイフ類即チコレ也)

倭名抄ニ鞍ノ下ニ俗ニ唐鞍移鞍結鞍等ノ名アリト見ユ飾抄ニハ結鞍トイフ物ハ見エズ倭鞍水干鞍ナドイフ物見エタリ倭鞍ニモ水精地銀地鏡地黃地龜甲地蒔繪鉢鞍等ノモノ聞エタリスベテコレラノ物今ハ盡ク詳ナラヌ事ニヤ其ノ中唐鞍ノ具ハ飾抄ニ圖セラレシ所モ盡クニ備ハレリトモ見エズ年中行事ノ繪ニ飾馬ヲ繪ガキシヲ見テヤ、其ノ物ヲ想ヒ見ツベケレド猶サダカナラヌ事トモアリ後ニ春日社ニ詣デシニ神殿ノ繪馬ニ繪ガキシ所ヲ見テ年比ノ疑トケヌル事共アリ今モ山科ノ神寶ノ中ニ其ノ物アリナド云フ人アリシカド正シキ物ヲ見ルニ及バズ南都正倉院ニアル物也トテ其ノ圖ヲバ見タリキ龜山院御繪合ノ時ノ賀茂祭ノ繪ニ唐尾ニ結ビシ馬ニ楚鞞ニ杏葉付キタルアリ是ハ和鞍ニ唐鞍轡ヲ用ヒシナド云フ物ニヤ又飾抄ノ唐鞍ノ下ニ昔德大寺ノ唐鞍ヲコウテコレヲウツストイフ事アレバ移鞍トイフモノハ唐鞍ヲ模シ作レルヲイヒシニヤ唐鞍ハ其ノ橋ハ黑地螺鈿玉ヲ入ルナド見エテ平文ノ移ニ或ハ貝ヲ摺リ玉ヲ入レ或ハ銀ヲ入レ或ハ薄文ヲ押スナド云フ事ハ見エタリ又古ノ時武士ノ用ヒシ物ニモ鏡鞍黑鞍ナドイフ物ノ見エタルハ鏡地黑地ナドイヒシ倭鞍ニヤアリケン其ノ外黃伏輪白伏輪沃懸地梨子地貝鞍白橋張鞍又金具鞍ナド云フモノルキ物トモニシルセル多シ

世ニ作^ナノ鞍ナドイフ物出デ來シ事ハ足利殿ノ代ノ始大坪入道禪トイフ者アリ雙ナキ馬ノ上手ニテ鞍轡作ル事モ巧ナリケリ伊勢伊勢守平貞繼馬ニ乘ル事モ鞍轡作ル事モ彼ノ入道ニ受ケ傳ヘタリ此ノ貞繼トイフハ尊氏將軍ノ親父讚岐守殿ノ烏帽子子也シカバ將軍ニシタシウ思ハレテソレガ子孫代々足利殿ノ政所ニゾサフラヒケル貞繼ガ子孫其ノ工ヲ傳ヘテ作レル所ヲカクハ名ツケシ由世ニハイヒ傳ヘタリ伊勢ノ系圖ニハ貞繼ガ孫伊勢守貞行ガ二男因幡守貞長鞍作ル工ヲ祖父伊勢守貞信ニウケ傳ヘシヨリ貞長ガ家鞍作ル工ノ正流也ト載セタリ又世ニ作ノ家ト稱スル所三十一代ノ譜ヲ見タリシニ大坪入道ヨリ畠山中書ニ傳ヘ畠山又伊勢加賀守ニツタヘテ因幡入道

ニ至リシ由シルセリ伊勢家ノ系圖ニモ伊勢守貞繼鞍作ル工ヲ傳ヘシトイフ事ハ見エタレトモ貞繼加賀守タリシ事ハ見エズオモフニ加賀守トイフハ即チ貞繼ガ子ニテ貞長ガ祖父ナル貞信ガ事ニヤ(新編系圖ニハ貞信ハ貞長ガ父ナル由見エタリ)父ノ貞繼世ニ在リシホドハ加賀守タリケンモシラズ彼ノ系圖ニヨリテ見ル時ハ伊勢ノ家ニテ鞍作レル事伊勢守貞繼ニ始マリ其ノ子伊勢守貞信是レヲ傳ヘテ因幡守貞長ニ至リ貞長ガ子孫代々ニコレヲ傳ヘシ也其ノ後貞信五代ノ嫡流伊勢守貞宗ガ時(貞宗ハ即チ金仙寺トイフ人ナリ)又其ノ工ヲウケ傳ヘテ其ノ子貞陸ガ子貞忠等代々ニ其ノ事ヲ傳ヘシ也此等ノ人作レル鞍專ラ世ニ行ハレシヨリ古ノ制ハ盡クニ廢レテ今ハ又異形ノ物ドモ出テ來ヌレド(ウミナシ布袋韃韃高麗ナドイフ類也)古ノ如ク高キ卑キガ品ニヨリテ用フベク用ヒマシキ定マリシ制アリトハ見エズ

倭名抄ニ楊氏漢語抄ヲ引キテ鞍橋一ニ鞍瓦トイフヨシ注セリサレド日本書紀ニハ鞍ノ前後橋トモ(推古紀ニ)又ハ鞍瓦ノ後橋トモ(欽明紀ニ)見エタレバ楊氏ガ説ハ誤レルニヤ鞍橋トイフハ今イフ前後ノ輪ニテ鞍瓦トイフハ居木トモ由木トモイフ物ト見エタリ又今ハ前輪ヲ麻蕙和トイヒ後輪ヲ阿止和トイフ昔ハ麻蕙都和之都和トゾイヒケル但シ日本書紀ニ見エシ鞍橋君ヲバ矩羅賦ト讀ムヨシ注シテ鞍瓦後橋ヲバ久良保禰乃之都久良保禰ト讀ミタリ又四方出トイフモノ倭名抄ニ鞍トイフ字ヲ之保天トヨミテ考聲切韻ノ鞍ハ鞍橋ヲ穿ツ皮也トイフ注ヲ引キタリ鞍ノ穿ツ所ナランニハ鞍橋トイフハ前輪後輪トイフ物ニテ鞍橋一ツニ鞍瓦トイフ説ハアヤマレル事疑フベカラズ又同抄ニ鞆ノ字ヲ出ダシテ唐韻ニイハク鞆ハ鞍鞘也楊氏漢語抄ニ賀禮比都氣トイフ由ヲ注ス此ノ説ニヨランニハ鞍ト鞆トハ別ナル物ニテアルナリ此ノ説モ又誤レルニヤ鞍トイフ字ハ鞆ノ字ノ俗書ニテ鞆ハ鞍邊ノ帶也ト韻書ニハ見エタリサレバ鞍鞆ト同字ニテタマ正俗ノ二ツアルノミナリ加禮比都氣トイフ事ハ今モ四方出

ノ後ノカタノ左ヲ捕付トイヒ右ヲ物付ナドイフ名アル其ノ事ニテアルナリ之保天トイフ事ハ鞍ノ海トイフ所ノホトリヨリ出ヅレバカク名ヅケシナド世ニイフナルモ又アヤマレルヤ(三議一統ニ)タマ鞍橋ノ四方ニ出ヅシ帯ナレバカクイヒシ也フルキ物ニハ四方出トコソシルシタレ(源平盛衰記等)但シ昔ノ四方出ノ形ハ今ノ如クニハアラズ譬ヘバ圓カニ少シキナル鏡ノ如クナル金物ヲ黃ニモ白クモ裝リテ其ノ裏ノ方ノ鼻ヨリ革ヲ貫キテ鞍ヲモ穿テ其ノ革ノ餘リ二條ヲ垂ル古キ繪ニ見エシ物ドモ盡ク皆此ノ制也又鞍ニ手形トイフ物ツクル事ハ平治ノ戰ニ鎌田兵衛政清與三左衛門尉長安トクムデ首ヲトル比ハ十二月廿七日巳ノ時バカリ一村雨フリテ風ハゲシク吹キタレバ鎌田ガ鞍ノ前ツ輪ニツラ、キテ乘リワヅラヒシヲ惡源太義平見給ヒテ手形ヲツケテノレヤトノ給ヒシカバ打物ヌイテツブ、ト手形切リテ乘リタリシヨリ始マレルヨシ平治物語ニ見エタリ今モ世ニ鎌田クリナドモイフメリ

騎倭名抄ニ之太久良又鞍ハ鞆ノ短キ也俗ニイフ騎鞆ト注セリ今イフ切付トイフ物是也騎鞆トイフハ鞆ノ小シキナルガ故ニ鞆ニ駕スベキ料也トイフ義ニヤ又高麗國ノ制ナルニヤ未ダ詳ナラズ或ハ鞆ハ上切付トイフ物ニテ屨脊ハ下切付トイフ物也併セテコレヲ鞆トイフ也ナドイフ人アリ古ニハ此ノ物ニモ定マレル制アリシ四位以上豹五位已下虎皮トモ(飾抄)三位以上竹豹ノ切付四位豹五位虎六位章鹿トモ見エタリ(拾芥抄)又三峯切付ト云フハ例ノ大滑無子細一歟之旨中國相國ノ御消息ニ見ユ大滑ノ圖飾抄ニモ見エテ金銅ノ金物鈴等アリ鞍敷ノ下紅地錦トモ又平文移鞍ノ下ニ大滑畫ニ雲龍ニナドモ見エタリ是唐鞍移鞍等ノ時用フルモノニヤ行幸ノ時コレヲ用フルヨシ後成恩寺殿ノ御説ニハ見エタリ武家ノ代トナリテ虎豹ノ皮ノ切付ヲ用フル時ハ小泥障ハサ、ズトイフ事モ見エタリ(鎌倉年中行事)又鹿子切付ト云フ物モアリヨノツチハ葛切付ヲ用ヒシナドモ見エタリ今ハ皆ヌリタル

皮ヲ用フ履脊ハ和名抄ニ奈女トヨミテ蘇舩ガ切韻ニ鞍下ノ履脊也トイヒシ説ヲ引キタリ今ノ履付トイフ物也
 鞍轡倭名抄ニ久良之岐俗ニ宇波之岐トイフヨシ注シタリ凡獨寫錦ヲ以テ鞍轡トスル事ハコレヲ禁ズ又三位以下
 紫ノ鞍轡等コレヲ禁ズナド式ニハ見エタリ(延喜式)飾抄ニ表敷ノ錦又錦心上敷アリ縁ハ錦ヲ用ヒ金文堅食ヲ付
 クナド注サル後成恩寺殿御説ニ赤地ノ錦ノ表敷トイフ物見エタリ(桃花葉葉)今ノ馬氈トイフモノコレ也トイフ
 人アレド馬氈ナドイフ物ハ違カラヌ物ニヤ世ニ高麗馬氈ナドイフ物ハ彼ノ國ノ鞍轡タルモ知ルベカラズ又麀羊
 ヲ爾久トイフ事ハ其ノ皮ヲ鞍轡ノ料トスル故也爾久トハ轉トカクベシトイフ人アリモシ此ノ説マコトナランニ
 ハ古ノ俗ニ彼ノ皮ヲ用ヒテ鞍轡トヤセル未ダ正シキ證ヲ見ズ但シ鹿ヲ俗ニ志々トイフ事ハ穴トイフ義ナレバ
 麀羊ヲ爾久トイフモ亦穴ノ義ナリケンモシラズ

鞍肥倭名抄ニ久良於保比トヨメリ今ハ鞍覆ナドカクニヤ式ニ(延喜)大臣已上鞍ヲ覆フモノ淺紫ヲ用ヒヨ參議以
 上ハ深緋諸王五位以上ハ綠色諸臣黃色六位以下用フル事ヲ得ザレト見エタリ又薄物ノ縹アルヲモ用ヒラレシコ
 トアリ天永三年春日詣ニ中納言中藤前木ノ浮線綾ノ鞍覆タルヨシ後成恩寺殿ノ御説ニハ見エタリ武家ノ代トナ
 リテ足利殿ノ時ニ御引馬ノ鞍覆ハ豹大名ハ毛氈ヨノツテ人ハ鹿ノ皮ノ夏毛秋毛モシハ春毛ヲ用フ熊ノ皮ヲバ
 用フベカラズ是ハ乘輿ノ物也虎ノ皮又公家ニ用ヒラル、ヨシ、ルセル物アリ(大諸禮)熊ノ皮ハ乘輿ノ物也トイ
 フ事イカナル據アルニヤ未ダ所見アラズ又赤キ毛氈ヲ用ヒラル、事ハ公方ノ御物ノ外ハ宗徒ノ大名ハカケラ
 ルタトヒ色カハリヌルヲモ昔人ハ憚リシニ今ハ御ユルシ蒙リテ誰々モカケラル、事不覺ナルベシヤト金仙寺ハ
 イヒケリ(金仙寺ハ伊勢伊勢守貞宗也)又鎌倉殿ノ鞍覆ハ段子金襴ヲ用ヒラレ管領ハ兜羅綿毛氈奉公ノ人々ハ播
 磨皮又張鞍ニハ鞍覆カケ引ク事ナシナドイフ事モアリ(鎌倉年中行事)

鞞倭名抄ニ之利加岐トヨメリ今ハ之利加以トイフナリ昔ハ六位以下ノ鞍ノ鞞總ノ連着懸クル事ヲ得ズ但鞞ノ衝
 及ビ後末ニ着クル事ヲバユルサル(延喜式)又紫ノ籠頭鞍肥鞞等皆コレヲ禁ズ縹鞞ハ制ノ限ニ非ズ參議已上檢
 非違使別當已下府生以上ハ緋鞞ヲ着クル事ユルスナドイフ事アリ(拾芥抄)又古ノ鞞ハチヒサク總モナシ近代
 ノ鞞ハ甚ダ大キクシテ總長シト飾抄ニハ見ユ榘末濃同村濃楚鞞(飾抄)又連着小總江總紫末濃小畝連着ナド(桃
 花葉葉)イフ物アリ其ノ中ニ楚鞞トイフ物ハ延文ノ比既ニサダカナラザリシニヤアル人楚鞞トハ畝太連着トハ
 平畝ニヤト問ヒ申シシニ楚鞞ノ體只尋常ノ鞞ノ外アナガチニ所見アラズトコソ中國相國ハ答ヘ給ヒケレ(園大
 曆)飾抄ニ仁安二年齋宮野ノ宮ニ入り給フ時五位已上和鞍楚鞞杏葉付ケシトイフ事アリテ又杏葉ツケシ鞞ノ圖
 ニ赤滑或ハ朱漆廣サ一寸四分兩方長サ四尺三寸ナドシルサレタレバ楚鞞トイフ物ハ赤滑モシハ朱漆ノ革ニテ作
 レルヲヤイフ古ノ武士ノ乘レル馬ノ鞞ノ大總厚總ナドイヒシハ連着トイフ物ノ類ニヤ其ノ外大形ノ鞍トイフ物
 アリコレハ畝太ナドイヒシ物ニヤ又染鞞ノ文アルヲイヒシニヤ宗尊親王ノ御時ニ鎌倉ニテ内記兵庫允染鞞ノ故
 實ヲ注進ス彼ノ家代々上總國ニオイテ此ノ事ヲ奉行スト東鑑ニ見エタレバ世ニイフ上總鞞ハ染鞞ノ事ニゾアル
 ベキ足利殿ノ比迄ハ紫鞞ハヨノツテ人用フル事アタハズ(大諸禮)又法體ノ人ハ紺ノ鞞ヲ用フベシナドイフ事
 モ見エタリ(鎌倉年中行事)今ハカ、レル制アリトモ見エズ今世ニ用フル所ハ後末ニノミ總アレド其ノ色多クハ
 紫也此ノ制古ニハイカニイヒシ物ニヤ未ダ詳ナラズ又世ニ異國ノ毛織ヤウノ物ヲモテツクレルニ金襴ノ裏打チ
 タルナド見エヌルハ猶此ノ比ニ出デ來シ物ナリ
 當胸倭名抄ニ揚氏漢語抄ヲ引キテ班胸ハ無奈加岐ト見エタレバ班胸トモカクベキ也飾抄ニハ胸懸トシルサル今
 ハ胸懸トカキテ無奈加伊トイフ也古ノ飾馬ニハ鞞ニモ當胸ニモ杏葉トイヘル物ヲツク杏葉ハ倭名抄ニ辨色立成

ヲ引キテ伊俾良トヨム俗ニ行衣布トイフ由注セリ此ノ物杏樹ノ葉ノ形ニ似タレバカクハナヅケシニヤ飾抄ニ伏輪ハ黄ニ鏡ハ白シナド見エタリ凡胸ニ五ツ有ルベシ鞞ニハカタカタニ五ツツツ兩方ニ十ツクル也其ノ外鞞ニモ當胸ニモ方金物トイフ物ヲウツ也

鞞頭倭名抄ニ唐韻ノ鞞ハ鞞頭也鞞ハ馬ノ絡頭也トイフヲ引キテ漢語抄ニ鞞頭ハ於毛都良トイフ今按ズルニ絡頭スナハチ鞞頭也ト注セリ飾抄ニハ面懸トシルセリ今ハ於毛加伊トイフ又面懸胸懸尻懸ヲ佐牟加伊ナドモイフ也式ニハ(延喜式)紫ノ籠頭ヲバ六位已下ニハ禁ゼラル、由見ユ飾抄ニ見エシトコロ其ノ制胸懸鞞ニ同ジクシテタ

ハ面懸ニハ杏葉ヲツケズ今世ニ用フル制此ノ物ニ大小ノ總四ツアル也
説文ニ鑑ハ馬銜也久都波美トヨム俗ニ久々美トイフマタ兼名苑ニ鑑一名ハ勒野王按ズルニ勒ハ馬ノ口中ノ鐵也ト倭名抄ニハ見エタリ願野王ノイヘル所ハ説文ニ銜アルヲ勒トイフ説アルニヨレルナルベシサレド馬ノ口中ノ鐵ヲ勒トイフニハアラズ銜アリテ馬頭ニマトフ物ヲ勒トハイフ也又釋名ニヨル時ハ説文ノ説モタツ其ノ大體ヲイヘルモノニテ詳ナルニハアラズ釋名ニ鑑ハ包也旁ニアリテ其ノ口ヲ包ミ歛ム爾雅ニコレヲ鑑トイフ一ニ扇汗トナヅケ一ニ排沫トナヅクト見エケリサラバ鑑トイフハ久都和乃加々美銜トイフハ久都和乃波美ニテスベテコレヲ勒トハイフ也又倭名抄ニ見エシ漢藜銜宇波良久都和トイフモノハ飾抄ニ見エシ物ニテ袍ノ紋ノ鞞唐草ナドイフ物ハ其ノ形ニテアル也又倭名抄ニ辨色立成ヲ引キテ承鞞ハ美豆岐俗ニ三都々伎トイヒ一ツニ七寸トイフト注セリコレハ今世ニ引手蛇口ナドイフ所ナリ古事談ニ源義家朝臣ソノ親父ノタメニ門ノ鑰ヲ取り收メラレテ鞞ノミヅ、キニテジャウアケサセラレシト云フ即チ此也世ニ手綱ノ兩末ヲ三都々伎ト云フハイカハアルベキ或人ノ説ニ承鞞トハ今ノ世ニ手助又ハ立聞ナド云フ物也其ノ組ノ長サ七寸許アレバ又七寸トモ云ヒシ也ト云フサレ

ト古キ繪ニ繪ガキシ物ドモヲ見ルニ皆々オモヅララ世ニ面懸付ト云フ輪ニ絡ヒテ其ノ末ヲ垂レタルナリ手助立聞ナド用ヒシ事ハ見エズ又世ニ面懸付トモ云ヒ又ハ總ノ輪立聞ノ輪ナド云フ所ヲ見ルニ三都々伎ノ蛇口ナド云フ所ヨリハ甚タ大キナル也昔ハオモヅラヲ引絡ヒシ事疑フベカラズ足利殿ノ比較鞞ノ具ノ名ドモシルセシ物ニモ手助立聞ナド云フ物ハ見エズ(三議一統下學集節用集等ニモ見エズ)此ノ物イツレノ比ヨリ出デ來シト云フ事詳ナラズ

鞞ハ倭名抄ニ兼名苑ヲ引キテ鞞一名ハ鑑久豆和都良トヨム俗ニハ久都和トイフ也又楊氏漢語抄ニハ鞞鞞ナリ一ツニ馬鞞トイフ也ト注セリ楊氏ガ鞞トイヒシハアシカラズ其ノ餘ノ説ハ悉ク誤レル也鑑ハ久都和乃加々美ニテ鞞ハ於毛都良ニテコソアレ鞞ハ増韻ニハ馬鞞ナリトイヒ禮記注疏ニハ馬ヲ御スル索也ト見エタリ毛詩ニハ六鞞在レ手トイフ事アリソレハ古制ニ車ニハ四ツノ馬ヲ駕ス車ノ鞞ヲサシハサム二ツノ馬ヲハ兩服トイヒ服馬ノ左右ノ外ニアルニツツバ騶馬トイフ凡一ツノ馬ニ左右ノ鞞二條ヅ、アレバ四馬ニハ八ツノ鞞アリ其ノ左右ノ騶馬ノ内ノカタノ鞞ヲバ車ノ軾ニツナグ故ニノコル所ハ六鞞ナリソレヲ執リテ四馬ヲ御スルナレバカクイヒシ也或ハ鑑或ハ鞞ナランニハイカデ手ニハ在ルベキ又絲ヲ以テスルヲ鞞トイヒ革ヲ以テスルヲ條トイフトモ見エタリサラバ鞞トイフ物ハ我が朝ノ手綱トイフ物ニゾアル鞞ハ鞞ノ別名也トモ注シタレバ(正字通)楊氏ガ鞞トイヒシハアシカラズ又按ズルニ倭名抄ニ手綱トイフ物見エズシテ鑑ノ字ノ外ニ此ノ鞞ノ字ヲ分チ出ダシタルハ想フニ順ノ比ニ久都和都良トイヒシハ今イフ手綱ナルベシ又順ノ比ニモ俗ニハ鞞トイフ字ヲ鑑ノ事ニモ用フレバ俗ニハ久都和トイフヨシヲバ注シタルナリ彼是通シ考フルニ倭名抄ノ説悉ク誤レルニモアラズタ、引キ用フル書ニ見エシ一名ハ鑑一ツハ馬鞞也ナドイフ事ヲケツリステヌガ誤レル也古ノ手綱ハ蘇芳綵紫綵橫縵ナドイフアリ

(桃花葉)又大和鞍ニ公卿ハ蘇芳綫四位已下棟綫移鞍ニハ蘇芳ノ平緒伏組アリナドモ見エタレバ(飾抄)移鞍ハ唐ノ制ニヨリテ伏組アル平緒ヲ用ヒラレシニヤ絲ヲ以テスルヲ替トイフ説ニゾアヒタル武士ノ用ヒシ所サダカナラズ大ヤウハ布ヲヤ用ヒスラン筋手綱ナドイフ物ハ今用フル物ノ如ク染メタル布帛ノ類ニヤ大將出陣ノ時ハカッ色ノ手綱ヲ用フ勝色トハ黒色ヲイフ也ナドシルセリ又鑣手綱トイフ物ハ專ラ戰ノ時ニ用ヒシ物ナリ

差繩トイフ物鞆ノ字ヲヤ用フベキ禮記ニ見エシ鞆鞍ノ注ニハ鞆ハ以テ馬ヲ絡フ鞆ハ以テ馬ヲ掣クト見エタリ種々絞村濃或打交アリ(植絨蘇芳綫紫村濃藤青打交菊ノ打交萌木匂ノ打交ナドイフアリ)白差繩ハ御鞆ノ時用ヒラル、事ニヤ又公卿ハ差繩四位已下片繩トイフ事アリ(飾抄)イカナルヤ片繩トハイヒケン武士ノ引キ馬ヒクニ引手ハ上輩追網ハ下輩トイフ事ハソノ引キヤウニ追網トイフ事アル也シカルニ今ハヨノツチニ馬ヒク綱ヲ追繩トイヒ其ノ外ニ小口繩トイフモノヲ又差繩トイフハ近キ比ヨリノ名ナルベシ(小口繩ヲ小中間手繩ナドモイフナリ)

腹帶倭名抄ニ唐韻ノ綴ハ馬ノ腹帶也トイフヲ引キテ波良於比トヨメリ其ノ後ノ俗ニ波流比トハイフ又由木弱ナドモ云フニヤ古キ繪ニ見エシ所古ノ腹帶ノ制ニハ少シク異也

鏡古事記ヲ見ルニ鞍鏡トイフ物ハ大國主神ノ代ヨリ見エシ也倭名抄ニ蔭舩ガ切韻ノ鏡ハ鞍ノ兩邊脚ヲ承クル具也トイフ説ヲ引キテ阿布美トヨミタリ古ノ鏡ニ壺鏡舌長半舌ナドイフアリ飾抄ニハ舌長ノ圖ヲ繪ガキテ古ノ唐鞍等多クハ舌ナクシテ大輪バカリ也シカルニ近代踏ミヨキガタメ作ル所カトシルサレタリ法隆寺ニ上宮太子ノ鏡アリ鐵ニテ作レルニ金銅ノ鏡具アリ年中行事ノ繪ニ此ノ物見エタリキ是壺鏡ナド云ヒツベキ物ナリ(其ノ形タトヘバ杏ノ半ヨリサキバカリナルヲ上ノ方ニ鏡具ヲ屬ケシ物ナリ)古ノ唐鞍ノ鏡ニ舌ナクシテ大輪バカリアリシハ是モマタ唐鏡ニコソ有ルベケレ今モ高麗鏡ナド云ヒテ世ニアル物即チ此ノ制也正倉院ニアル唐鞍ト云フ物ノ鏡ハ法隆寺ノ物ノ如クニシテ舌アルコト半舌ナド云フ物ノ如ク今世ニ用フル所ノ物ハ壺鏡ニモアラズ又舌長半舌ノ制ニモアラズ古ニハイカニ云ヒシニヤフルキ繪共ヲ見ルニ飾馬ノ外ハ皆々此ノ制ヲ用ヒザルハナシ武藏鏡ト云ヒシ物ハ木鏡ニテ今ノ世ニ五六ナド云フ物其ノ遺制也トハ云フナリ佐々木三郎盛綱ガ藤戸渡セシ時ノ物也トイフ物其ノカタク、今モ世ニアリソレモ今ノ世ニ用フル所ノ如クナル木鏡ノ黒ク塗リタル也西南諸蕃ノ鏡ハ木ヲ刻メル狀小籠ノ如クニテ足指ヲ其ノ中ニカクス棟棘ニ入りテモ足ヲ傷ラザランタメ也トイフ事異朝ノ書ニモ見エタリ(范成大桂海虞衡志ニ)足利殿ノ比ニ伊勢ノ家ニテ鞍ト同ジク作レル木鏡世ニ猶多シ世ニコレラノ制ヲ五六ナドイフハ五寸六寸ニ作ルベキ定マレル法量アレバナルベシ又倭名抄ニ楊氏漢語抄ノ鏡具ハ腰帶及ヒ鞍具銅ヲ以テ革ニ屬スル也トイフ説ヲ引キテ此間賀古トイフヨシ注セリコレ今ノ鏡具頭又ハ館頭ナドイヘル物也

鏡韉逆韉倭名抄ニ楊氏漢語抄ヲ引キテ鏡韉一ツニ鏡斬ドイフ美豆孚トヨム逆韉一ツニ逆斬トイフ知賀良加波トヨムヨシ注シヌ世ニハ力皮力革ナドカク也足利殿ノ比公方ハ播磨革ノ白キ力革金具ヲハ黒皮ニテクケラレ管領諸大名ハ金具ヲ紫皮ニテクケララルナドイフ事見エタリ(鎌倉年中行事)

障泥倭名抄ニ唐韻ノ鞞ハ障泥鞍ノ飾也トイフヲ引キテ阿布利トヨム又西京雜記ノ玫瑰鞍綠地錦ヲ以テ蔽泥トス後ニヤ、熊熊皮ヲ以テコレヲツクルトイフ事ヲ引キテ蔽泥ハ障泥也トモ注シタリ式ニ(延喜)凡露皮障泥ハ五位以上コレヲ着ル事ヲユルス也ト見ユ又金伏輪ノ泥障或ハ黃絲ノ組ヲ以テコレヲ押フ御幸及春日詣等ノ時ニ華族ノ人コレヲカケラル行幸ノ日地下ノ前驅ハ泥障ヲサ、ズ攝政乘用ノ馬ニモサ、レズナドモ侍ルメリ(玉葉)又常

ノ時ノゴトキ泥障ヲ用ヒズトモ又遠所ノ儀ニ泥障サスベキコトハ表袴奴袴ナドノ馬ノ汗ニケガレン事ヲイトフガ故也トモ見エタリ武士ノ騎馬出立トイフニモ泥障サスベカラズ但アブミズリハクルシカラズトイフ事アリ泥障トハ毛皮ヲイヒアブミズリトハ播磨革ノマル作ヲイフ由シタレバ泥障トハ熊鹿等ノ皮ニテ作レルニテ鏡磨トイヒシハ今ノ板泥障トイフモノ、類ニヤ甲冑ヲ帶スル時モ大ヤウハ泥障ヲバサ、ザル也義家朝臣ノ像又フルキ繪共ニ畫キシ所モ泥障サシタルハ見エズサレド又源平盛衰記ニハ熊皮ノ障泥サシタリナド云フ事見エタリ今ノ三尺繩トイフ物古ノ物ニ見エズ襪ハ絡頭繩也ト注セルハ此ノ物也トイフ人アレド信トモ思ハレズ太覆ヤセガクシナドイフ物ノ馬ノ後鞞ノ上ニ覆フ物アリ是モ古ニハ開エズ又文字モサダカナラズ昔ノ物ニ太於保比トイフ物共ハアリケリ指懸ニイフ所ハ手覆トイフ義也鞍覆ノ左右ノ端ノ垂レタル所ヲイフハ垂覆ノ義ナルベシサラバ此ノ物ヲモ垂覆ノ義ヲ取ルベシヤ(一説此ノ物ヲ昔ハヤセガクシトイヒシ多於保比山トイフニ隠レテ八瀬ノ里ノ見エチバ其ノ山ノ名ニトリテ多於保比トモイフナリトサモアル事ニヤ尋ヌベシ)馬ニ駕スル事アランニハ鞭アル事モ其ノ來ル事久シカラマシ國史ニ見エシ所ハ新羅王神功皇后ノ御船ノ前ニ降り來ツ、今ヨリ後乾坤ト長ク從ヒ伺部トナリテ船ノ柂ヲホサズ春秋ニ馬抓馬鞭ヲ獻リ又海ノ遠キヲイタツガハシトセデ年ゴトニ男女ノ調貢ラムト申シ、ヤ始ナルベキ和鞍ニ乘ル時ハ蒔繪ノ鞭ヲ用ヒ平文ノ鞍ノ時ナホ蒔繪ヲ用フルモ難ナキカ舞人ハ藤卷ノ鞭ヲ用フル馬ヲ馳スルガ故歟ナドイフ事アリ(飾抄)武士ノ用フル所ハ即チ藤卷ノ鞭ニテアル也木ハ熊柳トイフ物ヲ用ヒテ長サハ二尺七寸五分ナルヲ本トスコレ曲尺ノ定ニモアラズ竹尺ノ定ニモアラズ我が手ノ寸ヲ用フルヨシイヒ傳ヘタリ(竹尺トイフ物下學集ニ鷹秤ノ字ヲ用ヒテ其ノ義ヲ注シタリモツトモ僻事ニテアル也コレハ裁縫尺トイフ物ニテコソアレ倭名抄ニモ裁縫具ノ尺ノ下ニ辨色立成ヲ引キテ尺ハ竹量也太加波可利

トヨムヨシ注セリ又工匠具ノ曲尺モ辨色立成ヲ引キテ麻可利加彌トヨミタリ)庭乗ニモチ又ハウツボニサシ大射ル時狩スル時ナド用フル式各其ノ故實アル歟タマシイツレモ取柄ハアルベシ取柄セヌハ略儀也トゾ古ハ鞭ノ緒取柄ノ革ト同ジギ革ヲ用ヒタリキ竹ノ根ノ鞭モ其ノタケ藤卷ノ鞭ニ同ジ節ノ數ヲ半ニキルベシサキヲ節ノ間ヨリキル五分三分ノヨリノキハクルシカラズ足利殿ノ比紫竹ノ鞭ハタマハ用ヒズ此ノ物ハ御所ノ御物ナルガ故也又馬ノ具ヲバ無知トイヒ鷹ノ具ヲバ不知トイフベシナド世ニハイヒヌレド倭名抄ヲ見ルニ鷹犬ノ具ニカ、ル物ハ見エズ古ニハ鷹ナブリトイヒシモノ(口餌ヒキ嘴ヲスラスル鷹ナブリ腰ニサシテハ鞭カトゾミルナドヨミタリ)今モナブリブチナドイフ物ヲ鷹ノ不知トハイフメリ倭名抄ニ鞭無知トヨム俗ニハ無運トイフヨシ見エタルハフタツノ無ノ字一ツハウツシアヤマルナルベシ源三位賴政藤桐火桶賴政ナドイフ事ヲヨメル歌ニ宇治川ノ瀬々ノフヂブチオチタキリヒヲケサイカニヨリマサルラント見エタレバ此ノ物無運トイフハ俗諺ニヤサラバ倭名抄ノ無知ノ字不ノ字ニヤ作ラマシ不知トイヒ無知トイフ雅俗ノ二ツハアレド共ニ馬鞭ノ事ニテハアル也カレコレヲ通ジ考フルニ古ノ鷹ノ具ニ不知トイフ物ハナカリシ也

令ニ私家ニハ具裝アルコトヲ得ザレトイフ事ノアルヲ義解ニハ具裝ハ馬甲也ト注シヌサレバ此ノ物昔ヨリ有リケレド兵士ノ私ニ善フル事ハカナハザリケリ源平盛衰記ニ生田森ノ戰ノ時源氏ノ方ニ馬冑着セタリシ事見エタリ其ノ後ノ物ニ鏢ノ馬鏢(太平記ニ)金鏢ノ馬鏢(明德記ニ)ナドイフ物見エケリ古ノ制モカクヤアリケム鎌倉年中行事ニモタマ馬鏢トノミアリテ其ノ制サダカナラズ今ノ制大ヤウハ革ヲモテ作ル又馬面トテ馬ノ頭ヲ蔽フベキ物アリ此ノ物モ古ヨリアリシニヤ其ノ名ハ開エズ

昔馬寮ノ御厩ノ事ハシラズ武家ノ厩ノ古制ハ定マレル法ゾアリケル其ノ中一ノ厩ニノ厩ナドイフアリサシ入ル

口ノワキヲバーノ厩トイヒ奥ノトマヲフ二ノ厩トイフ厩ハハシトオクトヲ上等トス凡厩ニ七ツノ懸物トイフアリ馬爪馬刷竹刀打刀爪打槌勒通繩藥筒ヲイフ也此ヲノ物モ各定マレル法量アル也此ノ外剪刀燈印粥袋槽剉籠等ノ類猶多シ(粥袋亦ヒグツト云フ萬葉ノ歌ニク、ツトヨメリ抄ニク、ツトハ細キ繩ヲ持物イル、物ニシテキナカノモノ、持ツ也トアリ)鼻皮トイフ物倭名抄ニハ見エズ條ノ字ヲ用フベシナドイフ人アリ倭名抄ニハ條ノ字ヲ久佐利トヨミテ唐韻ノ革轡也トイフ説ト毛詩注ニ條ハ金ヲ以テ小環トナシ往々ニ繩撻スルモノ也トイフ説ヲ引キタリ革轡トイヒ金ヲ以テ小環トスナドイフ事今云フ鼻皮ノ制ニ似タル所モアレバカクイヘルナルベシナレド轡トイフハ馬ヲ御スル革ニテ今ノ手綱ヤウノ物ナリ條ノ字毛詩ニオヨソ三タビ出ヅ毛氏鄭氏ノ注一定セズ異朝ノ人モタマ郭璞ガイハユル轡ノ把ルトコロノ外餘リアリテ垂レタル先ヲ革トイフ條皮ニテツクル物ナレバコレヲ條革トイフヨシ侍ルヲコソヨシトハスレマタ絲ヲ以テスルヲ轡トイヒ革ヲ以テスルヲ條トイフトモ見エタリサラバ條トイフ物ハ革ニテ作レル手綱ノ手ニトル所ノ餘リニテ鼻皮ナドイフ物ニハアラズ説文ノ勒ノ字ノ注ニ馬頭ニ銜ヲ絡フ也又銜アルヲ勒トイヒナキヲ鞣トイフト見エタレバ銜ナクテ馬頭ヲ絡フベキ物ハ今ノ鼻皮ノ類ニゾアルサレド凡我ガ朝ノ物ドモアナガチニ異朝ノ文字借り用ヒントスレバ似テ似ヌ事ノ多クアレバシカシタマ我ガ朝ニテ世ニ用ヒ來レルマ、ニシルシナンガ煩ナキニハ又張綱トイフ物繼ノ字ヲ用フベシヤ廣韻ニハ繫也増韻ニハ又馬韁又長繩也ト注シタル左傳ニ鞣綱トイヒシハ鼻皮張綱ノ類ニゾアルベキ綱ハ繫ノ馬索也ナド注セシ物モアル也(古今類書纂要)足懸トイフ物ハ倭名抄ニ絆トカキテ保太之トヨメル物ニヤ鞣馬絆足也ト見エタレバ此ノ字ヲモ用フベシヤ馬ノ字又繫ニモ作ル馬衣ハ倭名ニ左傳注ニ馬褌ハ馬被也トイフヲ引キテ無麻岐沼トヨム褌トイフ時ハ今麻ニテ織リシ物ソレ也帛ヲ以テ作レル物ハ近キ世ノ制ナルベシ

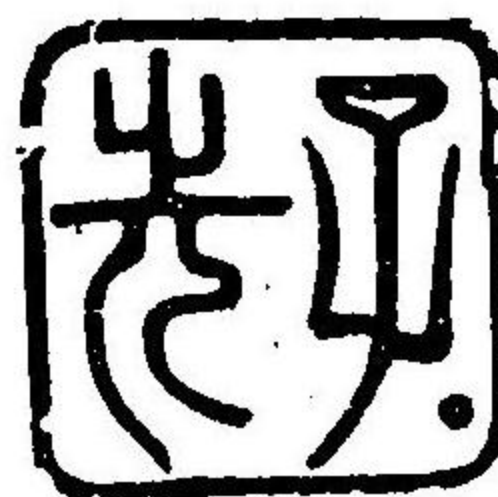
本朝軍器考卷十一 大尾

文武猶陰陽也自陰陽二神立於天浮橋上以天瓊矛畫滄溟武器之用既見於鴻荒之世大日靈貴光華明彩照徹六合文明之象著焉背負千箭之鞞臂著稜威之高軛振起弓彌急握劍柄尙武之教立焉爾來天鹿兒弓天羽々矢十握劍頭槌劍弧矢之利以威天下而甲冑干櫓戴仁抱義其爲用也久矣生於是邦不知其製可乎世固有善其說者然據今者不能稽古襲故者不知通變各立門戶抵牾標榜製造之法雖工而施之事爲或爽於用夫車戰古法也房琯用之於陳濤斜則敗銑覲新制也蕭摩訶擲之於呂梁則勝古今異宜趣舍隨時此又不可不察也蓋軍器之制有古有而今無者有古無而今有者苟非參互考覈溯其源而窮其派則踳駁精麤不可得而審矣白石先生慨然有志於斯教授之暇考究制度論列品彙不遺餘力必本之上世而參之近古以及今日之所通行正流俗之訛謬覈沿革之原始凡古記實錄家乘野史靡不搜揚剪截羅絡旁午至若神祠佛宇暨耆舊之家所藏古物力能及之者必親見其製以摸之質諸載籍而折衷討論華爲一書書以國字圖以樣式務欲使

人易曉而便於製作也壬寅秋覺得借觀之始焉駭其精而確博而約該瞻密
察融釋淹貫中焉觀其聖德太子丙毛槐林之銘于將莫邪龜文縵理之說辨
折精當無復餘蘊然而未敢詫以爲奇何也先生聲名溢海內文章播異域此
特其緒餘者耳不足怪也終焉讀弓矢銃砲各有其能鎧甲厚重反爲身累之
論歎曰何其識高見偉與彼佐々木高綱戒其子重綱之言若合符契耶蓋先
生武冠累葉其言必有所稟於家庭一贊一斑可知其全而其爲書草壽氏序
之備矣夫復何言但使先生當述作之盛舉修曠世之大典則文武之用豈特
止於如是而已哉牛刀割雞長爿薺臨風帳然援筆而題

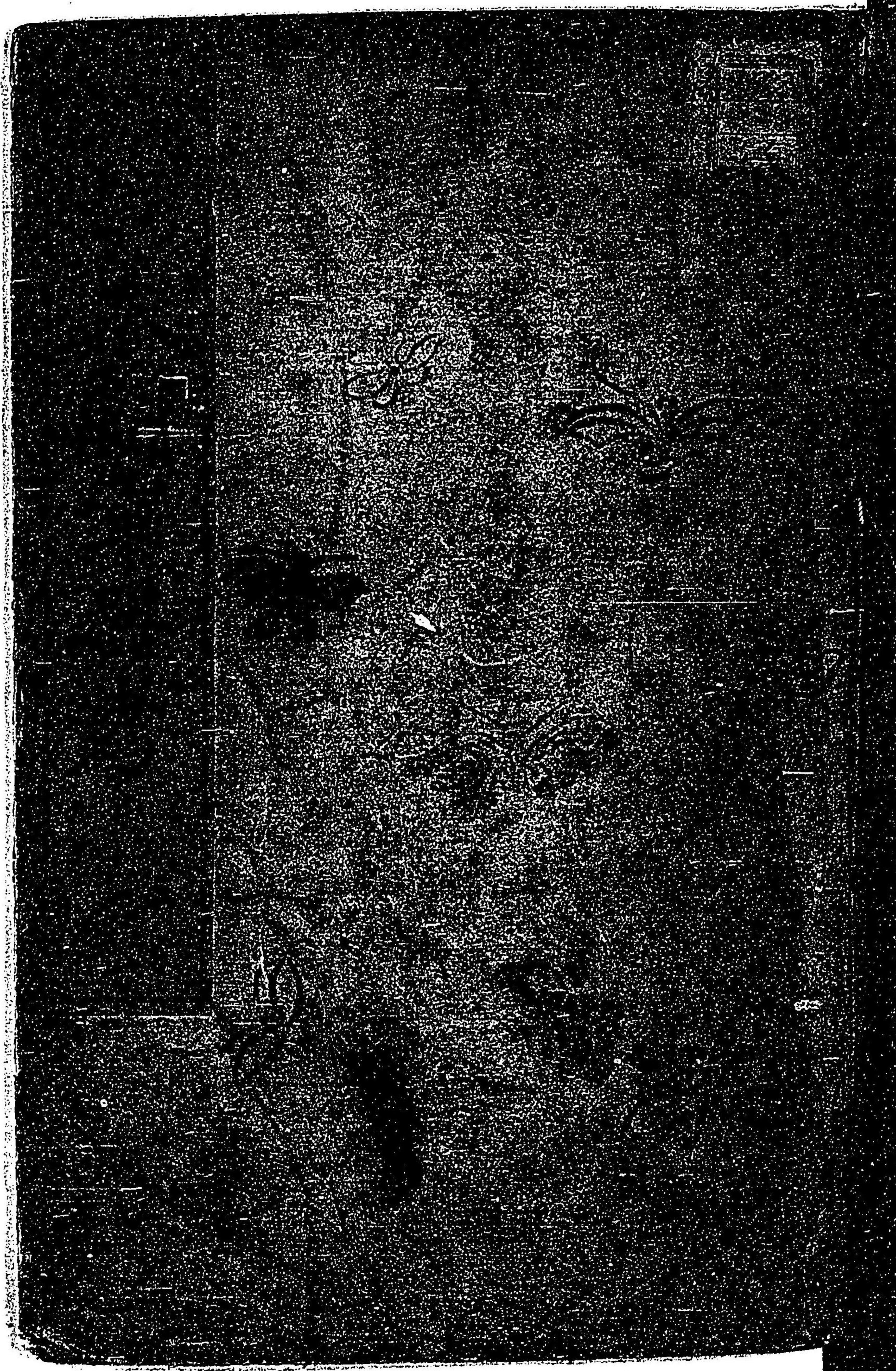
享保七年壬寅下元之日

水戶府下澹泊齋安積覺跋



192
55





001470-001-7

192-55

故実叢書

今泉 定介/編

M32

ACB-3802

